



**MULTISTRADA**

オーナーズマニュアル

日本語

**MULTISTRADA V4 S**

ドゥカティスタの皆様

弊社に対するご信頼の元、新しい Multistrada V4S をご購入いただいた皆様に心より感謝いたします。

Ducati にすばやく慣れ、**そのすべての機能をご利用いただける**ために、本オーナーズマニュアルを注意深くお読みになることをお勧めします。本マニュアルでは、**安全性、車両のお手入れ方法、専門的なサービスによる適切なメンテナンス**により車両の価値を高く保つ方法について、多くの役立つヒントと情報を提供しています。

また、**本オーナーズマニュアルはデジタル形式でもご利用いただけます。** Ducati ウェブサイトの専用エリアと、コンピュータと携帯電話の両方からお使いいただける MyDucati アプリから、常に最新版をご参照いただけます。



このようにして、常に**最新版のマニュアルをご利用いただけ**、バイクと Ducati ワールドに関する**情報やよくある質問もご覧いただく**ことができます。

本オーナーズマニュアルの内容に関する皆様のご意見・ご提案は、OwnerManual@ducati.com までご連絡ください。

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

## **重要**

Ducati のウェブサイトでは、お客様のモーターサイクルの機能や特長に関する最新情報を届けしております。ウェブサイトから、専用の「よくある質問(FAQ)」とチュートリアルをご確認ください。本マニュアルに掲載されている情報は、印刷時点で最新のものです。Ducati モーターサイクルの品質基準および安全基準は日々更新されています。Ducati ウェブサイトから、モーターサイクルの最新版オーナーズマニュアルに記載されている機能や特徴をご確認ください。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで(書面による)許可の申請をしなければなりません。車両の修理に関するお問い合わせや、その他のご質問等につきましては、ドゥカティ正規アシスタンスセンターにご連絡ください。

ご不明な点等ございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

contact\_us@ducati.com

役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

## **重要**

詳細については、ウェブサイト [www.ducati.com](http://www.ducati.com) のサービスとメンテナンスセクションで「お問い合わせ」をクリックして、Ducati サポートまでお問い合わせください。

役に立つアドバイス等、弊社アドバイザーが対応いたします。

楽しいライディングを！

# 目次

Ducati Connect.....	53
音量 .....	58
一般情報 .....	61
取扱説明書内で使用される頭字語および略語 .....	61
本マニュアルで使用されている警告シンボル .....	61
用途 .....	62
ライダーの義務 .....	63
ライダーの教育 .....	64
服装 .....	65
"安全のための""ベストプラクティス"" .....	66
燃料の補給 .....	68
最大積載時の運転 .....	69
車両への積載に関する注意 .....	69
危険物 - 警告 .....	70
車両識別番号 .....	72
エンジン識別番号 .....	73
装備 .....	74
主要構成部品 / 装備 .....	85
車両上の配置 .....	85
燃料フィラープラグ .....	86
シートロック .....	90
バッテリー充電の維持 .....	100
ソフトウェアのアップデート .....	9
ソフトウェアのアップデート .....	9
先進運転支援システム (ARAS) .....	10
交通安全規則 .....	10
アダプティブクルーズコントロール (装備している場合) .....	12
Blind Spot Detection BSD (ブラインドスポット検出) (装備している場合) .....	30
インフォテインメント .....	41
インフォテインメント .....	41
Bluetooth デバイスのペアリングと操作 .....	42
携帯電話 .....	48
Music.....	51

電源ソケット .....	102	ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整	157
サイドスタンド .....	103		
センタースタンド .....	105		
ドゥカティサイドバッグ取り付け .....	106	運転のしかた .....	158
サイドバッグの使用 .....	115	慣らし運転の方法 .....	158
USB コネクター .....	116	走行前の点検事項 .....	159
インストルメントパネルの調整 .....	117	ABS 装置 .....	162
ウインドスクリーン調節 .....	118	エンジンの始動 / 停止 .....	163
フロントフォーク調整 .....	119	車両の発進 .....	166
リアショックアブソーバーの調整 .....	120	ブレーキ操作 .....	167
ハンドルバー調整 .....	121	車両の停止 .....	169
車両設定の変更 .....	122	パーキング .....	170
 		燃料の補給 .....	173
<b>運転時に必要なコマンド .....</b>	<b>123</b>	付属アクセサリー .....	<b>174</b>
コマンド類の配置 .....	123	 	
スイッチ類 .....	124	 	
ライトコントロール .....	127	<b>インストルメントパネル(ダッシュボ</b>	<b>ード) .....</b>
Hands Free システム .....	132	<b>175</b>	
キー .....	142	インストルメントパネル .....	175
PIN Code による車両の解除 .....	150	警告灯 .....	176
クラッチレバー .....	152	画面上の主な要素 .....	180
スロットルグリップ .....	153	Riding Mode .....	185
フロントブレーキレバー .....	154	エンジン回転数表示 .....	188
リアブレーキペダル .....	155	Preload .....	189
ギアチェンジペダル .....	156	Info display (情報表示) .....	196
		クルーズコントロール .....	199

Heated seat (ヒーテッドシート) (装備している場合) .....	206	Setting menu - Tyre pressure (タイヤ空気圧) (装備している場合) .....	284
ヒーテッドグリップ (装備している場合) .....	209	Setting menu - Turn signals .....	286
Lap .....	211	Setting menu - Language .....	288
ABS .....	214	Setting menu - Measurement units .....	289
Trip master .....	216	Setting menu - Info .....	295
Setting menu .....	219	VHC.....	296
Setting menu - Riding Mode .....	221	警告表示 .....	298
Setting menu - Riding Mode - Engine .....	223	エラー表示 .....	304
Setting menu - Riding Mode - DTC .....	224		
Setting menu - Riding Mode - ABS .....	230		
Setting menu - Riding Mode - DWC .....	238		
Setting menu - Riding Mode - DQS .....	244		
Setting menu - Riding Mode - Suspension .....	246		
Setting menu - Riding Mode - Preload .....	248		
Setting menu - Riding Mode - Default .....	250		
Setting menu - Info display .....	252	主な整備作業とメンテナンス .....	306
Setting menu - Fuel indicator .....	255	クーラントレベルの点検および補充 .....	306
Setting menu - DRL .....	256	ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検 .....	307
Setting menu - Backlight .....	257	ブレーキパッドの摩耗点検 .....	309
Setting menu - PIN Code .....	259	バッテリーの充電 .....	100
Setting menu - Date and time .....	264	トランスミッションチェーン張力の点検 .....	314
Setting menu - Service .....	271	チェーンの潤滑 .....	317
Setting menu - Lap .....	276	ヘッドライトの光軸調整 .....	322
Setting menu - Tyre calibration .....	279	リアビューミラーの調整 .....	325
		タイヤ .....	326
		エンジンオイルレベルの点検 .....	328
		車両の清掃 .....	330
		長期間の保管 .....	332
		重要注意事項 .....	332
		車両の運搬 .....	335

メンテナンスプログラム	336	オープンソースソフトウェア	360
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス	336	オープンソースソフトウェアに関する情報	360
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス	340	EU 適合宣言書	361
		EU 適合宣言書	361
テクニカル仕様	341		
重量	341		
サイズ	342		
補給	346		
エンジン	348		
性能データ	350		
スパークプラグ	350		
燃料供給	350		
ブレーキ	350		
トランスミッション	351		
フレーム	352		
ホイール	352		
タイヤ	353		
サスペンション	354		
エキゾーストシステム	355		
カラーバリエーション	355		
エレクトリカルシステム	356		

# ソフトウェアのアップデート

## ソフトウェアのアップデート

一部の車両構成部品には、ソフトウェアによって管理されるもの、またはソフトウェアの使用が想定されているものがあります。このようなソフトウェアはアップデートの対象であり、アップデートを必要とする場合があります。

- 車両の安全性を保証するために必要なアップデートは Ducati から通知され、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- 車両の適合性を維持するために必要なアップデートの情報は Ducati ウェブサイトに公開され、車両購入日から 2 年間、または保証期間中(車両に有効な場合)、Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。
- ソフトウェアの更なるアップデートや新バージョンについては、本オーナーズマニュアルに記載されている車両の定期点検プログラムに則った点検作業を実施する Ducati 正規サービスネットワークにてインストールが実施されます。

Ducati ウェブサイトのアップデートに関するセクションを定期的にご覧になり、My Ducati アプリをインス

トールして、利用可能なアップデートに関する情報を確認するようにしてください。



### 警告

車両の法的な適合性および保証(有効な場合)を維持するために、お客様は、利用可能なアップデートを、当該アップデートの重要性も考慮して、可能な限り速やかに、いずれの場合も合理的な期間内にインストールするものとします。

合理的な期間内にアップデートがインストールされなかつた場合、アップデートがインストールされなかつたことに起因する適合性または安全性の欠如について、Ducati は一切の責任を負いません。

# 先進運転支援システム (ARAS)

## 交通安全規則

たとえブレインドスポット検出(BSD) やアダプティブクルーズコントロール(ACC)などのインテリジェント運転支援システムが搭載していても、ライダーは車両の運転や操縦に責任があり、常にライダー自身が制御または修正しなければなりません。

ブレインドスポット検出(BSD) やアダプティブクルーズコントロール(ACC)などのアダプティブインテリジェントシステムは、周囲の状況を分析して特定の危険をライダーに警告し、処理する情報に基づいて発生する可能性のあるイベントを論理的に予測します。周囲の状況を理解できている限り、合理的な論理で動作するという意味でインテリジェントなシステムであり、技術的な制約内で計算技術を利用する高度なシステムです。

これらのシステムは技術的に洗練されていますが、あくまでもライダーの運転を助け、状況を改善するためのものであり、ライダーの運転に取って代わる自律運転システムではありません。ライダーは、採用した運転操作の選択と、特定の状況で必要とされる慎重な運転と注意力に常に責任があります。

アダプティブインテリジェントシステムは、ライダーに危険な状況を警告する機能を持っていますが、その予測は周囲の環境や、周囲の物体や人を認識できるかどうかに依存します。その機能は衝突を回避することではなく、可能であれば衝突を回避するようにライダーが利用できる情報(視覚、聴覚、触覚)を提供することです。

そのため、ライダーは周囲の状況を理解するために、システムの「能力」だけに頼ることは避けてください。特定の物体の形状、その表面、静止している/動いている位置、レーダー視野空間への進入の仕方によっては、システムが状況を正しく理解できず、ライダーに誤った情報を送る場合があります。

交通事故の原因で一番多いのは、運転操作以外のこと気にとられることです。ライダーは、ブレインドスポット検出(BSD) やアダプティブクルーズコントロール(ACC)を含む車両のインテリジェントシステムを使用しますが、常に車両のコントロールを維持しながら、システムのエラー(誤った情報の表示)の可能性についても考慮しておく必要があります。また、ライダーは周囲の物や人による危険を考慮し、常に慎重に行動する必要があります。ライダーは、特に他の車両への接近、状況に応じた旋回やブレーキ操作を行うなど、他の車両による不注意な運転を防ぐための行動に注意を払う必要があります。

本書内で言及されている走行速度は、km/h または mph のいずれの場合でも、ブライアンドスポット検出(BSD)システムとアダプティブクルーズコントロール(ACC)システムの特性と性能に関する警告を示すものであり、あくまでも参考です。ライダーは、常に運転する国の交通法規に定められた法定速度に従って運転する責任があり、いかなる場合でも、走行中の道路の種類や状態、およびその国の環境条件に応じた注意を払う必要があります。

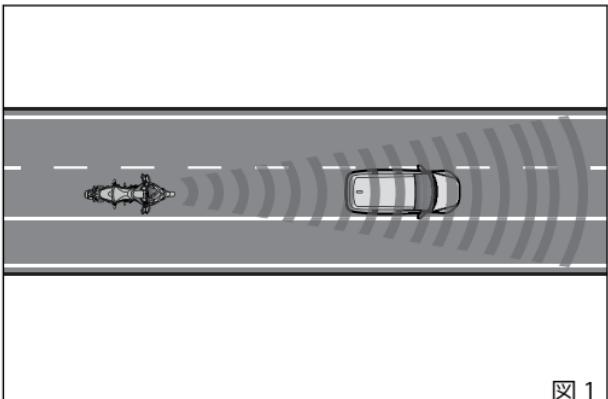
## アダプティブクルーズコントロール(装備している場合)

### **⚠ 重要**

本章をお読みになる前に、「交通安全規則」の章(ページ10)に記載されている内容をよくお読みください。

車両にアダプティブクルーズコントロールシステムが搭載されている場合にのみ、この機能が表示されます。

アダプティブクルーズコントロール(ACC)は、走行速度の維持機能と車間距離の調整機能を組み合わせた装置です。システムの能力の範囲内で、走行速度と前走車との車間距離を同時に調整し、ライダーをサポートします。システムが前方に車両を検知すると、減速と加速を自動で制御します。このシステムは、高速道路を長時間走行する際に、ライダーが快適に運転できるようサポートするものです。





## 警告

アダプティブクルーズコントロールは安全システムや障害物検知システムではなく、ライダーが快適に運転できるようサポートするものです。ライダーを支援するためのものであり、ライダー自身の運転に取って代わるものではありません。車両の操縦、安全な速度での走行、交通状況に応じた前走車との適切な車間距離の維持、現地の交通法規の遵守は、常にライダーの責任において実施されるべきものであり、衝突を回避するために積極的に減速と加速の操作を行うこともライダーの責任です。運転中は常に両手をハンドルに添えて、運転に細心の注意を払ってください。アダプティブクルーズコントロールシステムは、高速道路や自動車専用道路等での使用を想定して設計されています。市街地や山道、オフロードでの使用は想定されていません。悪路(砂利道やハイドロプレーニング現象が起こりやすい濡れたアスファルト路面など)や悪天候下(凍結、雪、霧、雨、あられ)では、アダプティブクルーズコントロールシステムを使用しないでください。こうした状況下では、アダプティブクルーズコントロールシステムが機能を適切に発揮できず、正常に動作できない可能性があります。また、カーブの多い道路、高速道路の出入口、工事中の道路など、複雑な道路環境ではアダプティブクルーズコントロール機能を使用しないでください。



## 警告

アダプティブクルーズコントロールシステムは、ABSがレベル2または3で起動し、トラクションコントロールが起動している場合にのみ利用できます。

### アダプティブクルーズコントロールとは

車両にはフロントとリアに1基ずつ、2基のレーダーが搭載されています。アダプティブクルーズコントロールは、フロントレーダー(センサー)からの情報を使用します。この種のセンサーは、この技術特有の動作制限を受けます。

周囲に車両がない場合、システムはクルーズコントロールのように動作し、一定の走行速度を維持します。前方を走る車両に近づくとシステムがこれを検知し、アダプティブクルーズコントロールシステムが自動的に減速と加速を制御して適切な速度に調整します(快適システムですので、その加速・制動能力には限界があります)。前方に車両が検知されなくなると、アダプティブクルーズコントロールシステムは設定した一定速度まで加速します。

## **⚠ 警告**

アダプティブクルーズコントロールシステムは安全システムではありません。減速や加速の操作を行いますが、緊急ブレーキは行いません。システムの制動能力には限界があります。周囲の環境や交通状況によっては、システムが予期せず反応して、減速や加速をすることがあります。そのため、ライダーはバイクを確実に制御できるように、常にハンドルバーに両手を置いたまま運転する必要があります。

ライダーがスロットルグリップを回すと、アダプティブクルーズコントロールシステムは自動でブレーキを操作しなくなります。アダプティブクルーズコントロールシステムのいわゆるオーバーライドにつながる可能性があります(後述の「オーバーライド」を参照してください)。

## **設定可能な機能**

アダプティブクルーズコントロールシステムが起動しているときに、現在の速度を走行速度に設定することができます(「起動と停止」を参照してください)。走行中でも、設定速度の変更や速度調整の中止が可能です(「速度の変更」と「速度調整の中止」を参照してください)。

前走車との車間距離を設定することもできます。

## 一般情報およびシステムの限界

レーダーの前面(1、図2)は、ステッカーで覆われていたり、塗装されていたり、邪魔になるものがあるてはいけません。レーダーが正常に動作できなくなる可能性があります。運転を開始する前に、レーダーの視野を邪魔するものがないことを必ず確認してください。車両のフロント部に変更を加える場合も同様です。



### 警告

レーダーの視野は限られている上、技術的にも限界があるため、前走車を検知できない場合もあります。一般的に、アダプティブクルーズコントロール機能は、特定のシナリオでライダーが予想する動作とは異なる動作をすることがあります。すべてではありませんが、システムの限界のいくつかの例を以下に記載しています。

- システムは動いている車両を検知できますが、停車中の車両を検知することはできません(「停車中の車両」を参照してください)。
- バイクと前方を走る車の速度差が大きすぎると、前走車を検出できない場合があります。
- このシステムは、バイクに近接する車や、横に移動したり、走行車線に進入してくる車を検出する能力は高くありません。前方で走行車線に進入し

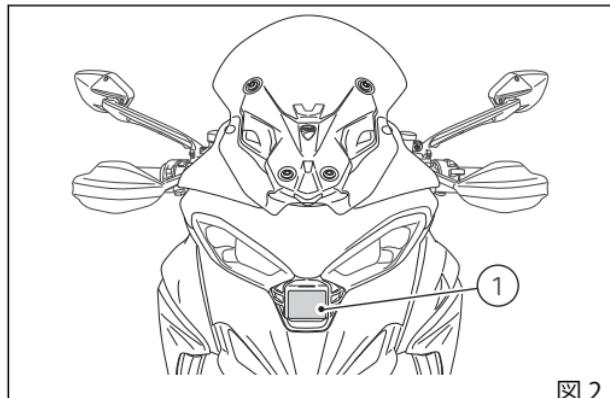


図2

てくる車両は、レーダーの視界に入り、レーダーが車両だと判断した場合にのみ、システムによって認識されます。このような場合には、システムが期待通りに反応しないことがあります(例:急ブレーキ、ブレーキの遅れ、減速しない等)。

- 二輪車や地上最低高の高い自動車(トラック等)、積荷が吊り下げられたり突き出たりしている自動車、幅の狭い自動車や形状が一般的でない自動車など、その形状を正しく識別できない物体については、アダプティブクルーズコントロールシステムによる検出が遅れる場合や全く検出されない場合があります。こうした場合には、システムが反

- 応しないか、正しく反応しない可能性があります。
- このシステムでは、歩行者、自転車、動物を検知することはできません。また、歩行者、自転車やキックボードに乗っている人、自転車やキックボードを手で押している歩行者などは、認識されない場合があります。
- システムが、風船、缶や金属容器、ポテトチップスの袋、段ボール箱など、車両以外の小さな移動物体を予期せず検出してしまい、ブレーキをかけるなどの反応をする可能性があります。
- システムは、対向車線を走る車両や進行方向を横切る車両を検出しません。
- システムは、隣接する車線を走る車に反応して、予想外にブレーキをかけるなどの操作を行う場合があります。これは、車線の近くを走行している場合に起こる可能性があります。
- アダプティブクルーズコントロールシステムは、電磁妨害や周囲環境からの反射がある場合(トンネル内、ガードレールがある場合、大雨、氷、あられ、霧の中など)、正しく反応しない、または全く反応しない場合があります。
- 衝撃、衝突、激しい動きが長い間続くと、レーダーが正しい位置からズれてしまう可能性があり、アダプティブクルーズコントロールシステムが正しく反応しない、または全く反応しない場合があ

ります。レーダーの位置が大きくズれてしまうと、正常な動作が妨げられたり、効果が低下したりします(このような場合には、正規ディーラーでアライメントの点検を受けてください)。事故に遭った場合や転倒した場合には、Ducati正規ディーラーでレーダーとレーダー位置の点検を受けてください。

- アダプティブクルーズコントロールシステムは、レーダー検出が妨害されたり遅延したりする可能性のある環境や特定の交通状況下では、正しく反応しない、または全く反応しない場合があります。正確な車間距離の算出ができなくなり、その結果、アダプティブクルーズコントロールシステムの不正な動作につながる可能性があります。このような場合には、ライダーが周囲の状況に応じて走行速度を調整する必要があります。

## カーブでの挙動

アダプティブクルーズコントロールシステムがカーブ走行時などの車体の傾きを検知すると、より快適に走行できるように減速します。ただし、この介入はシステムの限界範囲内で実行されます。減速度はリーン角に依存します。

### !**警告**

カーブの進入と出口では、他車両の検知が遅れたり妨害されたりする場合があります。システムが予期せぬ動作をして、予想外の加速やブレーキ操作を行うことがあります。半径が小さく狭いカーブや半径が変化するカーブの場合は、こうした現象が起りやすくなります。例えば、カーブの先で車両がレーダーの視野から外れてしまう場合があります。このような場合は、アダプティブクルーズコントロールが予期せずに加速してしまう可能性があります。また、カーブ走行時には、アダプティブクルーズコントロールが隣接する車線を走行する車両に反応してブレーキをかけてしまう場合があります。バイクのスロットルを手動で操作することで、いつでもこの挙動を防止・停止することが可能です。

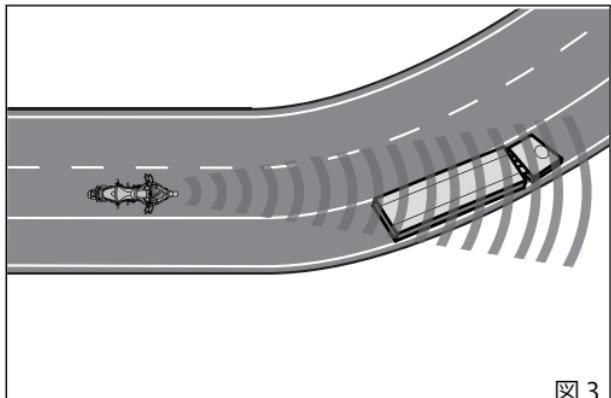


図3

## 停車中の車両

アダプティブクルーズコントロールシステムは、移動中の車両のみを検知します。例えば、停車しようとしている車両を検知、認識して反応することはできます（上記で明記した限界はあります）が、道路上に駐車している、またはすでに停車している車両（渋滞などで止まっている車両など）を認識して対応することはできません。このような場合は、ライダーがブレーキを踏んで適切に減速する必要があります。

一般的に、静止している物体（中央分離帯、料金所など）や対象物（歩行者など）には反応しません。ライダーは、人や物への危険を回避するために、こうしたシ

システムの限界に常に注意を払い、周りの状況に合わせて適切に運転する必要があります。

## 起動と停止

設定可能な最高速度は 160 km/h (約 98 mph) です。  
設定可能な最低速度は、以下のように走行ギアによつて異なります。

ギア	最低速度
1速と2速	30 km/h (単位をマイルに設定している場合は 18 mph)
3速	35 km/h (単位をマイルに設定している場合は 21 mph)
4速	40 km/h (単位をマイルに設定している場合は 24 mph)
5速	45 km/h (単位をマイルに設定している場合は 27 mph)
6速	50 km/h (単位をマイルに設定している場合は 30 mph)

## !**警告**

アダプティブクルーズコントロールシステムを有効にしている場合であっても、ライダーは常に現地の交通法規で定められた法定速度を守り、バイクの運転規則を遵守する責任があります。

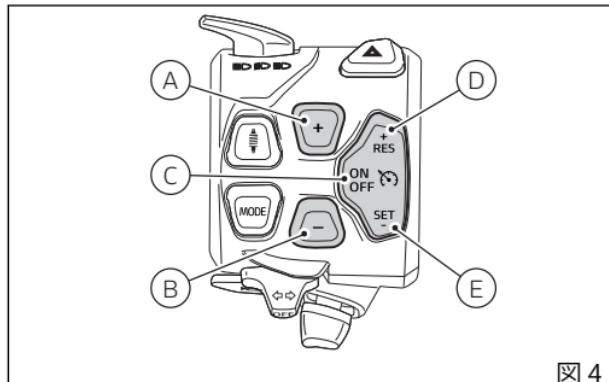


図 4

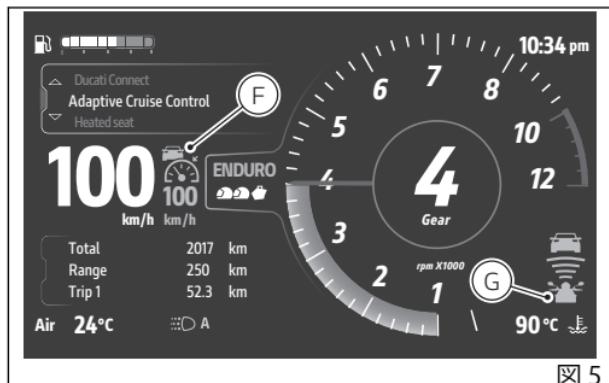


図 5

インストルメントパネル上のアイコンは、現在の設定とシステムのステータスをユーザーに通知します。

## アダプティブクルーズコントロールの起動

アダプティブクルーズコントロールを起動するには、ON/OFF ボタン(C、図 4)を押します。

## 速度の保存と速度調整の作動

車両の現在の走行速度を設定速度として保存し、クルーズコントロールを作動するには、「SET/-」(E、図 4)または「RES/+」(D、図 4)を押します。保存された速度がメインアイコン内に表示されます(F、図 5)。

## アダプティブクルーズコントロールの停止

アダプティブクルーズコントロールを停止するには、ON/OFF ボタン(C、図 4)を押します。メインアイコン(F、図 5)が表示されなくなります。

## メインアイコン(F、図 5)

アダプティブクルーズコントロールのメインアイコンは以下のように変化します。

- 緑色と灰色：システムは起動していますが、速度調整は作動していません。速度が保存されていない場合は、点線が表示されます。そうでない場合は、最後に保存された設定速度が表示されます。
- 緑色：システムが起動し、速度調整も作動しています。

- 黄色：例えば、先行車との車間距離を維持するのに自動ブレーキだけでは十分でないため、システムがライダーによる介入を求めています。
- 赤色：システムにエラーが発生しています。速度調整は作動していません。

## 車間距離アイコン(G、図 5)

車間距離アイコンに基づいて、前走車との車間距離が維持されているかどうかを確認することができます。アイコンで表示される4本の「距離バー」は、設定されている前走車との車間距離を表しています(「車間距離調整」を参照してください)。

アダプティブクルーズコントロールの車間距離アイコンは以下のように変化します。

- 灰色：システムは起動していますが、速度調整は作動していません。
- 緑色、自動車アイコンなし：システムが起動し、速度調整も作動しています。前方に検知されている車両がありません。設定速度が維持されます。
- 緑色、自動車アイコンあり：システムが起動し、速度調整も作動しています。前方に車両が検知されました。アダプティブクルーズコントロールは、バイクの速度と前走車との車間距離を調整し、ブレーキとアクセルを自動で制御します(上述のシステムの限界は常に存在します)。

- 黄色：例えば、先行車との車間距離を維持するのに自動ブレーキだけでは十分でないため、システムがライダーによる介入を求めています。



アダプティブクルーズコントロールまたはインストルメントパネルをオフにすると、安全上の理由により、保存されている設定速度が消去されます。

## 設定速度の変更

設定速度を 1 km/h (または単位をマイルに設定している場合は 1 mph) ごと増減するには、それぞれ「RES/+」(D、図 4) または「SET/-」(E、図 4) を押して、希望する速度に合わせます。

設定速度を高速で増減するには、それぞれ「RES/+」(D、図 4) または「SET/-」(E、図 4) を長押しして、希望する速度に合わせます。

## 速度調整の中断

必要条件：アダプティブクルーズコントロールが起動していること。

## 運転中の速度調整の中断

以下の方法で速度調整を中断することができます。

- ライダーがブレーキをかけた場合。
- アクセルを放した状態から、アクセルを操作した場合。

また、以下のような場合には、速度調整が中断されます。

- クラッチレバーが長い間引かれている場合。
- ギアがニュートラルに入れられた場合。
- 走行速度が 180 km/h (112 mph) を超えた場合。
- ブレーキ作動中に、機能停止速度に達した場合。



機能停止速度は、使用中のギアの最低許容速度より 5 km/h (3 mph) 低い速度です (表参照)。例えば、1速ギアの最低許容速度は 30 km/h (19 mph) なので、アダプティブクルーズコントロールの停止速度は 25 km/h (15 mph) になります。

- ABS やトルク制御システムの介入が長引いた場合。
- 車体のリーン角度が約 50° を超えた場合。

この状態では、メインアイコンの設定速度と車間距離アイコンが灰色になります。

システムの動作条件が満たされれば、「RES/+」ボタン(D、図4)または「SET/-」ボタン(E、図4)を押してクルーズコントロールを再開することができます。「RES/+」(D、図4)を押した場合、設定速度は最後に保存された速度になります。「SET/-」(E、図4)を押した場合、設定速度はその時点の走行速度になります。



## 警告

オーバーライド中は、アダプティブクルーズコントロールの車間距離調整が一時的に停止され、ライダーがスロットルグリップを手動で操作します。ライダーは常に現地の交通法規で定められた法定速度を守り、バイクの運転規則を遵守する責任があります。



道路状況、交通状況、または天候が適切でない場合には、保存されている設定速度でクルーズコントロールを再開しないでください。それでも再開した場合は、事故の危険が高まります。

## Override (オーバーライド)

アダプティブクルーズコントロールシステムを使用しているときでも、手動で加速することができます。アクセルが手動で操作されると、アダプティブクルーズコントロールは速度調整を一時的に中断します。走行速度 180 km/h (112 mph) 以下でこの操作が行われた場合、アクセルを放した時点で、アダプティブクルーズコントロールは自動速度調整を再開します。

## ライダーによる介入の要請

状況によっては、アダプティブクルーズコントロールシステムが制動中や加速中であっても、前述したシステムの限界のために、ライダーによる介入を必要とする場合があります。ライダーによる介入が要請されると、メインアイコン(F)と車間距離アイコン(G)の両方が黄色に変わります。

これは、以下のような場合に起こります。

- アダプティブクルーズコントロールによるブレーキングや車間距離の調整が間に合わない場合  
(例：一台の車両が走行車線に突然進入してきた場合や検知された車両がバイクよりも極端に低速で走行している場合)。
- エンジン回転数がおよそ 8,500 rpm に達した場合、システムは加速を中止します。このような状況では、安全に走行できるのであれば、シフトアップするようにしてください。
- 使用しているギアに対してエンジン回転数が低すぎる場合、アダプティブクルーズコントロールはライダーによる介入を要請します。このような状況では、安全に走行できるのであれば、シフトダウンするようにしてください。

### 参考

加速や減速中でも、DQS を使用してギアチェンジが可能です。

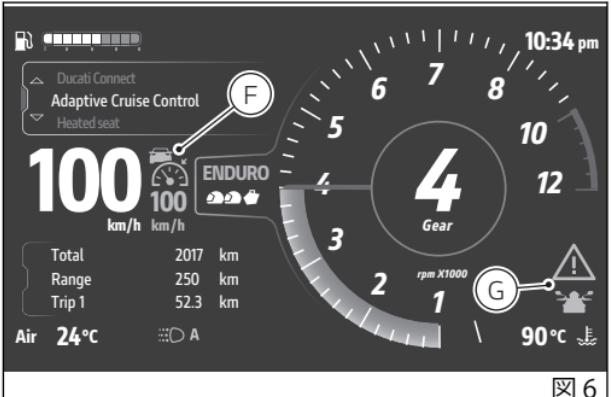


図 6

## **!** 警告

アダプティブクルーズコントロール機能は、すべての状況下でライダーによる介入の要請が発せられることを保証するものではありません。場合によっては(前走車による急ブレーキ、突然の車線変更、他車両による走行車線への進入など)、バイクを減速させる時間が十分になく、システムが反応しない、または反応が遅れる場合があります。このような場合は、ライダーによる介入の要請が間に合わない、または全く発せられないことがあります。ライダーは、衝突やその他危険な状況を回避するために、積極的に介入する必要があります。ライダーには、道路状況、環境条件、周囲の環境を正しく評価し、常に車両を制御して運転する責任があります。

## 追い越しアシスト

アダプティブクルーズコントロールシステムに追い越しアシスト機能が搭載されており、走行速度約65 km/h (40 mph) 以上で利用できます。

ターンインジケーターを作動させると、システムはセンサーの注意を隣の車線に集中させます。追い越しが可能であれば、一定の範囲内で加速して(設定速度に応じます)、追い越しをサポートします。

レーダーは、交通方向を推定することができます。追い越しアシストはそれに応じて動作し、法律で定められている追い越し側に対応するターンインジケーター

を作動した場合にのみ起動します。つまり、右側通行の国では左ターンインジケーター、左側通行の国では右ターンインジケーターになります。

## **!** 警告

バイクのコントロールパネルをオンになると、毎回交通方向を検出するのに多少の時間がかかります(交通状況により異なります)。そのため、運転を初めてから数分間は、追い越しアシストを利用できない場合があります。さらに、対向車が多い場合、追い越しアシストを利用できない場合があります。この機能(追い越しアシスト)はライダーを支援するものです。ただし、道路状況、環境条件、周りの環境を正しく評価して、常に車両を制御して運転するというライダーの責任を軽減するものではありません。レーダーの動作限界のため、道路の種類を正しく検出できない場合があり、追い越しアシストシステムが期待通りに動作しないことがあります。

## 不具合

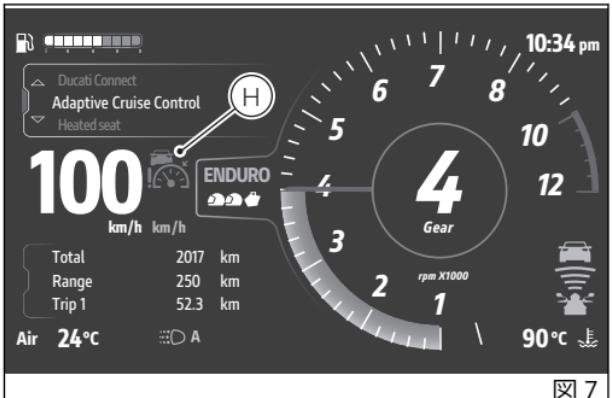
故障や不具合が発生し場合は、メインアイコンが赤色に変わります(H、図7)。このようになった場合は、以下のように対処してください。

1. フロントレーダーが汚れていないか、邪魔になっているものがないかを確認してください。必要であれば、十分に注意してレーダーの汚れを落とすか、邪魔になっているものを取り除いてください。次に、インストルメントパネルをオフにしてから、再びオンにします。

### 参考

この操作は、安全な場所に停車している状態でのみ実施してください。

2. 「1.」の操作を実施した後も、アダプティブクルーズコントロールのアイコンが赤色のまま変わらない場合は、Ducati正規サービスセンターへお問い合わせください。



## 車間距離調整

アダプティブクルーズコントロールが前走車との間で維持する距離のレベルを選択することができます。この操作は「Adaptive Cruise Control (アダプティブクルーズコントロール)」メニューから、または「+」ボタン(A、図4)(距離の延長)と「-」ボタン(B、図4)(距離の短縮)で行うことができます。

- ジョイスティックを ▲ の位置に長く押し、インタラクティブメニュー(I、図8)を選択します。
- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して「Adaptive Cruise Control (アダプティブクルーズコントロール)」を選択し(L、図8)、「ENTER」を押します。

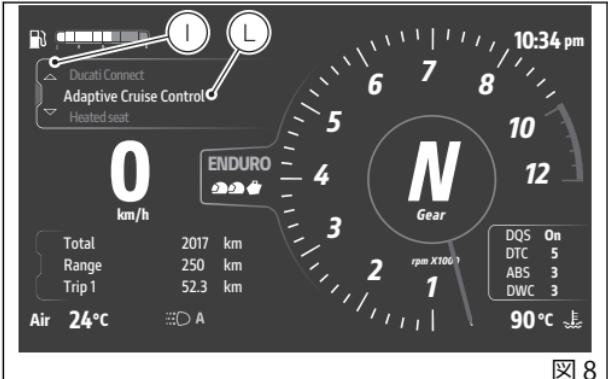


図 8

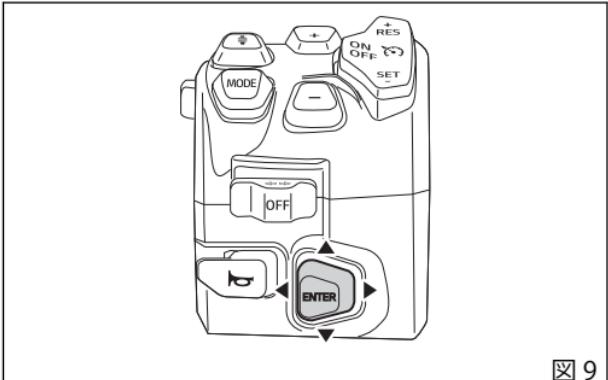


図 9

インストルメントパネルに設定用の専用画面が表示されます。画面内では現在の設定距離が選択されています。ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、4通りの距離から選択できます。選択している同じ距離では、バイクの走行速度が速いほど、車間距離は長くなります。表示されている距離は公称値です。運転状況や前走車の挙動によっては、これらの目標距離よりも実際の車間距離が短くなったり、長くなったりすることがあります。

- 「Near (近い)」：この設定は、走行速度 100 km/h (62 mph) で約 22 メートル (72 フィート) の距離、時間にしておよそ 0.8 秒の距離に相当します。
- 「Medium (中程度)」：この設定は、走行速度 100 km/h (62 mph) で約 34 メートル (112 フィート) の距離、時間にしておよそ 1.2 秒の距離に相当します。
- 「Far (遠い)」：この設定は、走行速度 100 km/h (62 mph) で約 44 メートル (144 フィート) の距離、時間にしておよそ 1.6 秒の距離に相当します。
- 「Very far (とても遠い)」：この設定は、走行速度 100 km/h (62 mph) で約 55 メートル (180 フィート) の距離、時間にしておよそ 2.0 秒の距離に相当します。

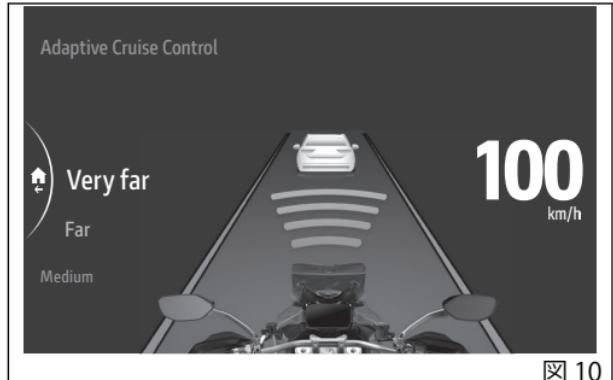


図 10

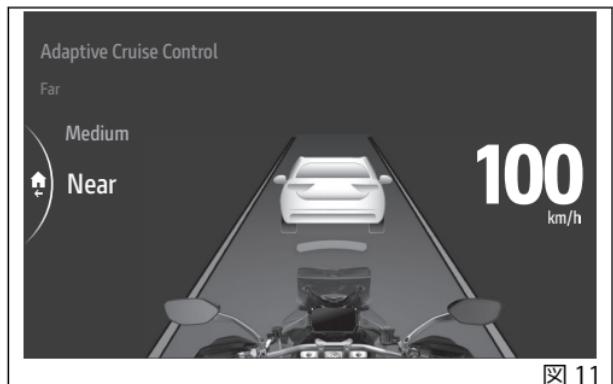


図 11

## 警告

運転する国によっては、その国の現行交通規則で定められている最低車間距離よりも、「Near」レベルの距離が短い可能性があります。車間距離を設定する際は、いつでもライダーが介入して無理なく減速、停車できるように、交通状況、環境条件、周囲の環境(濡れた路面、視界の悪さなど)を考慮する必要があります。ライダーには、運転する国の道路交通法規を遵守する責任があります。

「ENTER」を押して決定すると、インストルメントパネルはアダプティブクルーズコントロールの画面を終了します。

## 参考

変更せずに画面を終了するには、ジョイステイックを ▶ の位置に短く、または長く一回押します。

バイクが前方を走る車に接近すると、アダプティブクルーズコントロールシステムがブレーキを作動させて速度を調整して、前走車との適切な車間距離を保ちます。前走車が加速すると、アダプティブクルーズコントロールも設定速度に達するまで加速します。

## Blind Spot Detection BSD (ブラインドスポット検出) (装備している場合)

### ⚠ 重要

本章をお読みになる前に、「交通安全規則」の章(ページ10)に記載されている内容をよくお読みください。

車両にブラインドスポット検出(BSD)システムが搭載されている場合にのみ、この機能が表示されます。

たとえインテリジェント運転支援システム(BSDなど)が搭載されていても、ライダーは車両の運転や操縦に責任があり、常にライダー自身が制御または修正しなければなりません。

ブラインドスポット検出などのアダプティブインテリジェントシステムは、周囲の状況を分析して特定の危険をライダーに警告し、処理する情報に基づいて発生する可能性のあるイベントを論理的に予測します。周囲の状況を理解できている限り、合理的な論理で動作するという意味でインテリジェントなシステムであり、技術的な制約内で計算技術を利用する高度なシステムです。

これらのシステムは技術的に洗練されていますが、あくまでもライダーの運転を助け、状況を改善するためのものであり、ライダーの運転に取って代わる自律運転システムではありません。ライダーは、採用した運

転操作の選択と、特定の状況で必要とされる慎重な運転と注意力に常に責任があります。

アダプティブインテリジェントシステムは、ライダーに危険な状況を警告する機能を持っていますが、その予測は周囲の環境や、周囲の物体や人を認識できるかどうかに依存します。その機能は衝突を回避することではなく、可能であれば衝突を回避できるようにライダーが利用できる情報(視覚、聴覚、触覚)を提供することです。

そのため、ライダーは周囲の状況を理解するために、システムの「能力」だけに頼ることは避けてください。特定の物体の形状、その表面、静止している/動いている位置、レーダー視野空間への進入の仕方によっては、システムが状況を正しく理解できず、ライダーに誤った情報を送る場合があります。

交通事故の原因で一番多いのは、運転操作以外のこと気にとられることです。ライダーは、ブラインドスポット検出を含む車両のインテリジェントシステムを使用しますが、常に車両のコントロールを維持しながら、システムのエラー(誤った情報の表示)の可能性についても考慮しておく必要があります。また、ライダーは周囲の物や人による危険を考慮し、常に慎重に行動する必要があります。ライダーは、特に他の車両への接近、状況に応じた旋回やブレーキ操作を行うなど、他の車両による不注意な運転を防ぐための行動に注意を払う必要があります。

本マニュアル内で言及されている走行速度は、km/h または mph のいずれの場合でも、ブランドスポット検出(BSD)システムの特性と性能に関する警告を示するものであり、あくまでも参考です。ライダーは、常に運転する国の交通法規に定められた法定速度に従つて運転する責任があり、いかなる場合でも、走行中の道路の種類や状態、およびその国の環境条件に応じた注意を払う必要があります。

ブランドスポット検出は、車両の後方エリア、特に死角を監視してライダーを支援します。

この機能は、BSD (Blind Spot Detection) の頭字語でも知られています。

死角とは、バックミラーを使っても走行中のライダーからは見えない後方の領域のことです。死角の存在は、例えば、ライダーが追い越し操作(または横移動やブレーキ操作)を始めたときに、死角に入っている車両と側面衝突する深刻な危険をはらんでいます。

車両にはフロントとリアに1基ずつ、2基のレーダーが搭載されています。BSDはリアレーダーの情報を使用します。BSDシステムは、システム自体の限界(「システムの機能的限界」に記載されているシステムの技術的限界を含む)の範囲内で、死角にいる車両や死角に近づいてくる車両の存在をライダーに警告します。リアビューミラーの専用LEDライトが点灯し、ライダーに警告を発します。左リアビューミラーのLEDライ

トは左側の死角を示し、右リアビューミラーは右側の死角を示します。

この機能は、状況に応じて車両の存在を知らせる情報(レベル1)または危険を知らせる警告(レベル2)の2段階の警告を行います。

## 警告

BSDは追い付いてくる車両に注意を払うことでライダーをサポートしますが、ライダーの注意義務に取って代わるものではありません。たとえBSDが有効であっても、ライダーは常にバイクの周囲の交通や環境に注意を払って車両のコントロールを維持し、現地の現行交通法規に従つて安全運転を心がけて走行する必要があります。車線変更や車両の操縦を含め、ライダーは常に運転の全責任を負っています。BSDシステムは、特に高速道路や都市部の道路で使用するのに適した高性能なシステムです。

このシステムは直線道路の走行時に正しく機能します。渋滞中の車両の列を追い越す場合や車両間をジグザグに走行するような場合(ライダーの安全を確保するために、例外的な場合にのみ実行するもの)には、機能しないか、正しく機能することができません。このような場合は、システムが予期せぬ動作をしたり、誤った情報を提供したりする可能性があります。



## 警告

BSDは、ABSがレベル2または3で起動し、DTCが起動している場合にのみ利用できます。

### レベル1：情報

ターンインジケーターが作動していない場合、BSDは死角に検出された車両や死角に進入する車両の存在に関する情報を提供します。左右いずれか対象のリアビューミラーのLEDライトが点灯します。

### レベル2：危険の警告

ターンインジケーターが作動している、または作動させた場合、BSDは死角に検出された車両や死角に進入する車両が存在による危険を警告します。この場合は、作動しているターンインジケーター側のリアビューミラーのLEDライトが明るく点滅します。

この場合は特に注意が必要で、側面や後方の交通状況を確認する必要があります。

## 参考

レベル1の明るさは、レベル2よりも暗くなっています。LEDライトの明るさは、「Setting menu(設定メニュー)」内の「Blind Spot Detection(ブラインドスポット検出)」機能から調節することができます(「Setting menu – Blind Spot Detection」をご覧ください)。

### 一般情報

BSDは走行速度25 km/h(15 mph)以上で利用できます。

バイクに接近してくる車両、または追い越し中の車両(1、図12)

検出された車両が重要と判断された場合、BSDシステムは車両が接近している、または追い越し中であることを通知します。遠く離れていても車両の特定は可能です。接近してくる車両の速度が速いほど、システムは早くその存在を知らせます。バイクに接近してくる車両との速度差が36 km/h(20 mph)未満のときに、通知の精度が最も高くなります。

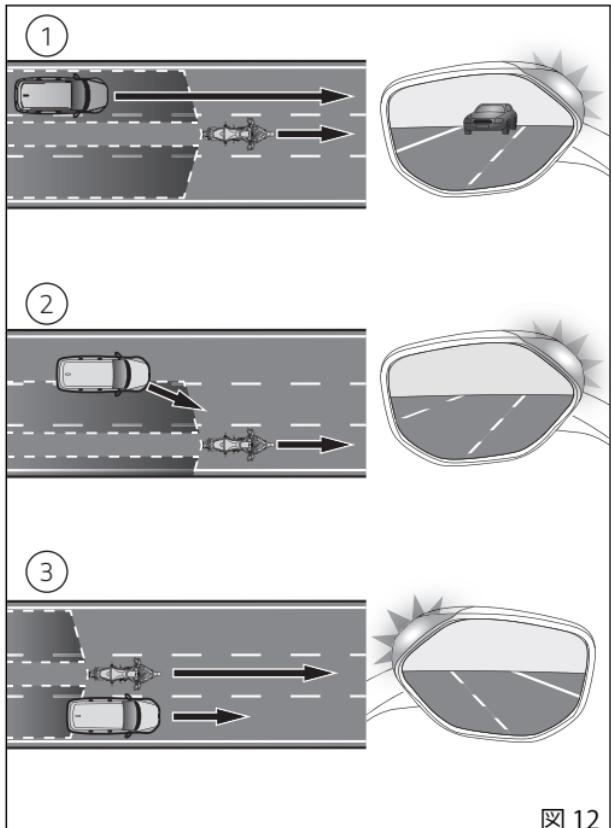


図12

バイクに対して横移動している車両

(2、図12)

バイクと同じ進行方向で走行している車両が検出されると、この車両が横方向(右側または左側から)に移動して死角に入った場合でも、BSDシステムによって通知されます。事例1と同様に、バイクとの速度差が特に大きい場合には、早めに警告が発せられます。

バイクが追い越す車両 (3、図12)

車両を追い越す際、バイクと車両の速度差が 4 km/h (2.5 mph) 未満の場合、BSDは車両が死角に入った時点でリアビューミラーの LED ライトを点灯させます。車両が検知されていても、追い越しの際のバイクと車両の速度差が 4 km/h (2.5 mph) を上回っている場合は、LED ライトは点灯しません。

## システムの機能的限界

BSDは、車両後部に設置されたレーダー（またはセンサー）(4、図13)を使用します。この種のセンサーは、動作の技術的な限界、この技術特有の制限を受けます。

レーダーの前面(4、図13)がステッカーで覆われていたり、塗装されてたり、邪魔になるものがあるといけません。レーダーが正常に動作できなくなる可能性があります。



### 警告

BSD機能が車両に反応するには、対象となる車両がレーダーの視野内にあり、レーダーが「重要」な車両だと判断する必要があります。車両を検知できるレーダーの視野は限られており、技術的な限界があります。また、BSDは一般的な幅の車線内を走る車両を検知するように設計されています。そのため、BSD機能が正しい情報を提供できない場合や期待していた情報を提供できない場合があります。特に、次のような予期せぬ事態が発生する可能性があります。

- 情報や危険の警告が、事象より発生よりも遅れて発せられた。
- 情報や危険の警告が発せられなかった。
- 死角や死角付近に車両がいないにも関わらず、情報や危険の警告が発せられる。

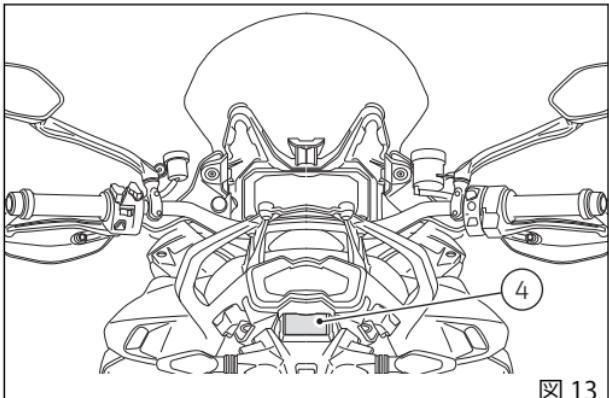


図 13

これらの誤った通知や通知欠如の原因は、特に次のようなものが考えられます。

- 悪天候(雨、雪、濃霧など)
- センサーの汚れ
- レーダーの電磁波の反射に影響を与える電磁妨害や周囲の環境(狭いカーブや半径が変化するカーブ、トンネル、工事中の壁など)。
- バイクよりも大幅に速度の速い車両による追い越し。この場合、システムが情報や警告を発しないことがあります。

- 走行車線に隣接する車線が狭い道路、またはカーブがある道路：システムが、隣接しない別の車線を走行する車両を検知する場合があります。
- 特に幅の広い車線の道路や、凹凸やくぼみのある道路。この場合、隣接する車線を走行する車両がレーダー検出範囲外になるため、システムが車両を検出できないことがあります。
- 走行車線の隣を走行している車両の存在：隣接する車線を走行する車両がレーダー検出範囲外になるため、システムが車両を検出できないことがあります。

## 警告

システムは止まっている物体を認識できない場合があります(中央分離帯、料金所、駐車車両など)。また、システムはスクーターや自転車、車高の異常に高い車両などを認識できない場合があります。歩行者、自転車やキックボードに乗っている人、自転車やキックボードを手で押している歩行者なども、認識されない場合があります。

## 機能の利用条件

以下の条件の下では、BSD 機能を利用できません(そのため、情報や警告は一切発せられません)：

- 車体のリーン角度が約 33° を超えている場合
- 走行速度 22 km/h 以下

- ABS やトルク制御システムによる介入中。



凹凸や衝撃など、激しい動きを繰り返していると、時間の経過と共に、レーダーが元の位置からズレしまうことがあります。位置ズレが大きくなりすぎると、機能が適切に発揮できなくなったり、効果が低下したりします。事故に遭った場合や転倒した場合には、Ducati 正規ディーラーでレーダーとレーダー位置の点検を受けてください。

## 参考

ブラインドスポット検出 (BSD) は、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Blind Spot Detection (ブラインドスポット検出)」機能から起動または停止することができます (「Setting menu – Blind Spot Detection」をご覧ください)。

## アイコン

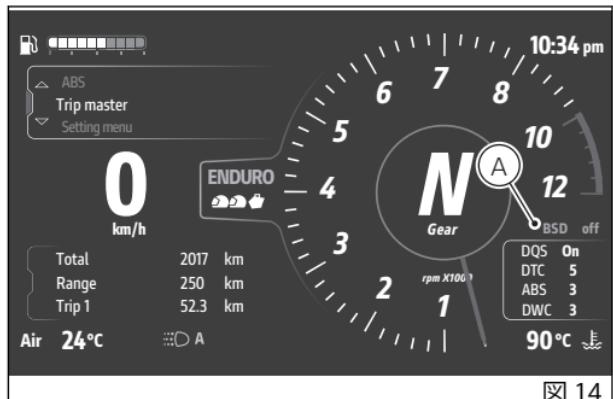
BSD の専用アイコンはメイン画面の右側にあります (A、図 14)。

機能が起動しているときは、アイコンは表示されません。起動しているときは、以下のように表示されます。

- 灰色：ライダーが機能を停止しています。
- 黄色：ライダーが機能を起動したが、ABS が解除されているかレベル 1 に設定されている、または DTC が解除されているため、あるいは環境要因 (トンネルなど) によりレーダーが一時的に利用できないため、機能を利用できません。
- 赤色：システムの故障または不具合により、機能を利用できません。

赤色の BSD アイコンが表示された場合は、次のように対処してください。

1) フロントレーダーが汚れていないか、邪魔になっているものがないかを確認してください。必要であれ



ば、十分に注意してレーダーの汚れを落とすか、邪魔になっているものを取り除いてください。

## 参考

この操作は、安全な場所に停車している状態でのみ実施してください。

2) 1)の操作を実施した後も、BSD アイコンが赤色のまま変わらない場合は、Ducati 正規サービスセンターへお問い合わせください。

## Setting menu – Blind Spot Detection

この機能では、ブラインドスポット検出(BSD)機能によって管理されるアビューミラーのLEDライトの起動・停止と明るさの設定を行います。ブラインドスポット検出システムが装備されている場合にのみ利用できます。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Blind Spot Detection(ブラインドスポット検出)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「On/Off」と「Dimmer(明るさ調整)」が表示されます。右側には現在のステータスが表示されています。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。

- 「On/Off」の上で「ENTER」を押すと、機能を起動または停止します。
- 「Dimmer(明るさ調整)」の上で「ENTER」を押すと、アビューミラーのLEDライトの明るさ調整に進みます。

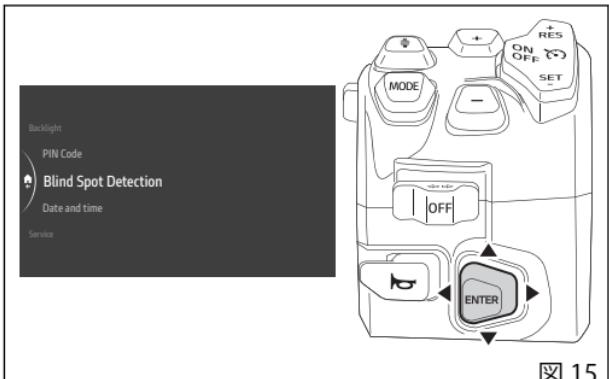


図 15

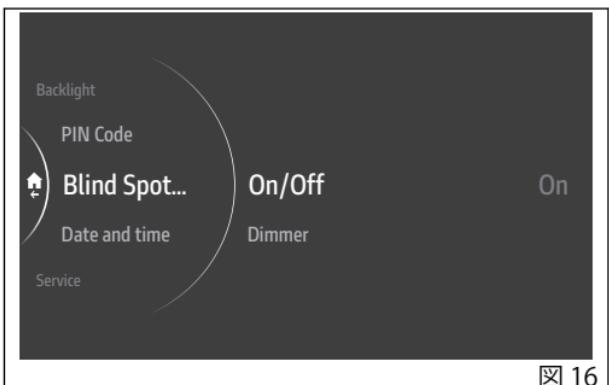


図 16

## ブラインドスポット検出 – On/Off

この機能はブラインドスポット検出(BSD)機能を起動または解除します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Blind Spot Detection(ブラインドスポット検出)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「On/Off」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に「On」と「Off」のステータスが表示されます。右側には現在のステータスが表示されています。中央には、選択されているステータスに関するバイクのグラフィックが表示されます。

ジョイスティック ▲▼ を使用してスクロールし、希望するステータスを選択できます。「ENTER」を押して決定し、前のメニューに戻ります。

システムを「On」に設定している場合は、インストルメントパネルをオンにしたときにリアビューミラーのLEDライトが短く光ります。

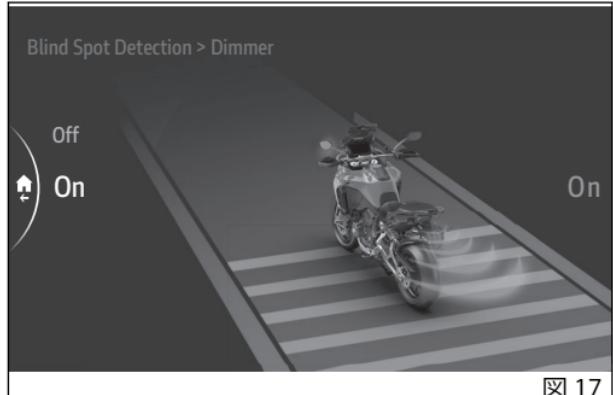


図 17

## Blind Spot Detection – Dimmer

この機能はリアビューミラーのLEDライトの明るさを調整します。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Blind Spot Detection(ブレインドスポット検出)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Dimmer(明るさ調整)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に「Low(弱)」、「Medium(中)」、「High(強)」のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央にはバイクのグラフィックと、選択されているレベルに応じたLEDライトの明るさが表示されます。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。

新しいレベルを選択すると、リアビューミラーのLEDライトが短く光り、新しく設定された明るさレベルをライダーに示します。

「ENTER」を押して決定し、前のメニューに戻ります。

どちらの警告レベルでも、「昼間」または「夜間」の検出に基づいて LED ライトの明るさが自動調整されます(情報のレベル1と危険警告のレベル2、「ブライ

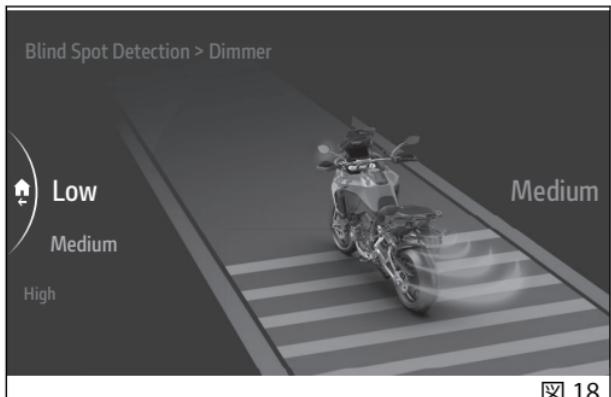


図 18

ンドスポット検出」の章をご覧ください(ページ 30)。周囲の明るさによっては、明るさ調整の変化にはっきりと気づかない場合があります。

運転中にレベル1の情報シグナルに気を取られたり、視界の邪魔にならないように、明るさを調整してください。レベル2の危険警告の明るさはレベル1の情報シグナルの明るさとリンクしていますので、レベル1と一緒に自動的に調整されます。



明るさ調整中、ブレインドスポット検出(BSD)は作動していません。

# インフォテインメント

## インフォテインメント

Multistrada V4Sに搭載されているインフォテインメントシステムでは、スマートフォン、ライダーインターフォン、パッセンジャーインターフォンなどのBluetoothデバイスを介して接続し、電話の発着信を管理したり、スマートフォンで音楽を再生したりできます。

また、スマートフォン上の Ducati Connect アプリで管理できる既定のアプリのミラーリングを起動することができます。

- Bluetooth デバイスのペアリングと操作に関しては、ページ 42 を参照してください。
- 着信の応答に関しては、ページ 48 を参照してください。
- 音楽プレーヤーの操作に関しては、ページ 51 を参照してください。
- Ducati Connect アプリを使用してミラーリングを行うには、ページ 53 を参照してください。
- 音量の操作に関しては、ページ 58 を参照してください。

## Bluetooth デバイスのペアリングと操作

この機能では、ペアリング済みのBluetooth デバイスの管理およびデバイスのペアリングが可能です。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Bluetooth」を選択し、「ENTER」を押します。

「Pairing (ペアリング)」と「Paired devices (ペアリング済みデバイス)」が表示されます。

- 「Pairing」では、新しいBluetooth デバイスをペアリングします。
- 「Paired devices」では、ペアリング済みデバイスの表示と削除を行います。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定します。

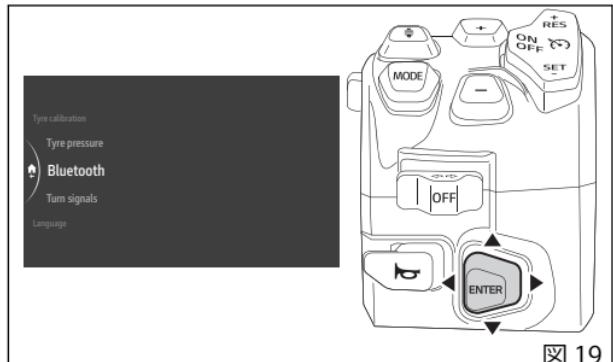


図 19

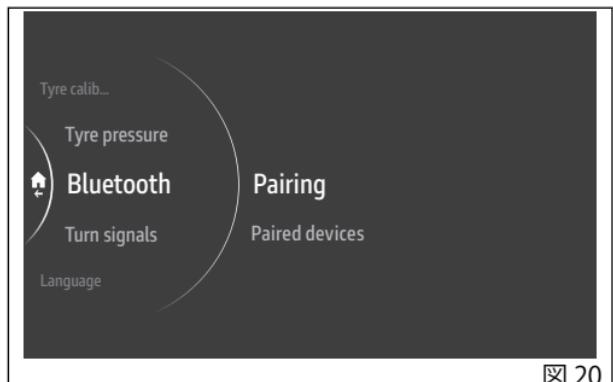


図 20

## Pairing

新しいBluetoothデバイスをペアリングします。

- ・ジョイスティック▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- ・「Bluetooth」を選択し、「ENTER」を押します。
- ・「Pairing(ペアリング)」を選択し、「ENTER」を押します(図20)。

ペアリング可能なスマートフォン、ライダーヘッドセット、パッセンジャーへッドセットの3つのデバイスタイプが表示されます(図21)。

ジョイスティック▲▼を使用して、ペアリングするデバイスタイプを選択します。「ENTER」を押して決定し、デバイス検索を開始します。

インストルメントパネルが周囲のBluetoothデバイス検索を開始します。「Wait…(お待ちください)」の文字が表示され、検出されたデバイスが表示されます(図22)。検索が終了すると、検出された全デバイスがリスト表示されます。

ジョイスティック▲▼を使用して目的のデバイスを選択し、「ENTER」ボタンを押します。

Bluetoothデバイス側の検証待ちの間は、画面の右側に「Pairing…(ペアリング中)」と表示されます。スマートフォンとのペアリングする場合は、インストルメ

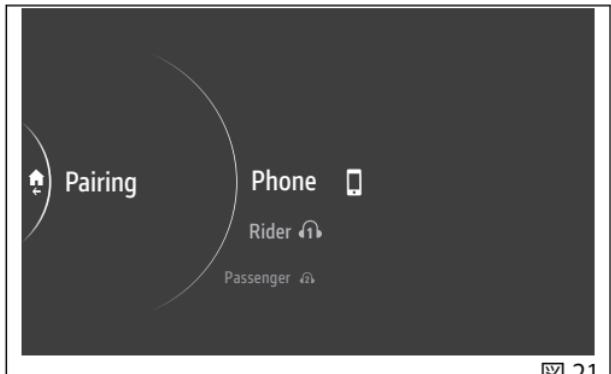


図21

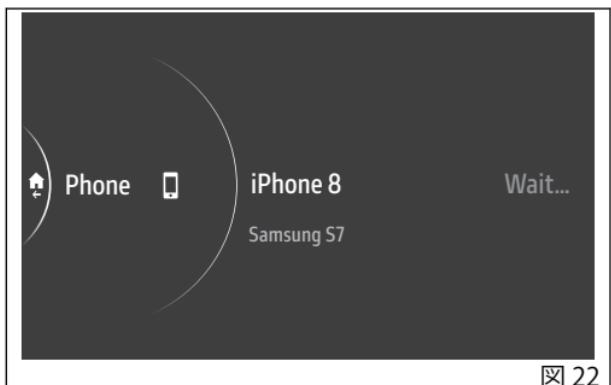


図22

ントパネルとスマートフォンの画面にペアリングコードと確認要求が表示されます。ペアリングを続行するには両方のデバイス上でコードを承認します。コードを確認すると、デバイスのペアリングが正常に完了した場合は、右側に「Paired (ペアリングされました)」と数秒間表示されてから、前のメニュー画面に戻ります。「Pairing error (ペアリングエラー)」と表示された場合は、もう一度ペアリング手順を実行できます。



**参考** 最大スマートフォン2台、ライダーへッドセット1台、パッセンジャーへッドセット1台をペアリングできます。

新規に1台のスマートフォンやヘッドセットをペアリングするには、先にペアリング済みのデバイスを削除する必要があります（「Paired devices」をご覧ください）。

## Paired devices

この機能では、ペアリング済みのBluetoothデバイスの表示と削除を行います。



### 参考

最大スマートフォン2台、ライダーヘッドセット1台、パッセンジャーヘッドセット1台をペアリングできます。

- ジョイスティック▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Bluetooth」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Paired devices(ペアリング済みデバイス)」を選択し、「ENTER」を押します(図20)。

ペアリング済みデバイスのリストが表示されますので、ジョイスティック▲▼を使用して目的のデバイスを選択し、「ENTER」を押します。

右側に「Delete?(消去しますか)」と表示され(図23)、「ENTER」を押して選択したデバイスをリストから消去します。その後、「Wait…(お待ちください)」と数秒間表示されてから、ペアリング済みデバイスのリストが更新されます。

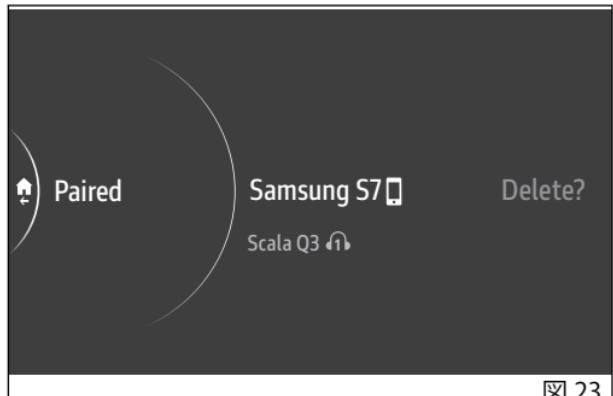


図23



### 参考

ペアリングされているデバイスがない場合は、「No device」と表示されます。



### 警告

Bluetoothスマートフォンおよびヘッドセットの製造メーカーは、デバイスの寿命期間中に標準プロトコルに変更を加えることがあります(スマートフォン、ヘッドセット)。

## **⚠ 警告**

ドゥカティ社はこれらの変更に関与していませんので、こうした変更が Bluetooth スマートフォンおよびヘッドセット(音楽共有、マルチメディア再生など)の各種機能やいくつかのタイプのスマートフォン(Bluetooth 対応プロファイルによる)に影響を与える可能性があります。このためドゥカティ社は、以下についてのマルチメディア再生を保証していません。

- 1) 市販されているヘッドセットとスマートフォンの全機種
- 2) 規定の Bluetooth プロファイルをサポートしていないスマートフォン

スマートフォン本体が以下のプロフィールをサポートしていることを確認します。

- MAP プロフィール：SMS および MMS 受信通知を正しく表示する。
- PBAP プロフィール：スマートフォンの電話帳データを正しく表示する。

## ペアリング済み Bluetooth デバイスのアイコン

ペアリングが完了すると、Bluetooth デバイスは次のように表示されます。

- 1) 接続スマートフォン
- 2) 接続スマートフォンのバッテリー残量
- 3) 接続スマートフォンの電波強度
- 4) 接続ライダーへッドセット
- 5) 接続パッセンジャーへッドセット
- 6) 接続ライダーへッドセットとペアリング済みパッセンジャーへッドセット
- 7) ペアリング済みライダーへッドセットと接続パッセンジャーへッドセット
- 8) 接続ライダーへッドセットと接続パッセンジャーへッドセット

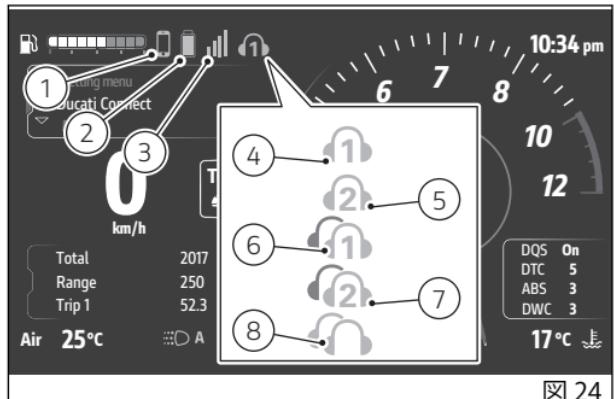


図 24

接続されているデバイスは水色のアイコンで表示されます。一方、接続されていないペアリング済みデバイスはグレーのアイコンで表示されます。

## 携帯電話

この機能はインターラクティブメニュー内にあり、最近の不在着信、発信、着信の通話履歴を表示します。この機能は、スマートフォンとヘッドセット(ライダーまたはパッセンジャー)がBluetoothを介して接続されている場合にのみ利用することができ、接続されていない場合は灰色で表示されます。

Bluetoothのペアリング手順については、「Bluetoothデバイスのペアリングと操作」(ページ42)の章を参照してください。

- ジョイスティックを▲の位置に長く押し、インターラクティブメニューを選択します(A、図25)。
- ジョイスティック▲▼を使用して「Phone(電話)」を選択し(B、図25)、「ENTER」を押します。

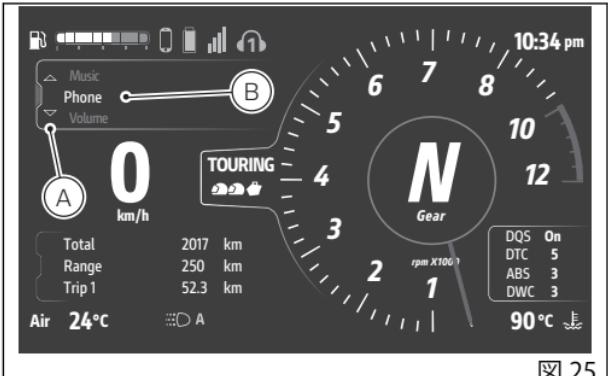


図 25

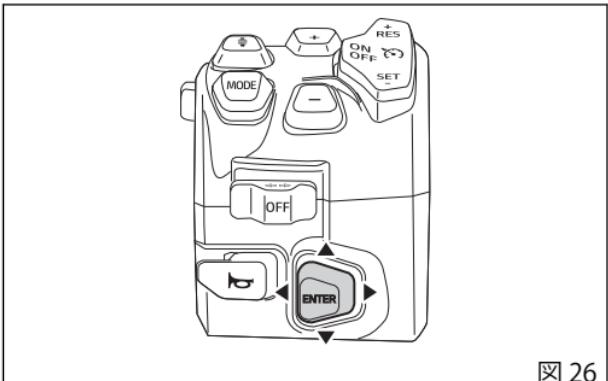
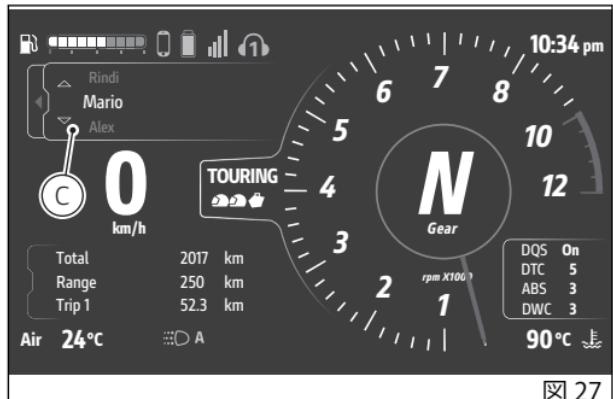


図 26

対応するウィンドウが表示され(C、図27)、直前7通話(発信、着信、不在着信)の履歴が表示されます。履歴中に同じ電話番号や連絡先が存在する場合は、1度だけ表示されます。

ジョイスティック ▲▼ を使用して、履歴一覧をスクロールすることができます。「ENTER」を押すと、履歴内の選択した電話番号や連絡先に通話を発信できます。

ウィンドウを閉じるには、ジョイスティックを ◀ の位置に長く押します。



## 着信

着信が入ると、発信者の名前または電話番号と、「Accept(応答)」と「Decline(拒否)」の項目がウィンドウに表示されます(D、図 28)。ジョイスティック $\blacktriangle\blacksquare$ を使用して希望する操作を選択し、「ENTER」を押して決定します。

## 通話中

通話中は、通話相手の名前または電話番号と、「End call(通話終了)」の項目がウィンドウで表示されます(E、図 28)。通話中の音量調節は、ジョイスティック $\blacktriangle\blacktriangledown$ を使用して行います。通話を終了するには、「ENTER」を押します。

## Call back(リダイヤル)

通話終了時や着信拒否後は、名前または電話番号と「Call back(リダイヤル)」の項目がオレンジ色のウィンドウで5秒間表示されます(図 29)。「ENTER」を押すと、通話が発信されます。

## 参考

通話中は、音楽プレイヤーは一時停止されます。

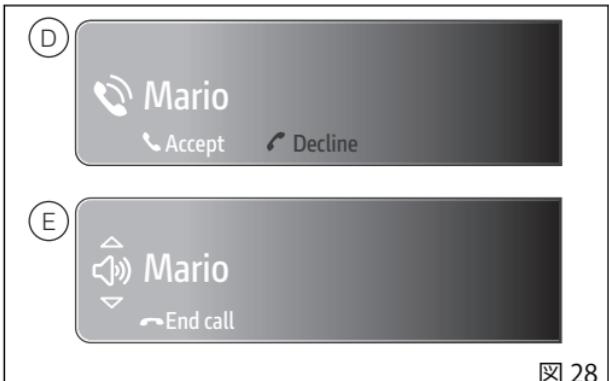


図 28

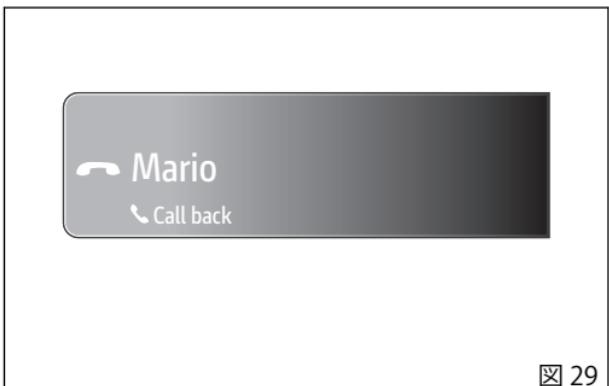


図 29

## Music

この機能はインタラクティブメニュー内にあり、音楽プレーヤー操作を有効、無効にします。この機能は、スマートフォンとヘッドセット（ライダーまたはパッセンジャー）がBluetoothを介して接続されている場合にのみ利用することができ、接続されていない場合は灰色で表示されます。

Bluetoothのペアリング手順については、「Bluetoothデバイスのペアリングと操作」（ページ42）の章を参照してください。

- ジョイスティックを▲の位置に長く押し、インタラクティブメニューを選択します（A、図30）。
- ジョイスティック▲▼を使用して「Music」を選択し（B、図30）、「ENTER」を押します。

### 参考

Bluetooth接続されているスマートフォンで音楽が再生されます。ライダーとパッセンジャーのインターホンをインストルメントパネルに接続している場合は、インターホンから音楽が流れます。

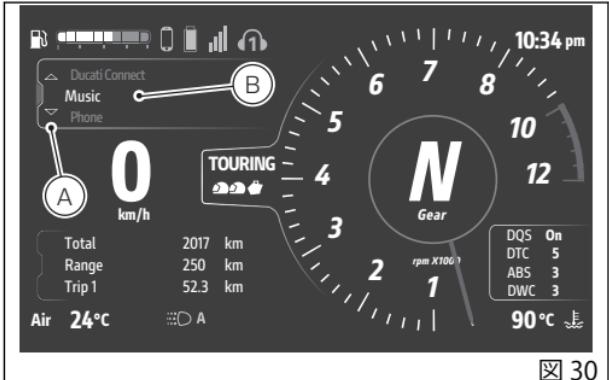


図 30

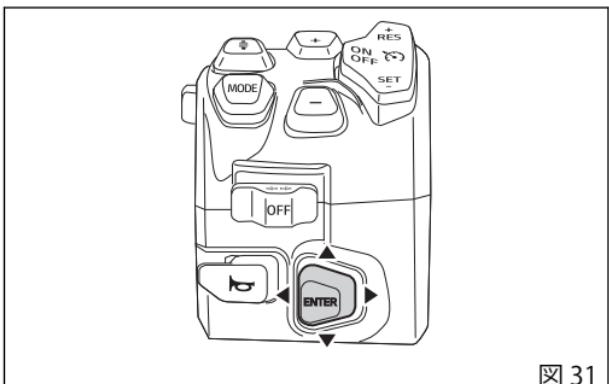


図 31

対応するウィンドウが表示され(C、図32)、音楽プレーヤーの操作類と現在再生中の曲が表示されます。ジョイスティックを使用して、以下のような操作が可能です。

- ジョイスティック ▲ ▼ : 音量の増減
- ジョイスティック ◀ ▶ : 以下の操作の選択。  
「ENTER」を押すと作動します。
  - ◀◀ 前の曲へ移動
  - ▶ 再生 / II 一時停止
  - ■ 停止
  - ▶▶ 次の曲へ移動

選択された操作が白色で表示されます。

曲の再生中にジョイスティックを ▲ の位置に長く押すと、曲を再生したまま音楽プレーヤーウィンドウを開じます。

停止コマンド■を選択して「ENTER」を押すと、曲の再生を停止して音楽プレーヤーウィンドウを開じます。



図 32

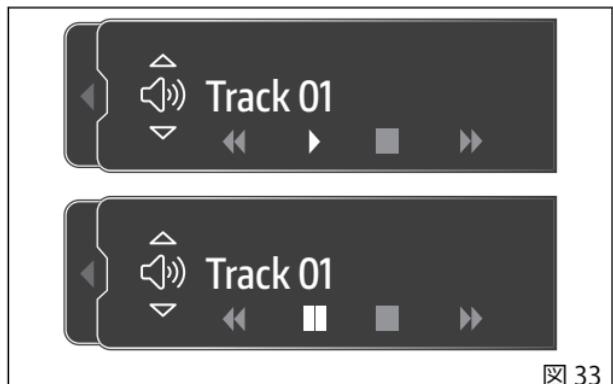


図 33

## Ducati Connect

この機能を使用して、スマートフォン上の Ducati Connect アプリで管理できる既定のアプリのミラーリングを起動することができます。

ミラーリングを実行するには、以下の点を確認してください。

- スマートフォンに Ducati Connect アプリと Sygic GPS Navigation アプリがインストールされ、正しく設定されていること。
- スマートフォン側で Bluetooth と Wi-Fi が有効に設定されていること。
- スマートフォンが Bluetooth 経由でインストルメントパネルにペアリング、接続されていること。
- Bluetooth のペアリング後、スマートフォン、バッテリー、ネットワークに該当するアイコンが青色に変わることを待ってください。GPS が前もって起動していることを確認してください。

Bluetooth のペアリング手順については、「Setting menu – Bluetooth」の章を参照してください(ページ 42)。

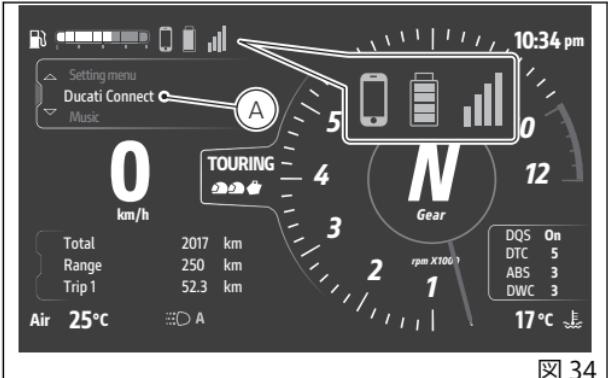


図 34

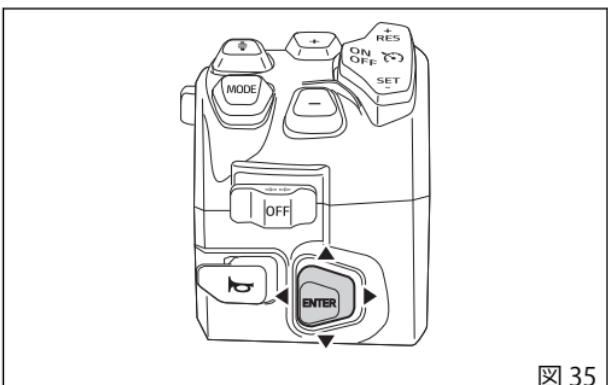


図 35

## 初回接続 - ミラーリングの起動

ミラーリングを起動するには：

- スマートフォンの Ducati Connect アプリを起動します (B、図 36)。
- アプリのバイクアイコンをタッチして「車両モード」を起動すると (C、図 36)、インストルメントパネル接続待ちの画面が表示されます (D、図 36)。
- 接続が確立された後、ミラーリングが正しく機能するためには、スマートフォンのロックを解除し、また Ducati Connect アプリをフォアグラウンドで起動しておく必要があります (E、図 36)。そのため、不用意に「画面ロック」ボタンを押して画面をロックしないように注意してください。
- ジョイスティック ▲▼ を使用して、インストルメントパネルのインターラクティブメニューから「Ducati Connect」を選択し、「ENTER」を押します (A、図 34)。



図 36

Ducati Connect 機能の接続が確立すると、インストルメントパネルのインターフェースがミラーリングモードに移行します。画面の上側と下側にトリップ情報が表示され、Ducati Connect アプリのインターフェースが中央のウィンドウに表示されます(図37)。ウィンドウ内に表示される要素とアプリは、接続されているスマートフォンから直接操作できます。

ミラーリングモード中は、ジョイスティックは、Ducati Connect のウィンドウに表示されている項目のブラウズ操作専用になります。

ミラーリングモードを終了する場合は、ジョイスティックを ▲ の位置に押し続けると「ホーム」に戻ります。続いてジョイスティックを再び ▲ の位置に押し続けると、インストルメントパネルのメイン画面が表示されます。

### 参考

スマートフォンの画面がロックすると、ミラーリング機能が停止します。

### 参考

接続しているスマートフォンが異常に熱くなると、OS が予期せずアプリケーションを閉じて、ミラーリングが失われることがあります。

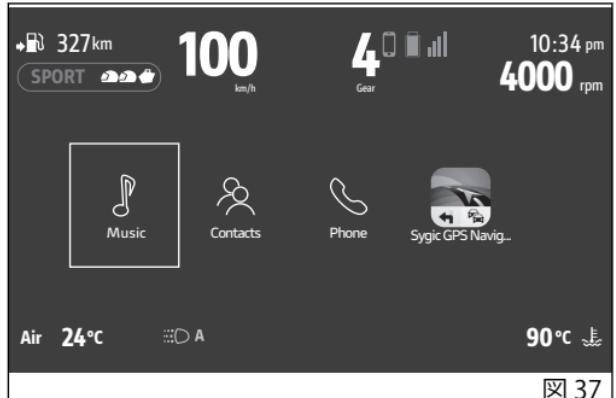


図 37

### 参考

システムの動作は WiFi 接続に依存しています。USB ポートはスマートフォン充電用です。

### 参考

Ducati Connect アプリとの接続が切れてしまい、インタラクティブメニューの「Ducati Connect」の項目がグレーに変わった場合は、一旦停車して初回接続の手順をやり直してアプリを再起動してください。



## 参考

スマートフォンのOSや技術特性は、Ducatiが関与するものではありません。インストルメントパネルの機能は、Android 9とiOS13以降のOSを搭載する主要なスマートフォン(例:Samsung S10、Samsung S9、Oneplus 6、Huawei P9、iPhone X、iPhone XS、iPhone 8)で試験と検証が行われています。そのため、市販されているすべての携帯電話とそのソフトウェア、ファームウェアでの動作を保証することはできません。

### 短時間の停車 - ミラーリングの再開

短時間の停車であれば、Ducati Connectアプリは自動的に再接続されます。短時間とは、30~40秒程度の停車を指します。



## 参考

短時間の停車では、Ducati Connectアプリが自動で再接続しやすいように、インストルメントパネルをオンにしておかれることをお勧めします。

### 長時間の停車 - ミラーリングの再開

ミラーリングを起動するには：

- スマートフォン、バッテリー、ネットワークに該当するアイコンが青色に変わることを待ってください。

- スマートフォンのDucati Connectアプリを起動します(B、図36)。
- 上にスワイプして「車両モード」(D、図36)から「電話モード」(C、図36)に移行します。
- アプリのバイクアイコンをタッチして「車両モード」を再び起動すると(C、図36)、インストルメントパネル接続待ちの画面が表示されます(D、図36)。
- 接続が確立された後、ミラーリングが正しく機能するためには、スマートフォンのロックを解除し、またDucati Connectアプリをフォアグラウンドで起動しておく必要があります(E、図36)。
- ジョイスティックを使用して、インストルメントパネルのインタラクティブメニューから「Ducati Connect」を選択し、「ENTER」を押します(A、図34)。

## Sygic GPS Navigation の起動

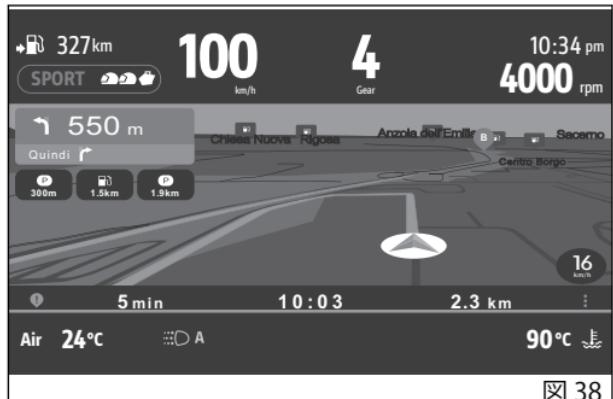
Ducati Connect アプリとの接続確立後 (Ducati Connect アプリとの接続については、「初回接続 - ミラーリングの起動」を参照してください)。

- ジョイスティック ▲▼ を使用して、インストルメントパネルのインターラクティブメニューから「Ducati Connect」を選択し、「ENTER」を押します。
- ジョイスティックを使用して、インストルメントパネルの「Sygic GPS Navigation」アプリを選択し、「ENTER」を押します。



### 重要

「Sygic GPS Navigation」アプリの初回接続時のみ、スマートフォン側でアプリの地図ミラーリングを許可する必要があります。許可を与えると、「Sygic GPS Navigation」アプリが解除されます。



## 音量

この機能はインタラクティブメニュー内にあり、ナビゲーター、音楽、電話の音量の調節を行います。この機能は、スマートフォンとヘッドセット（ライダーまたはパッセンジャー）がBluetoothを介して接続されている場合にのみ利用することができ、接続されていない場合は灰色で表示されます。

Bluetoothのペアリング手順については、「Bluetoothデバイスのペアリングと操作」(ページ42)の章を参照してください。

- ジョイスティックを▲の位置に長く押し、インタラクティブメニューを選択します(A、図39)。
- ジョイスティック▲▼を使用して「Volume(音量)」を選択し(B、図39)、「ENTER」を押します。

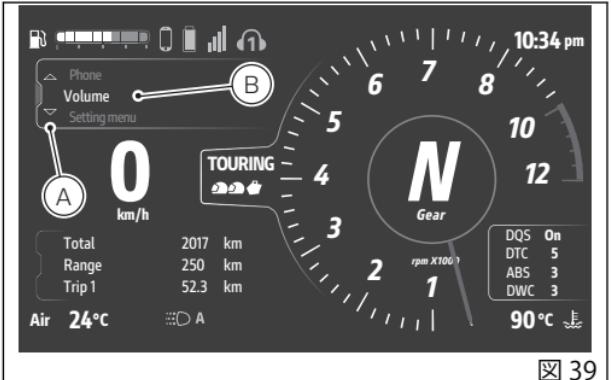


図 39

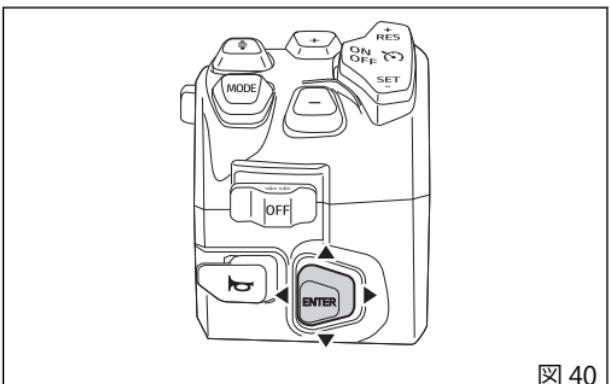


図 40

関連するウィンドウ(C、図41)が表示され、音量調節と調整が行われている装置名が表示されます。

「Navigator/Music(ナビゲーター／音楽)」(D、図42)または、通話中の場合は「Phone(電話)」(E、図42)。音量の増減を行うには、ジョイスティックを▲▼の位置にします。

設定レベルを決定して音量調節を終了するには、ジョイスティックをENTERの位置に押すか、あるいは◀の位置で押し続けます。

### クイッククリール機能の音量

インターラクティブメニューにある「Volume(音量)」機能に加えて、ジョイスティックを▶の位置に長く押し続けると、いつでも音量(C、図41)を調整するためのウィンドウを有効にすることができます。

この場合、スマートフォンとヘッドセット(ライダーまたはパッセンジャー)が接続されていないと、「BT device not connected(Bluetooth デバイスが未接続です)」という警告が表示されます(F、図42)。

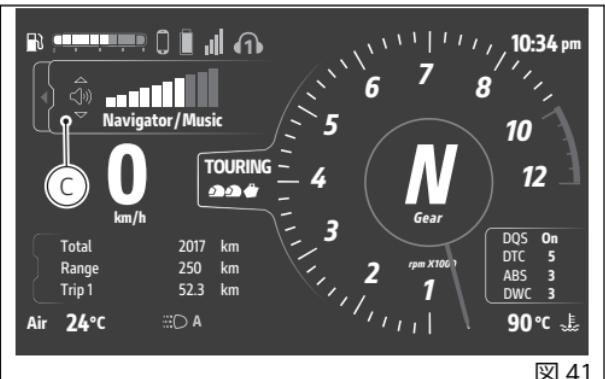


図41

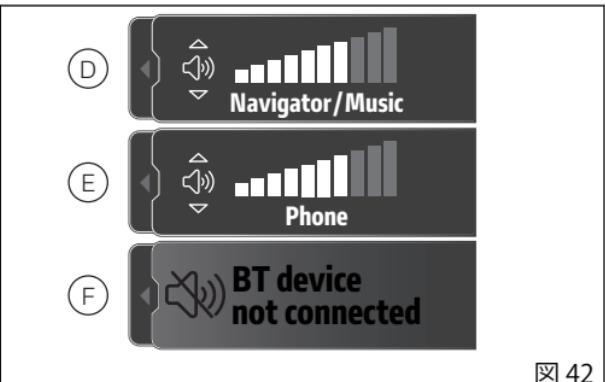
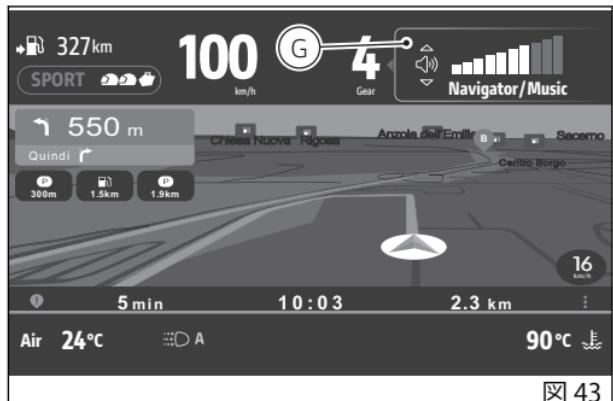


図42

Ducati Connect のミラーリングモードで画面が表示されている間(ページ 53 を参照)、ジョイスティックを ▶ の位置に長く押し続けることでのみ、音量調節機能を有効にすることができます。

音量調節に関するウィンドウが所定の位置(G、図 43)に表示されます。

設定レベルを決定して音量調節を終了するには、ジョイスティックを ENTER の位置に押すか、あるいは ◀ の位置で押し続けます。



# 一般情報

## 取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アダプティブクルーズコントロール
BSD	ブラインドスポット検出
DQS	ドゥカティクイックシフト
DRL	デイタイムランニングライト
DSB	インストルメントパネル
DSS	ドゥカティスカイフックサスペンション
DTC	ドゥカティトラクションコントロール
DWC	ドゥカティウィリーコントロール
GPS	グローバルポジショニングシステム
HF	Hands Free
VHC	ビーカルホールドコントロール

## 本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ



### 警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダー や他の人に重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。



### 重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



### 参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

## 用途

### !**警告**

本モーターサイクルはオンロードと軽度のオフロードでの使用が可能です。程度の激しいオフロードでの走行は推奨されません。車両のコントロールを失い事故を招く危険が高くなります。

### !**警告**

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

### !**警告**

ライダー、パッセンジャー、荷物、アクセサリーを含めた走行時の総重量は、470kg/1036.18lbを越えてはいけません。

### !**警告**

サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が30kg(66lb)を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。  
各サイドバッグにつき最大10kg(22lb)  
トップケースは最大5kg(11lb)  
タンクバッグは最大5kg(11lb)

### !**重要**

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

## ライダーの義務

運転者は運転免許証を受けていなければなりません。

### 警告

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

### 警告

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないようにしてください。

### 警告

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

### 警告

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

### 警告

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

### 警告

事故が起ったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

### 警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れ正在こと、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

## ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。



### 警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

## 服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、バックプロテクター、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5本指のもの、また指にはナックルプロテクターと補強を備えた規格適合品を着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。
- バックプロテクターは、メーカーの仕様に応じて、ライダーの体格に合ったサイズの規格適合品を着用してください。
- ジャケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付

いている規格適合品を着用してください。規格適合プロテクターを備えた製品を選ぶようにしてください。



### 重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。



### 重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。



### 重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

## "安全のための""ベストプラクティス""

モーターциклの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターциклを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

### **重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

### **警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本マニュアルの「エンジン始動前の点検」に記載されている点検を必ず実施してください。

### **警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

### **警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

### **重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

### **重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

### **警告**

パッセンジャーは所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

### **重要**

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などの交差点では十分に注意してください。

## **!** 重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入つて走行することは避けてください。

## **!** 重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行つてください。

## **!** 重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

## **!** 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

## **!** 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

エンジンとエキゾーストシステムが高温の間は、カバーシートが破損するおそれがありますので、バイクをカバーしないでください。

## 燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。  
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。

給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

## !**警告**

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## !**警告**

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。

## !**警告**

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

## 最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

### !**警告**

最大許容速度は、車両に搭載されている荷重によって異なります。

- トップケースとタンクバッグ、またはサイドバッグとタンクバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 180 km/h (112 mph) です。

- トップケース、タンクバッグ、サイドバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 160 km/h (100 mph) です。

いずれの場合も、法定速度を遵守してください。

### !**警告**

最大許容重量を超えないようにしてください。

また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

## 車両への積載に関する注意

### !**重要**

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

### !**重要**

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

### !**重要**

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

### !**重要**

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

### !**警告**

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

「主な整備作業メンテナンス」セクション内の「チューブレスタイヤ」と、「テクニカル仕様」セクション内の「タイヤ」を参照してください。

## **!** 重要

サイドバッグ(ドゥカティスペアーツサービスにてご注文いただけます)を取り付ける場合は、荷物や付属品等を重量に基づいて配分し、サイドバッグ内に均等に収納してください。各サイドバッグを専用のキーロックで閉じてください。

## **危険物 - 警告**

使用済みエンジンオイル

## **!** 警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

## ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

## ブレーキフルード

## **!** 警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

## **!** 警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

## クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

## **!** 警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部品はクーラントが発火するのに十分な熱を持っている場合があります。そのため、見えない炎で火傷を負うおそれがあります。クーラント(エチレン

グリコールは皮膚刺激を起こすことがあります。また飲み込むと有害です。お子様の手の届かないところに保管してください。エンジンが熱いときは、ラジエーターーキャップを外さないでください。クーラントは加圧された状態にあり、火傷を引き起こす原因となることがあります。

クーリングファンは自動的に起動しますので、手や衣類を近づけないでください。

## バッテリー



### 警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

## 車両識別番号



### 参考

これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

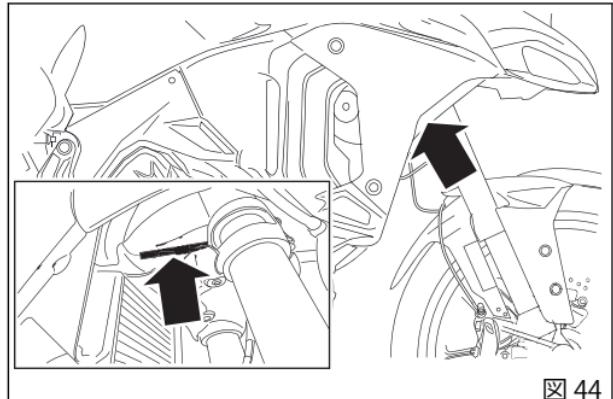


図 44

## エンジン識別番号



これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

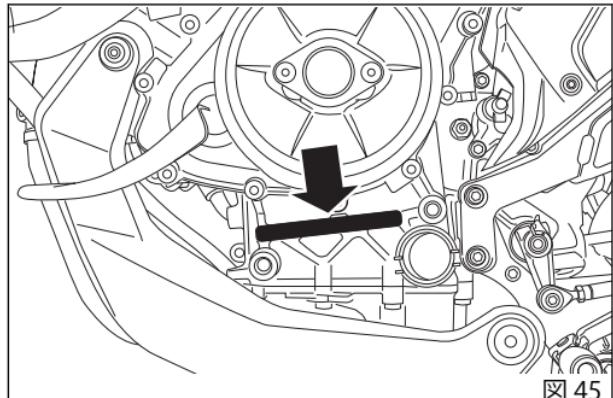


図 45

## 装備

Essential 装備を搭載する Multistrada V4S は、4 種類の追加装備で車両の異なる個性を際立たせることができます。4 種類の追加装備は、Multistrada V4 S にライダー自身の個性を与えることができます。

ESSENTIAL からの追加装備は次の 4 種類があります。

- TRAVEL
- TRAVEL & RADAR
- PERFORMANCE
- FULL

本マニュアル内の情報は Multistrada V4S Essential に関するものです。

その他の装備については、この装備と異なる場合に限り表記されます。

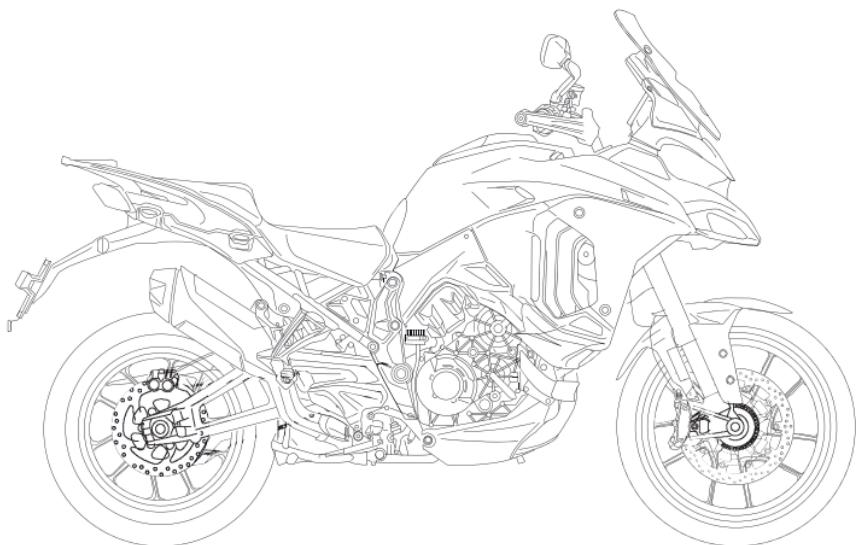


図 46

## **ESSENTIAL**

ESSENTIAL装備では、合金ホイールまたはワイヤース  
パークホイールが装着されています。

## TRAVEL

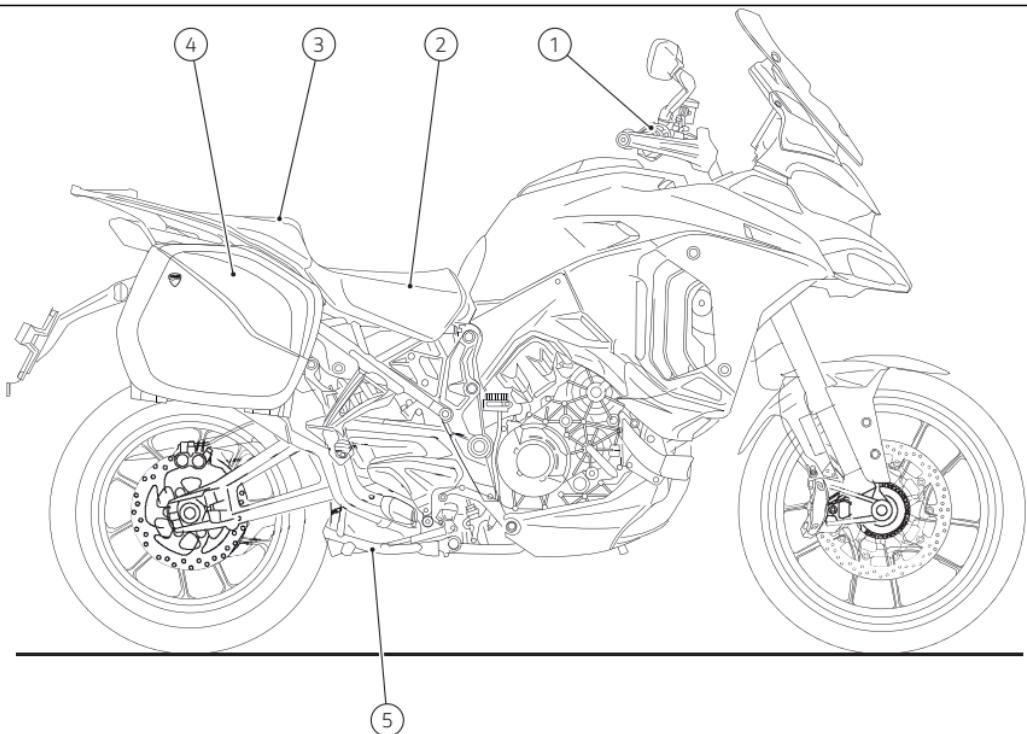


図 47

## **TRAVEL**

- 1) ヒーテッドグリップ
- 2) ヒーテッドライダーシート
- 3) ヒーテッドパッセンジャーシート
- 4) サイドバッグ
- 5) センタースタンド

TRAVEL装備では、合金ホイールまたはワイヤースポークホイールが装着されています。

## TRAVEL & RADAR

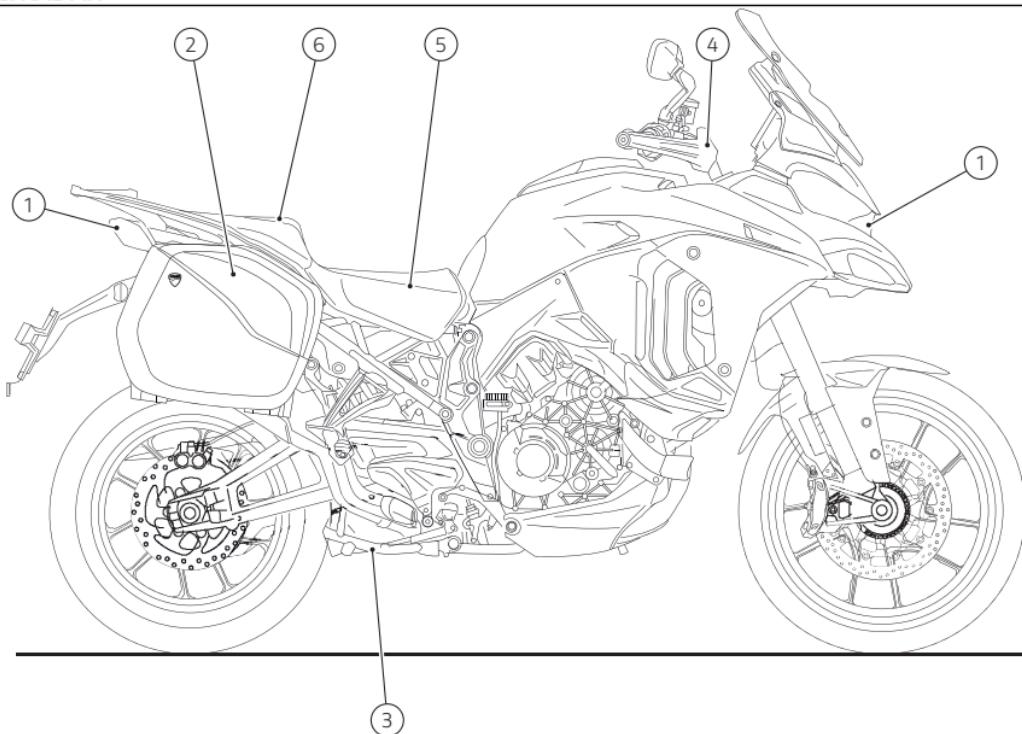


図 48

## **TRAVEL & RADAR**

- 1) レーダーシステム
- 2) サイドバッグ
- 3) センタースタンド
- 4) ヒーテッドグリップ
- 5) ヒーテッドライダーシート
- 6) ヒーテッドパッセンジャーシート

TRAVEL & RADAR装備では、合金ホイールまたはワイ  
ヤースポークホイールが装着されています。

## PERFORMANCE

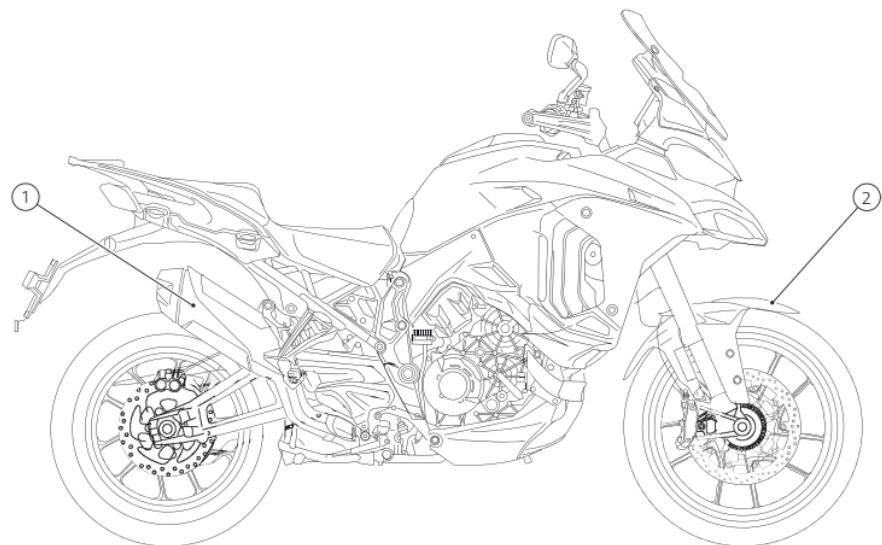


図 49

## **PERFORMANCE**

- 1) Akrapovic サイレンサー
- 2) カーボンファイバー製フロントマッドガード

PERFORMANCE装備では、合金ホイールまたはワイヤースポークホイールが装着されています。

FULL

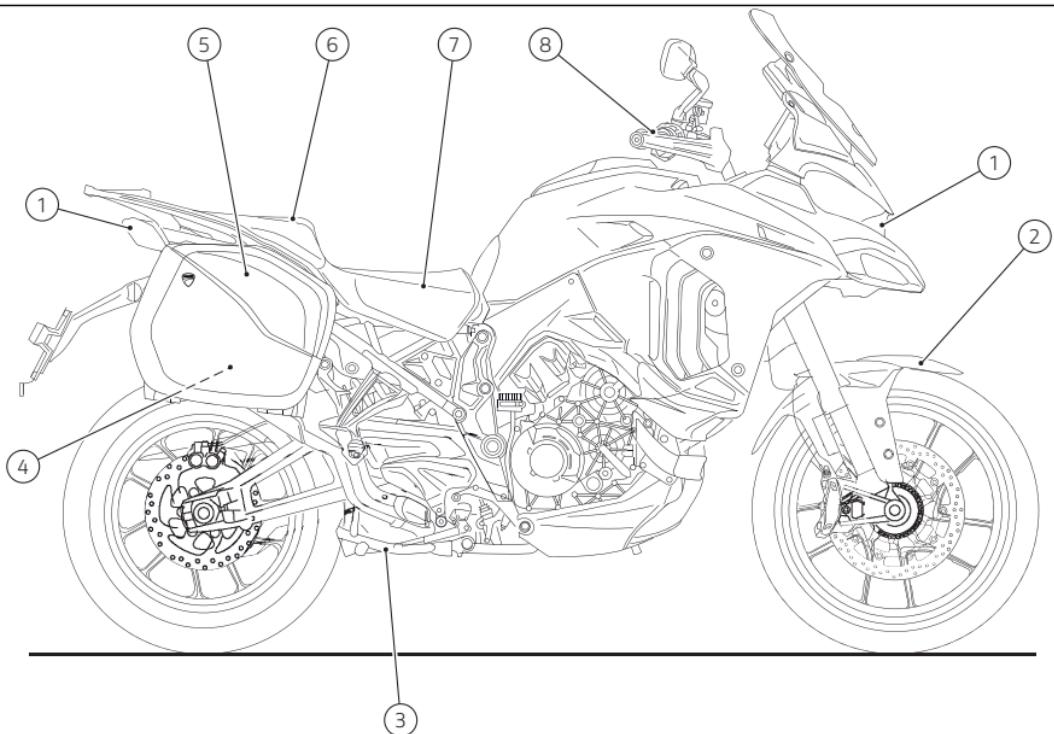


図 50

## FULL

- 1) レーダーシステム
- 2) カーボンファイバー製フロントマッドガード
- 3) センタースタンド
- 4) Akrapovic サイレンサー
- 5) サイドバッグ
- 6) ヒーテッドパッセンジャー・シート
- 7) ヒーテッドライダーシート
- 8) ヒーテッドグリップ

FULL装備では、合金ホイールまたはワイヤースポークホイールが装着されています。

# 主要構成部品 / 装備

## 車両上の配置

- 1) ウィンドスクリーン
- 2) クーラント点検
- 3) クラッチフルードタンク
- 4) フロントフォークプリロードアジャスター
- 5) フロント電源ソケット
- 6) フロントブレーキフルードタンク
- 7) リアビューミラー
- 8) サイドスタンド
- 9) シート調整
- 10) ツールボックスとリア電源ソケット
- 11) シートロック
- 12) センタースタンド
- 13) スマートフォン収納スペースとUSBポート(スマートフォン充電用のみ)
- 14) フィラープラグ
- 15) リアブレーキフルードタンク
- 16) エンジンオイル点検

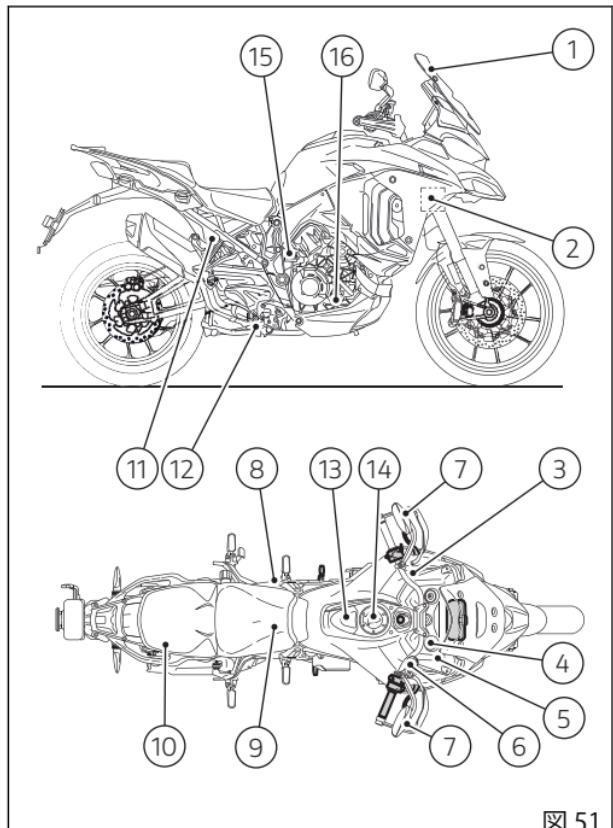


図 51

## 燃料フィラープラグ

### 開け方

保護カバー(1)を起こし、アクティブキーまたはパッシュキーをロックに差し込みます。

キーを反時計回りに回し、ロックを解除します。

プラグ(2)を起こします。

### 閉じ方

プラグのキーを時計回りに回し、ロックを解除します。

差し込んだキーでプラグ(2)を閉じ、カチッと音が鳴りロックがかかるまでプラグを押します。

キーを抜き取り、保護カバー(1)を閉じます。



キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることができます。



燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

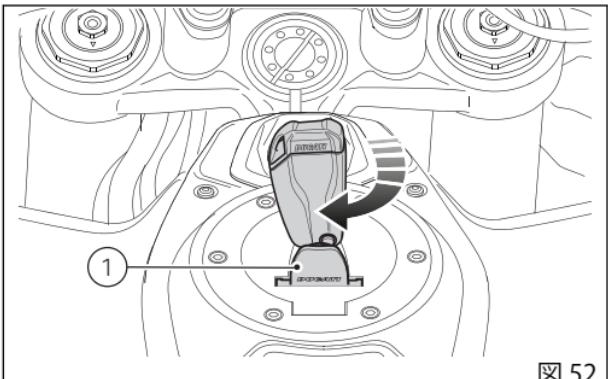


図 52

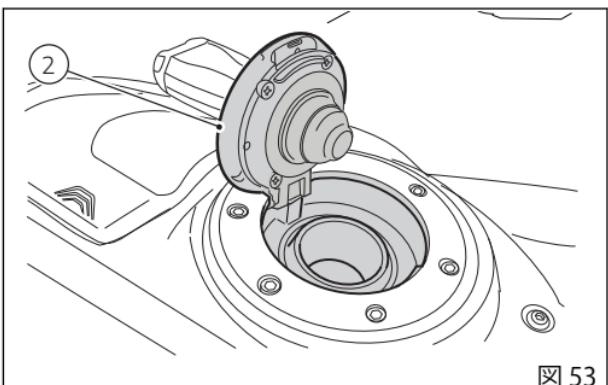


図 53

## 電子式オープニング燃料フィラープラグ(アクセサリー)

以下の説明は、電子式オープニング燃料フィラープラグが車両に装備されている場合にのみ有効です。

### 開け方

フィラープラグ(4)を開くには、モーターサイクルの電源を切って(キオフ)から50秒以内に専用レバー(3)を持ち上げる必要があります。50秒間に、フィラープラグを最大5回開くことができます。

もう一度開く場合は、イグニッションをオン/オフします(key-on >> key-off)。



### 警告

オープニングレバー(3)は丁寧に操作してください。

レバーを異常に速く動かすとフィラープラグが正常に開かないことがあります。その場合も、プラグを開くことができる5回のうちの1回とカウントされます。

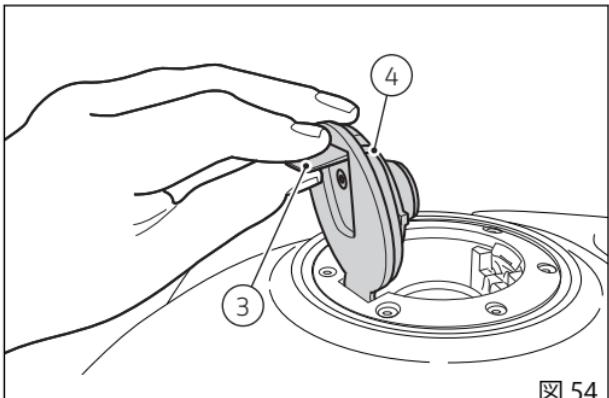


図 54

## インストルメントパネル情報

電子式オーブニング燃料フィラープラグが車両に装備されている場合、インストルメントパネル内には電子プラグが開いていることを示す黄色の情報アイコンがあります。

- 起動時には、(A メイン画面図 55)  
(B Ducati Connect 画面図 56)が最初の 5 秒間大判で表示されます。
- 次に、(C メイン画面図 55)、  
(D Ducati Connect 画面図 56)が小さく表示されます。

プラグが開いているときにインストルメントパネルがオンになると(キーオン)、アイコンがアクティブになります。

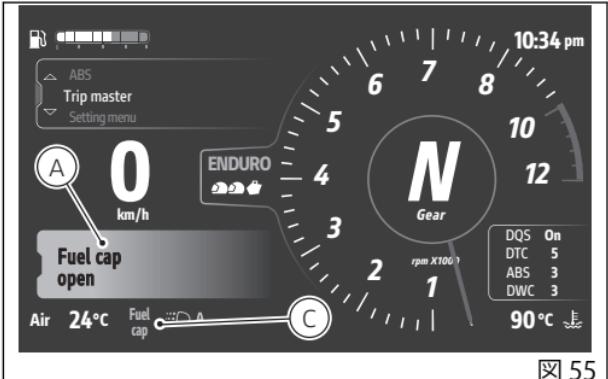


図 55

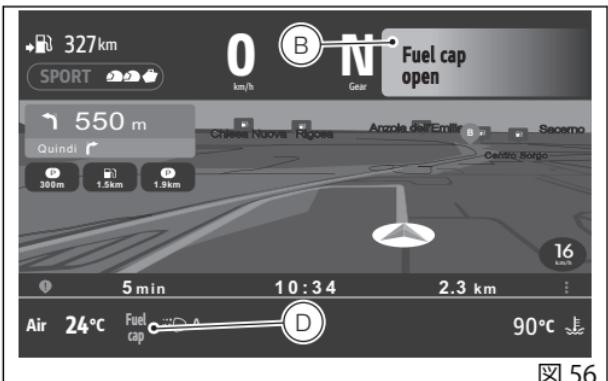


図 56

## 閉じ方

電子プラグを閉じるには、止まるまで指でプラグを押し上げます。



## 警告

燃料補給後は、毎回必ずプラグが確実に閉じていることを確認し、そしてインストルメントパネルの該当するアイコンが消えていることを常に確認してください。

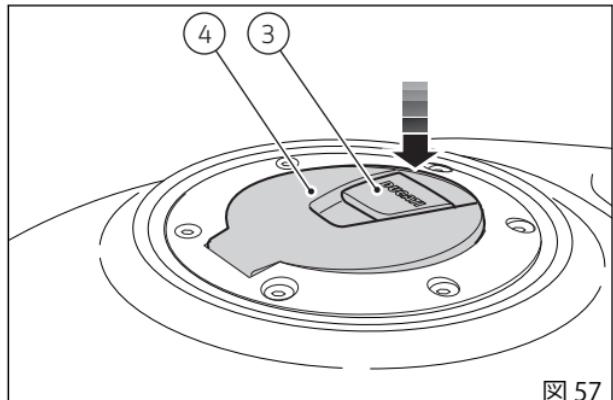


図 57

## シートロック



### 重要

車両の装備や取り付けアクセサリーによっては、ライダーとパッセンジャーのシートがヒーテッドシートになっている場合があります。

キー(1)でロックを解除して、シートを取り外すことができます。パッセンジャーシートを取り外すと、ツールキットボックスを取り出すことができます。ライダーシートを取り外すと、バッテリーやその他の装置で作業を行うことができます。

## シートの取り外し

ロック(1)にキーを差し込み、カチッと音が鳴りパッセンジャーシートのロックが外れるまで時計回りに回します。

パッセンジャーシート(2)の持ち上げは慎重に行ってください。

パッセンジャーヒーテッドシートを装着している場合は、記載に従ってパッセンジャーシートのヒーターのコネクター(5)を慎重に切り離してください。

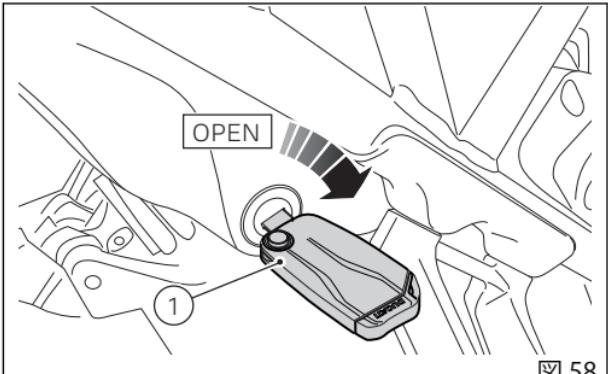


図 58

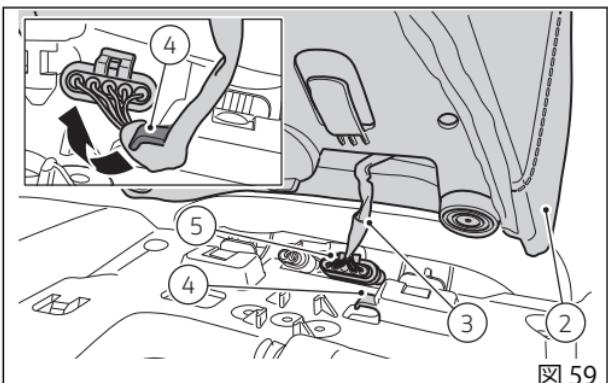


図 59



## 警告

ケーブルガイド(4)から外す前にケーブル(3)を破損しないように、細心の注意を払ってシートを持ち上げてください。

ケーブル(3)をケーブルガイド(4)から車両の左側に向かって外し、パッセンジャーシートのヒーターのコネクター(5)を切り離します。

パッセンジャーシート(2)を取り外します。

タブ(B)を持ち上げて後方に引き抜くようにして、オスコネクター(5)を外します。

メスコネクター(5a)をサポートスライド(A)から後方に引き抜きます。

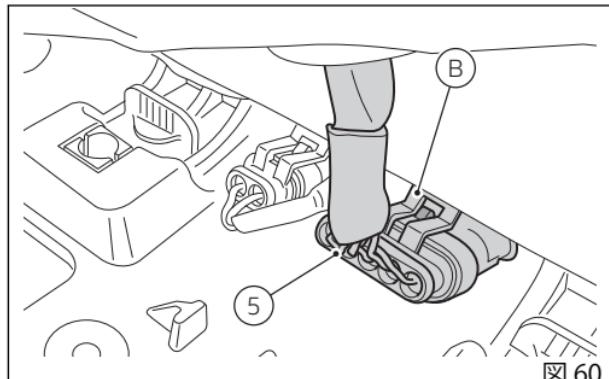


図 60

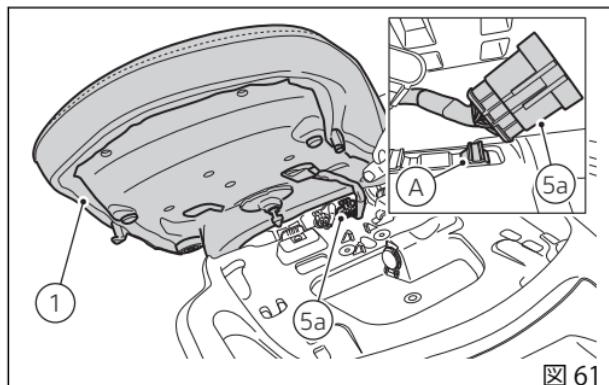


図 61

ライダーヒーテッドシートを装着している場合は、記載に従ってライダーシートのヒーターのコネクター(7)を慎重に切り離してください。

タブ(C)を持ち上げて後方に引き抜くようにして、オスコネクター(7)を外します。

メスコネクター(7a)をサポートスライド(D)から後方に引き抜きます。

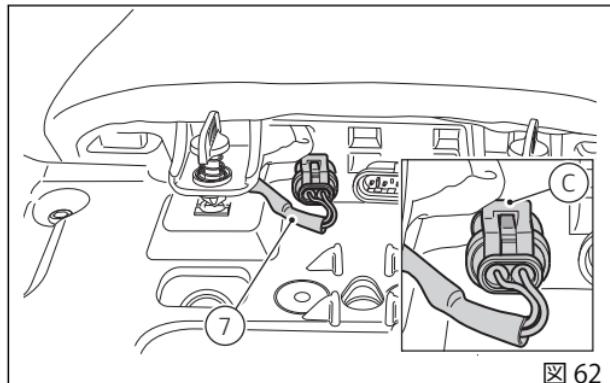


図 62

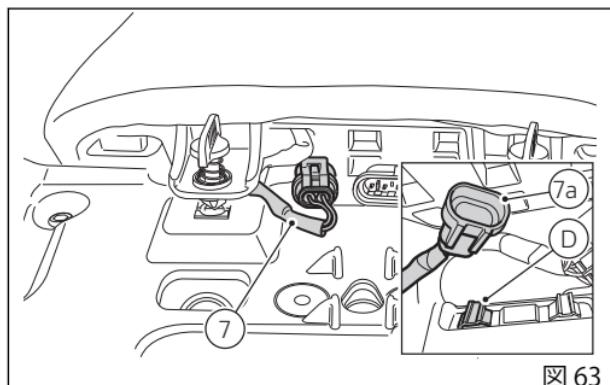


図 63

差し込み部(6)を反時計回りに回して外し、ライダーシート(8)を慎重に持ち上げます。  
ライダーシート(8)を後ろ側に引き抜きます。

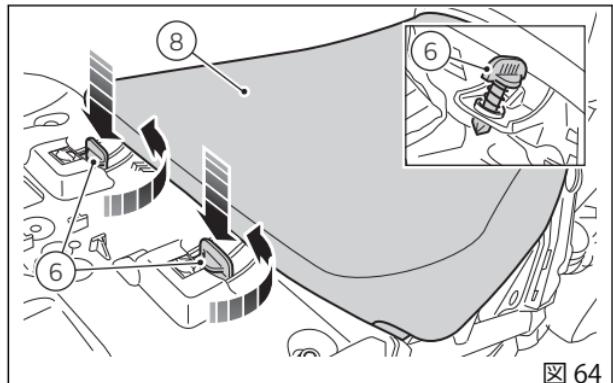


図 64



図 65

シートを取り外すと、バッテリーメンテナー接続用のコネクター(9)にアクセスできるようになります。「バッテリー充電の維持」の章の記載に従って、コネクターを使用するには、クランプ(A)からコネクターを引き抜いてメンテナー(10)を接続してください。

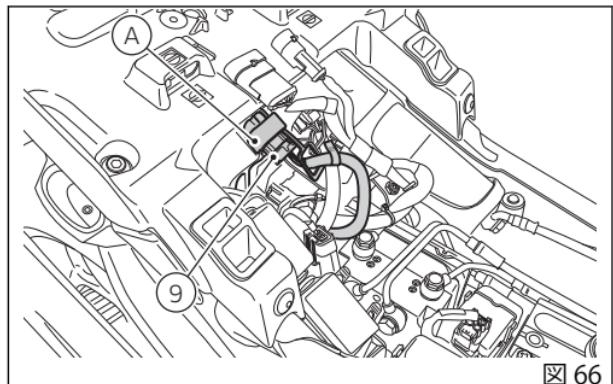


図 66

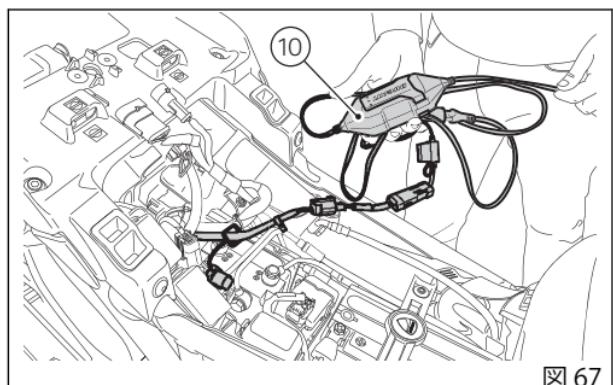


図 67

## シートの取り付けと調整

### ライダーシートの取り付け

ライダーシート(8)は高さ調節が可能です。  
シート(8)のマウント(E)を次の取り付け位置に挿入します。

- 1) 上側(Hポジション、ハイシート)
- 2) 下側(Lポジション、ローシート)

ヒーテッドシートを装着している場合は、メスコネクター(7a)、(5a)をそれぞれ対応するスライド(A)、(D)に挿入してください。

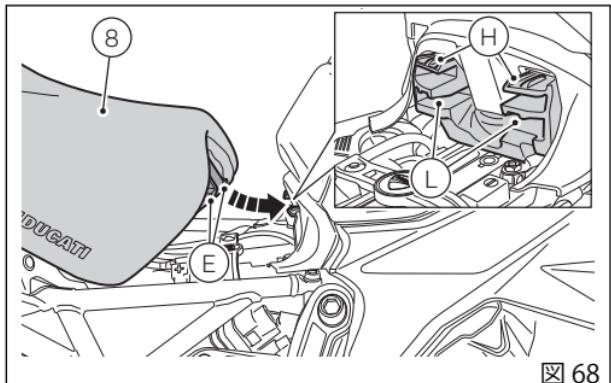


図 68

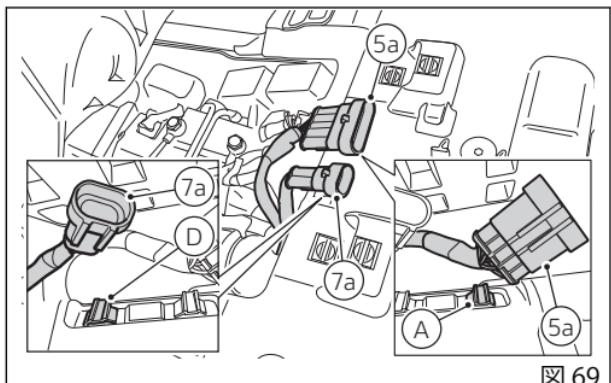


図 69

タブ(C)のロック音が聞こえるまで、コネクター(7)をつなげます。

ライダーシート(8)を後方に下げ、取り付け位置(9)にシートが正しく配置されていることを確認します。

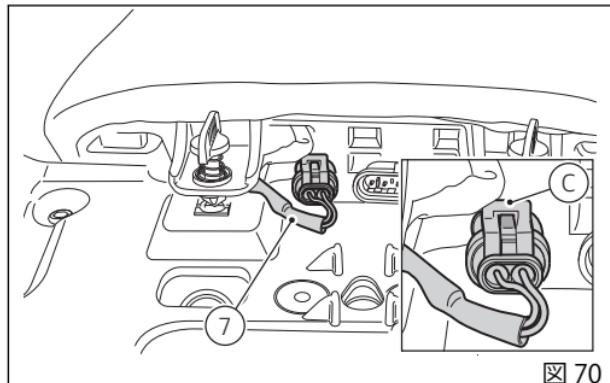


図 70

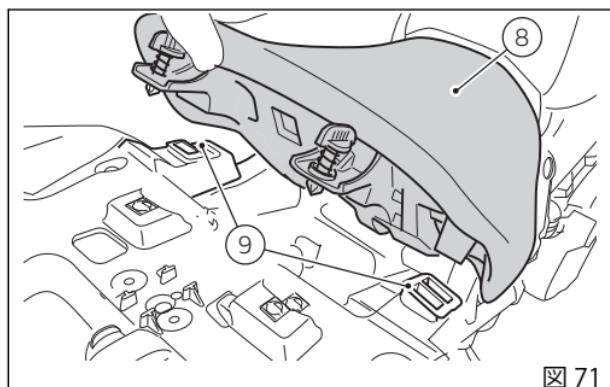


図 71

差し込み部(6)を押し、時計回りに回して締めます。

## パッセンジャーシートの取り付け

パッセンジャーシートは、前後に調節可能です。

ストッパー(F)を図に示す方向(シート前方)に少し動かし、パッセンジャーシート(2)のピン(11)を解除し、ピンを回してライダーシートで選んだポジションに合わせます。

- 1) G、ピンを前方に向ける、前方シート
- 2) I、ピンを後方に向ける、後方シート

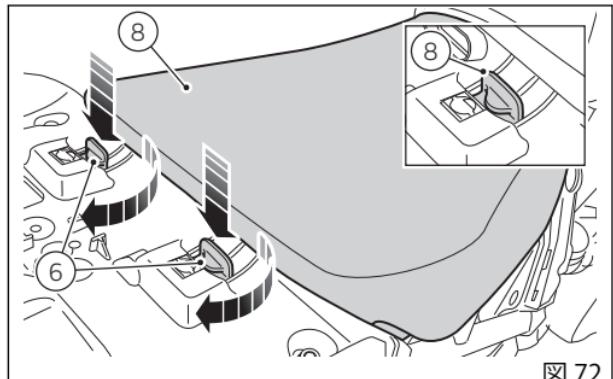


図 72

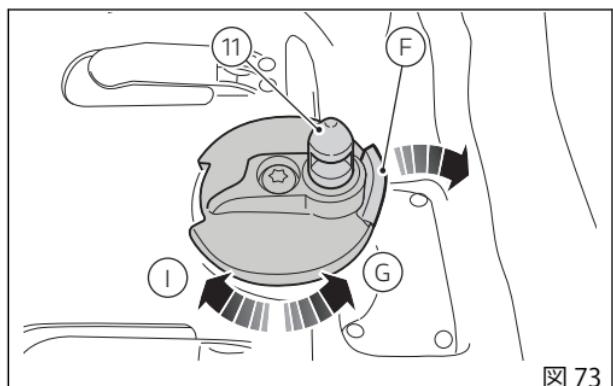


図 73

パッセンジャーヒータードシート(2)を装着している場合は、コネクター(5)を接続し、ケーブル(3)をケーブルガイド(4)に取り付けてください。

タブ(12)をシート両側後方の取り付け位置に挿入するよう注意してください。

- 1) G、前方シート用は前側
- 2) I、後方シート用は後側

ピン(11)の位置を押し下げて、パッセンジャーシートを締めます。



### 警告

リアシートロックがカチッと鳴ったことを確認し、両方のシートがしっかりと固定されていることを確認してください。



### 参考

ヒータードシートを装着するバージョンや後から装着した場合、ヒーターの操作については「シートヒーター」をご覧ください。

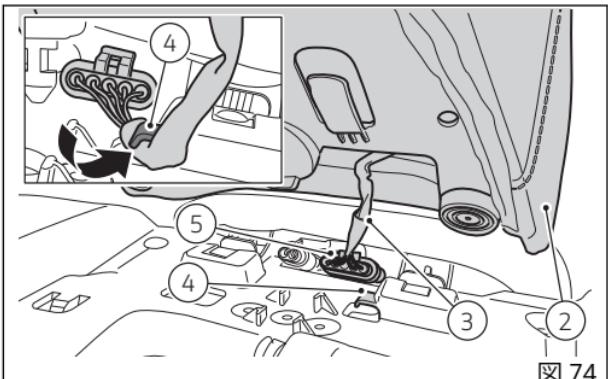


図 74

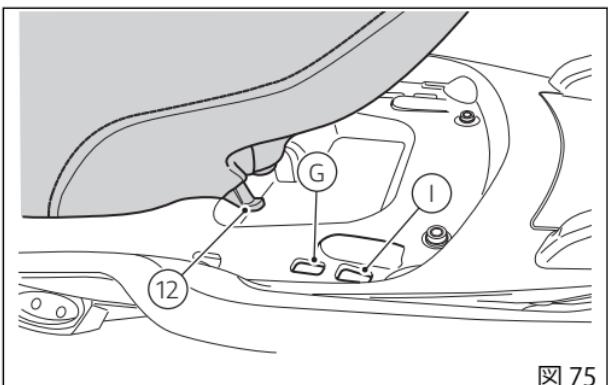


図 75

## シートヒーター

この機能はインタラクティブメニュー (J) 内にあり、ジョイスティック (13) を使用してシートヒーター (K) の起動と設定を行います。ヒーテッドシートを装備している場合にのみ利用できます。さらに詳しくは、「ヒーテッドシート」の章をご覧ください。

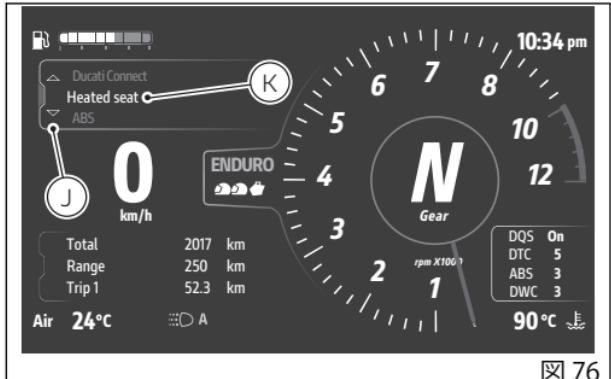


図 76

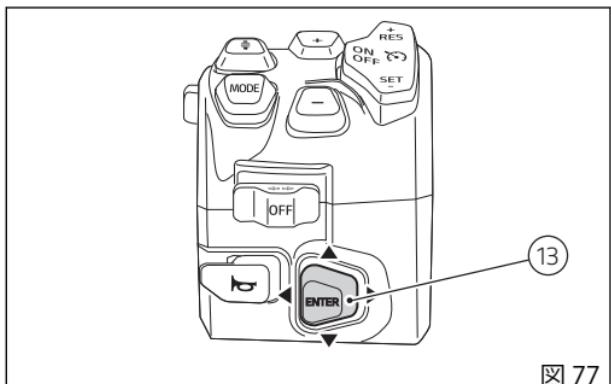


図 77

## バッテリー充電の維持

### バッテリー充電の維持

本車両のライダーシート下にはコネクター(9)(診断ソケット)が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー(10)(バッテリーメンテナーキット、部品番号：69928471A(ヨーロッパ)、部品番号：69928471AW(日本)、部品番号：69928471AX(オーストラリア)、部品番号：69928471AY(イギリス)、部品番号：69928471AZ(USA)、当社販売店にてお求めいただけます)を接続することができます。

コネクター(9)をクランプ(A)から引き抜いて、バッテリーチャージャー(10)に接続します。



本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。



所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

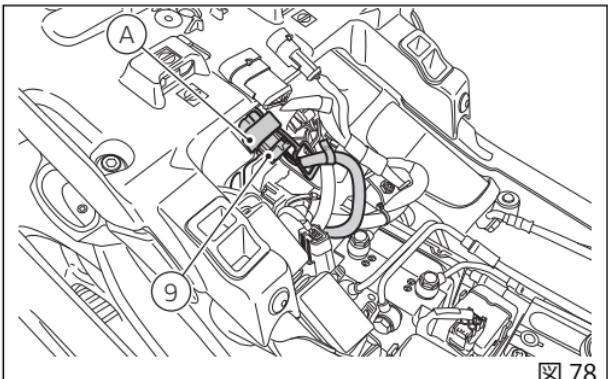


図 78

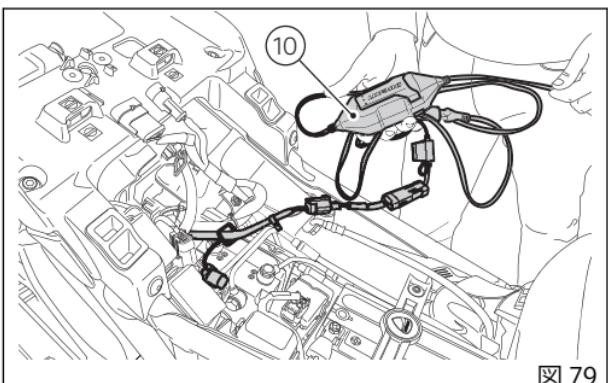


図 79

車両を使用しない期間(およそ30日以上)、Ducati バッテリーメンテナー(バッテリーメンテナーキット)の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大1.5 A/hです。バッテリーメンテナーを診断ソケットに接続します。

### 参考

Ducatiが認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなしが保証の対象にはなりません。

## 電源ソケット

本車両は12V電源ソケット2個を備え、フロントヒューズボックス内のヒューズ(ソケット、7.5A)1個で保護されています。

このヒューズは以下のラインを過電流から保護します。

- フロント電源ソケット
- リア電源ソケット

電源ソケットの許容電流(許容電流はソケット(1)+ソケット(2)における使用電流の合計)は7.5Aです。

これを超える負荷をつなげると回線のヒューズが切れるので、容量が同じ新しいヒューズと交換する必要があります。

### 重要

エンジン停止状態で、アクセサリーを電源ソケットに接続したまま長時間放置しないでください。バッテリー上がりの原因となるおそれがあります。

電源ソケットはダッシュボード右前側にひとつ(1)、パッセンジャーシート下後部にもうひとつ(2)が設けられています。

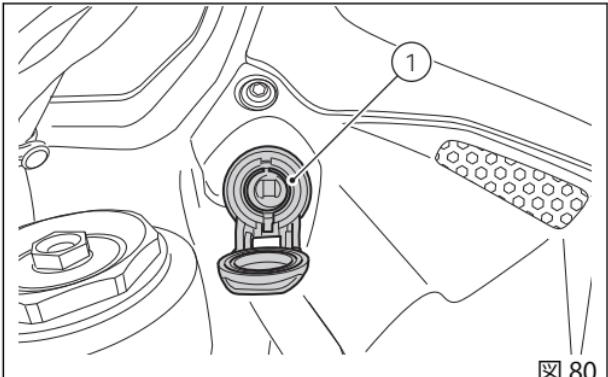


図 80

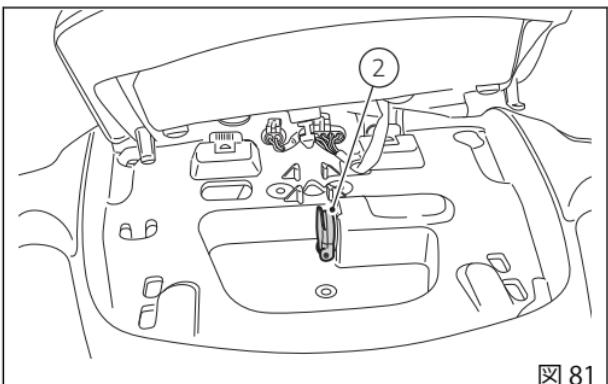


図 81

## サイドスタンド



### 警告

サイドスタンドの位置は、ダッシュボード上で警告灯(A)によって識別されます。警告灯が点灯している場合は、サイドスタンドが下がっていること示しています(エンジンの始動が禁止されます)。



### 重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。

サイドスタンドを元の位置(水平位置)に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる

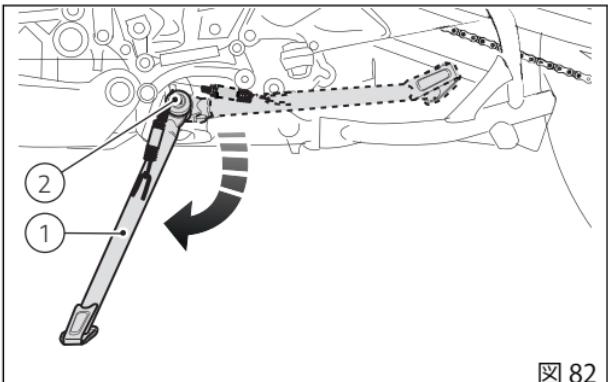


図 82

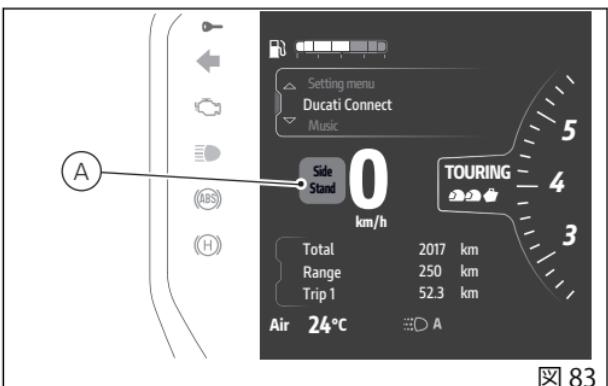


図 83

部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。



### 警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。



### 参考

定期的にスタンド(内側と外側2つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。



### 参考

スタンドが上がり、ギアがニュートラルの位置にある状態でエンジンを始動させることができます。

## センタースタンド

車両を安定した状態で停車するには、常にセンタースタンド(1)を使用してください(装備している場合)。このスタンドは最大積載時でも確実に車両を支えることができる構造になっています。



### 警告

センタースタンドを使用する前に、ギアがニュートラルに入っていること、また地面に十分な硬さがあり平らであることを確かめてください。

右足でセンタースタンドの接地面(2)が地面に当たるまで押し下げ、同時に車両を上後方に引きます。

センタースタンドを元にもどすには、ハンドルを持ちながらリアホイールが地面に着くまでバイクを前に押します。センタースタンドは自動的に元の位置に戻ります。



### 警告

発進する前は、必ずセンタースタンドが元の収納位置にあることを確認してください。

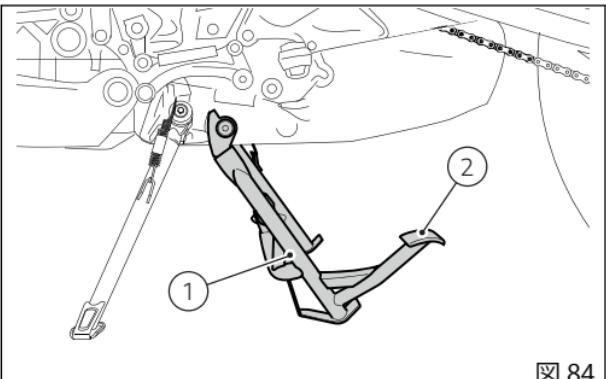


図 84

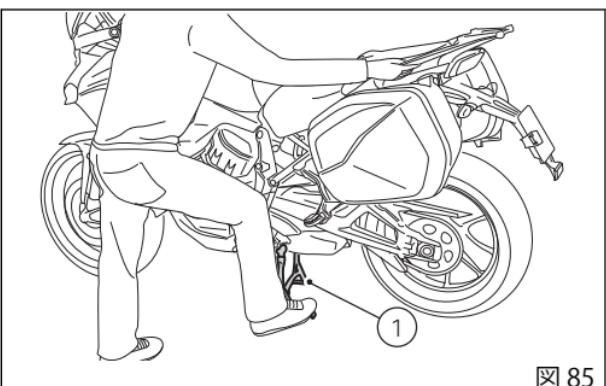


図 85

## ドゥカティサイドバッグ取り付け サイドバッグの取り付け

ロック(1)にキーを差し込み、時計回りに回します。  
ハンドル(2)を開いて、バッグに対して垂直な位置までレバー(3)を手前に引き上げます。

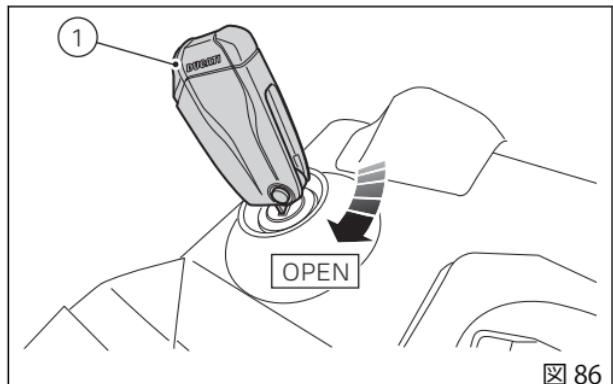


図 86



図 87

上側フック(4)を取り付け位置(5)に挿入し、サイドバッグを取り付けます。

 **参考**

前側フックを先に取り付け、次に後側フックを取り付けてください。

バッグ(6)がロアマウント(7)に正しく配置されていることを確認します。

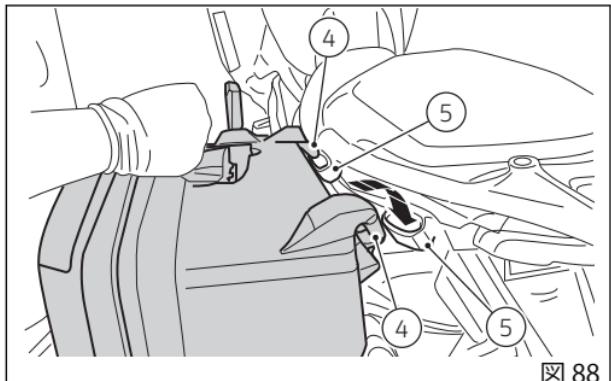


図 88

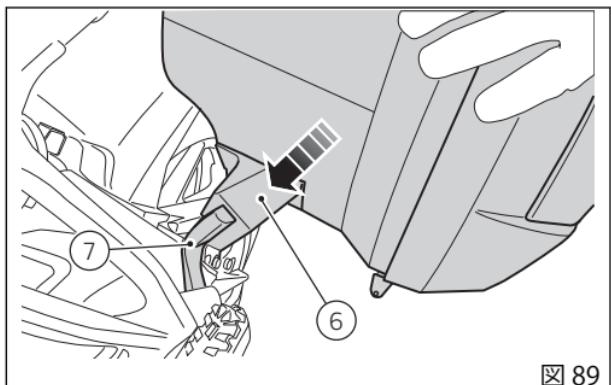


図 89

レバー(3)を奥に完全に倒します。

ハンドル(2)を閉じ、キーを反時計回りに回してバッグをロックします。

キーを抜きます。

バッグを軽く横に引っ張り、正しくロックがかかっていることを確認し、バッグの傾斜の動きも確認します。

同様の方法で、もう一方のサイドバッグも取り付けます。



図 90

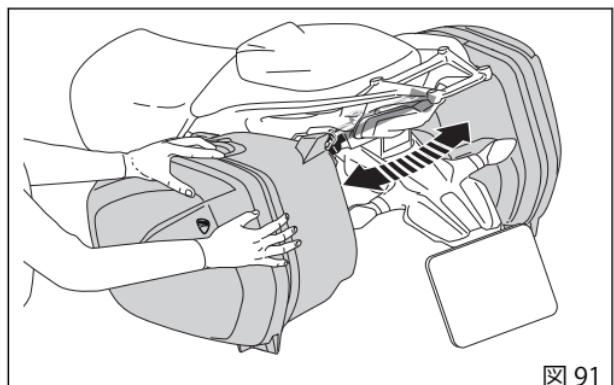


図 91

両方のバッグを取り付けてから、バッグの後ろ側を左右に動かして傾斜の動きを確認します。

この動きに問題がある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

### 警告

傾斜の動作を確認する際は、手を安全な場所に置くよう注意してください。

### 警告

トップケースも取り付けた場合は、ロックを閉じてキーを外し、取り付けが完了してから、バッグを左右に動かして横方向の傾斜の動きを確認してください。この動きに問題がある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

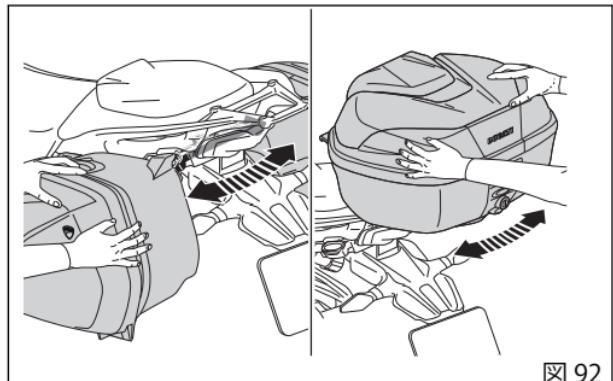


図 92

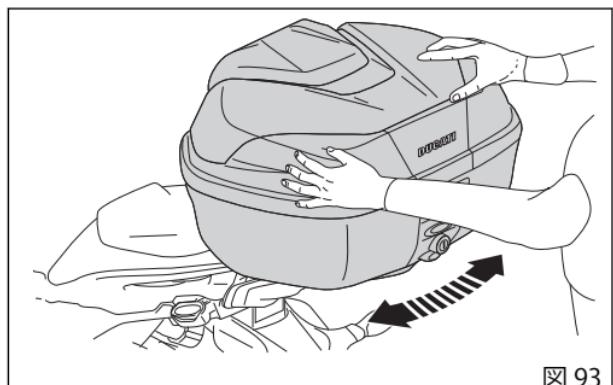


図 93



## 警告

バッグが正しく取り付けられていこと、車両に確実に固定されていることを常に確認してください。



## 警告

車両のバランスが悪くならないように、バッグの重量が両方にバランスよく配分されていることを確認してください。



## 警告

サイドバッグは両方を取り付けてください。安全上の理由から、片方だけを取り付けることはできません。



## 警告

シート上に物を置かないでください。また、収納ツールをフローティングバッグやトップケースの固定部に取り付けないよう注意してください。



## 警告

車両に取り付けた構成(サイドバッグ、トップケース、タンクバッグ等)に応じた最大積載量と最高許容速度を確認してください。「最大積載時の運転」の設定と速度値、および「テクニカル仕様」セクション内の重量を確認してください。

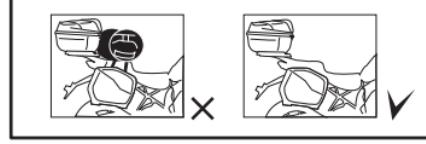
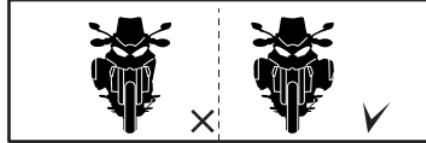
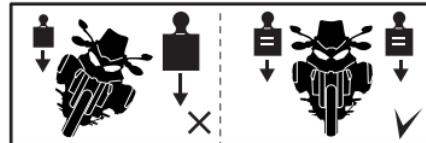
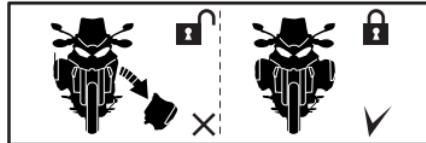


図 94



## 警告

車両の積載量が決まれば、「テクニカル仕様」セクションの「タイヤ」の記載に従ってタイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠) : 243 kg (535.72 lb)  
乾燥重量 (バッテリー、潤滑油、クーラントを除く) : 218 kg (480.61 lb)  
車両総重量 (最大負荷重量) : 470 kg (1036.1 lb)

## ⚠ 警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

## ⚠ 警告

最大許容速度は、車両に搭載されている荷重によって異なります。

- トップケースとタンクバッグ、またはサイドバッグとタンクバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 180 km/h (112 mph) です。

- トップケース、タンクバッグ、サイドバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 160 km/h (100 mph) です。

いずれの場合も、法定速度を遵守してください。

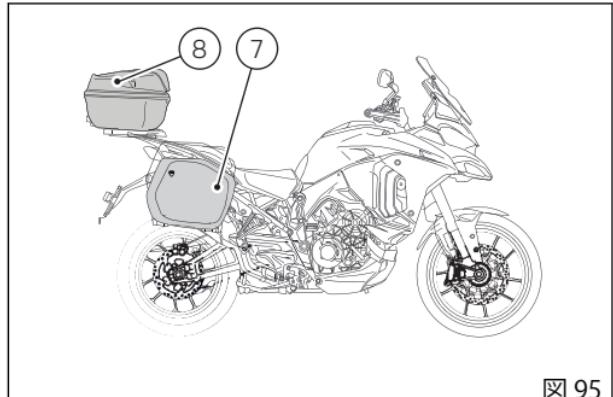


図 95

## ⚠ 警告

サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が 30 kg (66.13 lb) を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。

各サイドバッグ (7) につき最大 10 kg (22 lb)

トップケース (8) は最大 5 kg (11 lb)

タンクバッグは最大 5 kg (11 lb)

## サイドバッグの取り外し

ロック(1)にキーを差し込み、時計回りに回します。

ハンドル(2)を開きます。

バッグに対して垂直な位置までレバー(3)を手前に引き上げます。

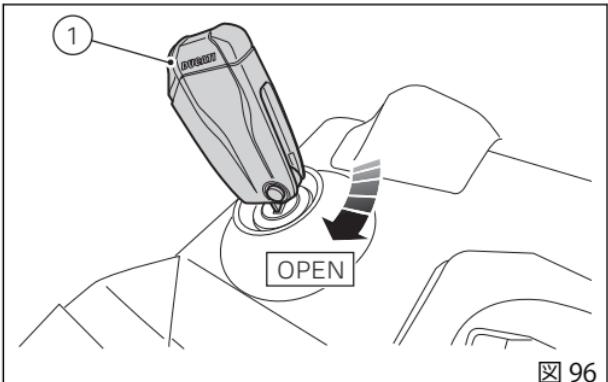


図 96



図 97

バッグのハンドル(2)を持ちます。取り付け位置(5)から後側のフック(4)を先に、次に前側フックを外し、ロアマウント(7)から外してサイドバッグ(6)を取り外します。

同様の方法で、もう一方のサイドバッグも取り外します。

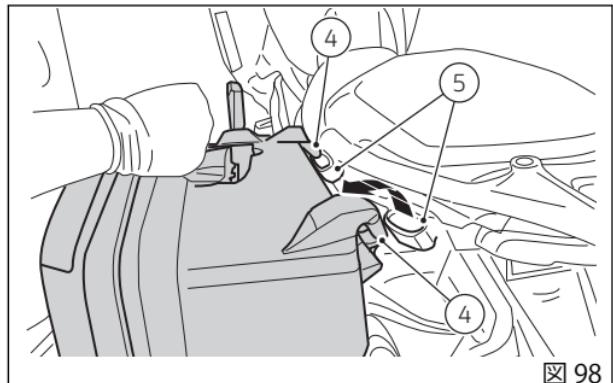


図 98

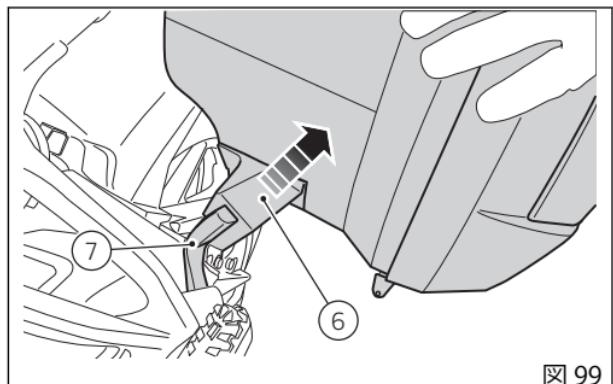


図 99

## サイドバッグの使用

### 開け方

サイドバッグを開けるには、ロック(2)に差し込んだキー(1)を時計回りに回し、安全装置(3)を解除して後部を持ち上げます。

### 閉じ方

サイドバッグを閉じるには、ロック(2)に差し込んだキー(1)を反時計回りに回し、安全装置(3)を持ち上げ閉じてロックします。その際、カバー(4)を締め付け(A)に保持してください。



### 警告

サイドバッグは軽い荷物専用です。それぞれのバッグには最大 10 kg (22 lb) まで収納することができます。規定重量を超えた荷物を入れると、車両の制御がきかなくなるおそれがあります。



### 警告

車両のバランスが崩れないよう、重い物はバッグ内側に詰めるようにして均等に収納します。

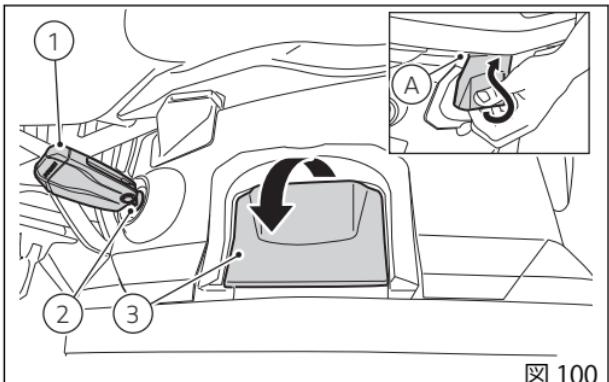


図 100

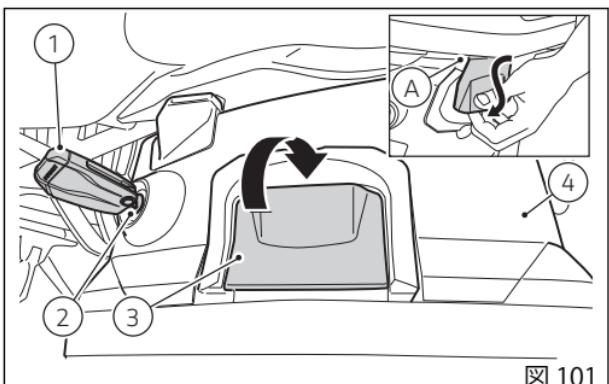


図 101

## USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1A の電流をサポートします。

USB コネクター(1)は、フューエルタンク上のスマートフォン収納ボックス内にあり、カバー(2)で保護されています。カバーはマーク(3)を押すと開きます。



### 警告

スマートフォン収納ボックスにはシールガスケットが備わっていますが、密閉はされていません。



### 重要

この USB コネクターはスマートフォン充電用です。



### 重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

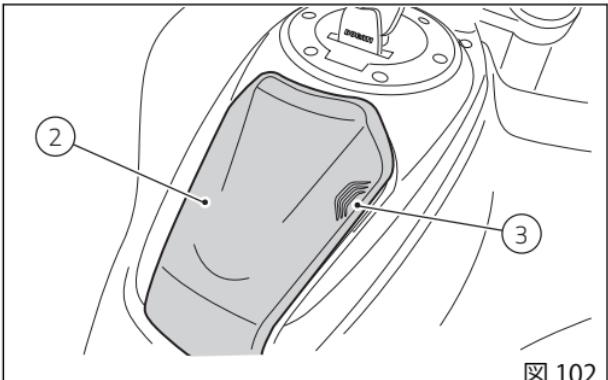


図 102

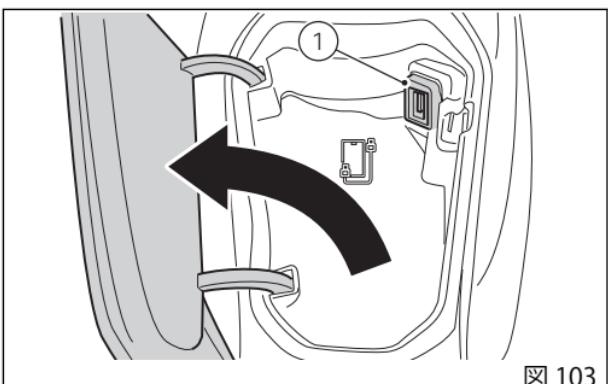


図 103

## インストルメントパネルの調整

インストルメントパネルの傾きを調整するには、つまみ(1、図 104)を回します。

3段階の調節が可能になっています。



### 警告

走行中のインストルメントパネルの調整は事故を招くおそれがあります。この調整は停車した状態で行ってください。

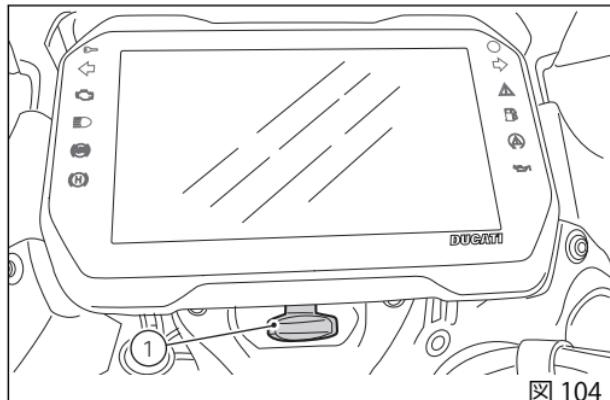


図 104

## ウィンドスクリーン調節

ウィンドスクリーン(1)の高さを調節するにはレバー(2)を操作します。上に押すとウィンドスクリーンが上がり、逆に下に押すと下がります。



### 警告

走行中のウィンドスクリーンの調節は事故を招くおそれがあります。ウィンドスクリーンの調節は停車した状態で行ってください。

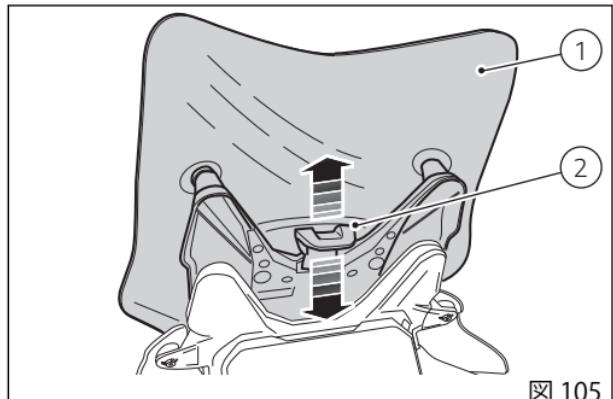


図 105

## フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

フロントフォークのリバウンドダンピングおよびコンプレッションダンピング調整は、インストルメントパネルからフォークリレッグ内部の調整装置に送信される電気パルスによって行われます。スプリングプリロードの調整は右レッグに設けられたアジャスター(1)を手動で操作して行います。



**警告**  
スプリングプリロードの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

フォークおよびDSSシステム(ドゥカティスカイフックシステム)の動作原理の詳細については、「Setting menu-Riding Mode-Suspension」を参照してください。

スプリングプリロードの初期設定：

- 最小(すべて緩めた位置)から +5回転。

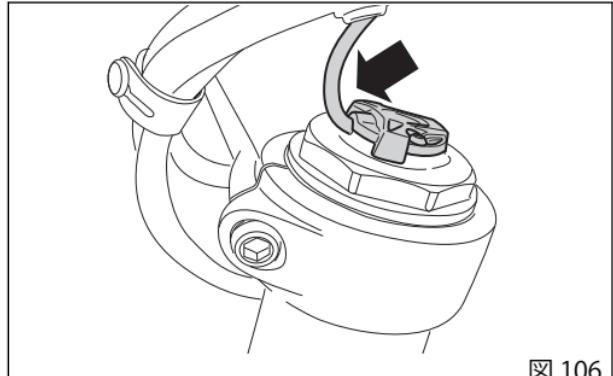


図 106

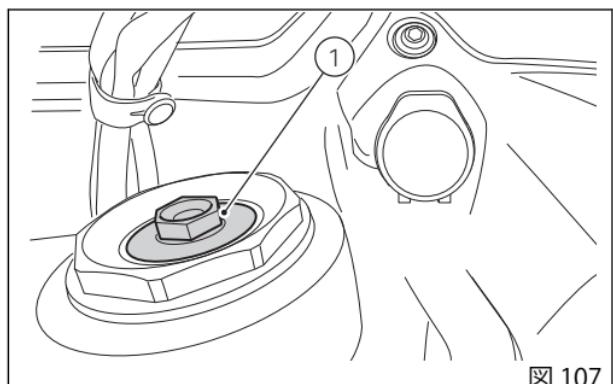


図 107

## リアショックアブソーバーの調整

積載量に合わせて車両をセットアップできるように、インストルメントパネルからリアショックアブソーバー(1)を調整することができます。

リアショックアブソーバーおよびDSSシステム(ドゥカティスカイフックシステム)の動作原理の詳細については、「Setting menu - Riding Mode - Suspension」を参照してください。

パッセンジャーと荷物を載せて走行する場合は、「プロード」の章に記載されている説明に従って車両のセットアップを調整する必要があります。

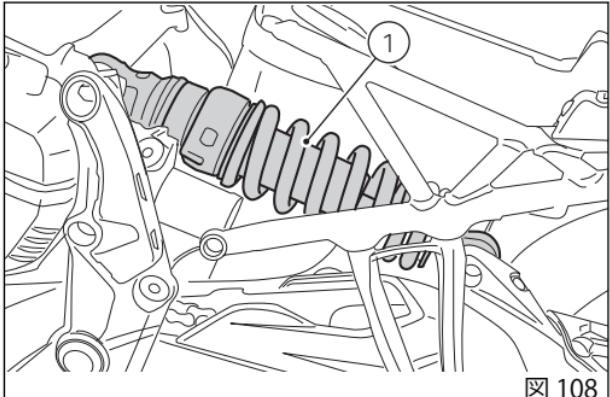


図 108

## ハンドルバー調整

ハンドルバーには調節機能が搭載されており、ライディング条件に合わせてライダーの姿勢を調整することができます。

「ROAD」(1)または「OFF ROAD」(2)の2種類の設定が可能です。

ハンドルバーの調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

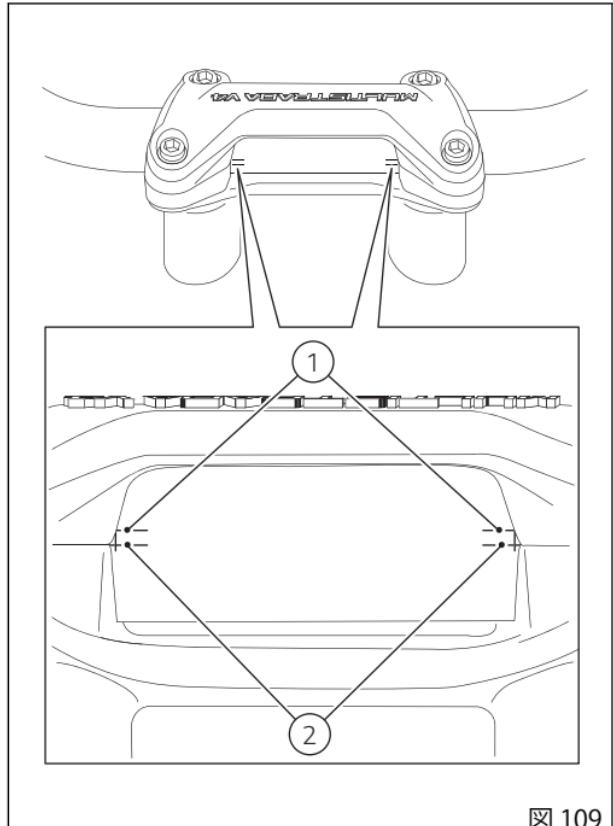


図 109

## 車両設定の変更

モーターサイクルのセットアップは、ドゥカティの技術者が多様な条件下で実施した数多くのテストにおける最良の結果をもとに決定されています。

ライダーはインストルメントパネルから、異なるプロファイルとブリロードを設定するか、または「Autoleveling(オートレベリング)」モードに設定することができます。

インストルメントパネルからのセットアップ調整については、「ブリロード」(ページ 189) と 「Setting menu - Riding Mode - Suspension」(ページ 248) を参照してください。

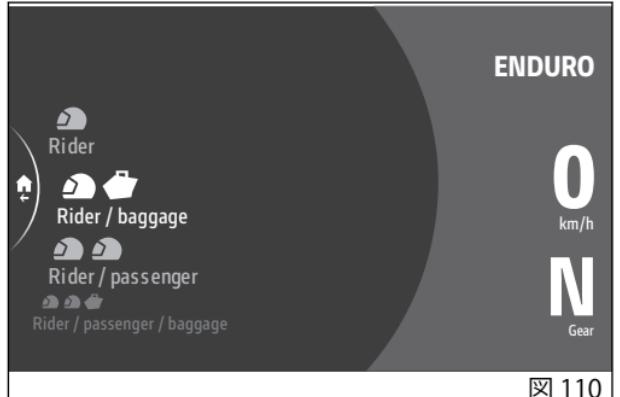


図 110

# 運転時に必要なコマンド

## コマンド類の配置



この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) インストルメントパネル
- 2) Hands Free システム
- 3) 左側スイッチ
- 4) クラッチレバー
- 5) リアブレーキペダル
- 6) 右側スイッチ
- 7) スロットルグリップ
- 8) フロントブレーキレバー
- 9) ギアチェンジペダル

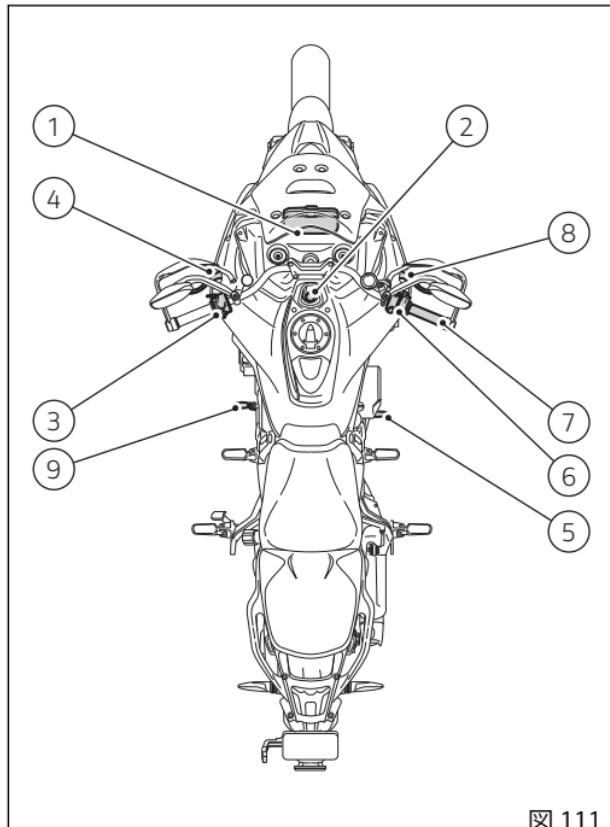
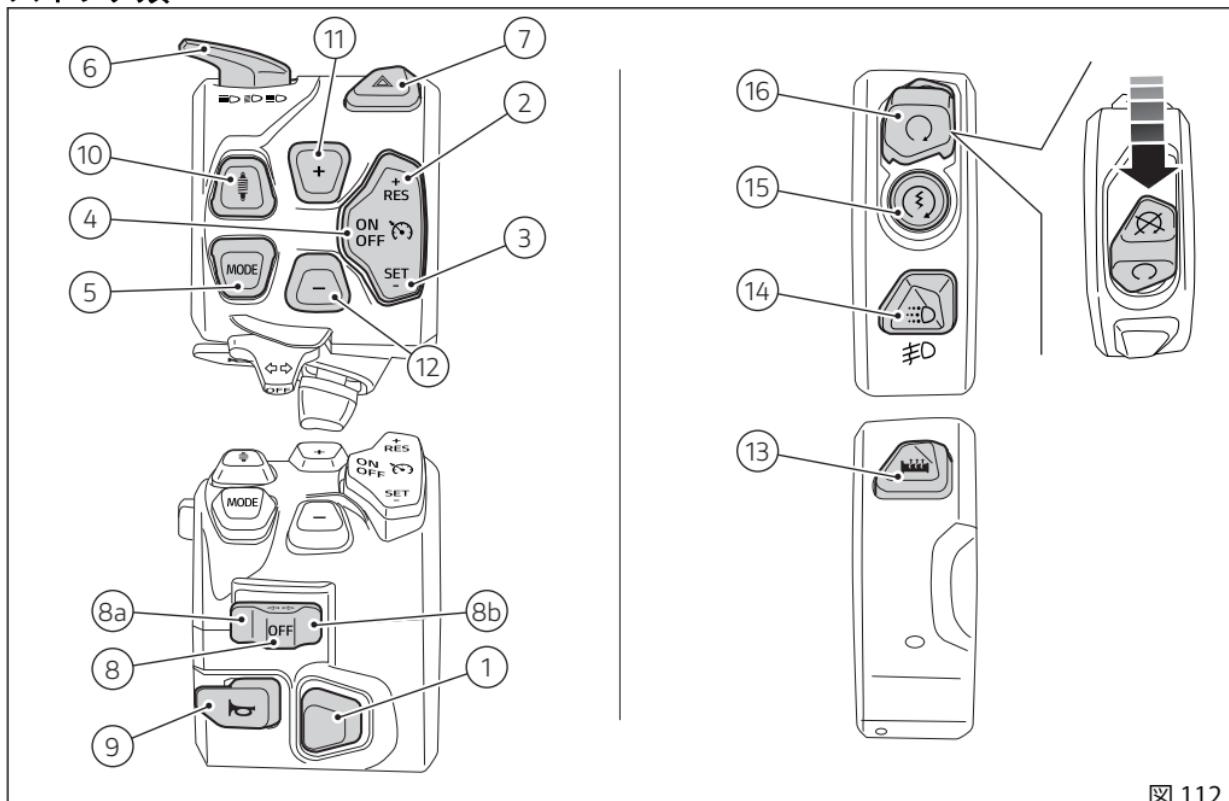


図 111

## スイッチ類



1		ジョイスティック、次のポジションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ▲ 上</li> <li>● ▼ 下</li> <li>● ◀ 左</li> <li>● ▶ 右</li> <li>● 「ENTER」、ジョイスティックの中央を押す</li> </ul>
2		クルーズコントロール RES/+
3		クルーズコントロール SET/-
4		クルーズコントロール ON/OFF
5	MODE	Riding Mode
6		ライトセレクター： <ul style="list-style-type: none"> <li>● ハイビーム、上に押す</li> <li>● ロービーム、中央位置</li> <li>● フラッシュライトと「ラップ Start/Stop」機能、下に押す</li> </ul>
7		ハザードランプ(赤色)
8		3 ポジション、ターンインジケーター： <ul style="list-style-type: none"> <li>● ポジション (8a)、左ターンインジケーター</li> <li>● 中央、OFF</li> <li>● ポジション (8b)、右ターンインジケーター</li> </ul>
9		警告ホーン

10		Preload (プリロード)
11		アダプティブクルーズコントロール+ (装備している場合)
12		アダプティブクルーズコントロール- (装備している場合)
13		ヒーテッドグリップ (装備している場合)
14	 	DRL (装備している場合) / フォグランプ
15		エンジンの始動
16		エンジンの停止、下に押す (赤色)

## ライトコントロール

### ロービーム/ハイビームライト

ボタン(A)を使用して、ロービームとハイビームの切替えを行います。ポジション(B)がハイビーム、ポジション(C)がロービームです。ボタンをポジション(D)に押すと、ライトがフラッシュします。

インストルメントパネルを起動してからエンジンをかけない場合でも、各ライトやフラッシュライトを作動させることはできます。

ただし、ロービーム/ハイビームライトを手動で起動してから60秒以内にエンジンを始動しないと、ライトは消灯します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、エンジン始動時にヘッドライトが自動的に消灯します。エンジンが始動した時点で再び点灯します。

DRLの「Auto」モードーDRL搭載バージョンのみ

「Setting menu(設定メニュー)」内の「DRL」機能からDRLを“Auto”に設定している場合は(ページ256)、インストルメントパネルが、検出された外光の明るさに基づいて、DRLとロービームライトの関係を次のように自動管理します。

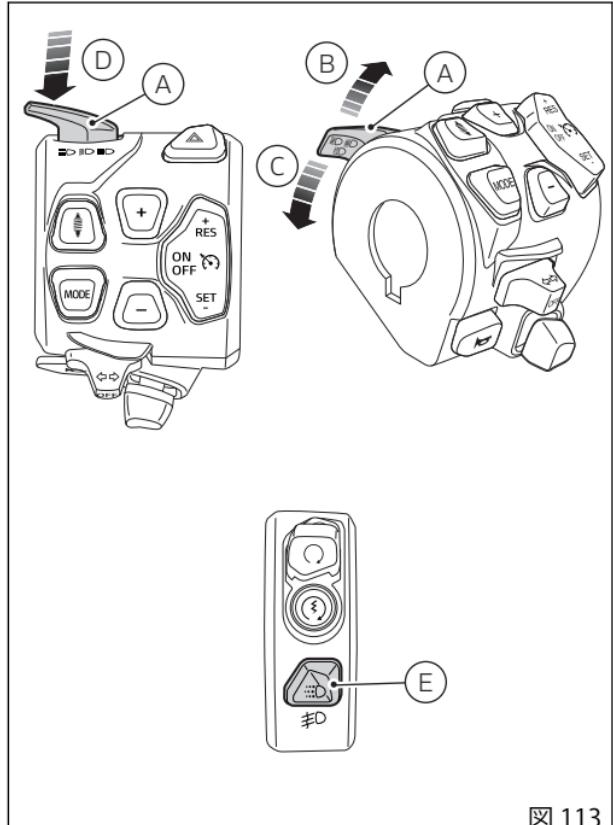


図113

- 十分な外光が検出されると(昼間)、DRLを点灯してロービームライトを消灯します。
- 十分な外光が検出できない場合(夜間)は、ロービームライトを点灯してDRLを消灯します。

DRLが「Auto」モードに設定されているときは、該当するランプが点灯します。

DRLを「Auto」モードに設定しているときにボタン(E、図113)を押すと、自動管理が解除されて通常のライト管理に戻ります。もう一度ボタン(E、図113)を押すと、DRLが「Manual」管理モードで再び起動します。

この場合は、次のインストルメントパネル起動時に、DRLが再び「Auto」モードに設定されます。

## 警告

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時にDRLを“Auto”モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームライトを手動で点灯するようにしてください。

DRLの「Manual」モードーDRL搭載バージョンのみ

「Setting menu (設定メニュー)」内の「DRL」機能からこのモードに設定しているときは(ページ256)、イ

ンストルメントパネル起動時にDRLのステータスは変更されません。  
DRLを消灯または点灯するにはボタン(E、図113)を押してください。

## 警告

外光の特に弱い状況下(暗闇)でDRLを使用すると、運転中の視界を損なう危険があるだけでなく、対向車のドライバーにとって眩しく不快に感じさせることができます。

## 参考

日中にDRLを使用することで、ロービームライトよりも優れた視界を確保することができます

## フォグランプ

フォグランプは以下の方法で点灯または消灯します。

- DRLを装備している場合は、ボタン(E、図113)を長押しします。
- DRLを装備していない場合は、ボタン(E、図113)を押します。

フォグランプを点灯しているときは、該当する警告灯が点灯します。

## Turn signals (ターンインジケーター)

「Setting menu (設定メニュー)」内の「Turn signals (ターンインジケーター)」機能からページ 286、ターンインジケーター制御モードを自動または手動に設定することができます。

左ターンインジケーターを起動するにはボタン (F、図 114) をポジション (G、図 114) に押します。右ターンインジケーターを起動するにはボタンをポジション (H、図 114) に押します。  
ターンインジケーターを解除するには、ボタン (F、図 114) を押します。

### 自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感じて、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

自動解除機能は、インジケーター ボタンを操作することにより、車両速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えると作動します。

ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーター ボタンが操作された時の車両速度に応じて、200~2,000 メートル (656~6,562 フィート) までの範囲で変化します。

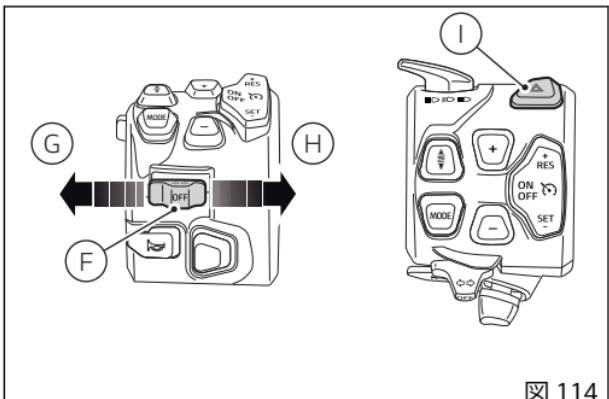


図 114

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーター ボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。



### 警告

自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダーステムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません（必要に応じて手動で作動/停止）。

## ハザードランプ

ハザードランプは、車両が起動している状態(Key-ON)でのみ、ボタン(図114)を押して作動または解除が可能です。

ハザードランプ作動中に車両をオフにした場合、ハザードランプは2時間作動を続けます。バッテリーを保護するため、ハザードランプは2時間後に自動的に消灯します。

### 参考

ハザードランプが作動しているときにKey-ONを行なうと、ハザードランプは作動を続けます。

### 参考

パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

### 参考

ハザードランプは、通常のターンインジケーター機能より優先されます。



### 参考

#### 緊急ブレーキ

速度 55 km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、テールライトが高速で点滅して後続車に警告します。減速度が既定のしきい値を下回ると、点滅は自動的に止まります。

## Hands Free システム

Hands Free システムは、以下で構成されています。

- 1) Hands Free ブロック
- 2) アンテナ
- 3) アクティブキー
- 4) パッシブキー
- 5) 電動フィラープラグ(オプション)

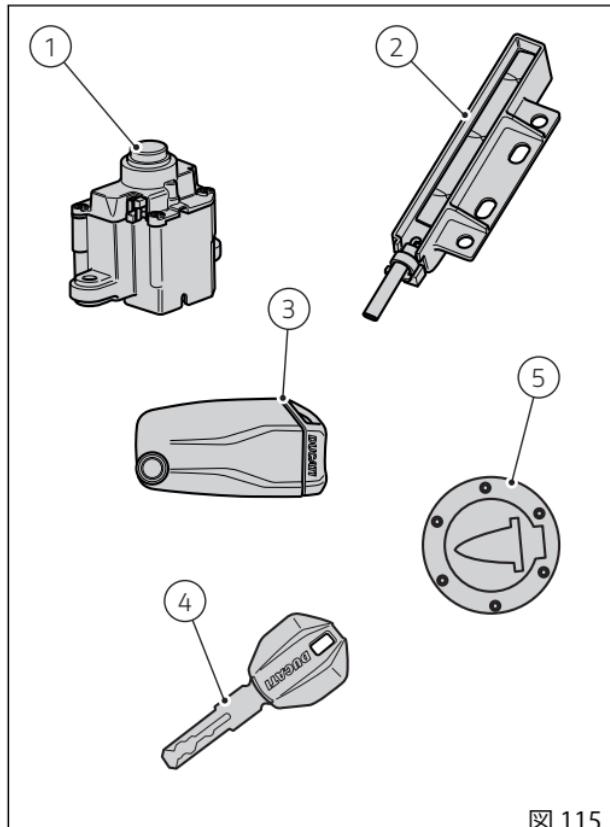


図 115



## 警告 Hands Free システムの正常な機能に影響を与える状況。

以下に記載する状況においては、リモコンが適切に機能しない場合があります。

- テレビ塔、ラジオ局、発電所、ガソリンスタンドなど強い電波を発する場所が近くにある時。
- 携帯ラジオや携帯電話などワイヤレス通信機器を持ち運んでいる時。
- 複数のワイヤレスキーが近くにある時。
- ワイヤレスキーに触れるか金属製の物におおわれた時。
- 電波を発するワイヤレスキーが近くで使用された時。
- パソコンなどの電気機器の近くにワイヤレスキーが置かれている時。

- 1) Hands Free ブロック (1)
- 2) ボタン (7)
- 3) アンテナ (2)、ダッシュボード (6) 下のキーマークの位置

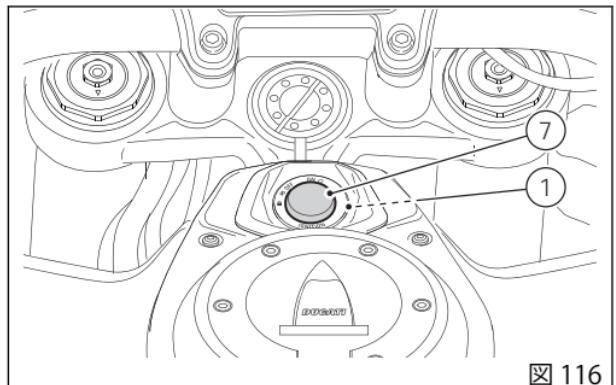


図 116

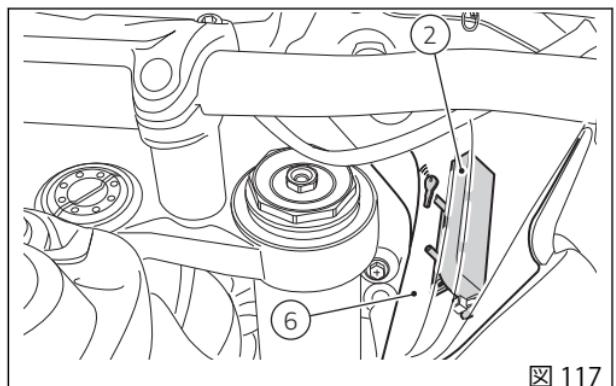


図 117

## Hands Free システムの起動 "Key-ON"と停止 "Key-OFF"

Key-ON は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを起動します。

Key-ON するには Hands Free ブロック (1) のボタン (7) を押します。

Key-OFF は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを停止し、エンジンを確実に停止します。

Key-OFF するには、エンジンを切ってから Hands Free ブロックのボタン (7) を押します。

2本のキー (3)、(4) のいずれかがあるとき、または PIN Code を入力して Key-ON することができます。

Key-OFF はキー (3) または (4) がなくても可能です。

Key-OFF するには、走行速度がゼロのときに、Hands Free ブロック (1) のボタン (7) を押します。

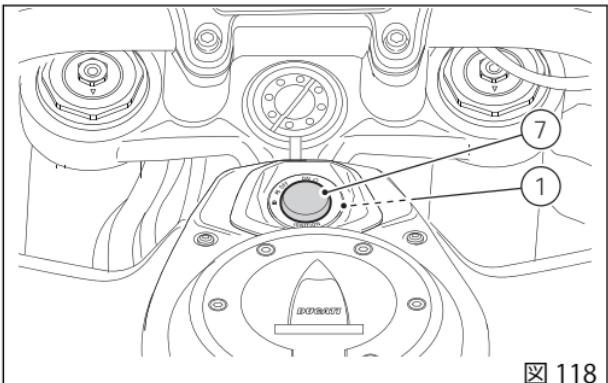


図 118

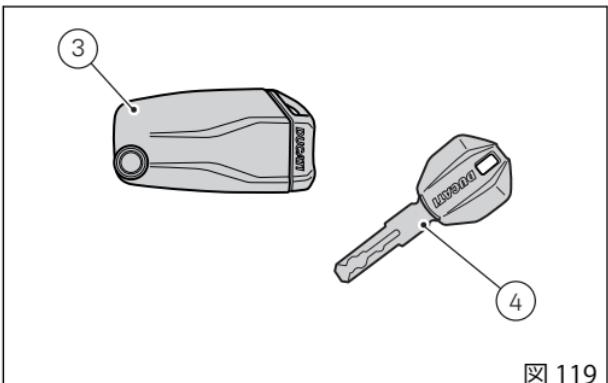


図 119



## 警告

パッシブキー(4)の作動範囲は半径数センチ(インチ)です。キー(4)を右側ダッシュボード(6)のキーマークの位置、アンテナ(2)の近くに置いてください。



## 重要

アクティブキーは電池が切れるときパッシブキーのように作動します。作動範囲がアンテナ(2)から半径数センチ(インチ)と短くなります。インストルメントパネルはバッテリーの消耗状態を通知します。アクティブキーの電池が切れた場合でも、パッシブキー モードで使用することができます。

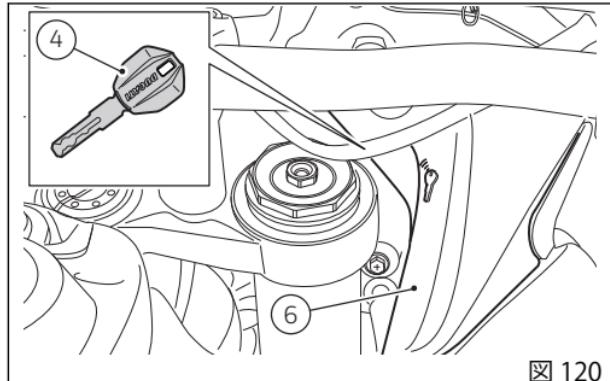


図 120

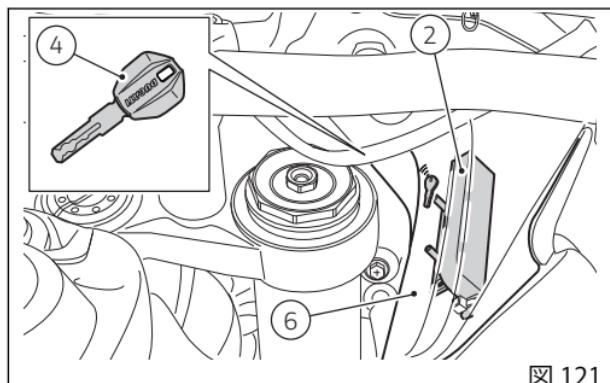


図 121

キー(3)の金属部分(A)は、フィラープラグを開けるときと、シートおよびバッグのロックに使用します。キー(3)の金属部分(A)は、ボタン(B)を押すと柄の内側に隠れます。

### 参考

車両がKey-ON状態にありエンジンが停止しているときにアクティブキー(3)の存在を15秒間検知できないと、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

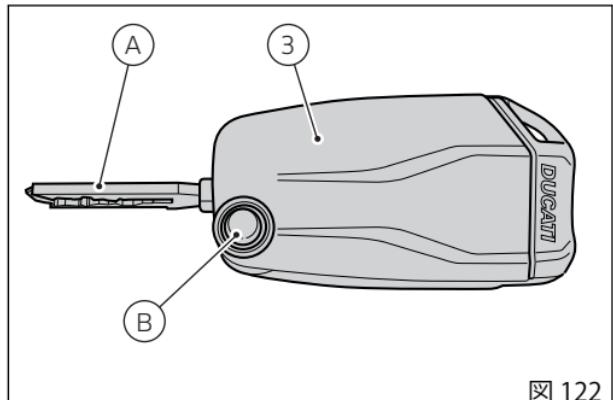


図 122

アクティブキーとHands Free ブロックのボタンによるKey-ON/Key-OFF

Key-ONするには、アクティブキー(3)があるときにHands Free ブロック(1)のボタン(7)を押します。

 **参考**

アクティブキー(3)の作動範囲は半径約1.5mです。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFFするにはHands Free ブロック(1)のボタン(7)を押します。キー(3)がなくてもKey-OFFは可能です。

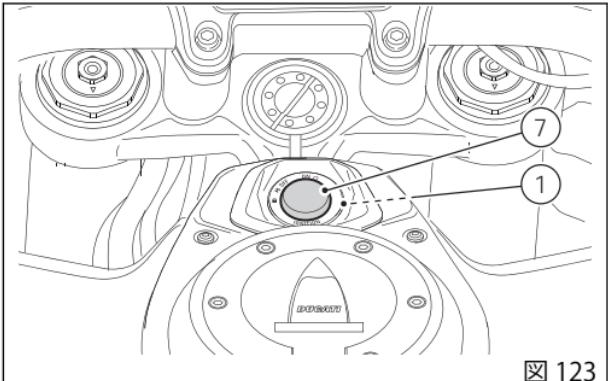


図 123

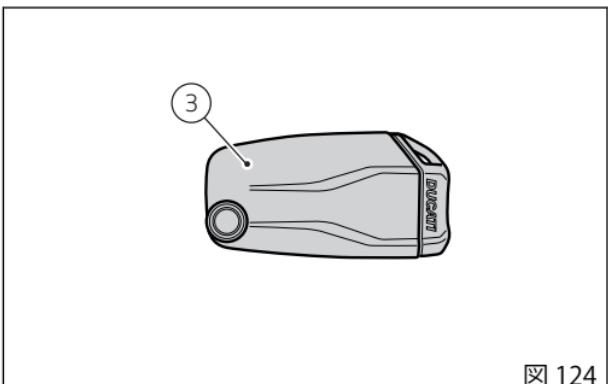


図 124

## パッシブキーとHands Free ブロックのボタンによるKey-ON / Key-OFF

ダッシュボード(6)のマークの近く、ヘッドライトフェアリング右内側のアンテナ(2)にパッシブキー(4)を近づけたまま、Hands free ブロックのボタン(7)を押すとKey-ON できます。



パッシブキー(4)の作動範囲は半径数cmです。キー(4)をアンテナ(2)の近くに置いてください。

Key-OFFするにはHands Free ブロック(1)のボタン(7)を押します。キー(4)がなくてもKey-OFFは可能です。

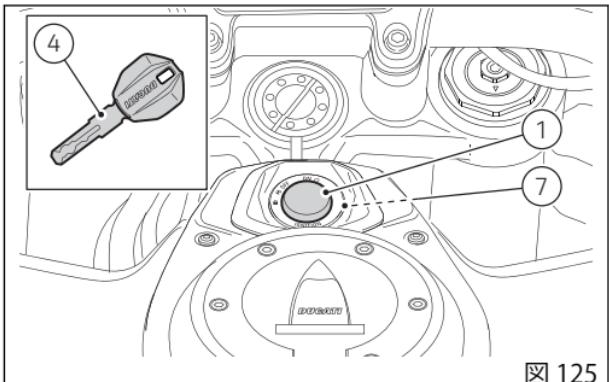


図 125

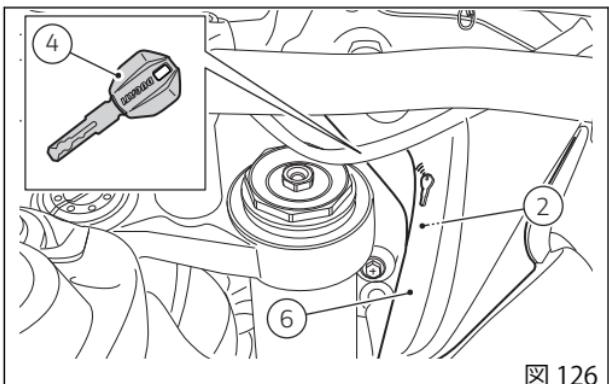


図 126

## PIN CODE(イモビライザー解除)によるKey-ON/Key-OFF

キー(3)および(4)がないときにKey-ONするには、Hands Free ブロック(1)のボタン(7)を押し、インストルメントパネルからPIN Codeを入力します。Key-OFFするにはHands Free ブロック(1)のボタン(7)を押します。

Key-OFFした後、次のKey-ON時にキーがない場合はPIN CODEを入力します。PIN CODEは車両受取り後にユーザーが入力します。PIN CODEを入力しないところの機能は有効になりません。Hands Free ボタン(7)を押すと、インストルメントパネルにバックライトが点灯し、ディスプレイに4桁のPIN CODE入力画面が表示されます。

PIN CODEを入力すると、ステアリングロックが自動的に解除されます。入力後は起動の許可し、Key-ONを実施してください。

PIN CODEの入力は120秒以内に完了してください。それを過ぎると自動的にKey-OFFします。

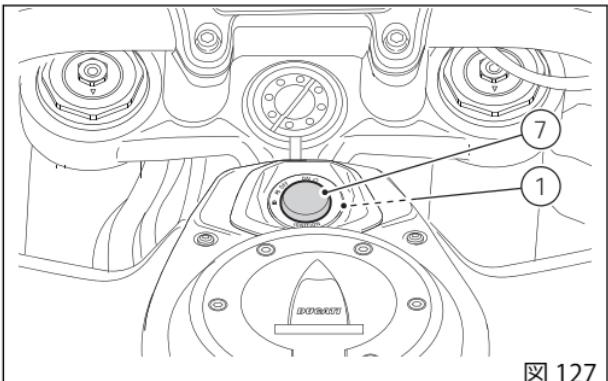


図 127

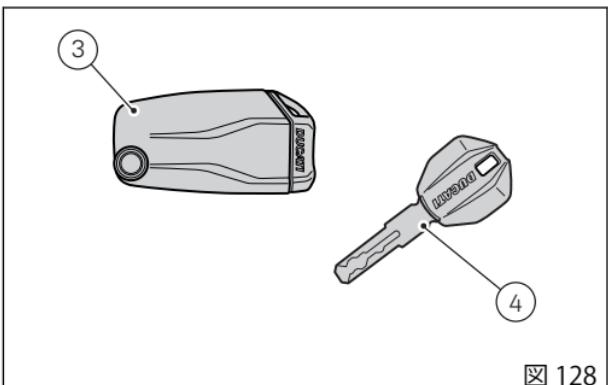


図 128

## 車両解除のための PIN CODE 入力機能

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、この機能を使用して車両を一時的に起動します。

Hands Free ボタン (7) を押して機能を起動します。

ボタンを押すと、インストルメントパネルはロック解除コードの入力ページを表示します。

「PIN Code による車両の解除」を参照してください。

### **!** 重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

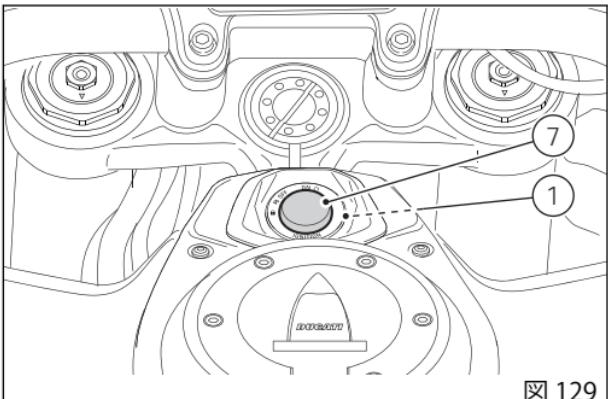


図 129

## キー

車両には、以下のキーが付属します。

- アクティブキー 1本(1)
- パッシブキー 1本(2)

これらのキーは、Hands Free システムにおいて複数の方法で Key-ON するためのコードを備えています。

アクティブキー(1)は通常時に使用します。キーについているボタン(A)を押すとキーの金属部分(B)が外に出来ます。

金属部分をボディ内部に押し入れて戻します。

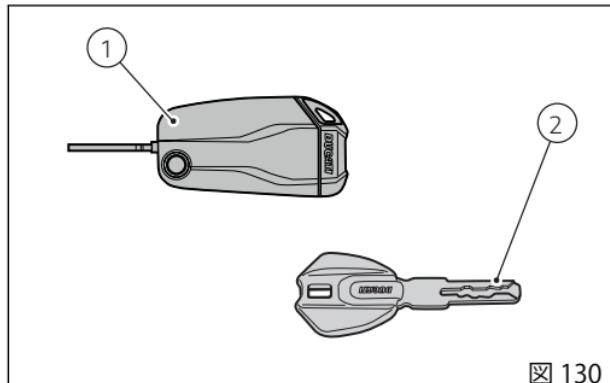


図 130

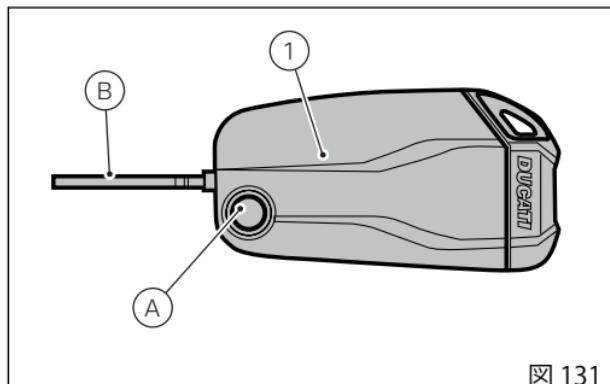


図 131

アクティブキー内部には、バッテリー(3)が内蔵されています。インストルメントパネル起動時に、キーとバッテリーマークの下に"low level"のメッセージが表示される場合はバッテリーを交換する必要があります。

### 参考

この場合はできるだけ早くバッテリーを交換してください。

バッテリー残量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキーモードでのみ作動します。この場合、インストルメントパネルには一切のメッセージが表示されません。

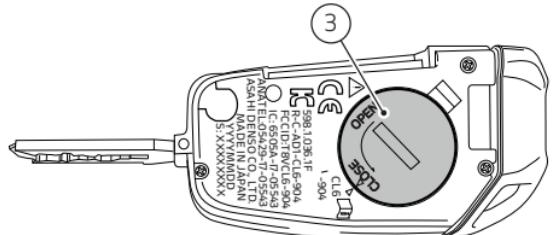


図 132

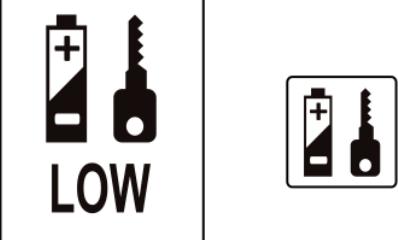


図 133

## **!** 警告

キー(アクティブキーまたはパッシブキー)をフイラー・プラグのロックやシートロックに差したまま走行しないでください。途中でキーが抜けて思わぬ事故につながるおそれがあります。また、強い衝撃はキーの機械部分や内部回路に損傷を与える可能性があります。

過酷な気象条件下でキーを挿入したまま走行することも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があります。

洗車中にキーを車両の上に放置しないでください。防水対応はしておりませんので、損傷するおそれがあります。

## バッテリーの交換



### 警告

マーク(A)は、キーの電池を取り外す際は充分に注意することを示しています。



### 警告

電池の誤った取り外しを行うと爆発の危険があります。交換用の電池には、必ず同じ種類の電池もしくは同等品を使用してください。



### 警告

インストルメントパネル上や直射日光の下など、高温になる場所にキーを置かないでください。



### 警告

このマーク(B)は、装置に付属する取扱説明書内に使用・メンテナンスに関する重要な指示があることを示します。



### 参考

交換後のキーの再設定は必要ありません。

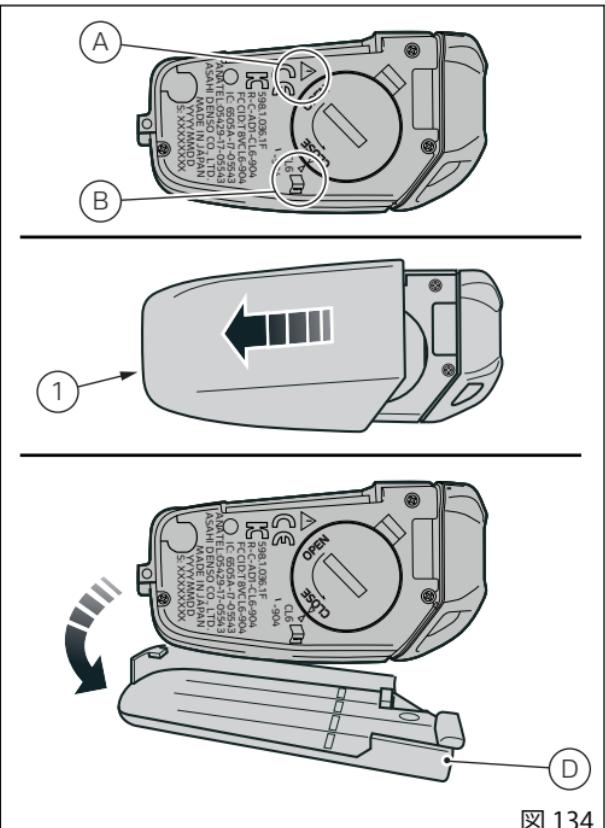


図 134

図に示すように、ボディ裏側のプラスチックカバー(1)を前方に押し、上に持ち上げて取り外します。

プラスチックカバーを外し、バッテリー(3)の溝(2)のサイズに合った適切なコインを使用して、バッテリーを時計回りに回転させて取り外します(バッテリー上に「OPEN」で示されているように)。

電池(3)を取り出して、新しい電池と交換します。



## 警告

電池を飲み込まないでください。化学熱傷のおそれがあります。

この製品にはボタン型電池が含まれています。ボタン型電池を飲み込むと、内臓に重い熱傷を引き起こし、2時間で死に至るおそれがあります。

万が一ボタン型電池を誤飲したと思われる時や体内に入ったと思われる時は、直ちに医師の診断を受けてください。

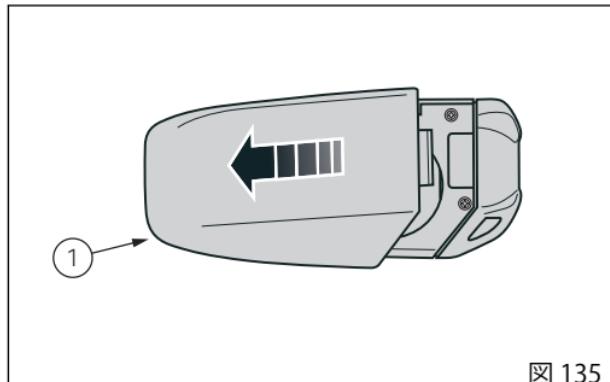


図 135

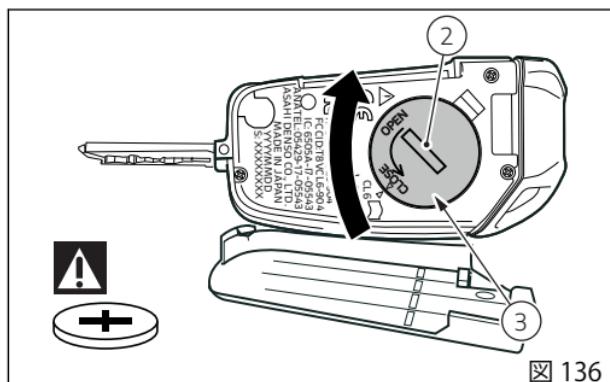


図 136

新しいバッテリー(3)を溝(2)を上に向けて所定の位置に挿入します。

溝(2)のサイズに合った適切なコインを使用して、バッテリー(3)を反時計回りに回転させて固定します(バッテリー上に「CLOSE」で示されているように)。



## 重要

指定バッテリーのみ、使用してください。

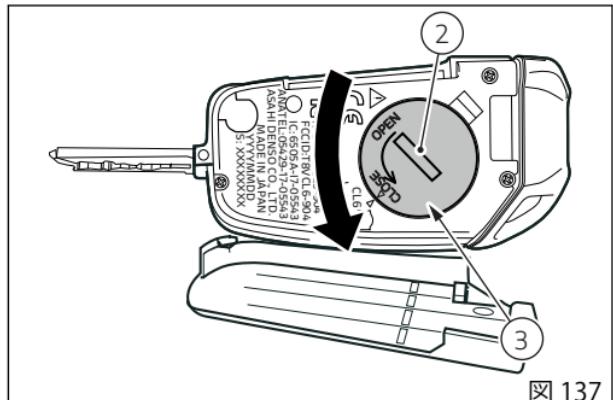


図 137

裏側のプラスチックカバー(1)を図のように軽く押し  
ながら取り付けます。  
タブ(D)を取り付け位置に收めます。  
カバーがしっかりと閉じられ、キーが確実に閉じてい  
ることを確認します。

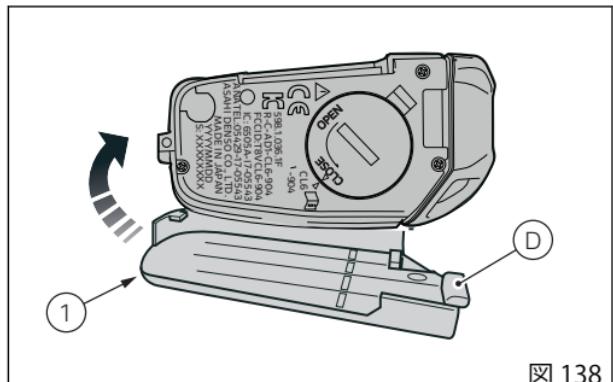


図 138

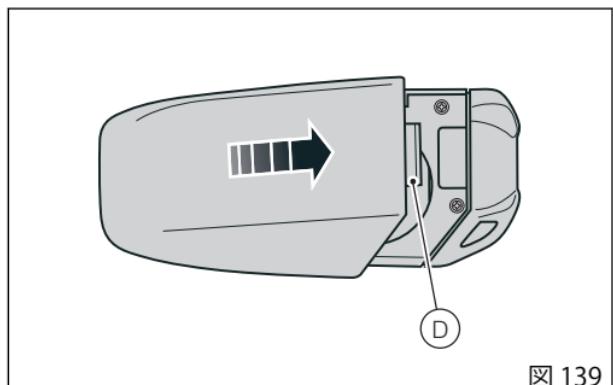


図 139

## イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム(イモビライザー)が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。

各キーボディには電子装置が内蔵されています。この電子装置は車両の起動時にヘッドライトフェアリングに組み込まれた特殊アンテナから送られる信号を変調します。この信号はパスワードの役割を果たし、起動のたびに変更されます。CPUがその"パスワード"によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

## キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークをご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。

Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。

Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。

登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくなるためです。

## PIN Code による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、車両ブロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

「Setting menu (設定メニュー)」の「PIN Code」機能から PIN Code を有効にしている場合はページ 259、インストルメントパネルに「PIN Code」の文字と 4 衍の PIN Code 入力スペースが表示されます。

コードの入力：

- 数字の上下にある 2 つの矢印は、ジョイスティックを対応する位置 ▲▼ に動かして、数字を 0~9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で 4 衍すべてを入力します。

4 衍目を入力してから ENTER ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN Code の検証中に問題が発生した場合は、インストルメントパネルにエラーの表示が 2 秒間表示され、その後メイン画面に戻ります。
- PIN Code が正しくない場合、インストルメントパネルは「Wrong」を 2 秒間表示します。その後、前の画面に戻り、もう一度コードを入力することができます。

PIN Code    0 - - -  
^  
▼

図 140

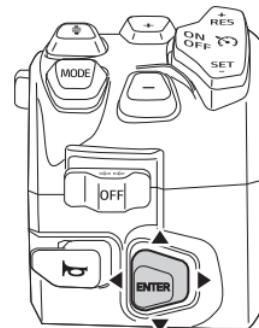


図 141

- PIN Code が正しい場合は、インストルメントパネルは「Correct」を2秒間表示し、その後標準画面に戻ります。

## **重要**

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならぬ時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

## クラッチレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター(2)がついており、レバーとグリップとの間隔の調整が可能です。

レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。

時計方向に回すとレバーはグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

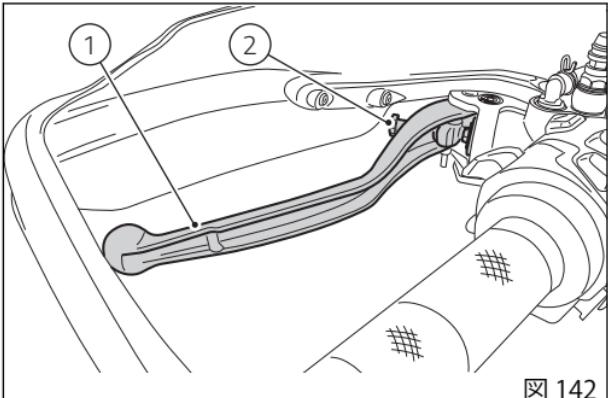


図 142

### 警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

### 重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッisionの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

### 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください(この場合は、ギアを入れる前にサイドスタンドを上げてください)。

## スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップは、スロットルボディの開閉を操作します。グリップを離すと、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

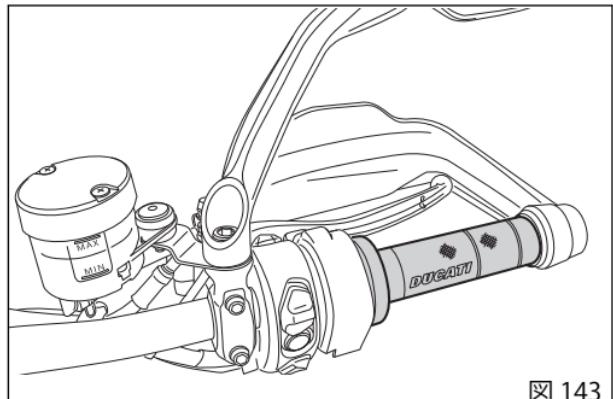


図 143

## フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)には調整用つまみ(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔を調整できます。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。

時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

フロントブレーキを強く引くと、起動の条件を満たしている場合は、「ビーカルホールドコントロール(VHC)」の記載に従い、ビーカルホールドコントロール(VHC)システムが起動します。

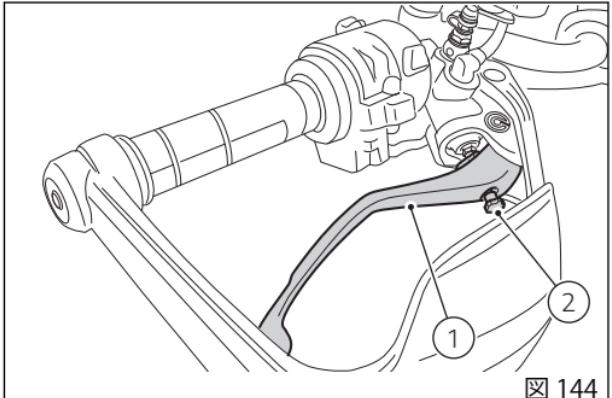


図 144

## リアブレーキペダル

ペダルを下に踏むと、リアブレーキが作動します。  
制御システムは油圧式です。  
リアブレーキを強くかけた時、起動の条件を満たしている場合は、「ビーグルホールドコントロール(VHC)」の記載に従ってビーグルホールドコントロール(VHC)システムが起動します。

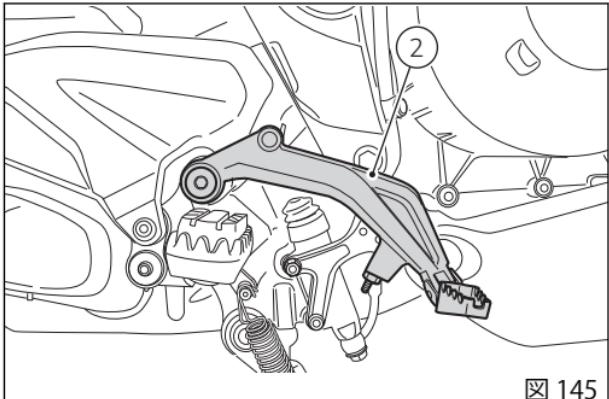


図 145

## ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。

ペダルは次のように動かせます。

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

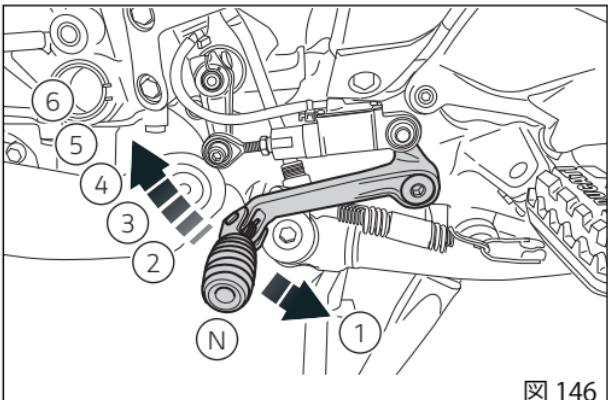


図 146

## ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダル(1)とリアブレーキペダル(2)のポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

ギアチェンジペダルの位置とリアブレーキペダルの調整は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

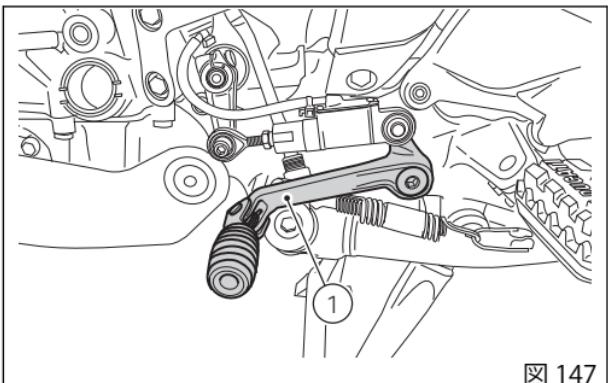


図 147

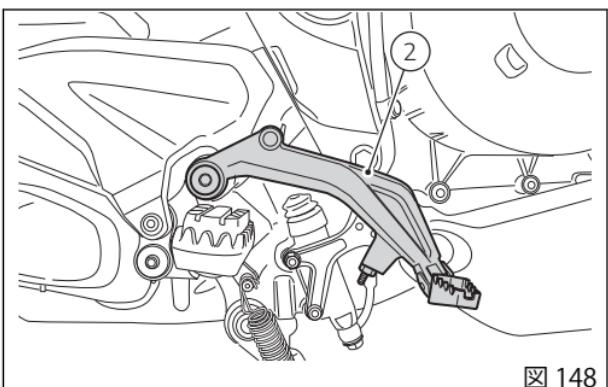


図 148

# 運転のしかた

## 慣らし運転の方法

### エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：

- 1) 1,000 km (600 mi) まで
- 2) 1,000 km (600 mi) ~ 2,500 km (1,500 mi)

1,000 km (600 mi) まで

最初の 1,000 km (600 mi) まではタコメーターに注意し、5,500~6,000 回転 (rpm) を超えてはいけません。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。

最初の 100 km (60 mi) は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。

すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、

急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

オドメーターが最初の 1,000 km (600 mi) に達するまで(慣らし運転期間中)、もしくは初回定期点検までは、エンジン回転数の仮想リミッターが設定されています。仮想リミッターでは、軌跡がオレンジ色で表示されます。

エンジン回転数表示の軌跡がオレンジ色の点滅に変わると、シフトアップするタイミングであることを示します。その回転数を超えないようにしてください。回転数が 1,000 rpm を下回っている場合は、軌跡は表示されません。

## 走行前の点検事項

### !**警告**

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量  
タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください（「燃料の補給」）。
- エンジンオイル量  
クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要であれば補充してください（「エンジンオイルレベルの点検」）。
- ブレーキおよびクラッチフルード量  
各フルードタンクのフルードレベルを点検してください（「ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検」）。
- ブレーキシステムとクラッチシステム  
ブレーキシステムとクラッチシステムの動作と、フロント / リアブレーキパッドの厚みを点検します（「ブレーキパッドの摩耗点検」）。
- クーラント量

リザーバータンク内のクーラントレベルを点検します。必要であれば補充してください（「クーラントレベルの点検および補充」）。

- タイヤコンディション  
タイヤ空気圧と摩耗度を点検します（「タイヤ」）。
- コマンド機能  
ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター  
ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください（「電気システム」）。
- ロック類  
フィラープラグのロック（「燃料フィラープラグ」）とシートのロック（「シートロック」）を点検します。
- サイドスタンド  
サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します（「サイドスタンド」）。
- サイドバッグとトップケース  
サイドバッグとトップケースがしっかりと固定されていることを確認し、傾斜の動きを確認します（「サイドバッグの取り付け」）。

エンジンウォーターポンプが正常に作動するためにはベントを必要とします。そのため、クランクケース上部のベント穴から微量の冷却液が漏れることがありますが、冷却システムやエンジン自体の正常な動作に影響を及ぼすことはありません。

## ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。  
走行速度が 5 km/h (3 mph) を越えた時点でランプが  
消灯し、ABS システムが正常に作動していることを示  
します。



### 警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、  
Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連  
絡ください。

## ABS 装置

フロントフォニックホイール(1)とリアフォニックホイール(2)が汚れていないことを確認します。

### !**警告**

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時にはABSシステムがうまく機能しない場合があります。システムをOFFにしておくことをお勧めします。

### !**警告**

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。

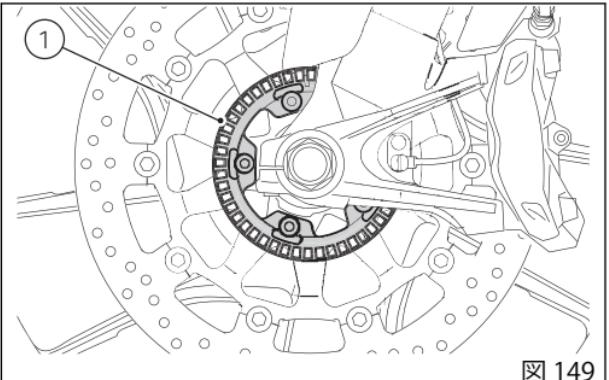


図 149

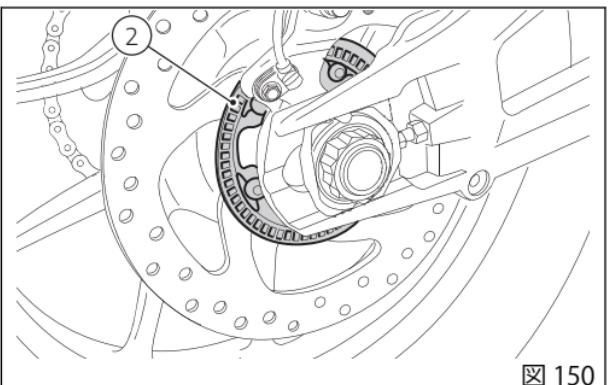


図 150

## エンジンの始動 / 停止



### 警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



### 警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

アクティブキーまたはパッシブキーがあることを確認します。「Hands Free」の章の記載に従って、Hands Free ブロック (2) のボタン (1) を押して、"Key-ON" (Hands Free システムとすべての電子デバイスの起動) します。インストルメントパネルは初期化と車載システムの点検を開始し、下から上の順に全ての警告ランプを数秒間点灯します。

この点検の後、緑色のランプ (3) と赤色のランプ (4) のみが点灯します。

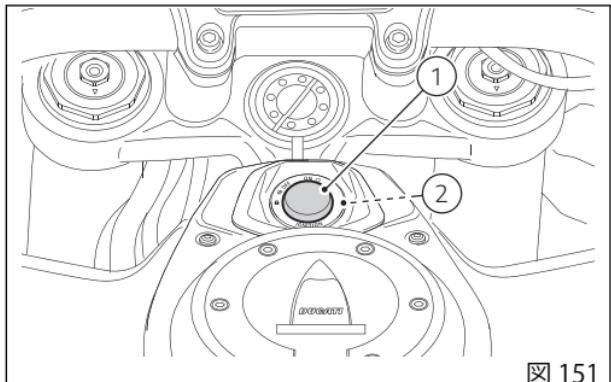


図 151

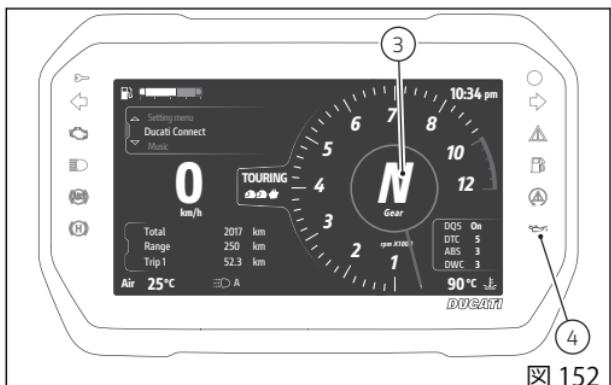


図 152

## ⚠ 警告

サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

Key-ON してもエンジンを始動していない状態で 10 秒間アクティブキーが感知できないと、システムは自動的に Key-OFF します。

## 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていないければなりません)。

ボタン(5)が見えるように、赤色スイッチ(1)を上の「RUN」位置に動かします。ボタン(5)を押してエンジンを始動します。

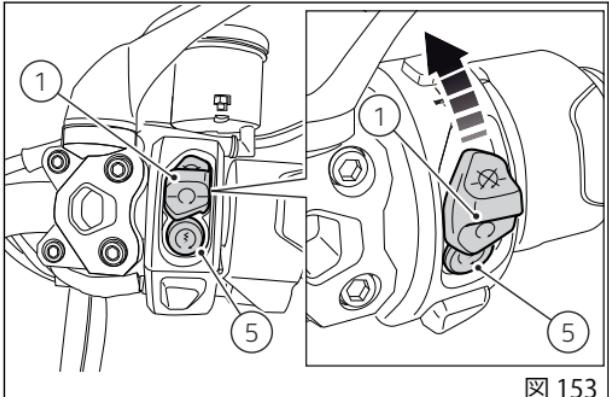


図 153

## **!** 重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

## **!** 警告

停車して長時間エンジンをかけたままにしていると、冷却が十分に行えないためにオーバーヒートによる損傷につながるおそれがあります。停車した状態で、不必要にエンジンをかけ続けないでください。エンジンの始動後は、速やかに発進してください。

オイル圧警告灯の赤色警告灯(4)はエンジン始動後数秒で消灯します。

ハンドルの赤色スイッチ(1)を「RUN OFF」、ポジション(B)に合わせてエンジンを停止します。

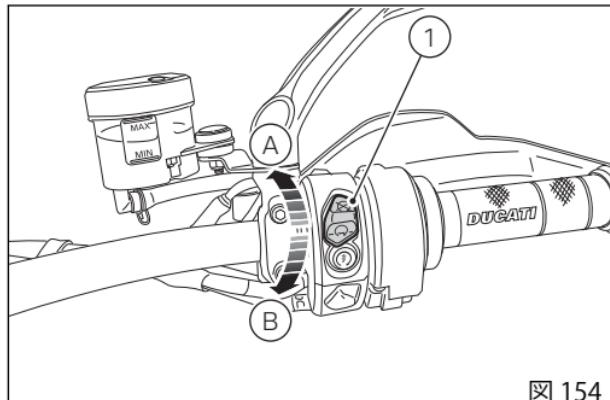


図 154

## 車両の発進

- 1) サイドスタンドを水平位置まで上げます。正しい位置に戻ると、インストルメントパネルの警告灯が消えます。
- 2) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 3) ギアエンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを1速に入れます。
- 4) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと車両は発進し始めます。
- 5) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 6) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアエンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。

これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。



### 警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッショング機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



### 警告

ウィリー走行を長く続けると、ABSシステムが停止してしまうおそれがあります。



### 参考

エンジンがアイドリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECUはリアバンクの2本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー(ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある)の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。このストラテジーはライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。

## ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

## ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABSは電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントローラユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントローラユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返しま

す。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗を感じられます。

フロントブレーキシステムとリアブレーキシステムの操作と制御は個別に行われません。本車両が装備するABSシステムは、フロントブレーキを操作するとリアブレーキシステムがフロントブレーキシステムと連動するインテグラルブレーキ動作を行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。インストルメントパネルを操作し、システムを解除したいライディングモード内でレベルOFFを選択すれば、システムの解除が可能です。

## 警告

たとえ連動ブレーキ機能(フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動)が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

## 参考

### 緊急ブレーキ

速度 55 km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると、テールライトが高速で点滅して後続車に警告します。減速度が既定のしきい値を下回ると、点滅は自動的に止まります。

## 車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。シフトダウンしながら1速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

赤色スイッチ(1)を一番下の「RUN OFF」位置(B)に動かして、エンジンを切ります。

ボタン(2)を押して車両を Key-OFF します。

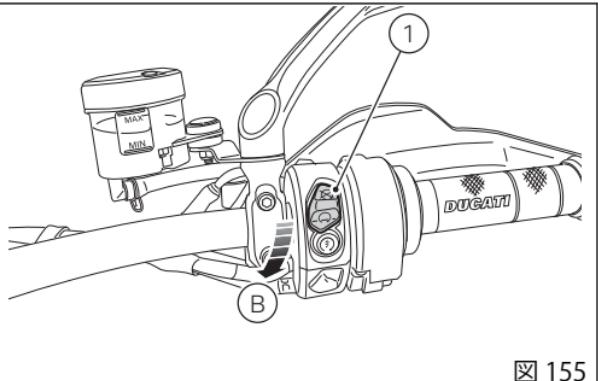


図 155

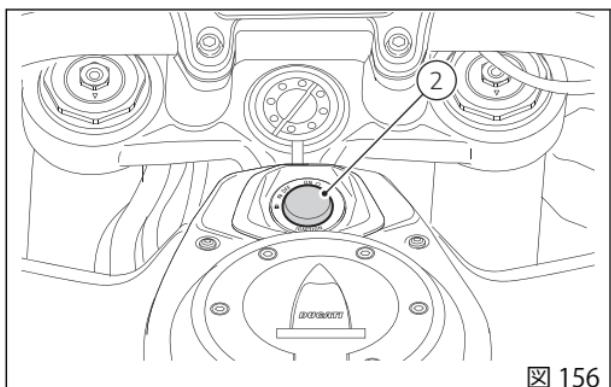


図 156

## パーキング

停止させた車両をスタンドで支えて駐車します。ハンドルを左か右にいっぱいに切れます。

エンジンを切ってから 20 秒間、インストルメントパネルにステアリングロックを作動させ、必要に応じてパーキングランプを点灯させ、Ducati Connect の接続を延長させる方法が表示されます。

## ステアリングロックの作動

ステアリングロックを作動させるには、画面(図 157)が表示されている間に、ハンドルバーをいっぱいまで回し、ボタン(1)を長押しします。

ステアリングロックが正常にかかると、インストルメントパネルにステアリングロックが作動したことの確認が表示されます。

点灯しない場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。



図 157

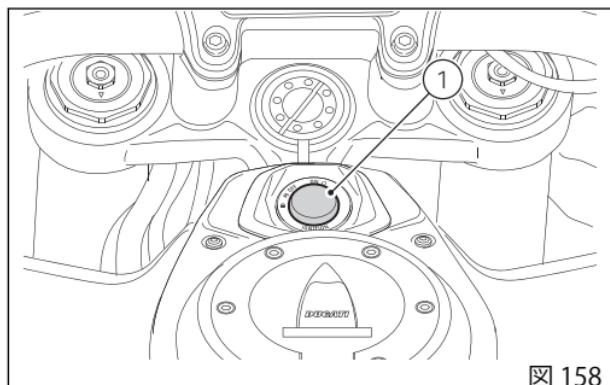


図 158

## パーキングランプの点灯

パーキングランプを点灯させる場合は、画面(図157)が表示されている間に、左ターンインジケーターのボタン(2)を長押しします。

パーキングランプが正常に点灯すると、インストルメントパネルにパーキングランプが点灯したことの確認が表示されます。

点灯しない場合は、Ducati正規サービスセンターにご連絡ください。

## Ducati Connect の接続の延長

Ducati Connect の接続を延長したい場合は、画面(図157)が表示されている間に、ジョイスティックをENTER(3)の位置に押します。

操作終了時に、インストルメントパネルに操作が完了したことの確認が表示されます。接続はさらに20分間延長されます。

### 参考

スマートフォンとの接続でエラーが発生した場合、Ducati Connect接続の延長の表示が灰色で表示されます。

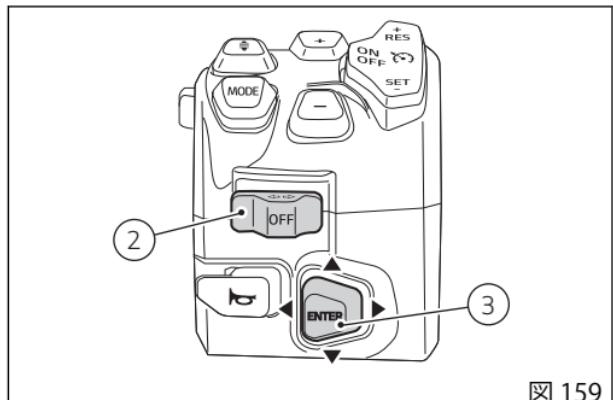


図 159

### 参考

この接続を有効に保つには、Wi-Fi ネットワークの範囲内(20/25 m - 65.6/82 ft)にいる必要があります。そうでないと、他の Wi-Fi ネットワークと同様に切断されます。この段階では、音声は引き続きインターホンを介して管理されるため、着信があった場合、ヘルメットを着用していない場合は音声を携帯電話に戻す必要があります。

## 警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

エンジンとエキゾーストシステムが高温の間は、カバーシートが破損するおそれがありますので、バイクをカバーしないでください。

## 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック(ディスクロック、リアスプロケットロック等)は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

## 燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグが収まる給油口より低くなければなりません。

### 警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。

キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。

キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。

このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

### 警告

!  
オクタン価が95以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

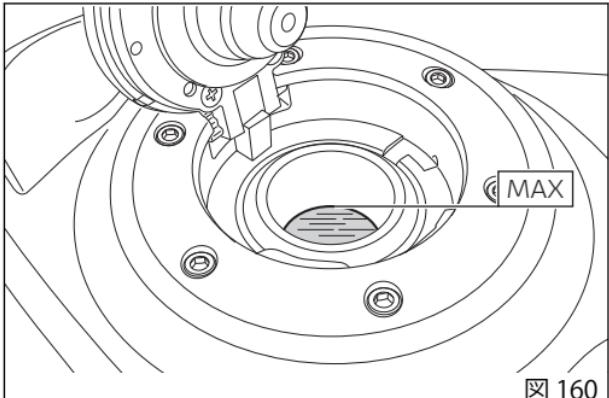


図 160



### 警告

この車両にはエタノール含量が10%以下の燃料(E10)のみ使用することができます。

エタノール含量が10%以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が10%以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## 付属アクセサリー

- パッセンジャーシート(1)下部に以下のツールキット(2)が装備されています。
- (2) チェーン張力ゲージ
  - (3) 六角レンチ 4 mm (0.15 in)
  - (4) ヒューズ用ピンセット
  - (5) 3つのボンベと工具を含むタイヤ修理キット

### 警告

タイヤ修理キットの取扱説明書が付属します。

ボックス内のツールを取り出すには、「シートの取り外し」の記載に従ってパッセンジャーシートを取り外す必要があります。

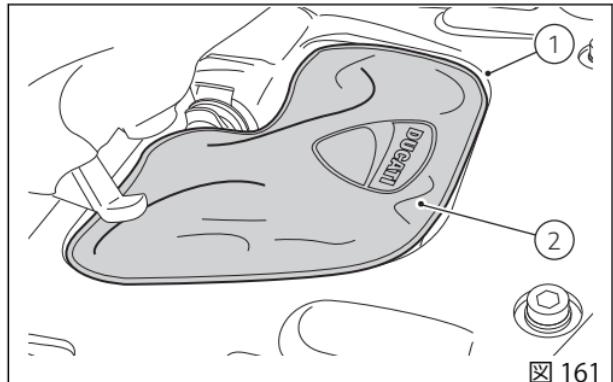


図 161

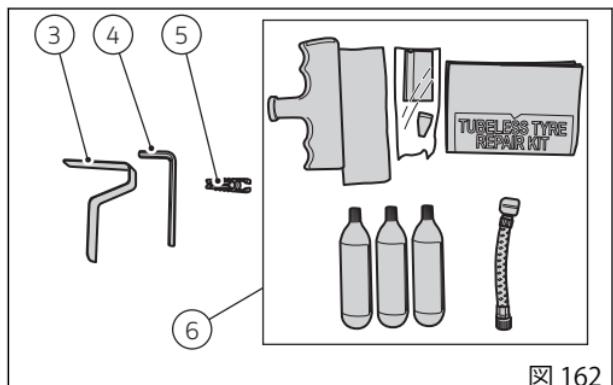


図 162

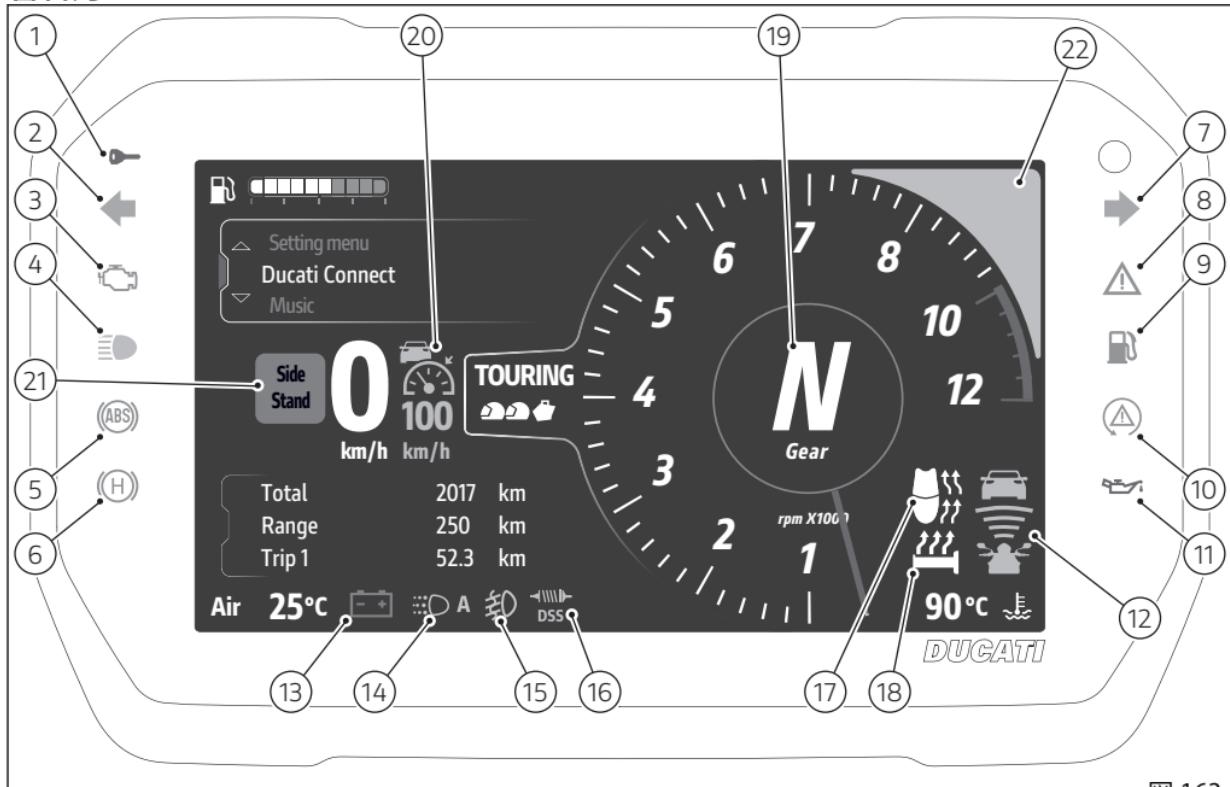
## インストルメントパネル(ダッシュボード)

### インストルメントパネル

本車両には、6.5 カラー TFT ディスプレイを備える Bosch インストルメントパネルが搭載されています。

インストルメントパネルには、安全運転に必要なすべての情報が表示され、車両の設定やパラメーターをカスタマイズすることができます。

## 警告灯



番号	説明	色
1	イモビライザー	赤色
2	左ターンインジケーター	緑色
3	MIL <ul style="list-style-type: none"> <li>エンジンマネジメントエラーが発生すると警告灯が点灯します。急な加速や追い越し運転は避け、Ducati 正規サービスセンターまでゆっくりと走行し、故障の修理をご依頼ください。</li> <li>警告灯が点滅するときは、排出ガスに重大なエラーが発生しているため、触媒コンバーターを損傷するおそれがあることを通知しています。可能であればDucati 正規サービスセンターまで車両の運搬を依頼し、サービスセンターに故障の修理をご依頼ください。いずれの場合も、急な加速や追い越し運転は避けてゆっくりと走行してください。</li> </ul>	オレンジ色
4	ハイビームライト点灯	青色
5	ABS システムの不具合 <ul style="list-style-type: none"> <li>点滅：ABS は自己診断中あるいは起動しているが、性能が制限されている</li> <li>点灯：ABS コントロールユニット不具合のため、ABS が解除されているか作動していない</li> </ul>	オレンジ色
6	VHC	オレンジ色
7	右ターンインジケーター	緑色
8	一般的なエラー	オレンジ色
9	燃料リザーブ	オレンジ色
10	DAVC 診断	オレンジ色

番号	説明	色
	<ul style="list-style-type: none"> <li>点滅：DTC/DWC は起動しているが、性能が制限されている</li> <li>点灯：コントロールユニット不具合のため、DTC は解除されているか作動していない</li> </ul>	
11	<p>油圧低下</p> <p><b>重要</b></p> <p> エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。</p>	赤色
12	アダプティブクルーズコントロール車間距離の設定 (装備している場合)	緑色(ディスプレイ)
13	バッテリー残量低下	赤色(ディスプレイ)
14	DRL 点灯 (中国、カナダバージョンには装備されていません)	緑色(ディスプレイ)
15	フォグライト点灯	オレンジ色(ディスプレイ)
16	エレクトロニックサスペンション (DSS) 診断	オレンジ色(ディスプレイ)
17	ヒーテッドシート起動 (装備している場合)	白色(ディスプレイ)
18	ヒーテッドグリップ起動 (装備している場合)	白色(ディスプレイ)
19	ニュートラルギア	緑色(ディスプレイ)
20	アダプティブクルーズコントロール起動 (装備している場合)	緑色(ディスプレイ)

番号	説明	色
21	サイドスタンド	赤色(ディスプレイ)
22	DTC 介入	オレンジ色(ディスプレイ)



## 重要

ディスプレイに“TRANSPORT MODE”の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

起動時、インストルメントパネルに Ducati のロゴが表示され、LED ランプのチェックを順番に実行します。チェック終了時、インストルメントパネルには Key-OFF 前に使用していた設定モードのスクリーンが表示されます。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは以下の点検を中断します。

- ディスプレイの点検。更新情報をスタンダードスクリーンに表示します。
- 警告灯の点検。その時点で実際に起動しているもののみ点灯します。

## 画面上の主要な要素

インストルメントパネルには、メインが画面(図164)とDucati Connect画面(図165)の2つの画面が用意されており、運転に必要なすべての情報と項目が表示されます。Ducati Connect画面は「Ducati Connect」機能を起動している時にだけ表示されます(ページ53)。

測定単位は、「Setting menu(設定メニュー)」内の「Measurement units(測定単位)」機能から変更することができます(ページ289)。

下表には、利用できる項目を一覧で示します。

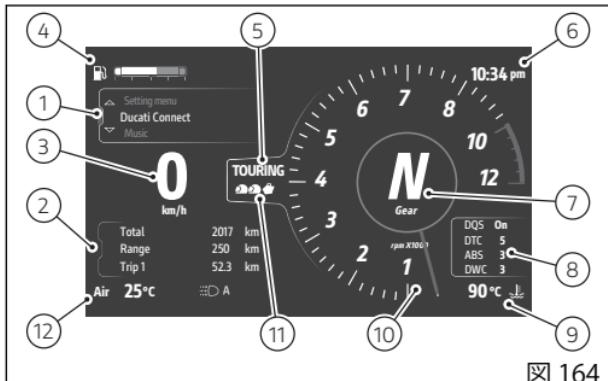


図 164

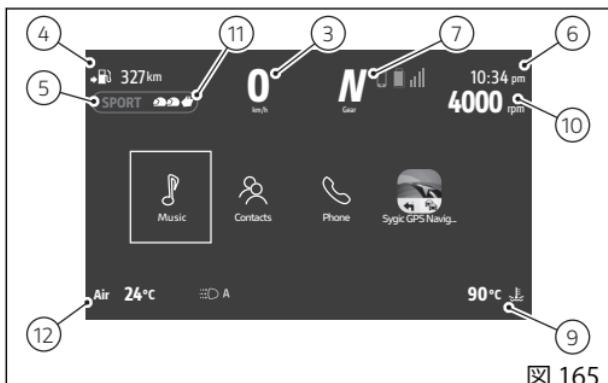


図 165

番号	説明
1	インターラクティブメニュー
2	Info display (情報表示)
3	速度 速度は 5% 増加した速度値と設定単位 (km/h または mph) で表示されます。
4	燃料レベル 棒グラフ(4、図164)または航続可能距離(キロメートルまたはマイル)(4、図165)の2通りの表示が可能です。 「Setting menu (設定メニュー)」内の「Fuel indicator (燃料計)」機能から設定することができます(ページ 255)。
5	使用中のライディングモード 「ライディングモード」の章を参照してください(ページ 185)。
6	時計 12 時間制と 24 時間制を選択できます。「Setting menu (設定メニュー)」内の「Date and Time (日付と時間)」機能から設定することができます(ページ 264)。
7	ギア
8	パラメーターウィンドウ 使用中のライディングモードで設定されている DQS、DTC、ABS、DWC パラメーター値を表示します。走行速度が 5 km/h (3 mph) を上回ると、ウィンドウは表示されなくなります。

番号	説明
9	<p>エンジンクーラント温度(°Cまたは°F)          エンジン温度の表示範囲は+40°C～+150°C(+104°F～+302°F)です。          エンジン温度が+40°C(+104°F)を下回っている場合は、「Low」と表示され、エンジン温度が+150°C(+302°F)を超える「High」が赤色で点滅表示されます。</p>
	<p><b>警告</b>   過熱状態の時は、冷却システムがエンジン温度を下げるができるように、できるだけ低速で走行してください。低速で走行できない交通状況の時は、停車してエンジンを切ってください。          エンジンが過熱した状態で車両を使用し続けると、深刻な損傷を引き起こすことがあります。          エンジンが通常の温度に戻ってから、インストルメントパネルの警告灯を確認しながら走行してください。</p>
10	<p>タコメーター          「エンジン回転数表示」の章を参照してください(ページ188)。</p>
11	<p>プリロードプロファイル起動          「プリロード」の章を参照してください(ページ189)。</p>
12	<p>外気温(°Cまたは°F)</p> <p><b>参考</b>   エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。</p>

## インタラクティブメニューと情報表示

「インタラクティブメニュー」には、ライダーがジョイスティックを使用して起動できる一連の機能が含まれています。この機能を有効にすると、インタラクティブ操作が可能なウィンドウが表示されます。インタラクティブメニュー内の機能一覧は、使用しているライディングモードによって異なります。

利用可能な機能が3行で表示されます。中央の行に表示されているのが、選択している機能です。

「Info display (情報表示)」メニューには、利用できるトリップ情報に関するメーター類がすべて入っています（ページ 196 参照）。

いずれかのメニューを選択すると、有効なフレーム（A、図 166）が表示され、ジョイスティックでブラウズとメニュー操作が可能になります。

「Interactive menu」と「Info display」セクション間の移動は、

- 「インタラクティブメニュー」が選択されているときに、ジョイスティックを ▼ の位置に長く押すと、「Info display」（C、図 166）に選択が移動します。
- 「Info display」が選択されているときに、ジョイスティックを ▲ の位置に長く押すと、「インタラクティブメニュー」に選択が移動します。

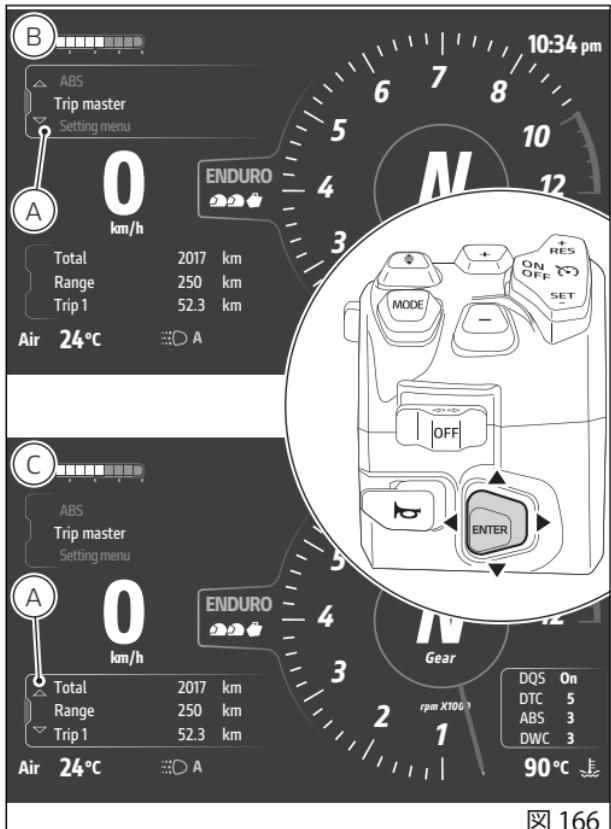


図 166

クティブメニュー」(B、図166)に選択が移動します。

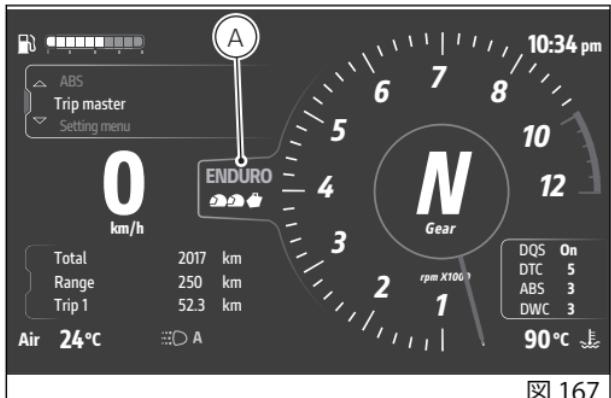
## Riding Mode

4通りのライディングモード：SPORT、ENDURO、URBAN、TOURINGが用意されています。

使用しているライディングモード名が画面中央に表示されます(A、図167)。

ライディングモード名とタコメーターは、それぞれのライディングモードの色で表示されます。

各ライディングモードに関連するパラメーターは、エンジン、DTC、ABS、DWC、フロントサスペンション、リアサスペンション、プリロード、DQSです。それぞれのライディングモードのパラメーターは、「Setting menu(設定メニュー)」内の「Riding Mode(ライディングモード)」機能から変更することができます(ページ221)。



## ライディングモードの変更

- ボタン(B、図 168)を押します。
- 専用画面が表示されます(図 169)。ジョイスティック▲▼を使用して選択可能なライディングモードをスクロールし、各パラメーターと設定値を表示することができます。
- 「ENTER」を押して決定します。

設定を変更せずにウィンドウを閉じるには、ジョイスティックを◀の位置に長く押します。

新しいライディングモードが決定されると、インストルメントパネルは以下の検証を行います。

- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップが開いている場合は、「Close throttle(スロットルを開けてください)」の文字が表示されます。スロットルグリップが閉じられたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。
- 走行速度 5 Km/h (3 mph) 以下でスロットルグリップは閉じていても、ブレーキがかけられている場合は、「Release brakes(ブレーキを放してください)」の文字が表示されます。ブレーキが放されたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

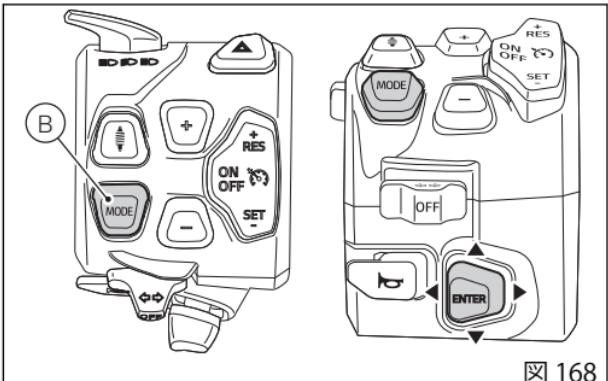


図 168

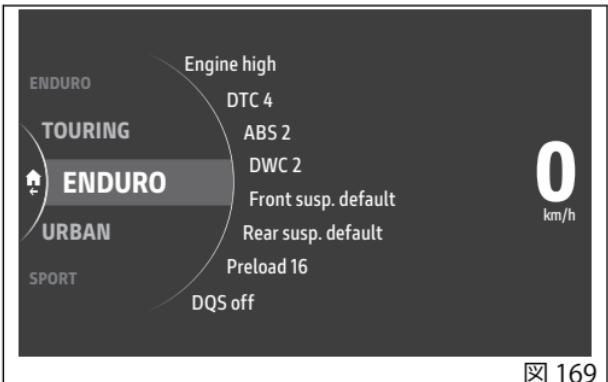


図 169

- 上記の両方に相当する場合は、「Close throttle and release brakes (スロットルを閉じて、ブレーキを放してください)」の文字が表示されます。両方の条件が満たされたときにのみ、新しいライディングモードが保存され、メイン画面に戻ります。

上記のいずれかの条件が表示されてから5秒以内にライディングモードの変更を有効にする条件が満たされなかった場合は、選択手順は中止されます。インストルメントパネルは設定を変更せずにメイン画面に戻ります。

## 警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中に変更を行なう場合は十分にご注意ください(低速での変更をお勧めします)。

## エンジン回転数表示

エンジン回転数は、タコメーターに灰色の軌跡で表示されます(A. 図 170)。

オドメーターが最初の1,000 km(600 mi)に達するまで(慣らし運転期間中)、もしくは初回定期点検までは、エンジン温度に関係なく6,000 rpmで仮想リミッターが設定されています。仮想リミッターでは、軌跡がオレンジ色で表示されます。

慣らし運転期間終了後、または初回定期点検の実施後、仮想リミッターはエンジンが十分温まっていない状態でエンジン回転数を抑える指示として表示されます。仮想リミッターのしきい値は、エンジン温度に応じて変化します。

- エンジン温度が40°C(104°F)を下回っている場合、6,000 rpmを超えるとタコメーターの軌跡がオレンジ色に変わります。
- エンジン温度が40°C(104°F)～60°C(140°F)の場合、8,000 rpmを超えるとタコメーターの軌跡がオレンジ色に変わります。
- エンジン温度が60°C(140°F)を上回っている場合、タコメーターの軌跡はオレンジ色に変わりません。

エンジン回転数表示の軌跡がオレンジ色の点滅になると、シフトアップするタイミングであることを示します。

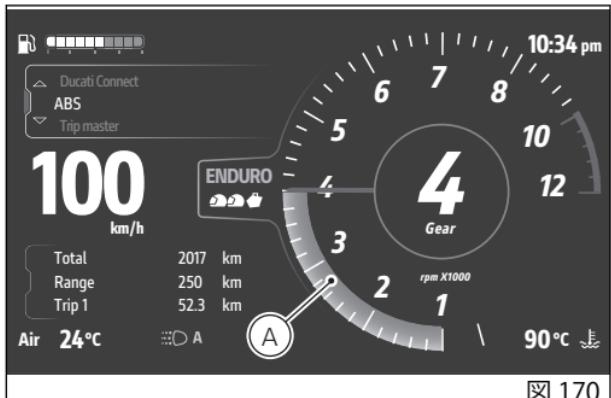


図 170

リミッターが作動(オーバーレブ)すると、軌跡が赤色に点滅します。

回転数が1,000 rpmを下回っている場合は、軌跡は表示されません。

## Preload

この機能ではプリロードプロファイルをいつでも変更することができ、使用中のライディングモードのサスペンション調整を行います。

- ボタン(A、図 171)を押し、専用メニューを起動します。
- ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するプロファイルを選択できます。
  - Rider (ライダー)
  - Rider / baggage (ライダー / 荷物)
  - Rider / passenger (ライダー / パッセンジャー)
  - Rider / passenger / baggage (ライダー / パッセンジャー / 荷物)
  - Auto-leveling (オートレベルリング)
- 「ENTER」を押して決定します。

セットアップのプロファイルは、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Preload (プリロード)」機能からパーソナライズすることができます(ページ 248)。

## Auto-leveling (オートレベルリング)

「Auto-leveling (オートレベルリング)」モードでは、プリロードの位置を変えることで自動的に車高を調整します。「Auto-leveling (オートレベルリング)」モードを選択すると、プリロード制御システムが現行セットア

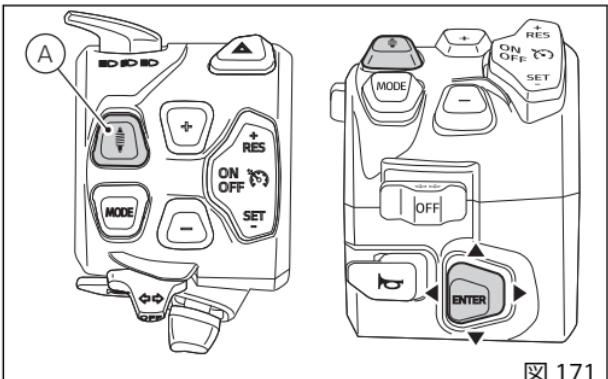


図 171

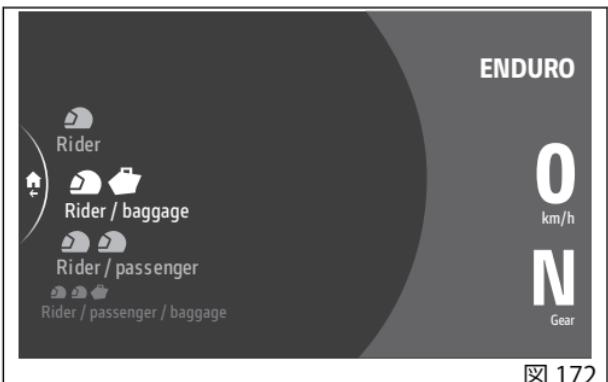


図 172

ップを学習し、例えば負荷の増加による車高の低下を補正するなどして、事前設定されている車高を回復するために最適なプリロード設定を計算します。

## DSSシステム(ドゥカティスカイフックシステム)

DSS(ドゥカティスカイフックシステム)はサスペンションダンピング、つまりサスペンションの吸収能力に作用する力を制御するシステムです。車両のサスペンションにはダイナミック性能の点から通常2つの目的があります。車体(ライダー)への影響を考慮して、路面の起伏を吸収すること、そしてホイールとアスファルトとの接地を高めることです。DSSシステムには、性能を維持しながら通常のパッシブサスペンションで得られるコンフォートを向上させる目的があります。

DSSシステムは車両に装備されている複数のセンサーを使用して、セットアップと垂直方向・進行方向の動きを特定します。それに対してサスペンションダンピングをリアルタイムで適応させます。その結果、車両本体や運転性能に影響を与えることなく、アスファルトの凹凸を十分に吸収することができるより快適になりました。ブレーキング時やアクセルを開けたときに見られる縦ゆれの動きなど垂直方向の動きが最小限に抑えられます。

DSSシステムは車両のライディングモードと完全に一体化されています。ライディングモードを選択するこ

とにより、サスペンションの基本動作、特徴、それに伴う車両の特徴を決定することができます。車両の動きに合わせてDSSはその動作を修正します。これはライディングモードとは独立して行われますが、サスペンションの基本動作はやはりライディングモードにより決定されます(つまり、ライディングモード URBANではより快適に、SPORTではよりハードになります)。

ライディングモードURBANとTOURINGを例として考えてみると、より理解しやすいでしょう。ライディングモードURBANは市街地での運転に適するように設定されています。したがって、サスペンションの基本動作はアスファルトの凹凸を最大限に吸収するよう設定されており、このため一般的により快適なサスペンションになります。ライディングモードTOURINGはツーリング走行のために設計されています。ツーリング走行は車両を酷使するため、サスペンションの基本動作にはよりハードでコントロールされたものが要求されます。いずれの場合にも、車両の挙動、特にセットアップや垂直方向・進行方向の動きが、快適さを損なったり車両の性能に影響を及ぼしたりするときは、DSSシステムが介入します。一定速度で運転中、ブレーキング時あるいは加速時等に関わらずシステムは介入を行います。

バッテリーを保護するため、次の2つの条件が想定されています。

- 1) エンジンが起動している状態で、インストルメントパネルを切らずにエンジンを切ると、30秒後にサスペンションへの電源供給が停止します。
- 2) エンジンが停止している状態で、エンジンをかけずにインストルメントパネルを起動すると、30秒後にサスペンションへの電源供給が停止します。

### 参考

これらのサスペンションは電源が供給されていないと、ダンピングが強くかかるため車両が停止のように非常に硬くなっています。サスペンションに電源が供給されている状態から電源供給が停止した状態への移行は、はっきりと分かります。

下表には ライディングモードとそれに対応するサスペンションの動作が記載されています。

ENDURO	ライディングモード ENDURO を選択すると、DSS システムはサスペンションの基本動作を設定し、オフロードで典型的な凹凸を吸収し、オフロードで見られるグリップタイプに合わせて進行方向の動きを向上させます。
SPORT	ライディングモード SPORT を選択すると、DSS システムはサスペンションの基本動作をよりハードにし、凹凸の少ない状態の良い路面を走行するための設定を行います。その結果、車両の反応が非常に良いコントロールされたものになり、車両の性能を最大限に活かした運転が可能になります。
TOURING	ライディングモード TOURING を選択すると、DSS システムはサスペンションの基本動作をツーリング走行用に設定します。そのため、快適かつコントロールされた基本動作となります。
URBAN	ライディングモード URBAN を選択すると、DSS システムは市街地の道路の凹凸をよく吸収できるサスペンションの基本動作に設定します。同時に車両の高い動的制御と、レベルの高いコンフォートを実現します。

DSSシステムのデフォルト設定は、「Setting menu(設定メニュー)」内の「Suspension(サスペンション)」機能から変更できます(ページ246)。フロントフォークとショックアブソーバーの動作の基準となる硬さをライディングモードごとに個別に増減させることができます。「Soft」設定を選択すると、DSSはよりソフトになるようサスペンションの特性を変更します。逆に「Hardest」設定を選択すると、DSSはよりハードになるようサスペンションの特性を変更します。

さらにDSSシステムは、ライダーのみの設定からライダー+パッセンジャー+バッグの設定まで車両積載設定と相互に作用します。別の積載設定を選択すると、負荷があつても運転中に適切な調整が行えるよう、リアショックアブソーバーのプリロードを変更するだけでなく、車両の動的制御を決定するパラメーターにも影響を与えます。そのため車両積載設定の選択することで、こうした車両のダイナミックを最適化してくれます。

ライディングモードENDUROで小さな凹凸のあるオフロードをツーリング走行するには、車両の負荷をライダーのみに設定することが推奨されます。逆に激しい凹凸のあるオフロードをスポーツ走行するには、パッセンジャーと荷物を搭載する設定まで徐々に負荷設定を上げていくことが推奨されます。



## 警告

DSSシステムの設定は車両積載の設定に大きく依存しています。実際の負荷と設定積載条件が異なると、システムの最適な動作は保証できません。DSSシステムは車両の標準スプリングで調整されています。システムに関連する部品を変更すると、システムおよび車両の最適な動作を維持できない可能性があります。

## 最小プリロード

この機能により、リアショックアブソーバーのプリロードを最小に設定し、車高を低くして足つきをよくすることができます。

### 起動：

- 1) ボタン (A、図 173) を 2 秒間押します。
- 2) 起動を確認するために、インストルメントパネルに「Min (最小)」(B、図 173) が表示されます。



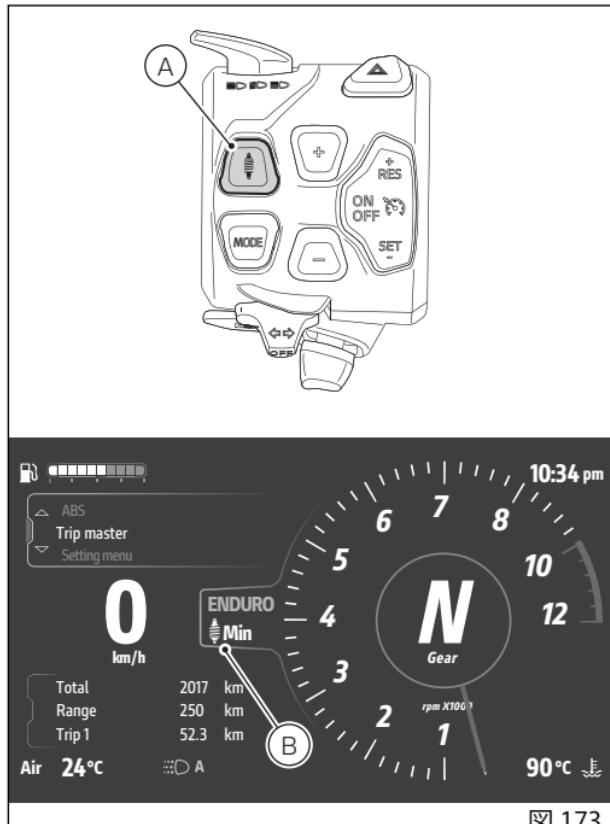
プリロードを最小にすることで、タウンユースなどで足を地面につけやすくする一方、リーンアングルや地上高は確保しない設定となります。



車両速度が 95 km/h (59 mph) 以下の場合に限り、手動でのみ起動することができます。規定の速度よりも速い速度で起動しようとした場合、特定の警告メッセージが表示されます。

### 解除：

この機能は、速度が約 115 km/h (71 mph) を超えると、自動的に解除されます。解除されたのち、プリロードは、特定のライディングモード、あるいは選択されたプリロードに従って以前のレベルに戻ります。



さらに、上記のおよそ 115 km/h (71 mph) 未満の速度の場合でも、ボタン (A、図 173) を 2 秒間押し続けることで、機能を手動で解除することもできます。

## Info display (情報表示)

「Info display (情報表示)」メニューには、利用できるトリップ情報に関するメーター類がすべて入っています(A、図 174)。

「Info display (情報表示)」を選択するには、ジョイスティックを ▼ の位置に長く押します。

情報が 3 行に表示され、選択している情報は 2 行目に表示されます(B、図 174)。「Info display (情報表示)」メニューを選択すると、ジョイスティック ▲ ▼ を使用して情報リストをスクロールすることができます。

情報が表示される順番は、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Info display (情報表示)」機能から変更することができます(参照 ページ 252)。

トリップ情報の測定単位は、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Measurement units (測定単位)」機能から変更ができます(参照 ページ 289)。

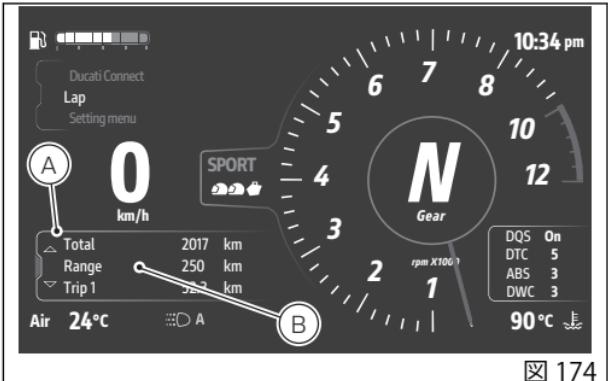


図 174

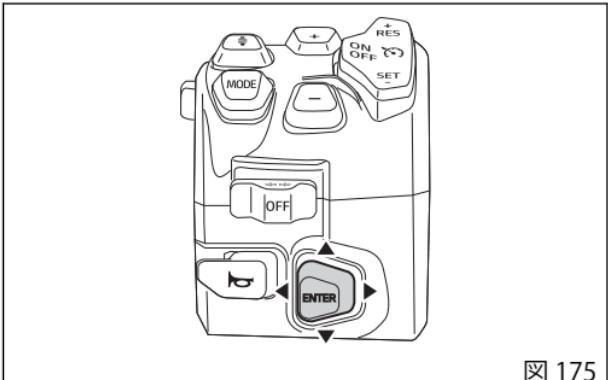


図 175

下表に「Info display (情報表示)」メニュー内にある情報を一覧で示します。

名称	説明	測定単位 / 形式
Total	総走行距離	km、miles
Range	航続可能距離 燃料レベル表示モードを「Level」に設定している場合にのみ表示 (ページ 255)	km、miles
Trip 1	部分走行距離 1	km、miles
Ø consumption 1	平均燃費 1	L/100、km/l、mpg UK、mpg US
Ø speed 1	平均速度 1	km/h、mph
Trip 1 time	走行時間 1	hhh:mm
Trip 2	部分走行距離 2	km、miles
Inst. consumption	瞬間燃費	L/100、km/l、mpg UK、mpg US
Front tyre	フロントタイヤ空気圧 (アクセサリーとして購入いただけるタイヤ空気圧センサーを搭載している場合にのみ表示されます)	bar
Rear tyre	リアタイヤ空気圧 (アクセサリーとして購入いただけるタイヤ空気圧センサーを搭載している場合にのみ表示されます)	bar

## Trip 1 情報のリセット

「Trip 1」、「 $\emptyset$  consumption 1」、「 $\emptyset$  speed 1」、「Trip1 time」のトリップ情報は、それぞれの項目を選択してから「ENTER」を押してリセットすることができます。「Rest trip1 info? (トリップ2情報をリセットしますか)」と「Yes」、「No」が表示されます(図 176)。ジョイスティック◀▶を使用して「Yes」または「No」を選択し、「ENTER」を押して決定します。Trip 1 の情報をリセットすると、参照するすべてのカウンター類もリセットされます。

## Trip 2 情報のリセット

「Trip 2」のトリップ情報は、項目を選択してから「ENTER」を押してリセットすることができます。「Reset trip2 info? (トリップ2情報をリセットしますか)」と「Yes」、「No」が表示されます(図 177)。ジョイスティック◀▶を使用して「Yes」または「No」を選択し、「ENTER」を押して決定します。

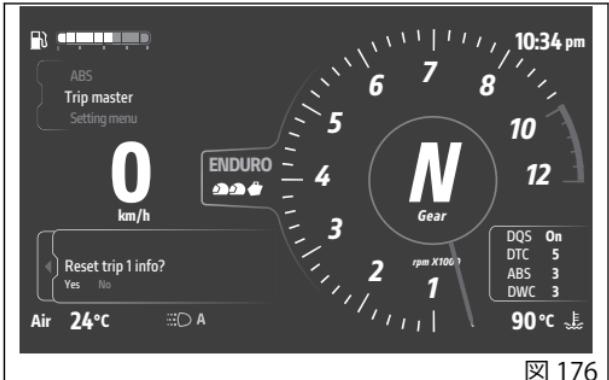


図 176

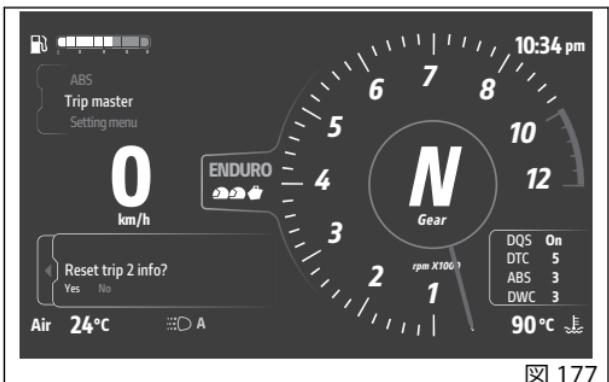


図 177

## クルーズコントロール



### 重要

この機能は、先進運転支援システム (ARAS) を装備していない車両でのみ利用できます。

クルーズコントロール(CC)は、走行速度を一定速度に維持してライダーを支援します。システムは、システムの限界範囲内で加速と減速を自動で制御して、設定速度を維持します。この機能により、高速道路の長時間走行でも快適に運転することができます。

アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC、  
ページ 12 参照) を搭載する車両の場合、このシステム  
がクルーズコントロール (CC) 機能に代わります。



### 警告

クルーズコントロールは安全システムではなく、ライダーが快適に運転できるようサポートするものです。ライダーを支援するためのものであり、ライダー自身の運転に取って代わるものではありません。車両の操縦、安全な速度での走行、交通状況に応じた前走車との適切な車間距離の維持、運転する国の交通法規の遵守は、常にライダーの責任において実施されるべきものであり、衝突を回避するために積極的にブレーキやアクセル操作を行うこともライダーの責任です。運転中は常に両手をハンドルに添えて、運転に細心の注意を払ってください。

クルーズコントロールは、高速道路や自動車専用道路等での使用を想定して設計されています。市街地や山道、オフロードでの使用は想定されていません。悪路(砂利道やハイドロプレーニング現象が起こりやすい濡れたアスファルト路面など) や悪天候下(凍結、雪、霧、雨、あられ)では、クルーズコントロールを使用しないでください。こうした状況下では、クルーズコントロールが機能を適切に発揮できず、正常に動作できない可能性があります。

また、カーブの多い道路、高速道路の出入口、工事中の道路など、複雑な道路環境ではクルーズコントロール機能を使用しないでください。

## 警告

クルーズコントロールは、ABSがレベル2または3で起動し、トラクションコントロールが起動している場合にのみ利用できます。

## 警告

クルーズコントロールは安全システムではありません。減速や加速の操作を行いますが、緊急ブレーキは行いません。システムの制動能力には限界があります。周囲の環境や交通状況によっては、システムが予期せず反応して、減速や加速をすることがあります。そのため、ライダーはバイクを確実に制御できるよう、常にハンドルバーに両手を置いたまま運転する必要があります。ライダーがスロットルグリップを回すと、クルーズコントロール機能のオーバーライドが起こり、クルーズコントロールがブレーキ操作に介入しなくなることがあります（「オーバーライド」を参照ください）。

## 設定可能な機能

クルーズコントロールが起動しているときに、現在の速度を走行速度に設定することができます（「起動と停止」を参照してください）。走行中でも、設定速度の変更や速度調整の中止が可能です（「速度の変更」と「速度調整の中止」を参照してください）。

## カーブでの挙動

クルーズコントロールがカーブ走行時などの車体の傾きを検知すると、より快適に走行できるように減速します。ただし、この介入はシステムの限界範囲内で実行されます。減速度はリーン角に依存します。

## 警告

カーブの進入と出口では、システムが予期せぬ動作をして、予想外の加速やブレーキ操作を行うことがあります。半径が小さく狭いカーブや半径が変化するカーブの場合は、こうした現象が起こりやすくなります。

## 起動と停止

設定可能な最高速度は 160 km/h (98 mph) です。設定可能な最低速度は、以下のように走行ギアによって異なります。

ギア	最低速度
1速と2速	30 km/h (単位をマイルに設定している場合は 18 mph)
3速	35 km/h (単位をマイルに設定している場合は 21 mph)
4速	40 km/h (単位をマイルに設定している場合は 24 mph)

5速	45 km/h (単位をマイルに設定している場合 (は 27 mph))
6速	50 km/h (単位をマイルに設定している場合 (は 30 mph))

## **!** 警告

クルーズコントロールを有効にしている場合であっても、ライダーは常に、現地の交通法規で定められた法定速度を守り、バイクの運転規則を遵守する責任があります。

インストルメントパネル上のアイコンは、現在の設定とシステムのステータスをユーザーに通知します。

## CC の起動

CC を起動するには、ON/OFF ボタン (C) を押します。

## 速度の保存と速度調整の作動

車両の現在の走行速度を設定速度として保存し、クルーズコントロールを作動するには、「SET/-」(E、図 178) または「RES/+」(D、図 178) を押します。保存された速度がクルーズコントロールアイコン内に表示されます (A、図 179)。

## CC の停止

クルーズコントロールを停止するには、ON/OFF ボタン (C、図 178) を押します。クルーズコントロールアイコン (A、図 179) が表示されなくなります。

## アイコン (A、図 179)

クルーズコントロールアイコンは以下のように変化します。

- 緑色と灰色：システムは起動していますが、速度調整は作動していません。速度が保存されていない場合は、点線が表示されます。そうでない場合は、最後に保存された設定速度が表示されます。

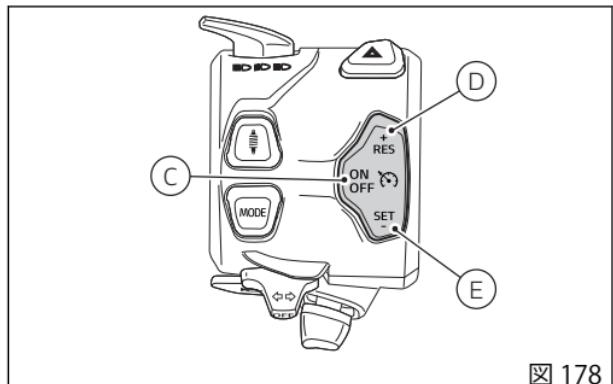


図 178

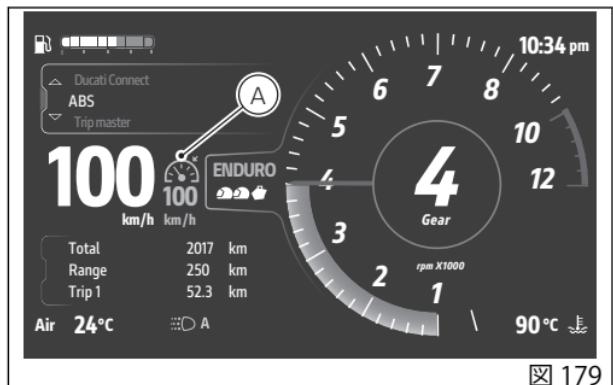


図 179

- 緑色：システムが起動し、速度調整も作動しています。
- 黄色：システムがライダーによる介入を求めています。
- 赤色：システムにエラーが発生しています。速度調整は作動していません。

## 設定速度の変更

設定速度を 1 km/h (または単位をマイルに設定している場合は 1 mph) ごと増減するには、それぞれ「RES/+」(D、図 178) または「SET/-」(E、図 178) を押して、希望する速度に合わせます。

設定速度を高速で増減するには、それぞれ「RES/+」(D、図 178) または「SET/-」(E、図 178) を長押しして、希望する速度に合わせます。

## 速度調整の中断

必要条件：クルーズコントロールが起動していること。

### 運転中の速度調整の中断

以下の方法で速度調整を中断することができます。

- ライダーがブレーキをかけた場合。
- アクセルを放した状態から、アクセルを操作した場合。

また、以下のような場合には、速度調整が中断されます。

- クラッチレバーが長い間引かれている場合。
- ギアがニュートラルに入れられた場合。
- 走行速度が 180 km/h (112 mph) を超えた場合。
- ABS やトルク制御システムの介入が長引いた場合。
- 車体のリーン角度が 50° を超えた場合。

この状態では、クルーズコントロールアイコンの設定速度が灰色になります。

システムの動作条件が満たされれば、「RES/+」ボタン(D、図 178) または「SET/-」ボタン(E、図 178) を押してクルーズコントロールを再開することができます。「RES/+」(D、図 178) を押した場合、設定速度は最後に保存された速度になります。「SET/-」(E、図 178) を押した場合、設定速度はその時点の走行速度になります。



### 警告

道路状況、交通状況、または天候が適切でない場合には、保存されている設定速度でクルーズコントロールを再開しないでください。それでも再開した場合は、事故の危険が高まります。

## Override (オーバーライド)

クルーズコントロールを使用しているときでも、手動で加速することができます。アクセルが手動で操作されると、クルーズコントロールは速度調整を一時的に中断します。走行速度 180 km/h (112 mph) 以下の操作が行われた場合、アクセルを放した時点で、クルーズコントロールは自動速度調整を再開します。



### 警告

ライダーは常に現地の交通法規で定められた法定速度を守り、バイクの運転規則を遵守する責任があります。

### ライダーによる介入の要請

状況によっては、クルーズコントロールがライダーによる介入を求める場合があります。この要請が発せられると、クルーズコントロールアイコン(A、図179)が黄色に変わります。

これは、以下のような場合に起こります。

- エンジン回転数が 8,500 rpm に達した場合、システムは加速を中止します。このような状況では、安全に走行できるのであれば、シフトアップするようにしてください。
- 使用しているギアに対してエンジン回転数が低すぎる場合、CC はライダーによる介入を要請しま

す。このような状況では、安全に走行できるのであれば、シフトダウンするようにしてください。



### 参考

加速中でも、DQS を使用してギアチェンジが可能です。

## 不具合

故障や不具合が発生し場合は、クルーズコントロールアイコンが赤色に変わります(B、図 180)。このようになった場合は、以下のように対処してください。

1.インストルメントパネルをオフにしてから、再びオンにします。

### 参考

この操作は、安全な場所に停車している状態でのみ実施してください。

2.上記の操作を実施した後も、アイコンが赤色のまま変わらない場合は、Ducati正規サービスセンターへお問い合わせください。

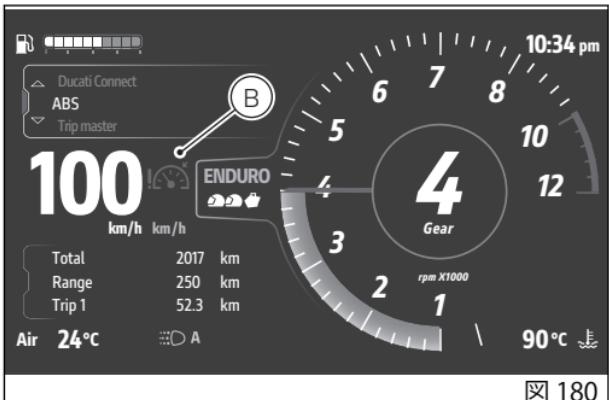


図 180

## Heated seat (ヒーテッドシート) (装備している場合)

この機能はインターラクティブメニュー内にあり、ライダーシートのヒーターの起動と設定を行います。ヒーテッドシートを装備している場合にのみ利用できます。

- ジョイスティックを ▲ の位置に長く押し、インターラクティブメニューを選択します (A、図 181)。
- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して「Heated seat (ヒーテッドシート)」を選択し (B、図 181)、「ENTER」を押します。

### 参考

ヒーテッドシートが実際に作動する(加熱される)のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。エンジン回転数が 2,000 rpm 以下では、シートのヒーター出力は 50% に制限されます。

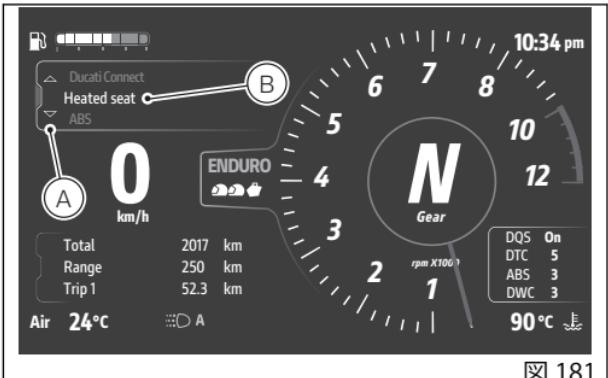


図 181

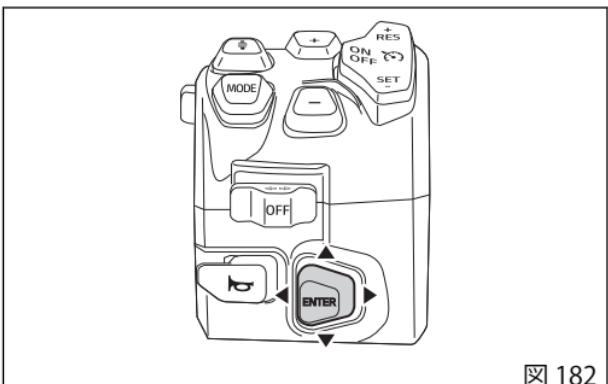


図 182

ヒーターレベルの調整ウィンドウが表示され(C、図183)、次の3通りの調節レベルから設定できます。「High」、「Low」、「Off」。

ジョイスティック▲▼を使用して、希望するレベルを選択します。

「ENTER」を押して決定し、ウィンドウを閉じます。設定を変更せずにウィンドウを閉じるには、ジョイスティックを◀の位置に長く押します。

レベルには、それぞれ対応するヒーテッドシーターアイコンがあります(D、図184)。

このアイコンは、ヒーターが作動していないときは灰色で表示されます。

ヒーターが作動しているときは、アイコンは白色になります。

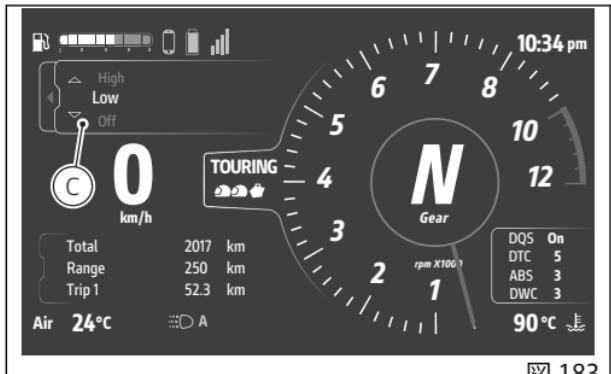


図 183

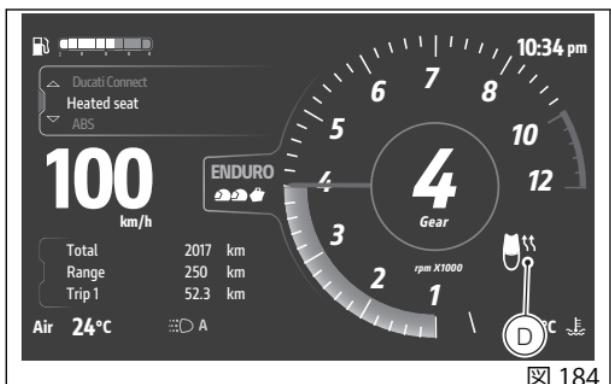


図 184

## パッセンジャーシートのヒーター

パッセンジャーシートのヒーターの起動と設定は、パッセンジャーシートの下にあるスイッチを以下のように操作してください。

- ・ 中央位置：レベルを「Off」に設定
- ・ (I、図 185) 位置：レベルを「Low (低)」に設定
- ・ (II、図 185) 位置：レベルを「High (高)」に設定

レベルには、それぞれ対応するヒーテッドシーターアイコンがあります (E、図 186)。

このアイコンは、ヒーターが作動していないときは灰色で表示されます。

ヒーターが作動しているときは、アイコンは白色になります。

### 参考

ヒーテッドシートが実際に作動する(加熱される)のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。エンジン回転数が 2,000 rpm 以下では、シートのヒーター出力は 50% に制限されます。

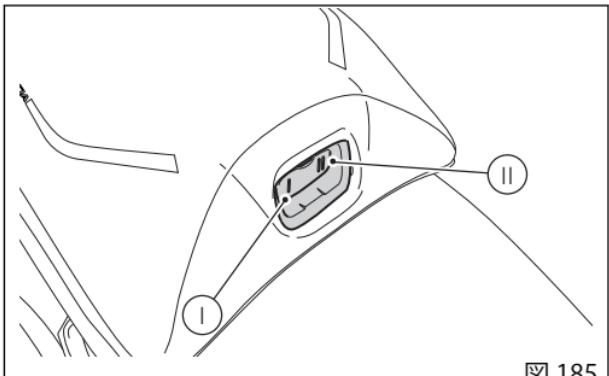


図 185

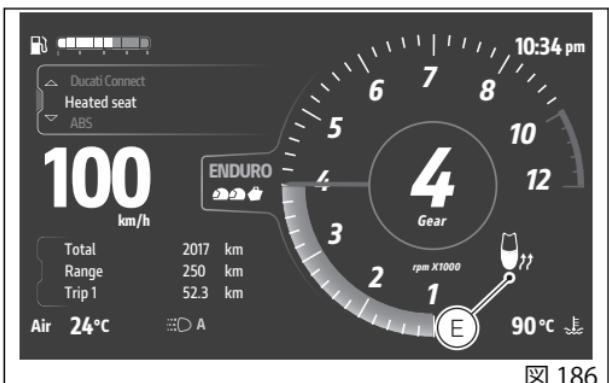


図 186

## ヒーテッドグリップ(装備している場合)

この機能でヒーテッドグリップの起動と設定を行います。ヒーテッドグリップを装備している場合にのみ利用できます。

ヒーテッドグリップの起動とレベル調整を行うには、ボタン(1)を押します。ヒーテッドグリップアイコンが大きく表示されます(A)。ボタンを押したびに、マークの上に矢印で示された「OFF」、「LOW」、「MED」、「HIGH」の各レベルに切り替わります(図中例: LOW)。

設定レベルを決定するには、ボタン(1)を3秒間押します。ヒーテッドグリップアイコンが小さく表示されます(B)。

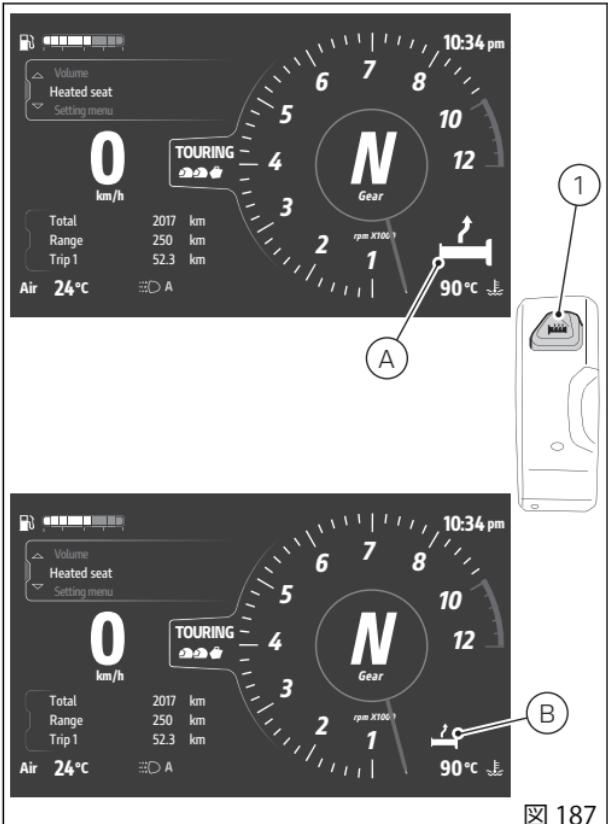


図 187

Ducati Connect画面では、ヒーテッドグリップアイコンは小さく表示されます(C)。

### 参考

ヒーテッドグリップが実際に作動する(加熱される)のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。エンジン回転数が2,000 rpm以下では、ヒーター出力は50%に制限されます。

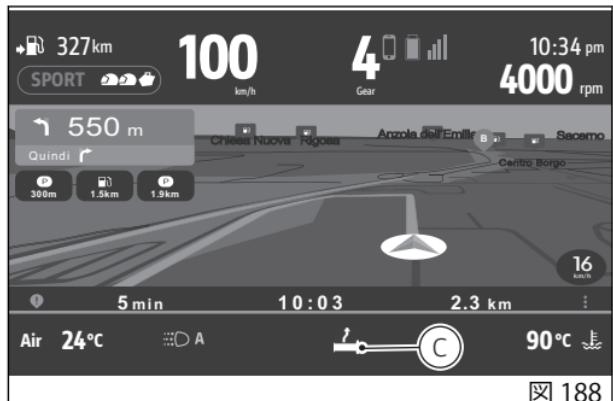


図 188

## Lap

この機能はインタラクティブメニュー内にあり、ラップタイムを記録することができます。ライディングモード「SPORT」でのみ利用できます。

- ジョイスティックを▲の位置に長く押し、インターラクティブメニューを選択します(A、図189)。
- ジョイスティック▲▼を使用して「Lap」を選択し(B、図189)、「ENTER」を押します。

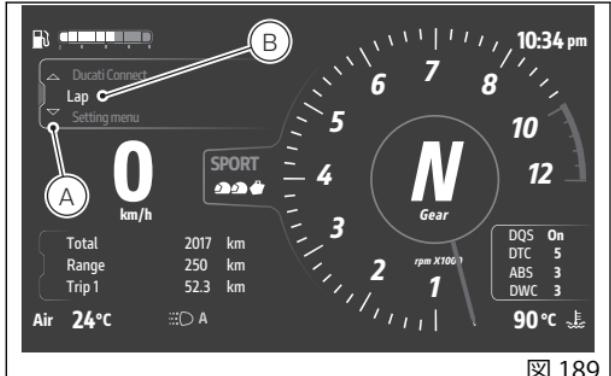


図 189

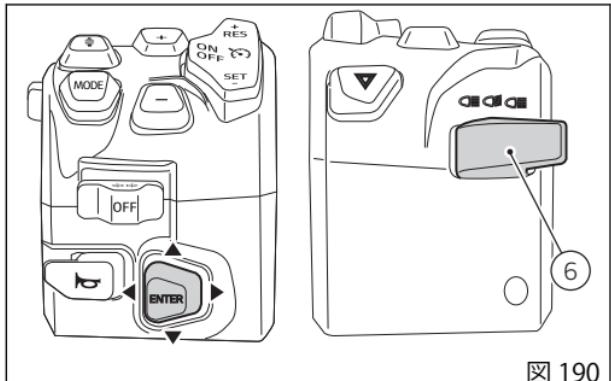


図 190

対応するウィンドウが表示されます(C、図 191)。

- 機能を停止している場合は、「Off」の文字が白色で表示され、ストップウォッチと記録可能なラップ数が灰色で表示されます(D、図 192)。「ENTER」を押すと、機能が有効になります。
- 機能を有効にしている場合は、「On」の文字、ストップウォッチ、記録可能なラップ数が白色で表示されます(D、図 192)。「ENTER」を押すと、機能が停止します。

機能が起動しているときは、ギア表示の横に「Lap」の文字が表示されます。

ストップウォッチの下には、現在のラップ数が表示されています。最大 30 ラップまで記録することができます。機能を起動してからは、ストップウォッチのスタート/ストップにはフラッシュボタン(6、図 190)を使用する必要があります。フラッシュボタンを 1 回押すと、ストップウォッチが 1 秒間点滅します。

その後フラッシュボタン(6)を押すたびに、ストップウォッチが 1 秒間点滅して直前の周回のタイムが表示されてから、周回中のタイム表示に戻ります。

直前の周回のタイムがそれまでに記録されたタイムを上回っていた場合は、記録されたベストタイムが 1 秒間点滅表示され、さらに 5 秒間通常表示されます。その後、周回中のタイム表示に戻り、ラップ数が更新さ

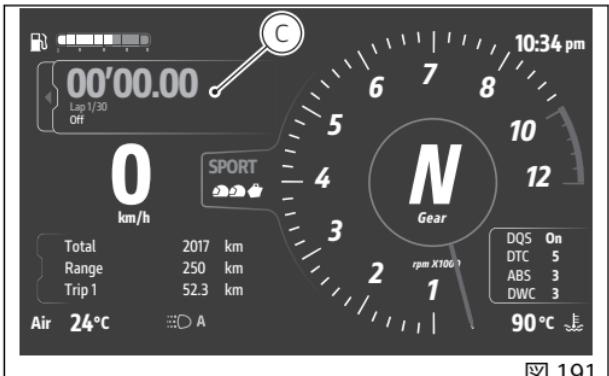


図 191

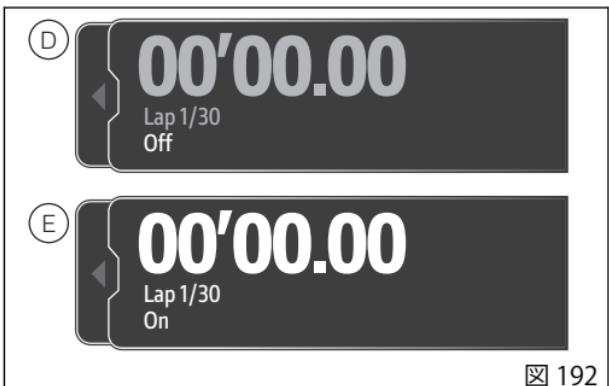


図 192

れます。30 ラップ目に達すると「Full memory (メモリー満杯)」と表示され、新たにラップタイムを記録することができなくなります。この場合に新たに記録を行うには、保存されているラップを削除する必要があります。

「Setting menu (設定メニュー)」内の「Lap」機能(参照ページ 276)から、以下の操作が可能です。

- 機能の起動または停止
- 記録ラップのデータ閲覧
- 記録データの削除

ウィンドウを閉じるには、ジョイスティックを ▲ の位置に長く押します。機能を作動させたままでウィンドウを閉じることができます。

以下のような場合には、インストルメントパネルがラップの記録を中止し、ストップウォッチがリセットされます。

- 一周目をスタートしてから 5 秒が経過しても、車両速度がゼロである場合。
- ラップ記録中に走行速度 5 km/h (3 mph) を 5 秒以上下回った場合。
- エンジンが止まった場合。

ラップごとに以下の情報が記録されます。

- Time (タイム)
- Speed max (最高速度)

- RPM max (最高回転数)



### 参考

ストップウォッチは、走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えると作動を開始します。



### 参考

ラップ記録中に、フラッシュボタン(6)を押してストップウォッチをスタート/ストップさせた場合、5 秒以内にボタンが押されてもインストルメントパネルはこの操作を無視します。

## ABS



### 警告

ABS を解除することができます。

この機能はインタラクティブメニュー内にあり、ABSシステムの解除と再起動を行います。ライディングモード「ENDURO」でのみ利用できます。

- ジョイスティックを ▲ の位置に長く押し、インタラクティブメニューを選択します (A、図 193)。
- ジョイスティック ▲▼ を使用して「ABS」を選択し (B、図 193)、「ENTER」を押します。

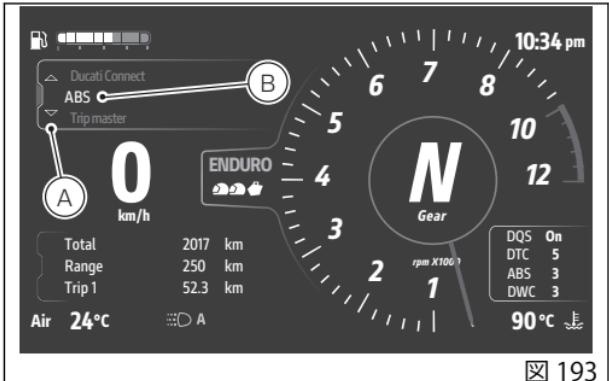


図 193

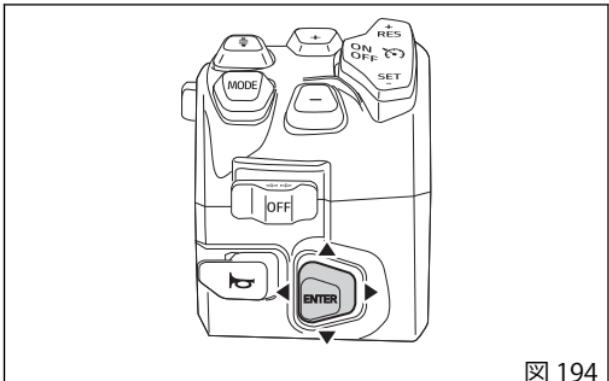


図 194

対応するウィンドウが表示されます(C、図 195)。ウィンドウの下側にABSの現在のステータス「On」が表示され、中央に「ABS Off」の文字が表示されます(D、図 196)。「ENTER」を押すと、「Wait…(お待ちください)」と数秒間表示されてから、ABSシステムが解除されます。ウィンドウの下側にステータス「Off」が表示され、中央に「ABS On」の文字が表示されます(E、図 196)。(図 196)

## 警告

ABSシステムが解除されている間は、ウィンドウが表示されたままになります。この場合、ウィンドウを閉じることはできません。ABSシステムを再起動するには、「ENTER」を押します。システムが再起動されるとウィンドウも前の状態に戻り、ジョイスティックを◀の位置に長く押してウィンドウを閉じることができます。

## 参考

「On」と「Off」間のステータス切替え時にエラーが発生した場合は、「Error」と赤色で数秒間表示されてから、ウィンドウには切替える前のステータスが表示されます。

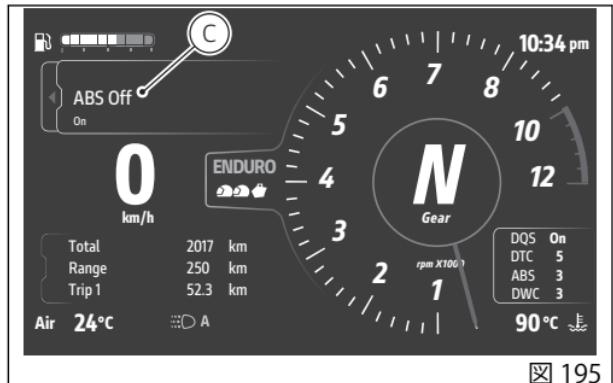


図 195

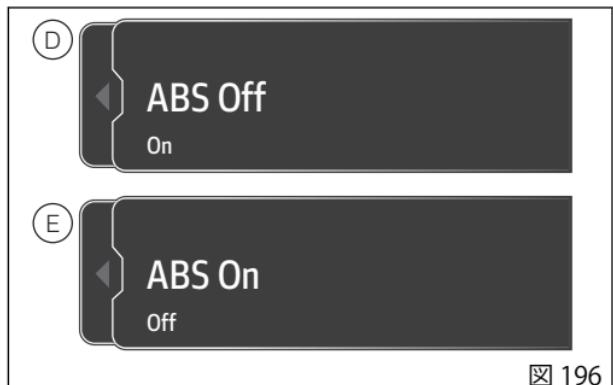


図 196

## Trip master

この機能はインタラクティブメニュー内にあり、車両の部分走行距離を算出します。ライディングモード「ENDURO」でのみ利用できます。

トリップマスターの計算は、増分モードまたは差分モードに設定することができ、一時的に停止してゼロにリセットすることができます。

- ・ ジョイスティックを ▲ の位置に長く押し、インタラクティブメニューを選択します (A、図 197)。
- ・ ジョイスティック ▲ ▼ を使用して「Trip master」を選択し (B、図 197)、「ENTER」を押します。

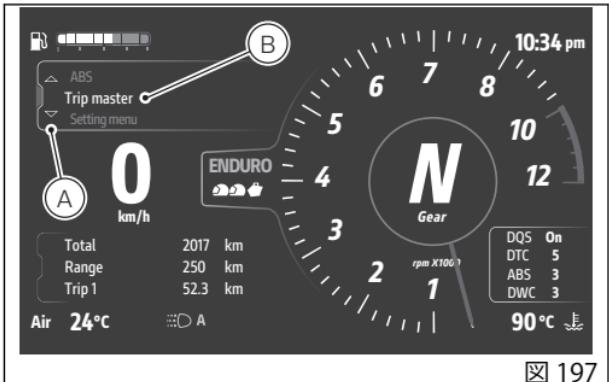


図 197

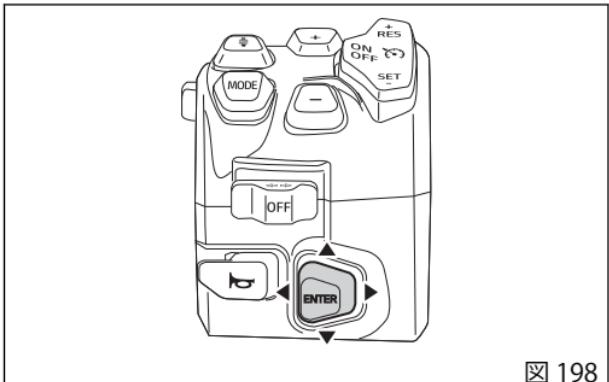


図 198

対応するウィンドウが表示され(C、図 199)、以下の操作が可能です。

- ・「On」または「Off」：カウンターの起動または停止(D、図 200)
- ・▶開始、または II 一時停止：走行距離計算の起動または停止(E、図 200)
- ・⌚リセット：カウンターのリセット(F、図 200)
- ・▲増分、または ▼差分：走行距離計算モードの変更(G、図 200)

カウンターはキロメートルまたはマイルで表示され、矢印は走行距離のカウントモード(増分または差分)を示します。

この機能を無効にすると、「On」コマンドのみが有効になります。「ENTER」を押すと、機能が起動してすべてのコントロールが有効になります。

ジョイスティック◀▶を使用して、コマンドを個別に選択します。コマンドが選択されている場合は白色で表示され、「ENTER」を押すとコマンドが有効になります。

トリップマスターが一時停止状態にあるときは、数字が点滅します。

ウィンドウを閉じるには、ジョイスティックを◀の位置に長く押します。機能とカウントを作動させたままでウィンドウを閉じることができます。

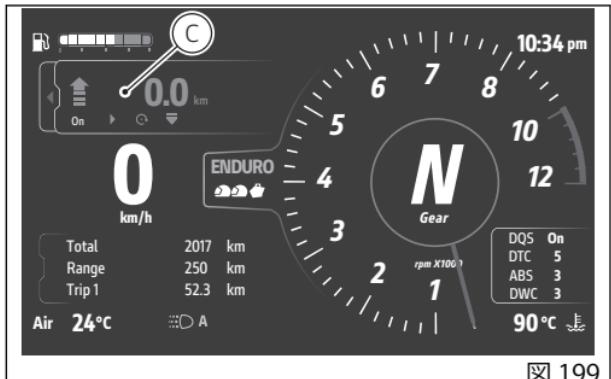


図 199

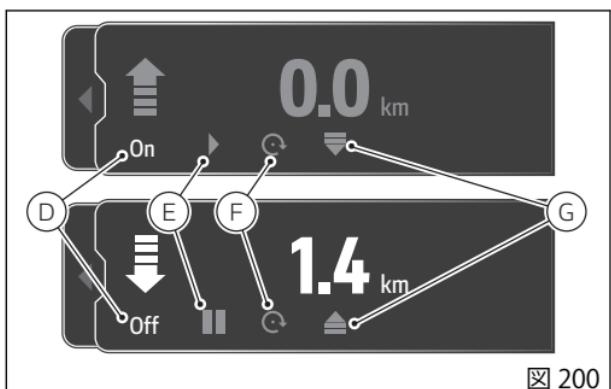


図 200

差分モードのカウンターが「0.0」キロメートルまたはマイルに達すると、トリップマスター カウンターが一時停止され、カウントモードが増分に変わります。

測定単位は、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Measurement units (測定単位)」機能から変更が可能です (参照 ページ 289)。

## Setting menu

このメニューではいくつかの車両機能の ON/OFF と設定を行います。

安全上の理由により、走行速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。設定メニューが表示されている時に走行速度が 5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニューを終了します。このメニューは車両を停止した状態で使用してください。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」(A、図 201) を選択し、「ENTER」を押します。

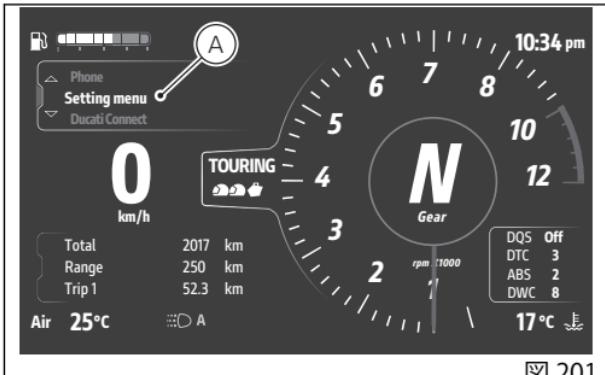


図 201

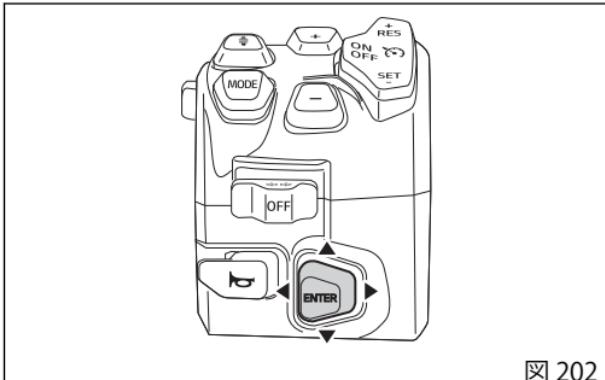


図 202

インストルメントパネルに専用画面が表示され、以下の設定項目が表示されます。

- Riding Mode
- Info display (情報表示)
- Fuel indicator (燃料計)
- DRL (装備している場合)
- Backlight (バックライト)
- PIN Code
- Blind Spot Detection (ブラインドスポット検出)  
(装備している場合、ページ 30 参照)
- Date and time (日付と時間)
- Service (定期点検)
- Lap
- Tyre calibration (タイヤキャリブレーション)
- Tyre pressure (タイヤ空気圧) (装備している場合)
- Bluetooth (ページ 42 を参照)
- Turn signals (ターンインジケーター)
- Language (言語)
- Measurement units (測定単位)
- Info

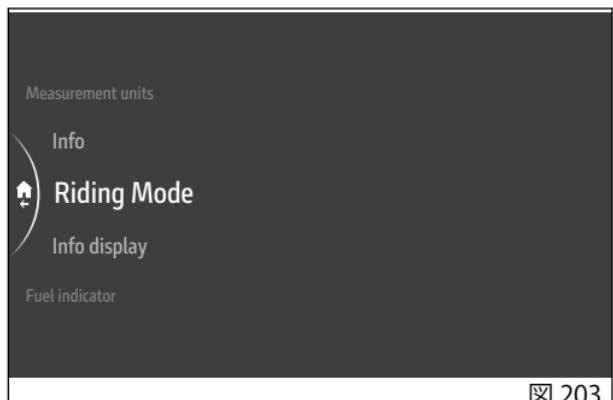


図 203

- ◀ 左に軽く押す：サブメニューを終了する。
- ◀ 左に長押しする：設定メニューを終了し、最初の画面に戻る。

設定メニューの表示中は、ジョイスティックを以下のように使用します。

- ▲ 上と下 ▼ : 表示可能な項目をスクロールして選択する。
- ENTER : 項目の選択を決定する。

## Setting menu - Riding Mode

この機能でそれぞれのライディングモードの設定が可能になります。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。

ライディングモード「Sport」、「Touring」、「Enduro」、「Urban」と「Default」(ライディングモードのひとつ以上のパラメーターが変更されている場合のみ)が表示されます。画面の右側には、現在設定されているライディングモードが表示されています(図 205)。

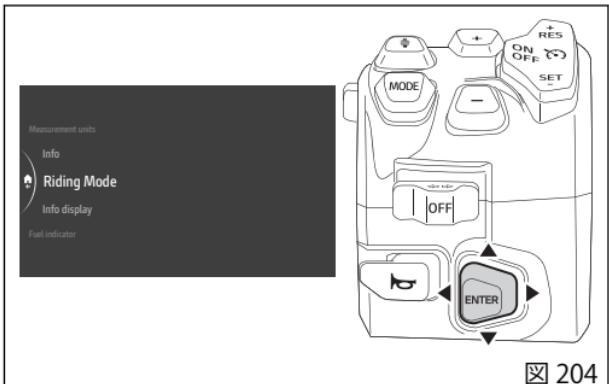


図 204

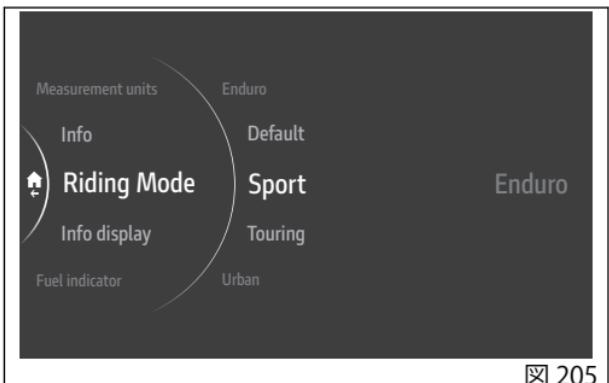


図 205

ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。

パーソナライズできるパラメーターは以下の通りです。

- エンジン
- DTC
- ABS
- DWC
- DQS
- Suspension (サスペンション)
- Preload (プリロード)
- Default (デフォルト) (ライディングモードのひとつ以上のパラメーターが変更されている場合のみ表示)

画面中央にはバイクが表示され、選択した項目に関する部位がハイライト表示されます。パラメーターを変更するには、「ENTER」を押します。

## 警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。パラメータが誤って変更された場合は、「Default (デフォルト)」機能を使用してパラメーターを回復してください。

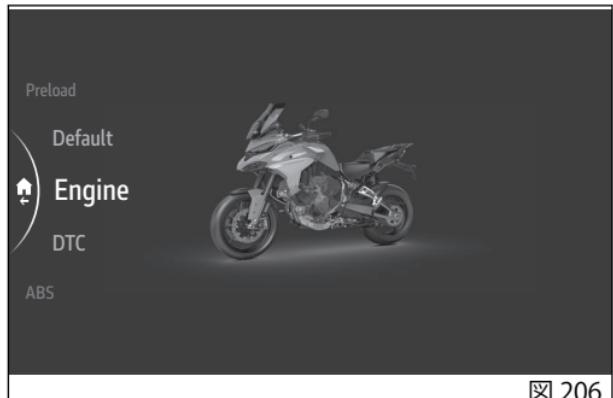


図 206

## Setting menu - Riding Mode - Engine

この機能でエンジン出力を設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「Engine」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に「High(高)」、「Medium(中)」、「Low(低)」のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定を終了します。

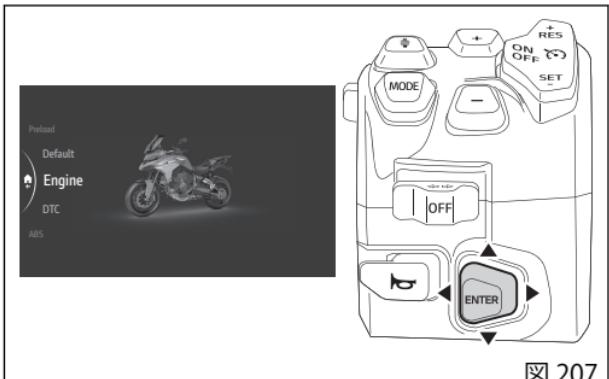


図 207

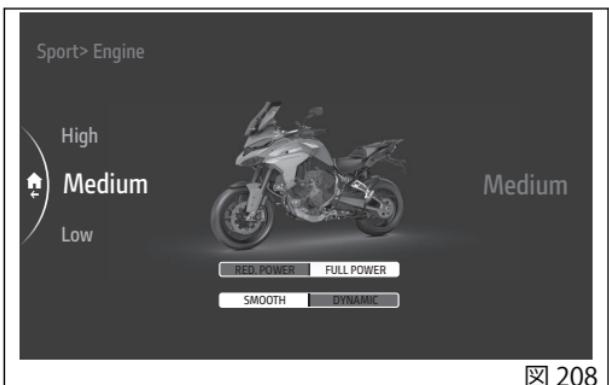


図 208

## Setting menu - Riding Mode - DTC



### 警告

DTC を「Off」に設定すると DWC も自動的に「Off」に設定され、ウィリーコントロールと車両のダイナミクスを安定させるアシストが解除されます。

ドゥカティトラクションコントロール(DTC)はリアホイールのスリップ制御を行い、8つのレベルを基に機能します。各レベルでリアホイールのスリップに対して異なる許容値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8はごくわずかなスリップを検知しただけでシステムが作動します。一方熟練ライダー用オフロード走行向けのレベル1は許容値が高く設定されており、システムの介入が最小限に抑えられます。

この機能ではDTC(トラクションコントロール)システムの介入レベルを設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「DTC」を選択し、「ENTER」を押します。

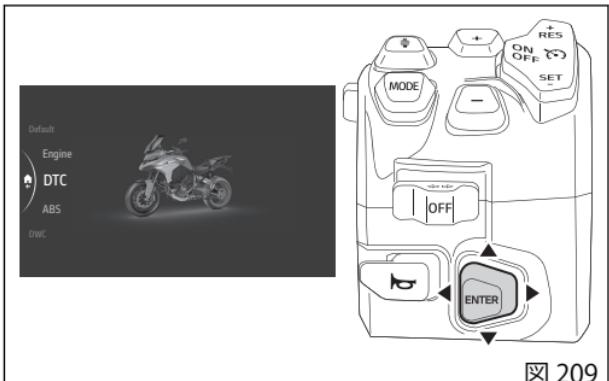


図 209

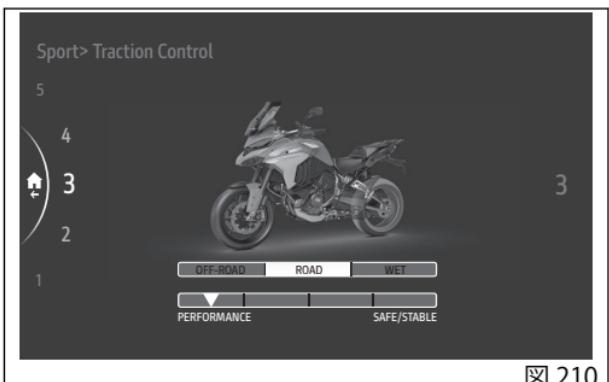


図 210

画面左側に1~8のレベルと「Off」が表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定を終了します。

## 警告

DTCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時、サーキット走行時、オフロード走行時のすべてにおいて使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

この安全システムは事故予防のためのシステムです。これらの機能は車両の運転を助け、その制御を簡単で確実なものにします。車両が走行している路面状況や道路交通法など各種規制範囲を超えて、合理的に許容されるスピードを超えて走行するような運転に寄与するシステムではありません。

下表は、各ライディングタイプに適したDTC介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

DTC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
OFF		DTC システムは解除されています。	NO
1	OFF-ROAD Professional	このレベルは特に熟練したライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このモードでは、DTCはリアホイールの激しいスピンを許容します。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	NO
2	OFF-ROAD	このレベルは初級ライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。システムがこのレベルに設定されているときは、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。	ライディングモード「ENDURO」のデフォルトレベル

DTC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
3	SPORT / TRACK	このレベルは特に熟練したライダー向けにグリップの良い路面でのサーキット走行用に設計されています。 このモードにおいて DTC はスリップを許容します。	NO
4	SPORT	このレベルはグリップの良い路面でのサーキット走行用およびストリート走行用に設計されています。	ライディングモード「SPORT」のデフォルトレベル
5	TOURING	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。	ライディングモード「TOURING」のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、グリップの良好なストリート走行用に設定されています。	ライディングモード「URBAN」のデフォルトレベル
7	RAIN	このレベルは濡れたアスファルト路面でのストリート走行用に設計されています。	NO
8	HEAVY RAIN	このレベルは濡れたアスファルトや滑りやすい路面での一般道走行用に設定されています。	NO

## レベルの選択に際しての注意事項

### 警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DTCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント

120/70ZR19、リア 170/60ZR17 になります。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

### 参考

Pirelliの協力により、本車専用のタイヤが開発されました。この専用タイヤは車両の特性を高め、最高のパフォーマンスを実現する独自の構造を備えています。

レベル8を選択すると、DTCはリアタイヤのわずかなスピンにも介入します。レベル8とレベル1の間には、その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。

レベル1および2はオフロードでの使用を念頭においてもので、アスファルト上でグリップを失っても適切なコントロールを保証できません。

レベル3および4では介入がより制限され、パフォーマンスを最大限に發揮するライディング向けになっています。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います。

- 1) グリップ(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) 行程(同じような、または全く異なるスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル(より「スムーズ」に、またはより「シャープ」に)

### グリップ状態からのレベル選択

正しいレベルの選択は行程中のグリップ状況と密接に関係しています(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイスを参照)。グリップが弱い場合には、DTCが確実に介入するより高いレベルを使用する必要があります。

### 行程タイプからのレベル選択

行程に同じスピードで走行できるカーブがいくつもある場合、それぞれのカーブで満足できる介入レベルを簡単に見つけることができるでしょう。一方様々な力

ーブが行程にある場合は、妥当なDTC介入レベルが必要になります。

### ライディングスタイルからのレベル選択

カーブ出口で早めに車体を起こし「シャープ」に操縦する場合よりも、バイクを深く倒して「スムーズ」に操縦する場合にDTCはより介入を行う傾向があります。

### オフロードでの使用時のアドバイス

システムの作動特性を理解するために、レベル2(ライディングモード「ENDURO」のデフォルトレベル)に設定して走行することをお勧めします。DTCが介入しそぎると感じる場合にはレベル1を試してください。

## Setting menu - Riding Mode - ABS

Multistrada が搭載する ABS システムは、車両を倒した状態においても ABS 機能が作動する「コーナリング」機能も備えます。この機能は、車両の傾斜角度に応じてフロントブレーキとリアブレーキに作用します。車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で、車輪のロックおよびスリップを防止することを目的としています。

ライディングモード ENDURO 内でのみ、インストルメントパネルを操作してレベル OFF を選択すれば、システムの解除が可能です。

この機能では ABS システムの介入レベルを設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「ABS」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に 1~3 のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

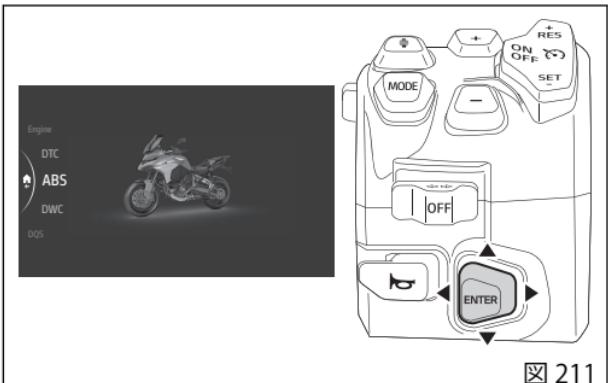


図 211

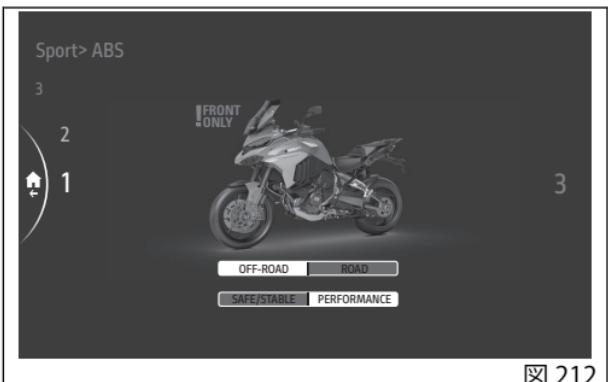


図 212

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定を終了します。

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。片方または両方のホイールがロックされると、グリップによるバランス力が失われ車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム(ABS)は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。ABSは電子制御油圧システムです。ホイール上のセンサーから送られた信号をコントロールユニットが分析し、いずれかのホイールがロックしそうであることを検知すると、ブレーキ回路内の油圧を制御します。この場合には、ブレーキ回路内の油圧を低下させることでホイールを回転させ続け、システムの可能な範囲内で路面とのグリップを最適に維持します。続いて、コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を戻してブレーキをかけます。問題が完全に解消されるまで、このサイクルを繰り返します。ブレーキング時ABSが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。フロントブレーキシステムおよびリアブレーキシステムは個別に制御されません。本車両が搭載するABSシステムは、フロントブレーキが操作されるとリアブレーキシステムも作動する

電子制御による連動ブレーキングを行います。ただし逆の動作は実行されません。すなわち、リアブレーキ操作はフロントブレーキシステムには作用しません。



## 警告

たとえ連動ブレーキ機能(フロントブレーキを操作するとリアブレーキも作動)が装備されていても、二つのうち片方のブレーキを独立して使用すると車両のブレーキ性能は低くなります。

過度の力をかける急激なブレーキ操作はしないでください。後輪が浮き上がり(リフトアップ)、車両のコントロールを失うおそれがあります。

雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。

急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。

長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。

規定空気圧に満たないタイヤ、もしくは規定空気圧を超えるタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだ

けでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

下表は、各ライディングタイプに適したABS介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

ABS レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
OFF		ABS システム解除	NO
1	OFF-ROAD	<p>このレベルは熟練ライダー向けオフロード走行専用に設計されています(ストリートでの使用は推奨されません)。このレベルでは、リアホイールをロックし、ABSはフロントホイールにのみ作用します(オフロードでのブレーキングをアシスト)。</p> <p>このレベルでは、システムはリフトアップ制御は行わず、前後輪連動ブレーキ機能は作動しません。また、コーナリング機能も作動しません。</p>	ライディングモード「ENDURO」のデフォルトレベル

ABS レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
2	SPORT	このレベルはグリップの良い路面でのストリート走行用に設計されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります(連動ブレーキ)。また、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能も作動します。このキャリブレーションは、性能と安定性のバランスを保つつつ、制動力が重視されたものになっています。	ライディングモード「SPORT」のデフォルトレベル
3	SAFE & STABLE	このレベルはあらゆる状況下での使用に適し、安全かつ安定したブレーキングを可能にするよう設定されています。このレベルでは、ABSは両方のホイールに作用します。フロントブレーキを操作するとリアブレーキキャリアーにも圧力がかかります(連動ブレーキ)。また、コーナリング機能およびリフトアップ制御機能も作動します。	ライディングモード「TOURING」と「URBAN」のデフォルトレベル



## 警告

ABS OFF レベルは、インタラクティブメニュー内の「ABS」機能からのみ有効にすることができます。この機能は、ライディングモードが「ENDURO」に設定されている場合にのみ表示されます。



## 警告

車両が停止している場合にのみ、ABS OFF レベルを有効にすることができます。走行中のレベル設定はできません。



## 重要

前回の使用時にABSをOFFに設定していた場合であっても、インストルメントパネル起動時にABSは自動的に再起動します。

## レベルの選択に際しての注意事項

### 警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備またはドゥカティ社が推奨するブレーキシステムとタイヤを装着している場合においてのみ、ABSシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70 ZR19、リア 170/60 ZR17 になります。標準装備のタイヤやドゥカティ社推奨タイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

レベル3を選択すると、ABSシステムはリフトアップ制御と前後輪連動ブレーキを行うことで非常に安定したブレーキングが可能になり、全てのブレーキングにおいて高い車体安定性を維持します。レベル3において、ABSシステムのコーナリング機能が作動します。この機能により、バイクを倒している時に、車両と路面状況により決定される物理的限界の範囲内で車輪のロックおよびスリップを防止します。

レベル2を選択すると、ABSシステムは安定性よりも制動力を優先させます。レベル2では前後輪連動ブレ

ーキと、コーナリング機能とリフトアップ制御が作動します。

ABSシステムのレベル1の使用はオフロード走行専用になります。オフロードでのブレーキングを重視してABSはフロントホイールにのみ作用します。このレベルにおいてはリフトアップ制御、前後輪連動ブレーキ、コーナリング機能のいずれも作動しません。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- 1) タイヤ/路面のグリップ(タイヤタイプ、タイヤの磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)。
- 2) ライダーの経験と感覚：熟練ライダーは制動距離を最小限に抑えるためリフトアップを制御することができますが、経験の少ないライダーには、急なブレーキングでも車体の安定性が維持できるようレベル3の使用が推奨されます。

## Setting menu - Riding Mode - DWC



### 警告

DTC を「Off」に設定すると DWC も自動的に「Off」に設定され、ウィリーコントロールと車両のダイナミクスを安定させるアシストが解除されます。

ドゥカティウィリーコントロール(DWC)はウィリー制御を行い、8つの介入レベルを基に機能します。各レベルでウィリーの制御に対して異なる値が設定されています。それぞれのライディングモードにはあらかじめ設定された介入レベルが割り当てられています。レベル8ではウィリーの発生を防止し、ウィリーが発生するとそれを制御するために最大限の介入を行います。熟練ライダー専用のレベル1ではウィリー防止を最小限にとどめ、ウィリーが発生した場合の制御も最小限に抑えられます。

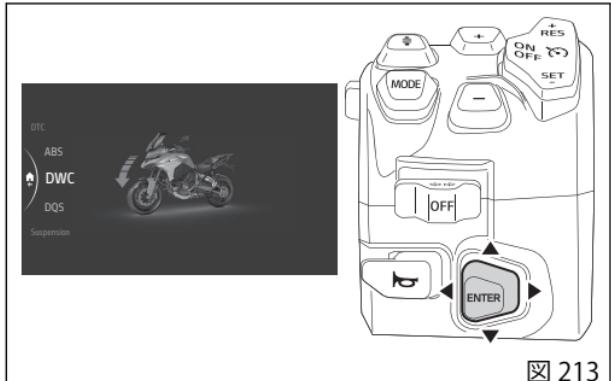


図 213

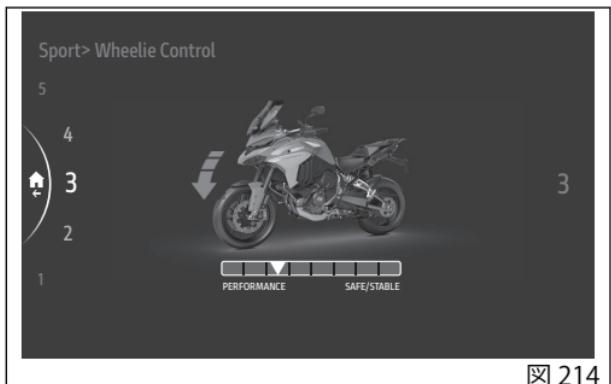


図 214

## 車両ダイナミクスの安定化

また、DWCはエンジンから供給されるトルクを制御することで、高速走行時の車両ダイナミクスを安定させてライダーをサポートします。

こうしたサポートは通常は必要ありませんが、タイヤの摩耗が激しい、タイヤ空気圧が正しくない、強風や路面の凹凸による走行の乱れなど特に不利な条件下で、荷重に応じては役に立つ可能性があります。

このような状況下で、DWCシステムは車両の加速を制御してライダーをサポートします。ただし、他のコントロールシステム同様に、ライダーの操縦に取って代わるものではありません。

ウィリーコントロールと車両ダイナミクスを安定させるためにDWCシステムが介入した場合は、インストルメントパネルに介入を知らせる警告灯が点灯します。

この機能ではDWCシステムの介入レベルを設定、またはシステムの解除を行うことができます。

- ジョイスティック▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。

- 「DWC」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に1~8のレベルと「Off」が表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定を終了します。



### 警告

DWCはライダーをアシストするシステムです。一般道走行時でもサーキット走行時でも使用できます。アシストシステムとは、より確実で安心な運転を可能にすることを目指したメカニズムであり、ライダーが運転に際し正しく払うべき注意義務に取って代わるものではありません。自身の過失だけでなく他者の過失も防止するため、道路交通法が定める緊急時の回避を可能にする慎重な運転を心がけてください。

下表は、各ライディングタイプに適した DWC 介入レベルと、ユーザーが選択可能なライディングモードのどれにデフォルト設定されているかを示します。

DWC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
OFF		DWC システムが解除されています。スタビリティコントロールシステムが解除されます。	ライディングモード「ENDURO」のデフォルトレベル
1	HIGH PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	NO
2	PERFORMANCE	熟練ライダー向けストリートおよびサーキットでの使用。ウィリーは可能ですが、システムはウィリーの速度を低減します。	ライディングモード「SPORT」のデフォルトレベル
3	SPORTIVE	熟練ライダー向けサーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	ライディングモード「TOURING」のデフォルトレベル

DWC レベル	ライディングタイプ	機能の特徴	DEFAULT
4	SPORTIVE	すべてのライダー向け、サーキットおよびストリートでの使用。システムはウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には介入を行います。	NO
5	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは、ウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	ライディングモード「URBAN」のデフォルトレベル
6	SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは、ウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
7	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは、ウィリーが発生する傾向を抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO
8	HIGH SAFE & STABLE	すべてのライダー向けレベルシステムは、ウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。	NO

## レベルの選択に際しての注意事項

### 警告

選択可能な全レベルにおいて、標準装備の最終減速比を装備し、標準装備タイヤまたはドゥカティ社が推奨するタイヤを装着している場合においてのみ、DWCシステムの最適な動作が保証されるものです。特にタイヤは標準装備タイヤ、Pirelli Scorpion Trail II のサイズ：フロント 120/70ZR19、リア 170/60ZR17 です。標準装備のタイヤとサイズや特徴の異なるタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を与え、機能の安全性が低くなることがあります。基準適合サイズと異なるサイズのタイヤの装着は推奨されません。

### 参考

Pirelliの協力により、本車専用のタイヤが開発されました。この専用タイヤは車両の特性を高め、最高のパフォーマンスを実現する独自の構造を備えています。

DWCのレベル8を選択すると、システムはウィリーが発生する傾向を最小限に抑え、ウィリー発生時には大幅な介入を行います。レベル8からレベル1の順にDWCシステムの介入レベルが小さくなります。レベル1、2、3ではウィリーをしやすくなっていますが、同時にウィリー時の減速を行います。これらのレベル

の使用は、自らウィリーを制御することができる熟練ライダーがサーキットで使用する場合にのみ推奨されます。その場合システムはウィリーの発生を助けるというよりも、ウィリーが発生する速度を抑えることでライダーを補助します。

主に以下のパラメーターを考慮して正しいレベルを選択します。

- ライダーの経験
- レイアウト/行程(低速ギアでの立ち上がり、もしくは高速ギアでの立ち上がり)

### ライダーの経験

使用するレベルはウィリーを自ら制御するライダーの経験度と密接に関連しています。レベル1、2、3を適切に利用するためには高い能力が求められます。

## 行程タイプからのレベル選択

走行の行程に低速ギアで立ち上がる速度の低いカーブが存在する場合、介入の多いDWC レベルを選択する必要があります。逆に高速の行程などでは介入の少ないDWC レベルを選択することが可能です。

## 一般道での使用時のアドバイス

DWC を起動した後、レベル 8 を選択し、好みのスタイルで運転します。DWC が介入しすぎると感じる場合は、レベルを 7、6 と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整してください。行程タイプが変化したため設定レベルでは満足できない場合は次のレベルに変更します。この方法で最も快適なレベルに調整します(例: レベル 7 では DWC が介入しすぎると感じる場合はレベル 6 に、レベル 7 では DWC の介入が全くないと感じる場合はレベル 8 に変更します)。

## Setting menu - Riding Mode - DQS

- この機能は DQS システムを起動または解除します。
- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
  - 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
  - パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
  - 「DQS」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に「On」と「Off」のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定を終了します。

UP/DOWN 機能を備える DQS システムでは、クラッチを操作せずにシフトアップおよびシフトダウンが可能です。ペダルの作動機構に内蔵された双方向センサーから成り、このマイクロスイッチがエンジンコントロールユニットにシフト操作に対応する信号を送信します。

システムはシフトアップとシフトダウンで動作が異なります。シフトアップシステムでは点火進角と燃料噴

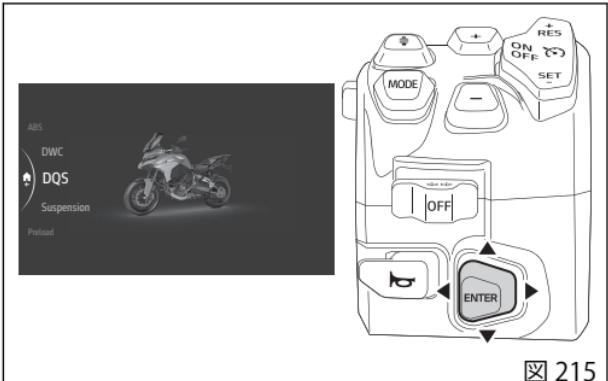


図 215

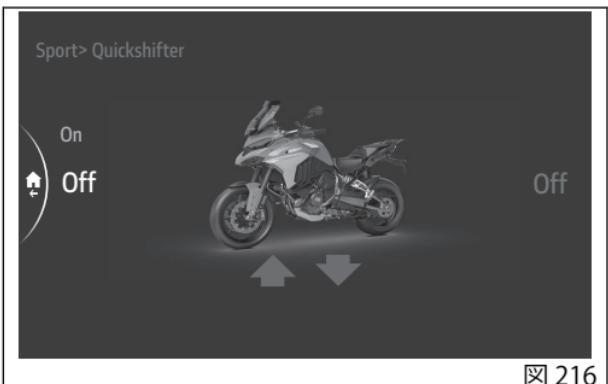


図 216

射に作用し、シフトダウン時にはスロットルバルブオープニングを制御します。

この機能を最大限に活用するためのいくつかのヒントを以下に示します。

- ドゥカティクイックシフトでは、このシステムを搭載ない車両と同様にギアチェンジペダルの操作を必要とします。ドゥカティクイックシフトはギアチェンジを自動で行うためのシステムではありません。
- ギアをチェンジする時(シフトアップまたはシフトダウン)は、ギアチェンジペダルを停止している位置からシフトしたい方向に動かしてください。その際、スプリングの反発力に抵抗してペダルを一定距離動かし、ギアが完全に締結されるまでその位置を維持してください。ギアチェンジが完了したら、ドゥカティクイックシフトで次のギアチェンジができるようにペダルを完全に放してください。ドゥカティクイックシフトのリクエスト時にギアチェンジペダルをストロークエンドまで確実に動かさないと、ギアが完全に入らない場合があります。
- クラッチレバーを操作する場合には、ドゥカティクイックシフトのアシストは作動しません。
- クラッチレバーを完全に引いているときは、ドゥカティクイックシフトは作動しません。
- クラッチレバーをドゥカティクイックシフトと組み合わせて使用すると、エンジンの誤動作や停止につながる可能性があります。ドゥカティクイックシフトシステムがアクティブな状態では、ニュートラルギアを接続する場合を除いて、クラッチレバーを操作しないでください。クラッチレバーを使用してギアを変更する場合は、ドゥカティクイックシフトシステムを無効にします。
- スロットルが部分的または完全に開いている場合でも、ドゥカティクイックシフトはシフトダウンを実行します。
- ドゥカティクイックシフトは、エンジン回転数2,250 rpm以上で作動するように設計されています。
- ドゥカティクイックシフトを使ったシフトダウン機能は、すべてのギアにおいて定義された回転数の限界値以下ののみ作動します。これは、シフトダウンした時にエンジンの最高回転数を超えてしまうのを防ぐためです。

## Setting menu - Riding Mode - Suspension

この機能では、フロントとリアのエレクトロニックサスペンションの管理と設定を行います。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「Suspension (サスペンション)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に「Front(フロント)」と「Rear(リア)」が表示されます。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクが表示されます。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定します。

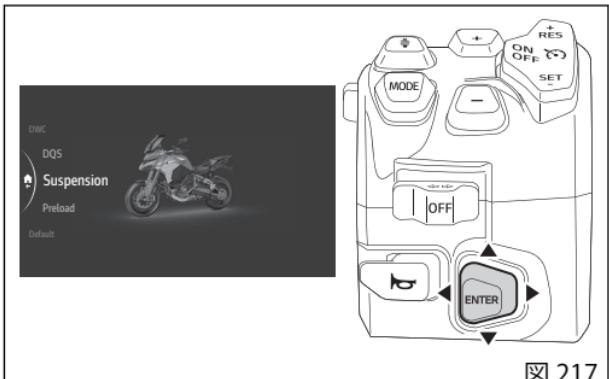


図 217

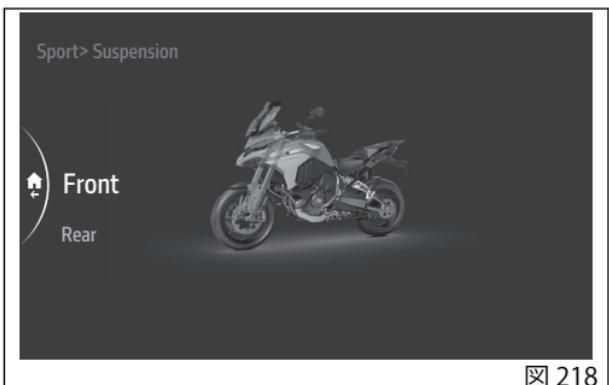


図 218

「Front (フロント)」(図 219)または「Rear (リア)」(図 220)を選択すると、左側に「Hardest (最強)」、「Hard (強)」、「Medium (中)」、「Soft (弱)」、「Softest (最弱)」のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、前のメニューに戻ります。



図 219

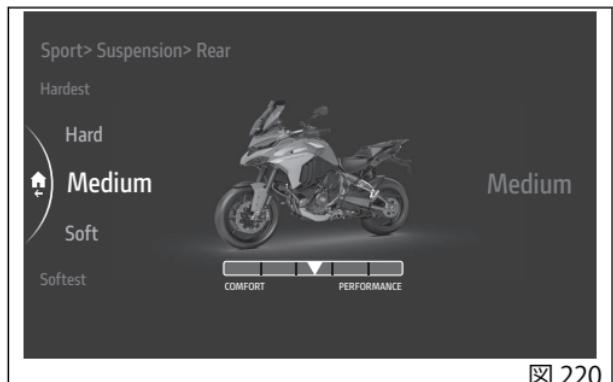


図 220

## Setting menu - Riding Mode - Preload

この機能では、プリロードのプロファイルに関するパラメーターを設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「Preload(プリロード)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側にパーソナライズ可能な以下のプロファイルが表示されます。

- Rider (ライダー)
- Rider / baggage (ライダー / 荷物)
- Rider / passenger (ライダー / パッセンジャー)
- Rider / passenger / baggage (ライダー / パッセンジャー / 荷物)

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するプロファイルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、サブメニューに入ります。

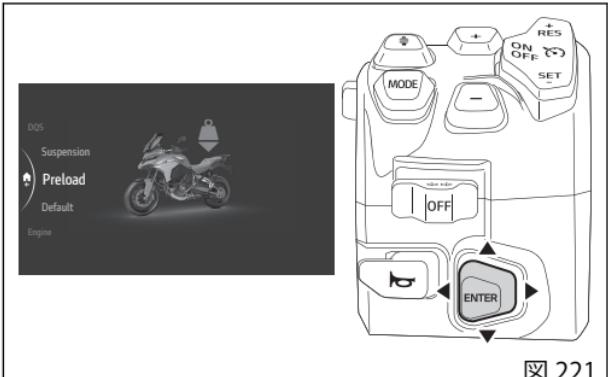


図 221

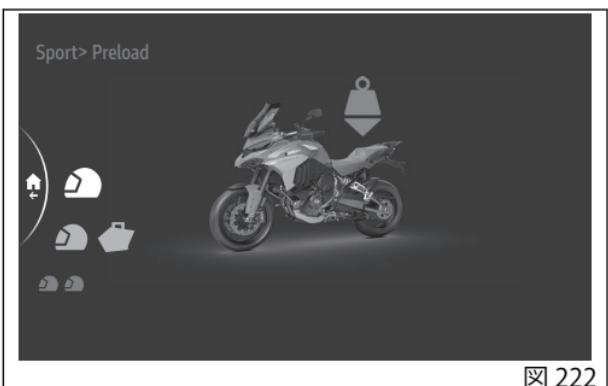


図 222

各プロファイルのサブメニューに入ると、画面左側に1~24のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。中央には設定に関連する部位がハイライトされたバイクと、参照事項が表示されます。

プリローダーアクチュエーターの作動範囲は12 mmで、インストルメントパネルはプリロードを24のポジションに調整します。ひとつのポジションがプリロード0.5 mmに相当します。これにより、あらゆる積載条件下で車両の状態を最適に設定することができます。

ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望するレベルを選択できます。「ENTER」を押して決定し、前のメニューに戻ります。

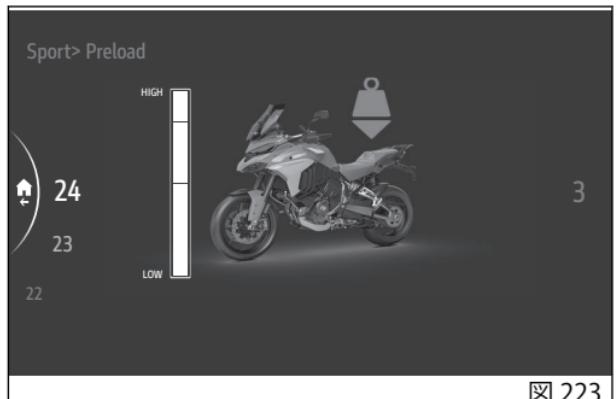


図 223

## Setting menu - Riding Mode - Default

この機能では、ライディングモード関連パラメーターを Ducati 設定値に回復することができます。前もつてパラメーターが変更されている場合にのみ表示されます。

ひとつのライディングモードのパラメーター値を回復する場合：

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- パーソナライズするライディングモードを選択し、「ENTER」を押します。
- 「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」を押します。「Wait… (お待ちください)」の文字が数秒間表示されてから、「Restored (回復されました)」と表示されます。続いて、「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。

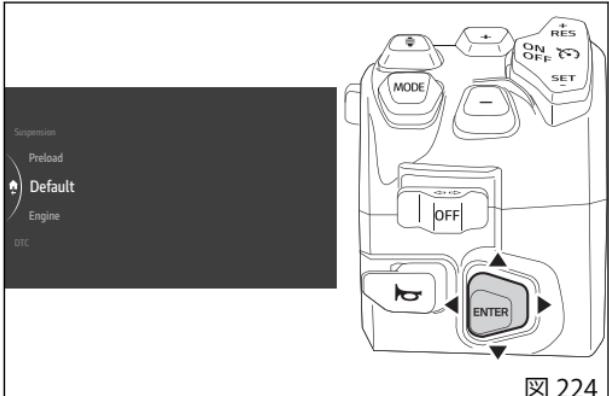


図 224

すべてのライディングモードのパラメーター値を回復する場合：

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Riding Mode」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」を押します。「Wait… (お待ちください)」の文字が数秒間表示されてから、「Restored (回復されました)」と表示されます。続いて、「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。

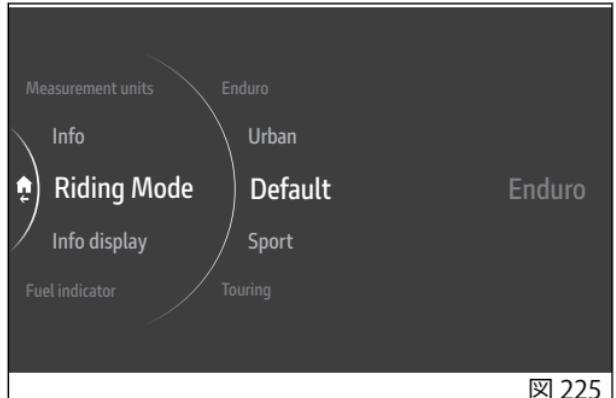


図 225

## Setting menu - Info display

この機能では、「Info display (情報表示)」内に表示される情報の順番を変更します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Info display (情報表示)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に、選択可能な 10 個の項目が、現在の順番を示す番号と一緒に表示されます(A、図 227)。右側には、トリップ情報の現在の順番が表示されています(B、図 227)。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、リスト内の項目をスクロールできます。選択した項目の順番を示す番号を変更するには、ENTER を押します。

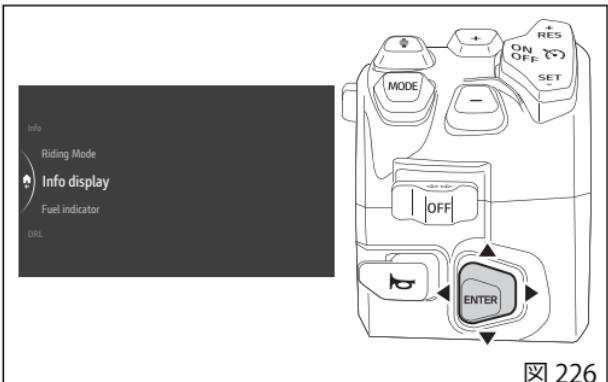


図 226

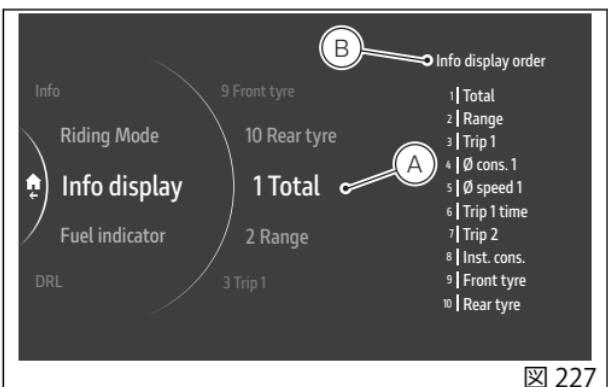


図 227

以下の例では、「Total(総走行距離)」の順番を1番から3番に変更します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して「Total(総走行距離)」を選択し、「ENTER」を押します(図227)。
- 順番を示す番号の上下に2つの矢印が表示され(A、図228)ます。これは、ジョイスティックを対応する位置▲▼に動かして、順番を示す番号を1～10の間で変更できることを示しています(例では「3」)。
- 「ENTER」を押して決定します。すると、トリップ情報の順番が新しい順番に更新されます(B、図229)。

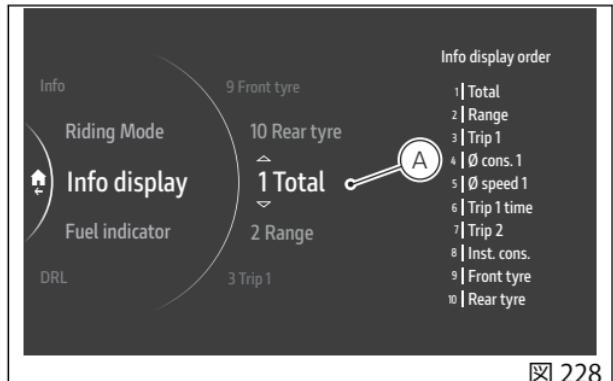


図 228

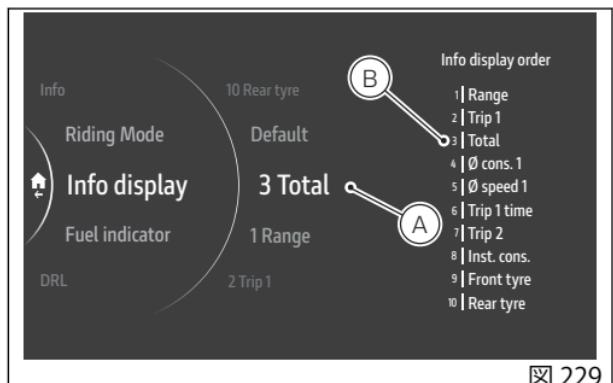


図 229

情報の位置が元の順番から変更されている場合は、選択可能な項目一覧の中に「Default(デフォルト)」も表示されます。

元の順番を回復するには、「Default(デフォルト)」を選択して「ENTER」を押します。「Wait…(お待ちください)」が数秒間表示されてから、「Restored(回復されました)」と表示されます。続いて、「Default(デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。項目の位置とトリップ情報の現在の順番が初期状態に戻ります(図227)。

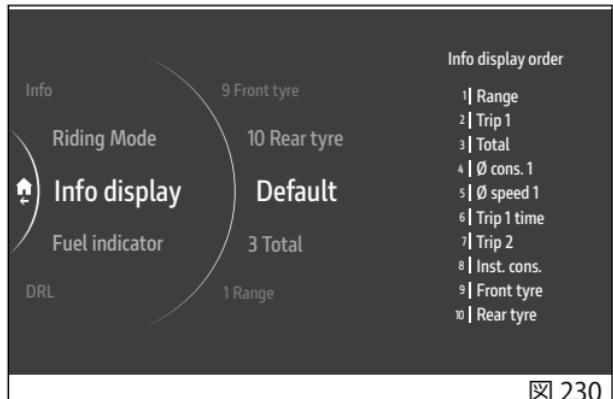


図 230

## Setting menu - Fuel indicator

この機能では、燃料レベルの表示モードを変更します。目盛りバー表示、または航続可能距離(キロメートルまたはマイル)のいずれかを設定できます。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Fuel indicator(燃料計)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「Level」と「Range(航続可能距離)」が表示されます。右側には現在の設定モードが表示されています。

ジョイスティック ▲▼を使用して、希望するモードを選択できます。「ENTER」を押して決定します。

### 参考

燃料レベル表示が航続可能距離モードに設定されている場合は、トリップ情報の一覧に「Range(航続可能距離)」は表示されません。

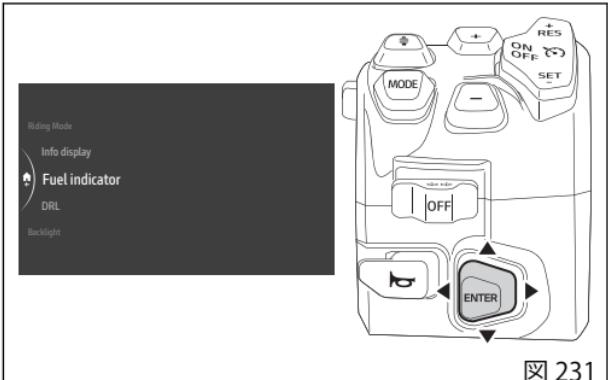


図 231

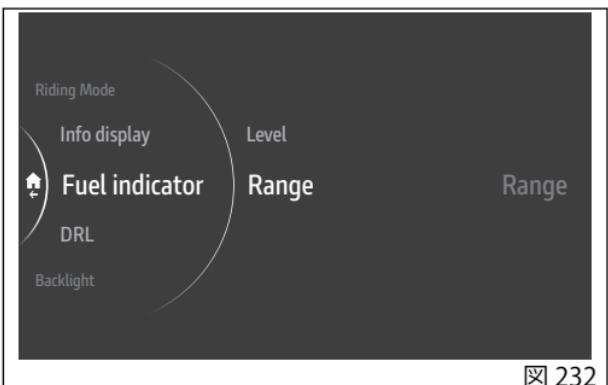


図 232

## Setting menu - DRL

この機能では、DRLの状態をオートモードかマニュアルモードに設定します。DRLを装備している場合にのみ表示されます。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「DRL」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「Auto(オート)」と「Manual(マニュアル)」が表示されます。右側には現在の設定モードが表示されています。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、希望するモードを選択できます。「ENTER」を押して決定します。



バッテリーの接続を切り離した場合には、自動的に“Auto”モードに設定されます。

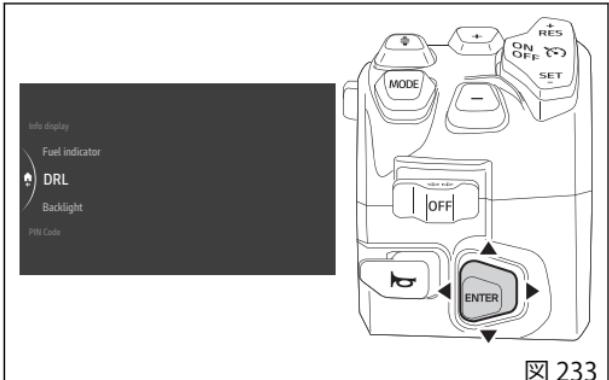


図 233

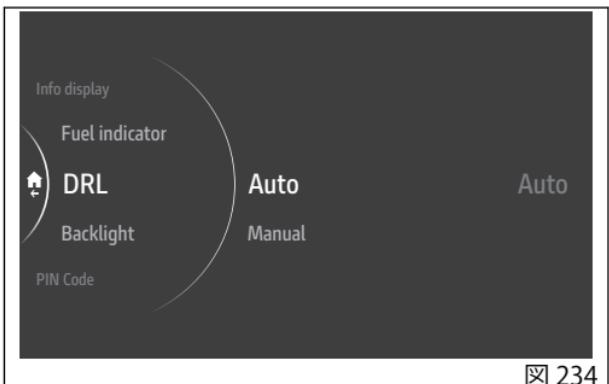


図 234

## Setting menu - Backlight

この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Backlight(バックライト)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面中央に100%~20%のレベルが表示されます。右側には現在の設定レベルが表示されています。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、希望するモードを選択できます。「ENTER」を押して決定します。

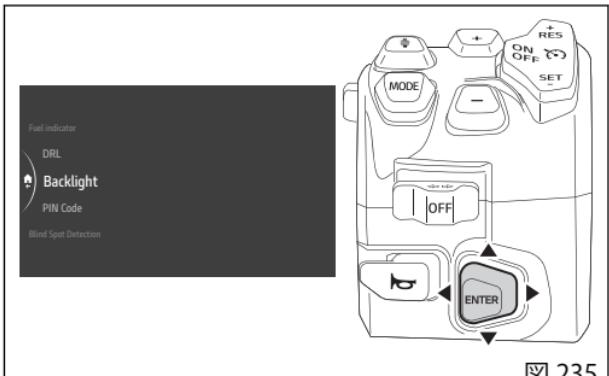


図 235

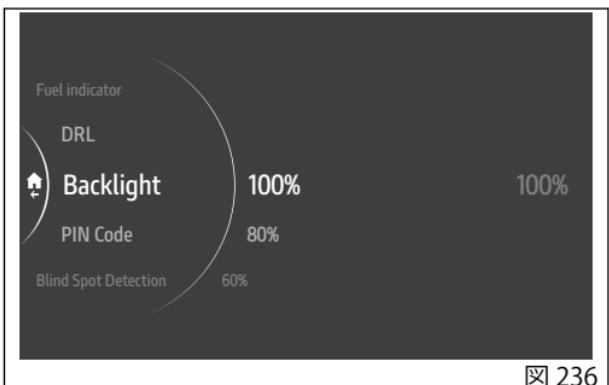


図 236

インストルメントパネルの明るさは、フォトダイオードで検出された周囲の明るさに応じて自動調整されます（A、図 237）。バックライトの明るさ調整は、フォトダイオードによる検出をもとに算出されます。

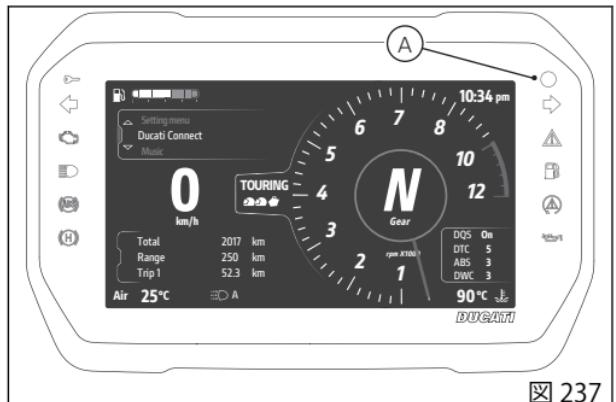


図 237

## Setting menu - PIN Code

この機能でPIN Codeの有効化または変更を行います。

- ジョイスティック▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「PIN Code」を選択し、「ENTER」を押します。

PIN Codeは最初車両に登録されていないので、ユーザーが4桁のPINをインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に車両を一時起動することができません。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、「PIN Codeによる車両の解除」の手順に従います。

これまでにPIN Codeが登録されたことがない場合は、メニュー内に「New PIN」と表示され、PIN Codeの登録を行えます。PIN Codeがすでに登録されている場合は、メニュー内に「Modify PIN(PINの変更)」と表示され、保存されているPIN Codeを変更することができます。

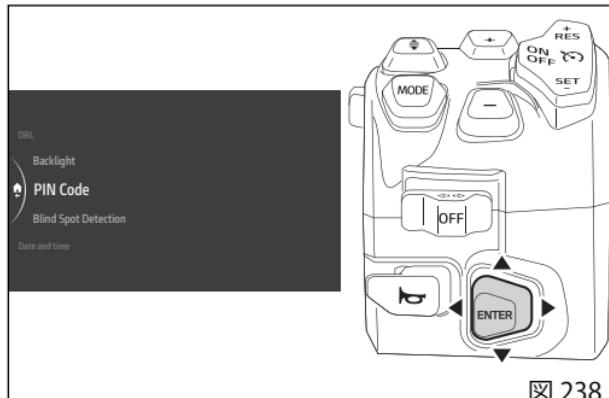


図 238



### 警告

PIN Codeの登録および保存は、車両の所有者が行います。自分のものではないPIN Codeがすでに登録されている場合は、Ducati正規ディーラーにPIN Codeのリセットをご依頼ください。その際Ducati正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただきます。

## 新しい PIN

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「PIN Code」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「New PIN」を選択し、「ENTER」を押します。

左側に「New PIN」と、PIN 入力用の 4 行の 1 行目が表示されます。

コードの入力：

- 数字の上下にある 2 つの矢印は、ジョイスティックを対応する位置 ▲ ▼ に動かして、数字を 0～9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」を押して決定し、次の行に移動します。
- 同じ方法で 4 行すべてを入力します(図 241)。

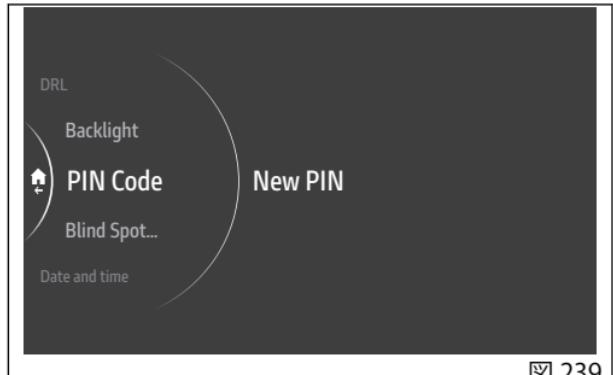


図 239

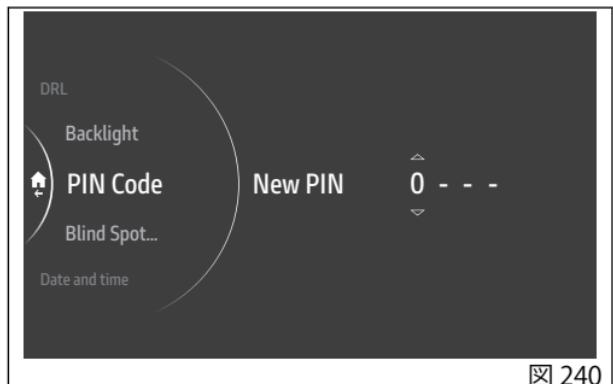


図 240

最後の桁を決定すると、「Save (保存)」の文字が表示されます。

「ENTER」を押して決定すると、「Saved (保存されました)」の文字が数秒間表示されます。

インストルメントパネルは前の画面に戻り、「New PIN」の代わりに「Modify PIN (PINの変更)」が表示されます(図 239)。

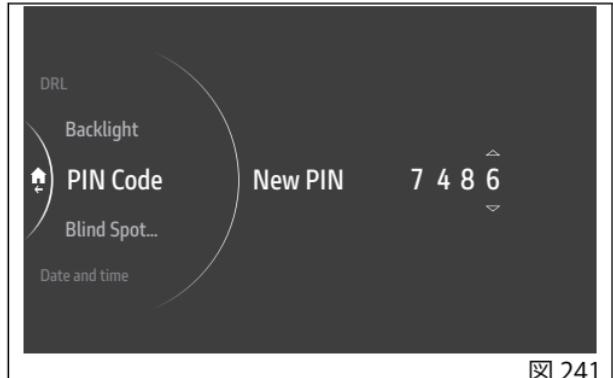


図 241



図 242

## PIN の変更

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「PIN Code」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Modify PIN (PIN の変更)」を選択し、「ENTER」を押します。

左側に「Current PIN(現在のPIN)」と、PIN 入力用の4桁の1桁目が表示されます。

コードの入力：

- 数字の上下にある2つの矢印は、ジョイスティックを対応する位置 ▲▼ に動かして、数字を0～9の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」を押して決定し、次の桁に移動します。
- 同じ方法で4桁すべてを入力します。

4桁目を入力してから「ENTER」ボタンを押すと、以下のようになります。

- PIN が正しく入力された場合は、「Correct」と表示されます。
- PIN が正しく入力されなかった場合は「Wrong」と表示され、現在のPINをもう一度入力できるようになります。

PIN が正しい場合は、新しいPINの入力に進みます。

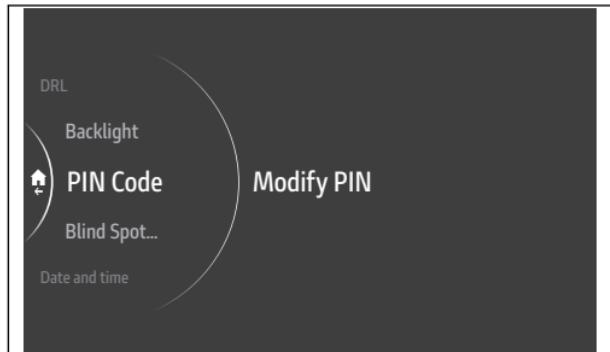


図 243

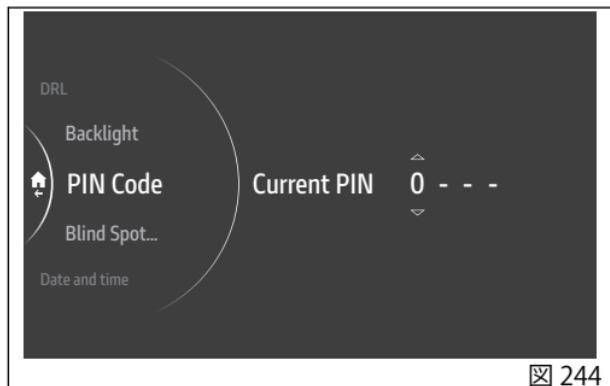


図 244

左側に「New PIN」と、PIN 入力用の 4 行の 1 行目が表示されます(図 240)。

コードの入力：

- 数字の上下にある 2 つの矢印は、ジョイスティックを対応する位置 ▲▼ に動かして、数字を 0~9 の間で変更できることを示しています。
- 「ENTER」を押して数字を決定し、次の行に移動します。
- 同じ方法で 4 行すべてを入力します(図 241)。

最後の行を決定すると「Save(保存)」の文字が表示されます(図 242)。

「ENTER」を押して決定すると、「Saved(保存されました)」の文字が数秒間表示されてから、インストルメントパネルが前の画面に戻ります。

## Setting menu - Date and time

この機能で日時と形式を設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Date and Time(日付と時間)」を選択し、「ENTER」を押します。

「Set date(日付の設定)」、「Date format(日付形式)」、「Set time(時間の設定)」、「Time format(時間形式)」が表示されます(図 246)。右側には現在の設定値が表示されています。

ジョイスティック ▲▼ を使用してスクロールし、設定するパラメーターを選択できます。「ENTER」を押しで決定します。



日付と時間がまだ設定されていない場合は、それぞれの値の代わりに点線「-」が表示されます。

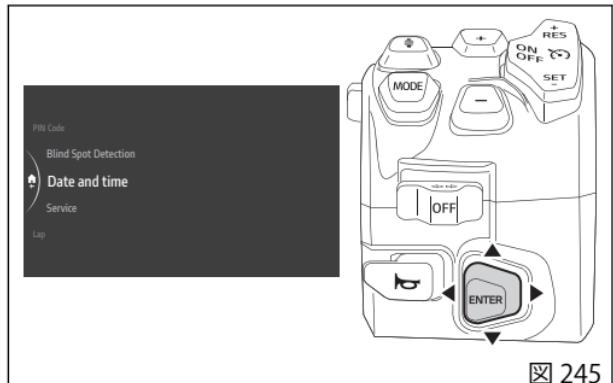


図 245

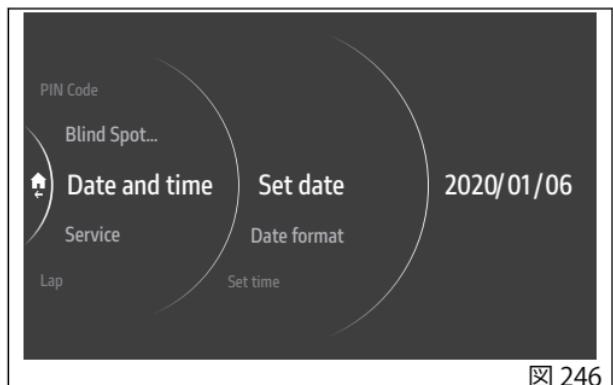


図 246

## 日付の設定

この機能で日付を設定します。図中例の日付形式は「年/月/日」です。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Date and Time(日付と時間)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Set date(日付の設定)」を選択し、「ENTER」を押します。

日付の最初のパラメーター(図例では「年」、図247)が選択できるようになります。上下に2つの矢印が表示されます。また、表示されているパラメーターで設定できる数値も表示されます。ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、次のパラメーターに移動します。

矢印と設定できる数値の表示が、2番目のパラメーターに移動します(図例では「月」、図248)。ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、次のパラメーターに移動します。

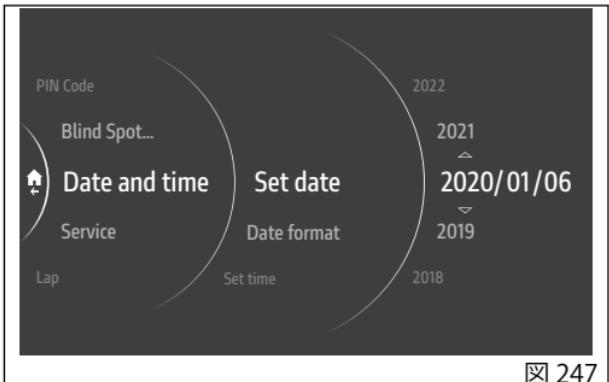


図 247

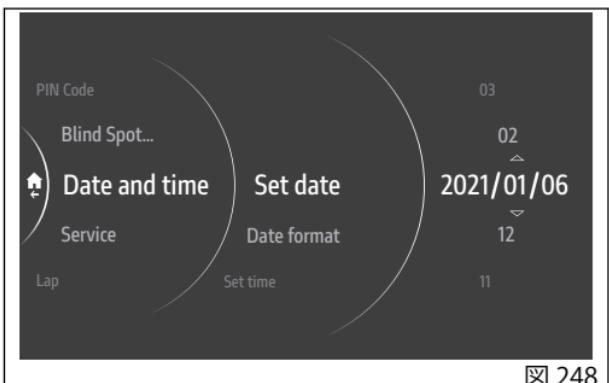


図 248

矢印と設定できる数値の表示が、3番目のパラメーターに移動します(図例では「日」、図249)。ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の表示に戻ります。

日付の最後のパラメーターを決定した時点で、入力された日付が無効な場合は「Wrong」が3秒間表示されます(図250)。その後、正しい日付の入力に進みます。

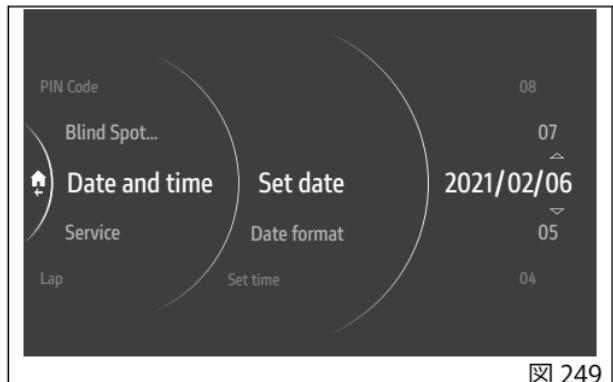


図 249

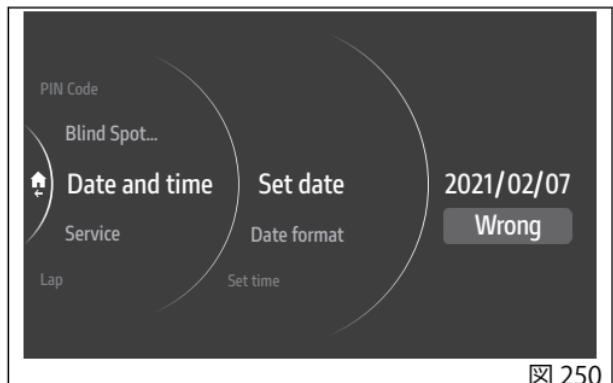


図 250

## 日付形式

この機能で日付形式を設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Date and Time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「DateFormat (日付形式)」を選択し、「ENTER」を押します。

設定できる形式「dd.mm.yyyy」、「mm.dd.yyyy」、「yyyy.mm.dd」、「yyyy.dd.mm」が表示されます

(図 252)。ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望する形式を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の表示に戻ります。

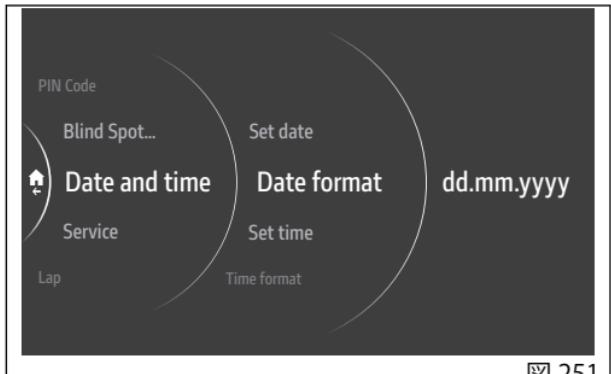


図 251

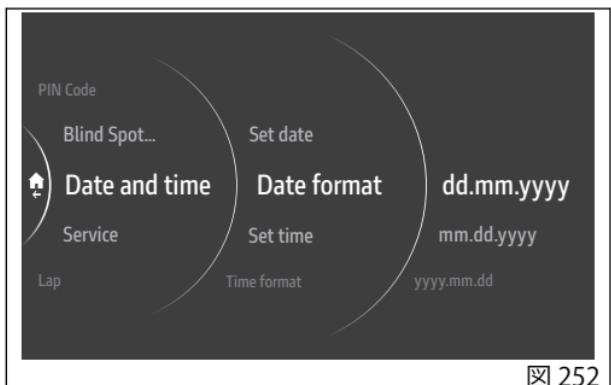


図 252

## 時間の設定

この機能で時間を設定します。図中例の時間形式は12時間制(AM/PM)です。

- ジョイスティック▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Date and Time(日付と時間)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Set time(時間の設定)」を選択し、「ENTER」を押します。

「時」の数字が選択できるようになり、上下に2つの矢印が表示されます。また、設定できる数値も表示されます(図254)。ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、「分」の数字に移動します。

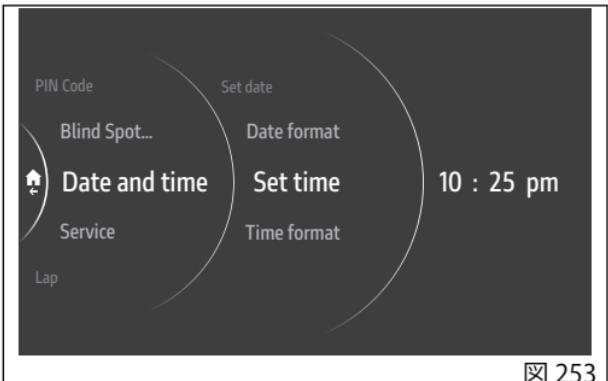


図 253

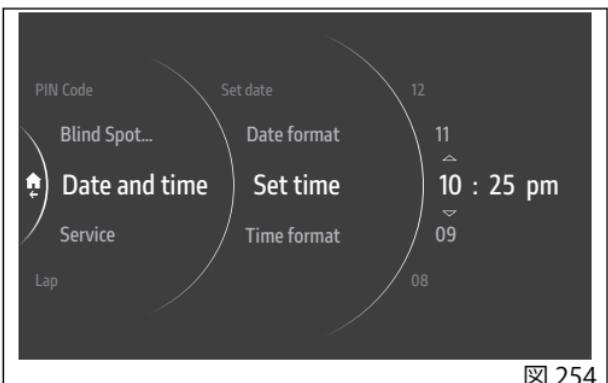


図 254

「分」の数字が選択できるようになり、上下に2つの矢印が表示されます。また、設定できる数値も表示されます(図255)。ジョイスティック▲▼を使用してスクロールし、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、「AM-PM」の選択に移動します。

「AM」または「PM」が選択できるようになり、上下に2つの矢印が表示されます(図256)。ジョイスティック▲▼を使用して、希望する値を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の表示に戻ります。



現在の時間形式に24時間制を設定している場合は、パラメーター「AM/PM」は表示されません。

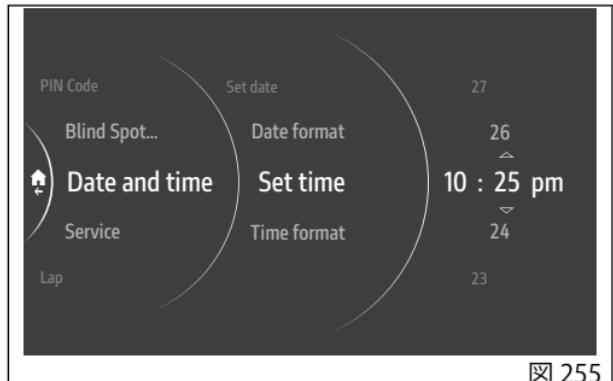


図 255

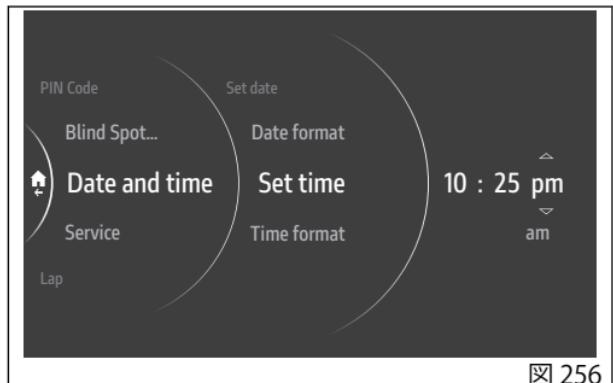


図 256

## 時間形式

この機能で時間形式を設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Date and Time (日付と時間)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Time format (時間形式)」を選択し、「ENTER」を押します。

形式「12 hours (12時間)」と「24 hours (24時間)」が表示されます(図258)。ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望する形式を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の表示に戻ります。

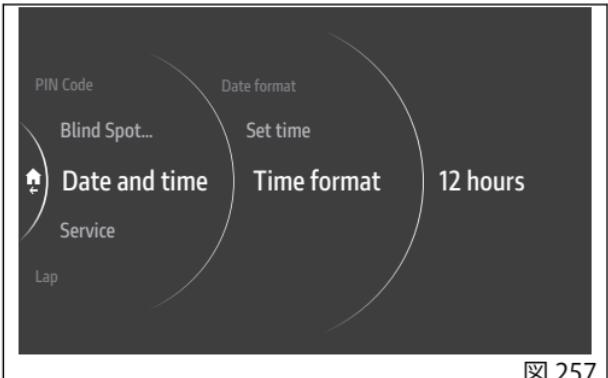


図 257

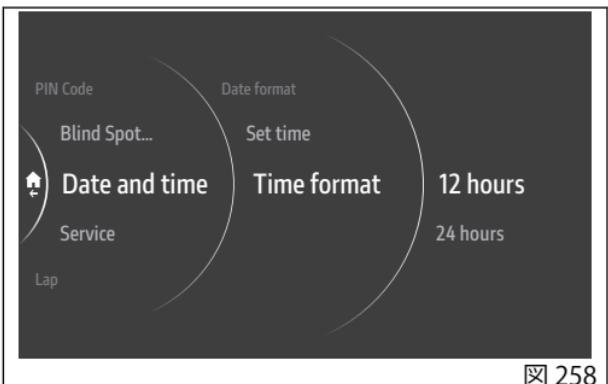


図 258

## Setting menu - Service

この機能で今後の定期点検の有効期限を表示します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Service (定期点検)」を選択し、「ENTER」を押します。

以下の定期点検に関する情報がディスプレイに表示されます。

- Oil Service (オイル点検：残りの走行距離 (キロメートルまたはマイル))
- Valve Clearance Check Service (バルブクリアランス点検：残りの走行距離 (キロメートルまたはマイル))
- 次回定期点検 (日付)



この機能については変更はできません。

Oil Service 1000 の点検は、納車後 1,000 km/600 mi 走行時点、または 6 カ月後に実施されます。

Oil Service ホイール点検は 15,000 km/9,000 mi 走行ごと、または 24 カ月ごとに実施します。

Valve Check ハンドルの点検は、60,000 km/37,280 mi ごとに実施します。

Annual Service 曲線は 12 カ月ごとに実施します。

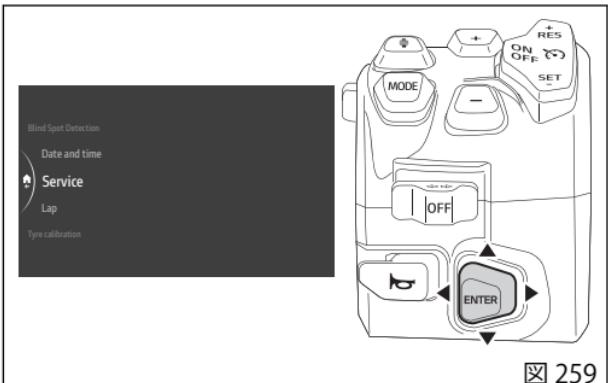


図 259

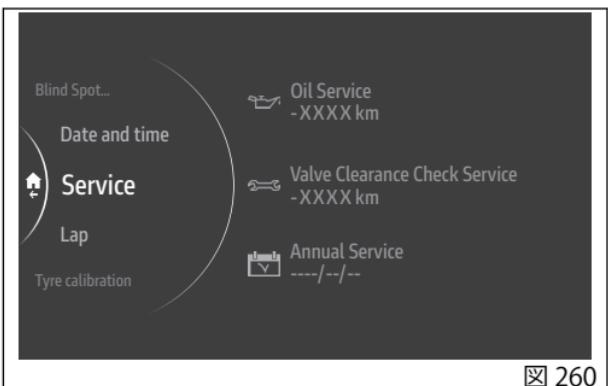


図 260

オフロードで車両を使用する場合は、規定の点検間隔よりも短い間隔で点検を実施してください。

## サービス通知

この表示は、Ducati正規サービスセンターで車両のメンテナンス(定期点検)を実施する必要があることをユーザーに通知します。

メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。

定期点検の種類は、「Oil service」、「Valve Check」、「Annual service」があります。

定期点検プログラムには、それぞれ「Oil service」、「Valve check」、「Annual service」と記載されています。

定期点検期限の通知表示には、大きい表示(A)と小さい表示(B)の2通りあります。図中では、メイン画面(図261)と Ducati Connect 画面(図262)内のそれぞれの表示位置を示しています。

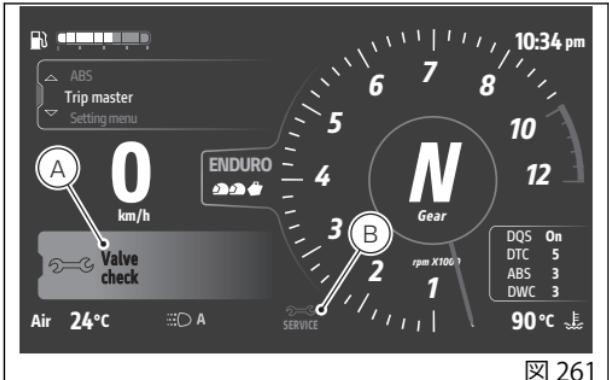


図 261

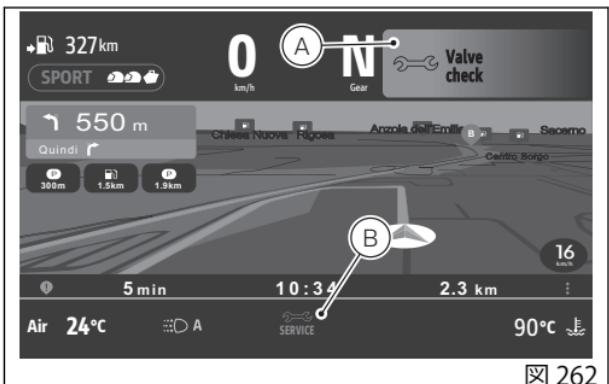


図 262

定期点検ごとに設定されているしきい値に近づくと、車両の電源をオンにするたびに、インストルメントパネルに大きい表示(A)が黄色で5秒間表示され、残りの走行距離または日数を知らせます。「Oil Service」(C)と「Valve Check」(D)は残り1,000 km(621 miles)を切ると表示され、「Annual Service」(E)は残り30日を切ると表示されます。

定期点検のしきい値に達すると、インストルメントパネルをオンにするたびに、大きい表示(A)が赤色で5秒間表示されてから、小さな表示(B)：「Oil service」(F)、「Valve Check」(G)、「Annual service」(H)に変わります。

図(図264)には、左側にそれぞれの定期点検に対応する大きい表示、右側に小さい表示を示しています。サービス表示は赤色で表示されます。その後 Ducati 正規サービスセンターでのメンテナンスにおいて「リセット」されるまで常時表示されます。

### デジタルメンテナンス

設定された期限に正規ディーラーに連絡し、ダッシュボードに表示された期限に予定されているメンテナンスを実施する必要があります。専用の診断テスターを使用して、ディーラーはサービスが実行されたことを確認し、次回の点検まで期限を延期します。



図 263



図 264

通常のメンテナンスに関する履歴は、それが実行されたことを証明するために Ducati サーバーに保存されます (これはデジタルメンテナンスブックレットです)。

実行された定期点検の表示は、MyGarage 予約エリア (Ducati.com Web サイト) と MyDucati アプリの両方で、バイクのオーナーも利用することができます。



## Setting menu - Lap

この機能でラップ機能の起動と解除、記録されているラップの閲覧と消去が可能です。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」を押します。

「Off」、「On」、「Lap data(ラップデータ)」、「Erase data(データ消去)」が表示されます(事前にラップが記録されている場合にのみ表示されます)。右側には現在の機能ステータスが表示されています。

「Off」と「On」はそれぞれラップ機能を停止・起動します(図266)。「Lap data」では保存されているラップを確認することができ、「Erase data」では記録ラップを消去することができます。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定します。

### 参考

ライディングモードSPORTのインタラクティブメニュー内の「Lap」機能から、直接起動と停止を行えます。

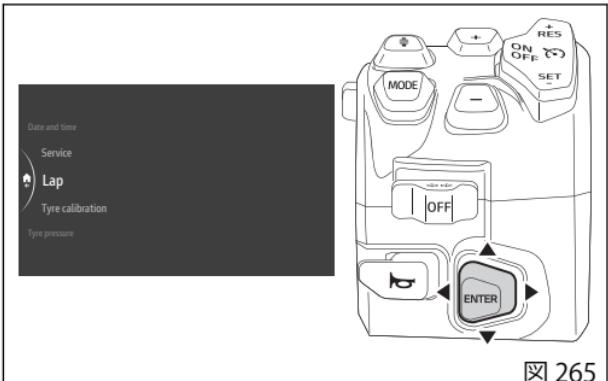


図 265

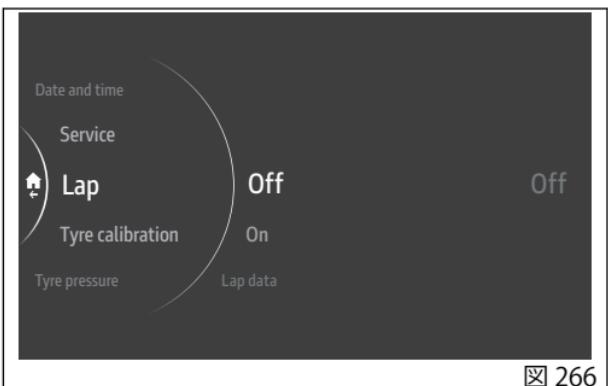


図 266

## Lap data

この機能では記録ラップデータを個別に確認することができます。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Lap data(ラップデータ)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面左側に保存されているラップ一覧(最大30ラップ)が表示され、中央に個別ラップの記録データが表示されます。

- Time(タイム)
- Speed max(最高速度)
- RPM max(最高回転数)

ジョイスティック ▲▼を使用して一覧内のラップをスクロールし、それぞれの記録データを表示することができます。

### 参考

ラップ記録が存在しない場合は、メニューに入ると「No lap」と表示されます。

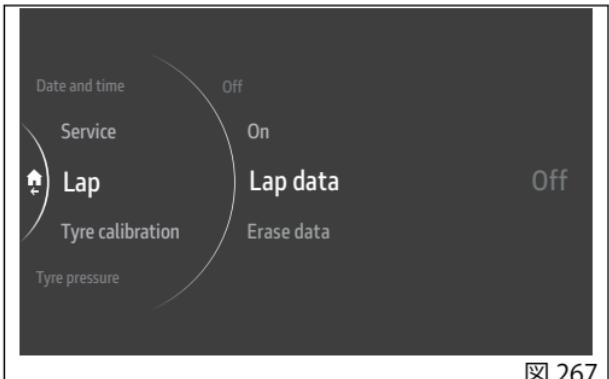


図 267



図 268

## Erase data

この項目は、事前にラップが記録されている場合にのみ表示されます。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Lap」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Erase data (データ消去)」を選択し、「ENTER」を押してデータの消去に進みます。

数秒間「Wait…(お待ちください)」と表示され(図 270)、その後「Erased(消去されました)」と数秒間表示されます。続いて前の画面に戻りますが、「Erase data (データ消去)」の項目は表示されなくなります。



図 269

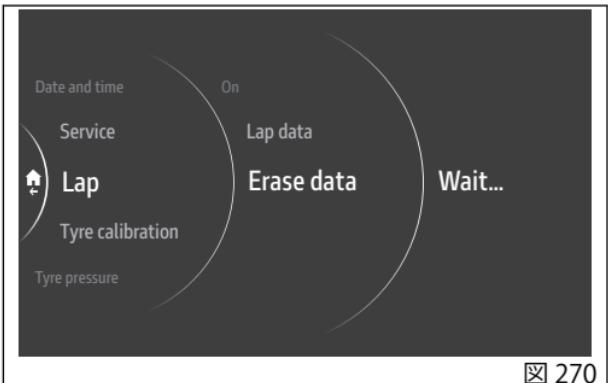


図 270

## Setting menu - Tyre calibration

この機能では、タイヤの円周長のキャリブレーションと自己学習、または初期設定値への回復の手順を行います。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Tyre calibration(タイヤキャリブレーション)」を選択し、「ENTER」を押します。

まだタイヤのキャリブレーションを実行したことがない場合は、「Start」と表示されます。

すでに実行したことのある場合は、「Start」の代わりに「Default」と表示されています。

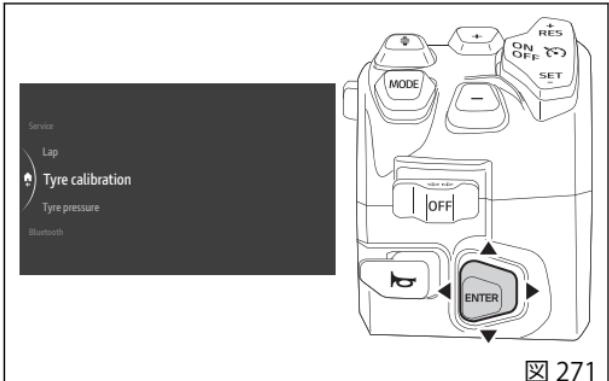


図 271



図 272

## Tyre calibration - Start

「Start」と表示されているときに「ENTER」を押すと(図 272)、インストルメントパネルにキャリブレーションを進める画面が表示されます。

この画面内には「Ready (開始可能)」の文字(A、図 273)と、2速ギアを入れた状態で維持する速度(49 km/h (30 mph)~51 km/h (32 mph))が表示されています。

速度とギアが指定の状態になると、システムのキャリブレーションが開始されます。上記すべての情報が表示され、「Ready (開始可能)」(A、図 273)の代わりに「In progress (実行中)」(B、図 274)が表示されます。速度とギアが指定のパラメーターに5秒間維持された時にキャリブレーションが実行されます。

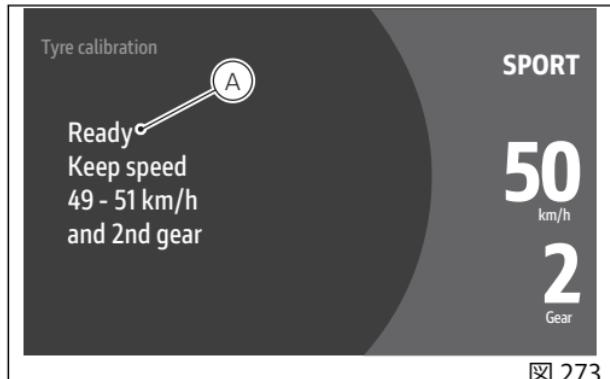


図 273

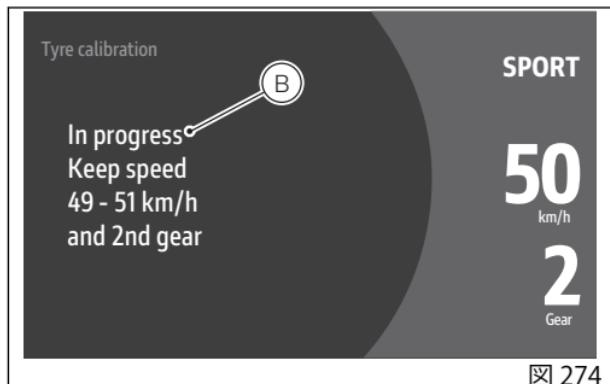


図 274

自己学習プロセスが正常に終了すると、インストルメントパネルに「Completed(完了しました)」の文字(C、図275)が表示され、数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

キャリブレーション手順を中止するには、ジョイスティックを◀の位置に長く押します。この場合は、インストルメントパネルに上記の全情報が表示され、「In progress(実行中)」の文字(B、図274)が「Aborted(中止されました)」(D、図276)に変わります。そして数秒後に前のメニュー画面に戻ります。

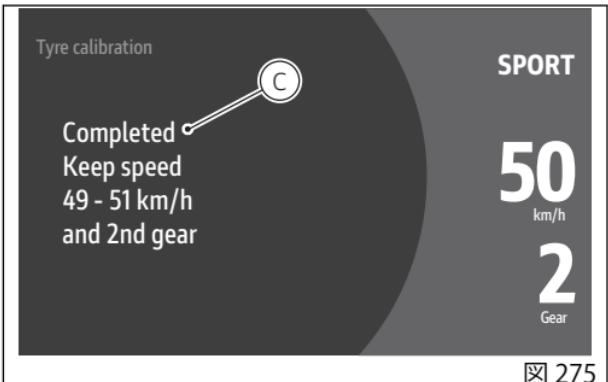


図 275

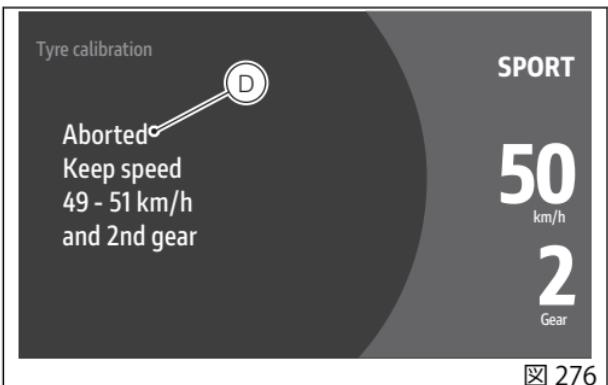


図 276

キャリブレーション実行中に速度とギアの指定条件から外れた場合や、エラーや不具合が検出された場合は、インストルメントパネルに「Failed (失敗しました)」(E、図 277) と表示され、数秒後に前のメニューに戻ります。

 参考

キャリブレーションプロセスの途中で走行速度が 100 km/h (62 mph) を超えるか、もしくは車両をオフにすると、キャリブレーションは中断されます。

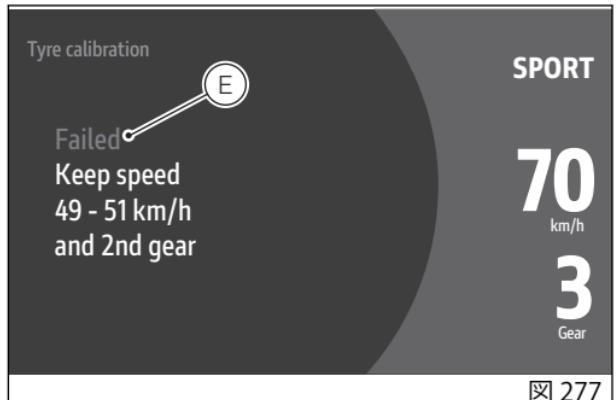


図 277

## Tyre calibration - Default

「Default (デフォルト)」を選択した状態で「ENTER」を押すと、インストルメントパネルに「Wait… (お待ちください)」と2秒間表示され、その後「Default restored (デフォルトに回復されました)」と2秒間表示されてから、前のメニュー画面に戻ります。

### 警告

自己学習プロセスでは、OEMの最終減速比のみが受け付けられます。

### 警告

最終減速比の変更は、クローズドサーキットで車両を使用する場合に限り許可されるものです。公道走行には使用できません。

### 警告

最終減速比の変更は保証を受ける権利の即時失効を伴い、保安基準適合バージョンに相当しなくなることから公道走行には使用できません。

フロントスプロケット	リアスプロケット	最終減速比
16	42	2.63

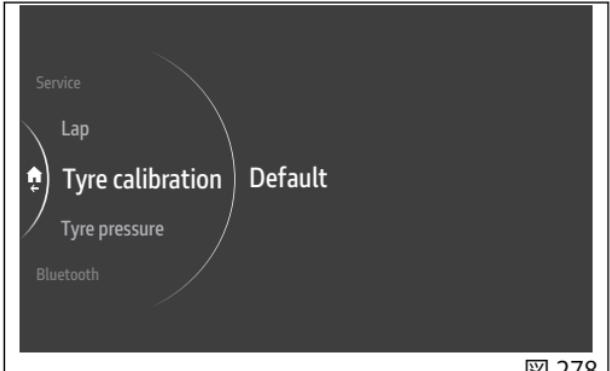


図 278



図 279

## Setting menu –Tyre pressure (タイヤ空気圧) (装備している場合)

この機能では、フロントとリアのタイヤ空気圧センサーの基準空気圧を設定します。タイヤセンサーを装備している場合にのみ表示されます。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Tyre pressure (タイヤ空気圧)」を選択し、「ENTER」を押します。

「Front tyre (フロントタイヤ)」と「Rear tyre (リアタイヤ)」が表示されます。画面の右側に現在の設定空気圧が表示されています。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定します。

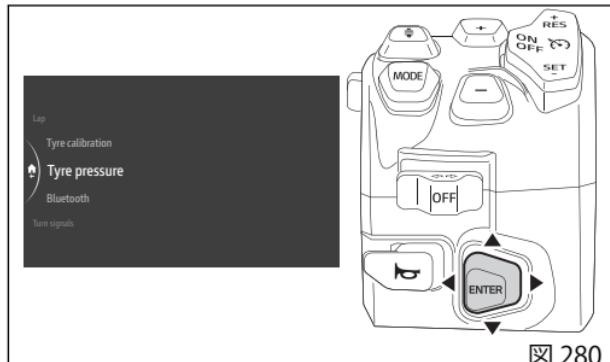


図 280

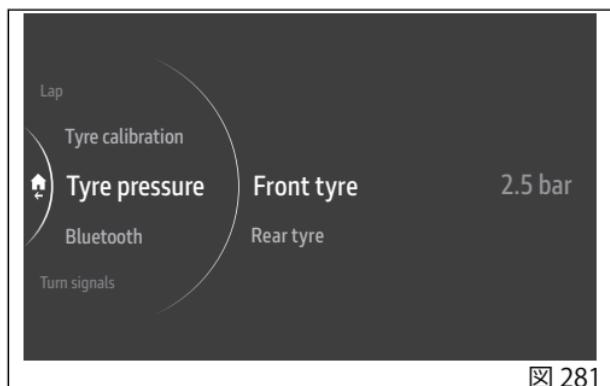


図 281

「Front tyre (フロントタイヤ)」(図 282) または「Rear tyre (リアタイヤ)」(図 283) を選択すると、現在の空気圧値と上下に 2 つの矢印が表示されます。これらの矢印は、ジョイスティックを対応する位置 ▲ ▼ に動かして、数値を増減できることを示しています。画面の右側に現在の設定空気圧が表示されています。 「ENTER」を押して決定し、前の表示に戻ります。

 参考

空気圧値は、1.5 bar～3.0 bar の間で設定できます。



図 282

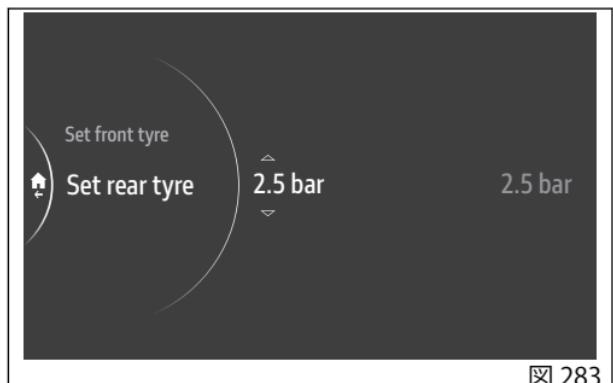


図 283

## Setting menu - Turn signals

この機能では、ターンインジケーター操作を自動モードまたは手動モードに設定することができます。

ターンインジケーター自動解除ストラテジーは、リーン角度、走行速度、走行距離から算出されたデータを基にしています。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Turn signals(ターンインジケーター)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「Auto-off(自動消灯)」と「Manual-off(手動消灯)」が表示されます。右側には現在のステータスが表示されています。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、希望するステータスを選択できます。「ENTER」を押して決定します。

### 参考

バッテリーの接続が切れた場合は、自動モードに設定されます。

自動解除：

車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感じて、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

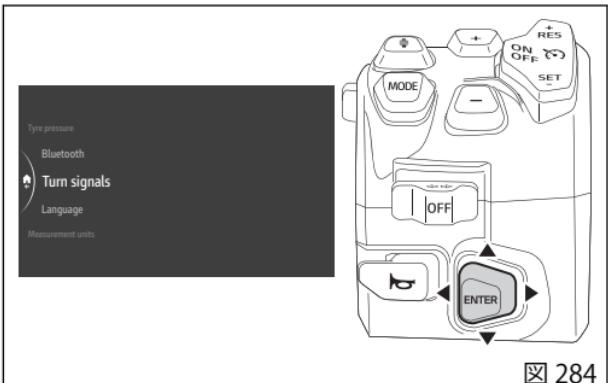


図 284

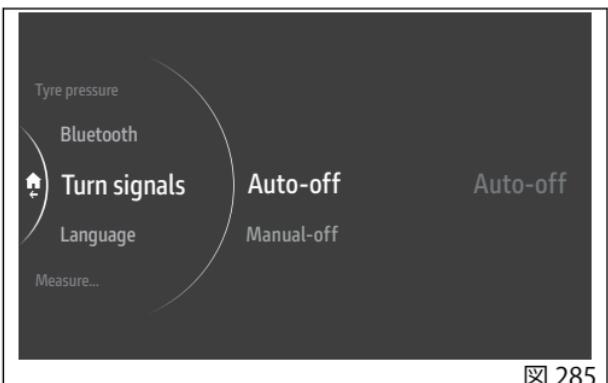


図 285

自動解除機能は、インジケーター ボタンを操作することにより、車両速度が 20 km/h (12.4 mph) を超えると作動します。

ターンインジケーターは、車両がかなりの長距離を走行している間作動したままになっている場合にも、自動的に消灯します。ターンインジケーター ボタンが操作された時の車両速度に応じて、200~2,000 メートル (656~6,562 フィート) までの範囲で変化します。ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーター ボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

## Setting menu - Language

この機能でインストルメントパネルの言語を設定します。

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu(設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Language(言語)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「English、Italiano、Deutsch、Francais、Nederlands、Espanol」が表示されます。右側には現在の設定言語が表示されています。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、希望するステータスを選択できます。「ENTER」を押して決定すると、インターフェースが即座に新しく設定した言語で表示されます。

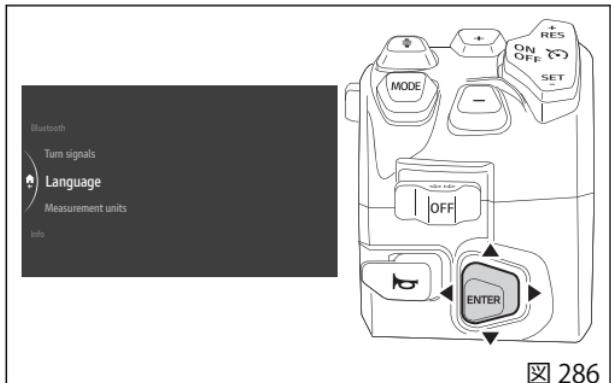


図 286



図 287

## Setting menu - Measurement units

この機能はインストルメントパネルの表示単位を設定します。

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。

画面の中央に「Speed (速度)」、「Temperature (温度)」、「Consumption (燃費)」、「Default (デフォルト)」(ひとつ以上の測定単位が変更されている場合のみ)が表示されます。右側には、選択している項目の現在の設定単位が表示されています。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定し、設定に入ります。

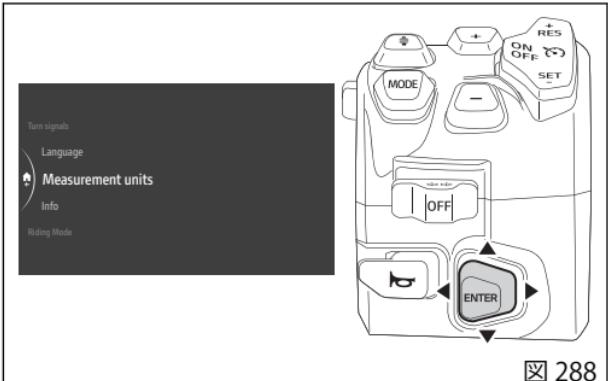


図 288

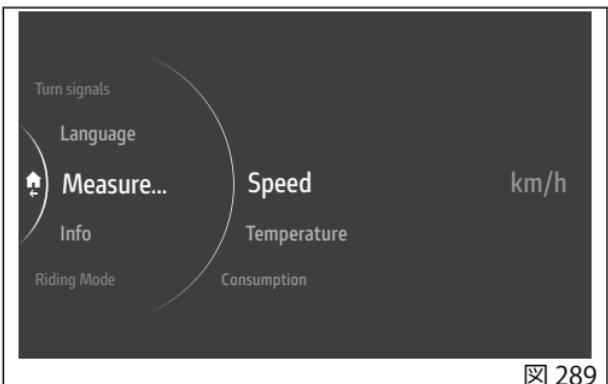


図 289

## Speed

速度の単位を設定する場合：

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Speed (速度)」を選択し、「ENTER」を押します (図 289)。

「km/h」、「mph」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の画面に戻ります。

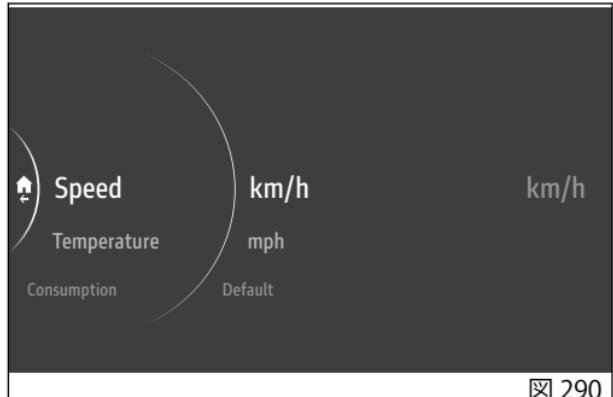


図 290

## Temperature

温度の単位を設定する場合：

- ジョイスティック ▲▼を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Temperature (温度)」を選択し、「ENTER」を押します。

「° C」、「° F」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。

ジョイスティック ▲▼を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の画面に戻ります。

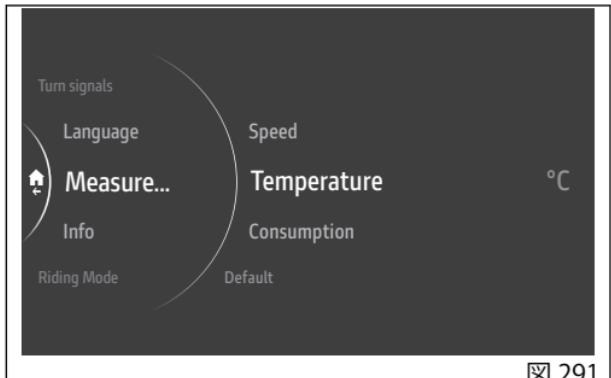


図 291

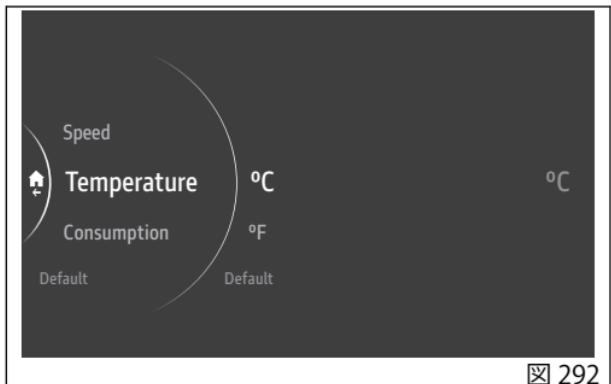


図 292

## Consumption

燃費の単位を設定する場合：

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Consumption (燃費)」を選択し、「ENTER」を押します。

「L/100」、「km/l」、「mpg UK」、「mpg US」、「Default」(事前に単位が変更されている場合のみ)が表示されます。画面の右側には現在設定されている単位が表示されます。

ジョイスティック ▲ ▼ を使用してスクロールし、次のように希望する項目を選択できます。「ENTER」を押して決定し、前の画面に戻ります。

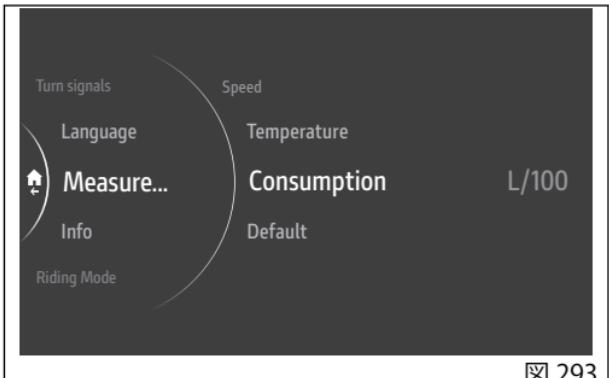


図 293

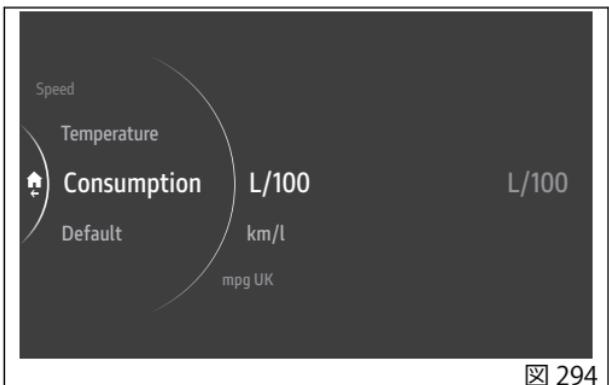


図 294

## 測定単位の初期設定回復

すべての測定単位、または個別の測定単位を初期設定に戻します。

すべての測定単位を初期設定に回復する場合：

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インターラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 表示されれば「Default (デフォルト)」を選択し、「ENTER」を押します。「Wait… (お待ちください)」が数秒間表示されてから「Restored (回復されました)」と表示され、その後「Default (デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。

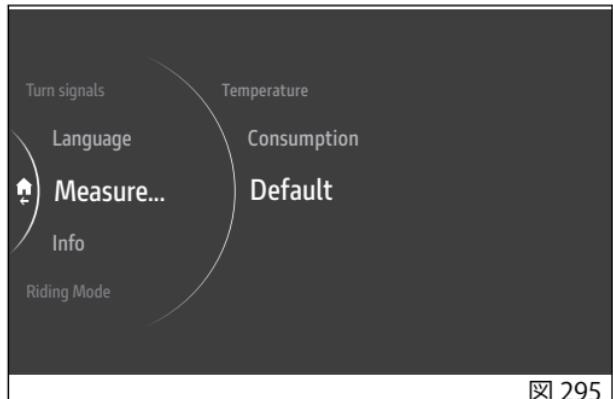


図 295

個別の測定単位を初期設定に回復する場合：

- ジョイスティック ▲ ▼ を使用して、インタラクティブメニューから「Setting menu (設定メニュー)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 「Measurement units (測定単位)」を選択し、「ENTER」を押します。
- 初期設定に戻す項目(例：Speed)を選択し、「ENTER」を押します
- 表示されていれば「Default(デフォルト)」を選択し、「ENTER」を押します。「Wait…(お待ちください)」が数秒間表示されてから「Restored(回復されました)」と表示され、その後「Default(デフォルト)」の項目がメニュー一覧に表示されなくなります。

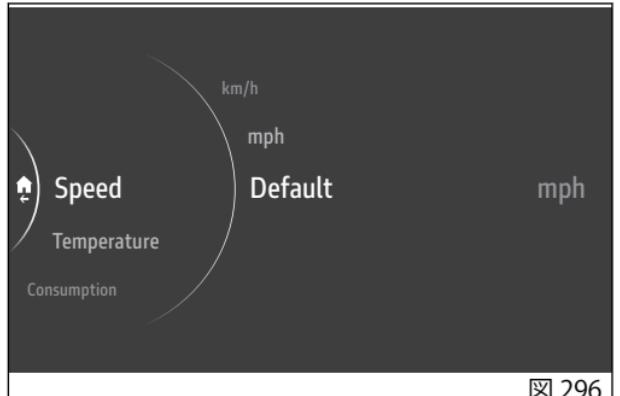


図 296

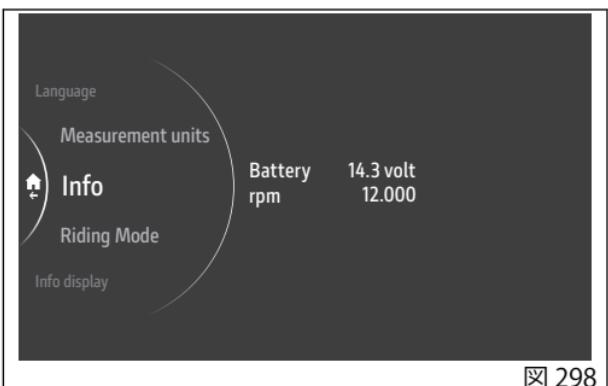
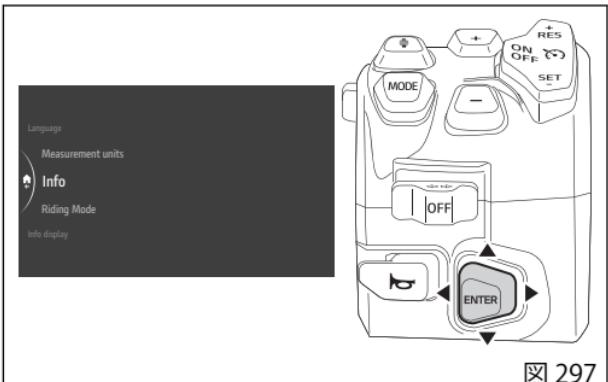
## Setting menu - Info

この機能では車両のバッテリー電圧とデジタル表示のエンジン回転数を表示します。

- 「SETTING MENU」(設定メニュー)に入ります。
- ブラウズボタンで "Info" を選択し、ENTER ボタンを押します。
- ディスプレイにバッテリーに関する情報とエンジン回転数がデジタル形式で表示されます。



参考 この機能については変更はできません。



## VHC

本車両が搭載するABSにはビーグルホールドコントロール(VHC)システムが組み込まれています。このシステムは積極的にリアブレーキをかけることで、ブレーキレバーやペダルを操作することなく車両の停止した状態を保ちます。再発進時、システムがブレーキにかけた圧力を調整します。これによりライダーはスロットルとクラッチの操作にだけ集中することができ、より快適な発進が可能になります。

この機能は、車両が停車しておりサイドスタンドが上がっている状態でライダーがフロントブレーキまたはリアブレーキを強くかけたときに起動します。インストルメントパネルを起動すればすぐに、この機能を起動することができます。システムは、車両の姿勢情報に基づいてABSコントロールユニットのポンプとバルブに作用し、リアブレーキシステムに圧力を加えます。

このシステムはABSのレベルを問わず(OFF状態も含む)起動します。システムが起動すると、ランプ(図299)が点灯します。このランプは、システムがリアブレーキへの圧力を低下させる、すなわち車両の停止状態が解除されるときに点滅を始めます。ブレーキへの圧力は段階的に滑らかに解除されます。

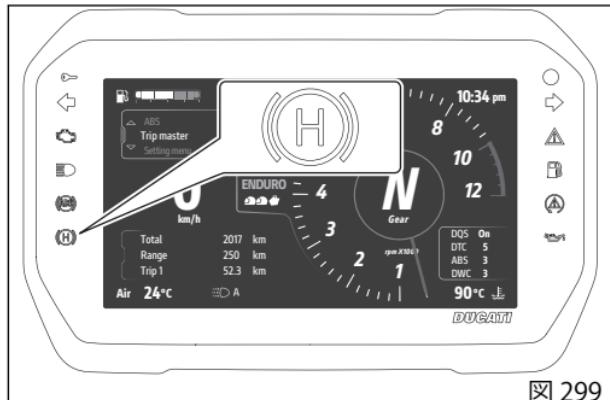


図 299

### 警告

ABSにエラーがない、あるいは機能が制限されていない時にのみ、システムは起動することができます。ABSにエラーが発生すると、ABSランプが点灯します。一方ABSシステムが初期化中であるか機能制限モードにある時は、ABSランプは点滅します。

この機能は以下の条件では無効になります。

- 1) 車両の発進時
- 2) フロントブレーキレバーを2回素早く操作した場合
- 3) システムの起動から180秒経過した場合
- 4) サイドスタンドを下ろした場合



## 警告

このシステムはパーキングブレーキのように機能するものではありません。システムの作動中であっても、システムが停止した場合にいつでも車両のコントロールができるように、ハンドルレバーから手を離さないようしてください。

## 警告表示

車両の使用中にユーザーに有用な情報を提供できるように、インストルメントパネルは一連の注意と警告を管理します。

起動時に通知が存在する場合は、インストルメントパネルに警告またはアラームの表示が現れます。最初の5秒間は大きく表示され、その後小さく表示されます。複数の警告またはアラームが存在する場合は、3秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

警告またはアラームには、大きい表示(A)と小さい表示(B)の2通りあります。図中では、メイン画面(図300)とDucati Connect画面(図301)内のそれぞれの表示位置を示しています。次の図には、左側にそれぞれの警告の大きい表示、右側に小さい表示を示しています。

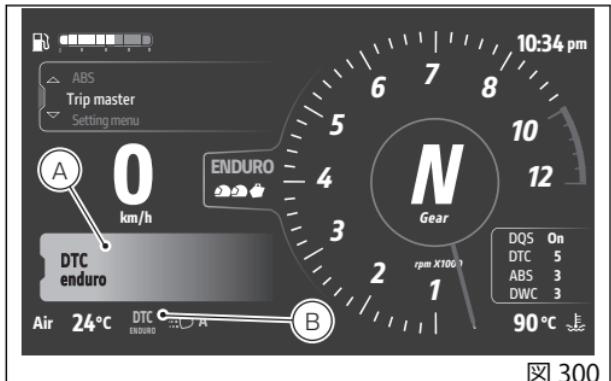


図 300

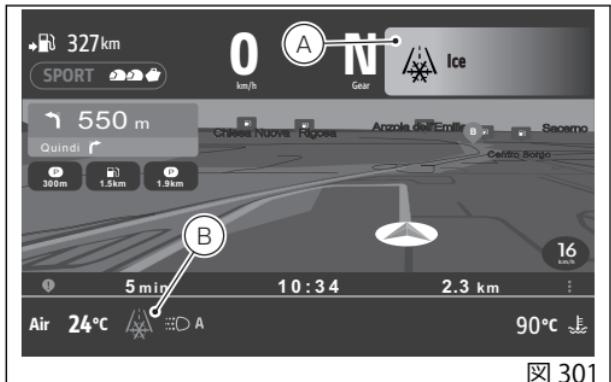


図 301

## DTC ENDURO (C)

黄色で表示され、オフロード用のDTC設定を使用しているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

運転には細心の注意を払ってください。このタイプの設定はオフロードでのみ使用するようにしてください。

## ABS ENDURO (D)

黄色で表示され、オフロード用のABS設定を使用しているため、アスファルト上での運転には細心の注意を払う必要があることを示します。

運転には細心の注意を払ってください。このタイプの設定はオフロードでのみ使用するようにしてください。

## Low (バッテリー残量低下) (E)

赤色で表示され、バッテリー充電レベルが11.0V以下に低下していることを示します。

車両を始動できるおそれがありますので、専用のバッテリー充電器で速やかにバッテリーを充電してください。

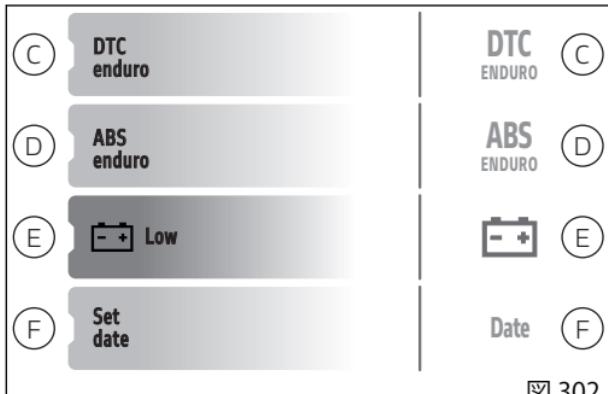


図 302

## Set data (日付の設定) (F)

黄色で表示され、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Date and Time (日付と時間)」機能から日付を入力する必要があることを示します (ページ 264)。

## No key (G)

黄色で表示され、Hands Free システムが車両付近にアクティブキーを感知できないことを示します。

## Key low (キー電池残量低下) (H)

黄色で表示され、Hands Free アクティブキーの電池が切れかけていることを示します。できるだけ早く電池を交換してください。

## Ice (I)

黄色で表示され、外気温が低いため路面凍結の危険があることを示します。気温が $4^{\circ}\text{C}$ ( $39^{\circ}\text{F}$ )以下になると作動します。気温が $6^{\circ}\text{C}$ ( $43^{\circ}\text{F}$ )まで上がると警告は解除されます。



この警告は、気温が $4^{\circ}\text{C}$ ( $39^{\circ}\text{F}$ )を超えている場合でも、凍結の可能性がないことを保証するものではありません。気温が低い時に日陰や橋の上を走行する際は、特に安全運転を心がけてください。

## Set pressure (空気圧の設定) – アクセサリー (J)

黄色で表示され、「Setting menu (設定メニュー)」内の「Tyre pressure (タイヤ空気圧)」機能からタイヤの基準空気圧値を入力する必要があることを示します

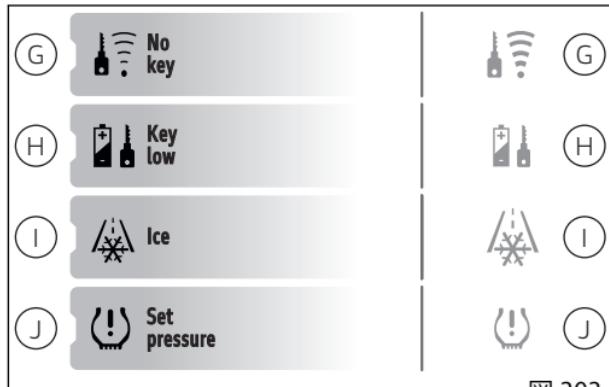


図 303

(ページ 284)。タイヤ空気圧センサーを装備している場合にのみ表示されます。

Front pressure (フロントタイヤ空気圧) (K),  
Rear pressure (リアタイヤ空気圧) (L) – アクセサリー

黄色で表示され、該当するタイヤの空気圧が低下していることを示します。タイヤ空気圧センサーを装備している場合にのみ表示されます。

Front TPMS (M)、Rear TPMS (N) – アクセサリー

黄色で表示され、該当するタイヤ空気圧センサーの電池が切れかけているため、まもなくタイヤ空気圧データが利用できなくなることを示します。

センサーの交換を実施する必要がありますので、できるだけ早くセンサーの点検を受けてください。

タイヤ空気圧センサーを装備している場合にのみ表示されます。

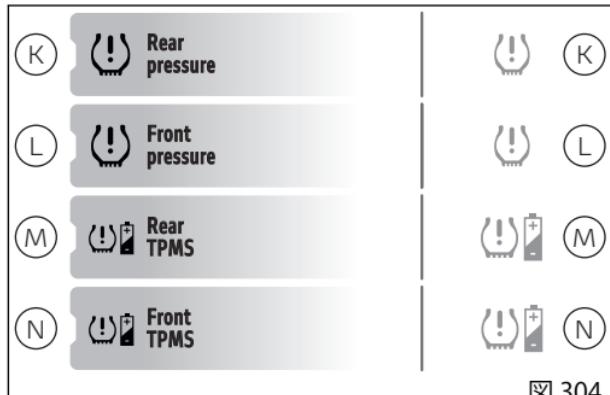


図 304

## Steering lock error (ステアリングロックエラー) (O)

黄色で表示され、Hands Free システムがステアリングロックを解除できなかつことを示します。



ハンドルレバーを下まで押し下げた状態で車両を停止してから、再び起動してください。この操作を行っても警告が消えず、ロックが解除されない場合は、Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

## Low fuel (燃料残量低下) (P)

黄色で表示され、燃料レベルが低下していることを示します。この警告には小さい表示はありません。



図 305

## 電子式オープニング燃料フィラープラグ表示 - アクセサリー

電子式オープニング燃料フィラープラグが車両に装備されている場合、インストルメントパネル内には電子プラグが開いていることを示す黄色の情報アイコンがあります。

- 起動時には、(Q メイン画面図 306)  
(である R Ducati Connect 画面図 307)が最初の 5 秒間大判で表示されます。
- 次に、(S メイン画面図 306)、  
(T Ducati Connect 画面図 307)が小さく表示されます。

プラグが開いているときにインストルメントパネルがオンになると(キーオン)、アイコンがアクティブになります。

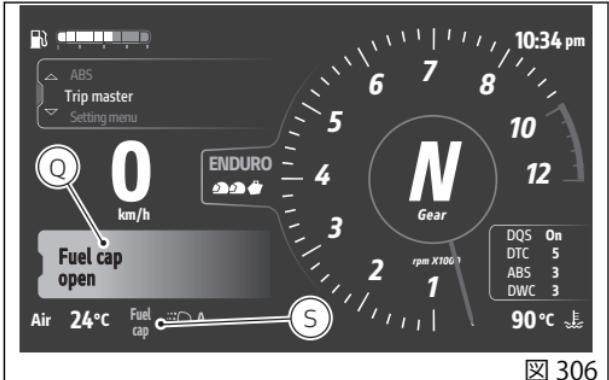


図 306



図 307

## エラー表示

インストルメントパネルは、車両の不具合をリアルタイムに特定できるように、エラーの警告を管理します。

エラーが発生すると、メイン画面に大きい通知(A、図308)が赤色で10秒間表示されてから、小さい表示(B、図308)に変わります。

Ducati Connect画面では、図中に示す位置(C、図309)に表示されます。

エラーが解決されるまで、通知が表示され続けます。複数のエラーが存在する場合は、5秒ごとに一つずつ順番に表示されます。

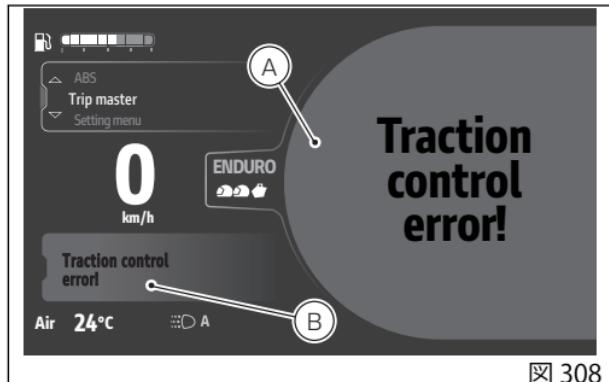


図 308



図 309

## Traction control error! (図 310)

このエラーが表示された場合は、トラクションコントロールにエラーが発生しているため、Ducati 正規サービスセンターにご連絡いただく必要があることを示しています。

## ABS error! (図 311)

このエラーが表示された場合は、ABS にエラーが発生しているため、Ducati 正規サービスセンターにご連絡いただく必要があることを示しています。

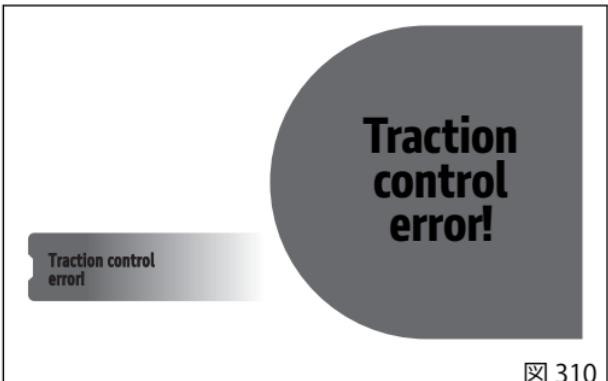


図 310

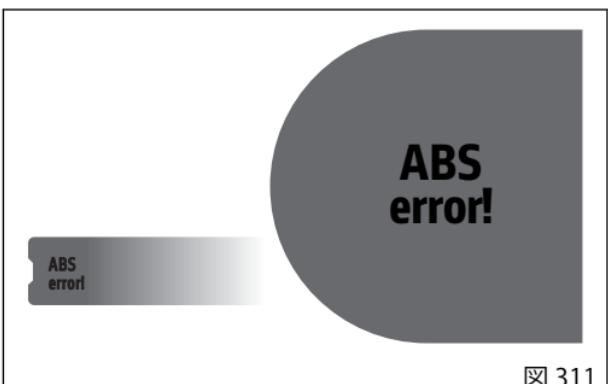


図 311

# 主な整備作業とメンテナンス

## クーラントレベルの点検および補充

ヘッドライト下の左側から右側に向かって観察し、リザーバータンク(1)内のクーラントレベルを点検します。

「メンテナンスプログラム」表で指定される間隔に従って、レベルを点検します。

車両を平坦な場所にセンタースタンド(装備している場合)、またはメンテナンススタンドで駐車します。

クーラントレベルがリザーバータンク脇にあるMIN及びMAXの目盛の間にあることを確認します。

クーラントレベルがMINより下の場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターに補充をご依頼ください。

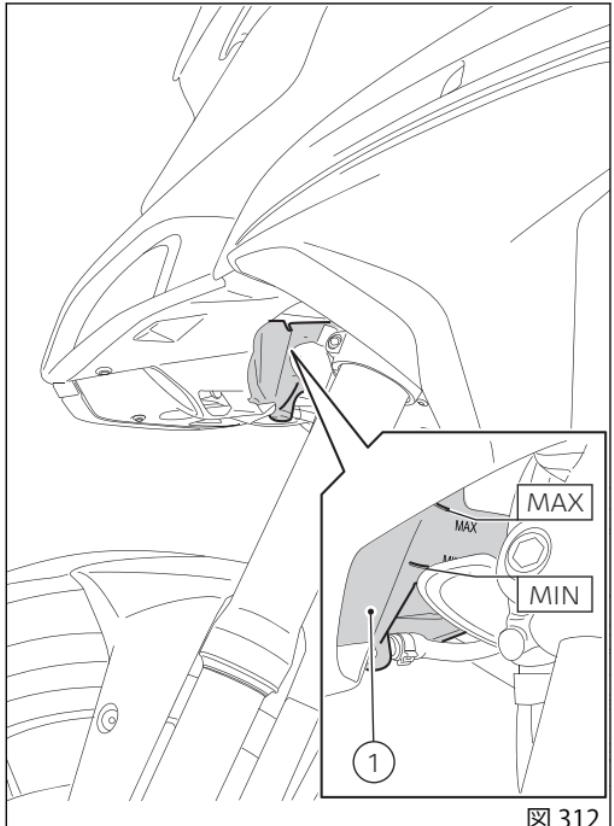


図 312

## ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキとクラッチのフルードレベルの点検は、車両をセンタースタンド(装備している場合)で平坦な場所に駐車して実施します。

フロントブレーキ(1)、リアブレーキ(2)、クラッチ(3)の各フルードタンクのレベルは、絶対に各リザーバータンクのMIN目盛以下になってはいけません。

フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。

また、「メンテナンスプログラム」表に指定されているブレーキ / クラッチフルード補充および交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご依頼ください。

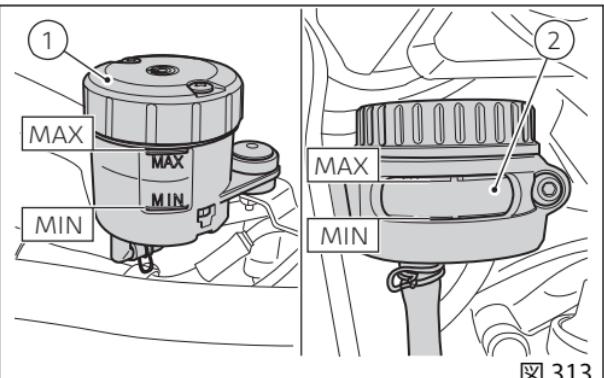


図 313

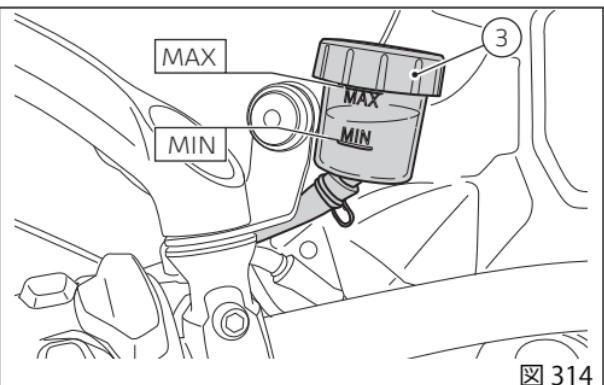


図 314

## ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。



### 警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えるので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすことがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

## クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際にエンジンがノッキングしたり止まったりする時は、システム内にエアが混入している事があります。システムを点検とエア抜きを行う必要があるため、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



### 警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください(最低レベルの 3 mm 上)。

## ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。  
どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mm になっている場合は、両方のパッドを交換します。



### 警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。



### 重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

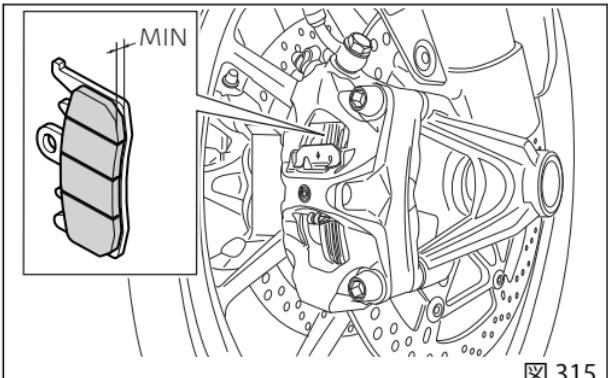


図 315

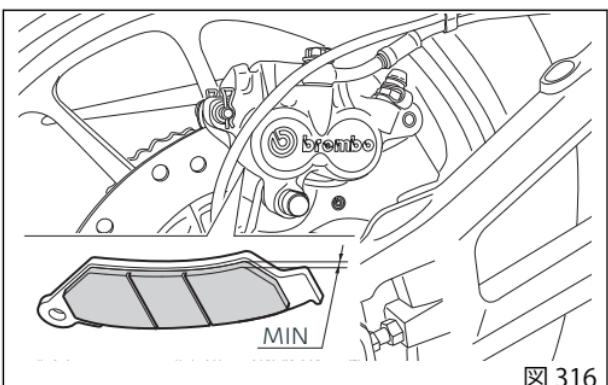


図 316

## バッテリーの充電

スクリュー(2)を緩めて外し、バッテリー(1)の固定ブレacket(3)を抜き取ります。

保護シース(4)を持ち上げ、固定スクリュー(5)を緩めて外し、対応する電極から以下のケーブルを外します。

- 1) マイナスケーブル(6)
- 2) プラスケーブル(7)

バッテリー(1)を上に引き抜いて外します。

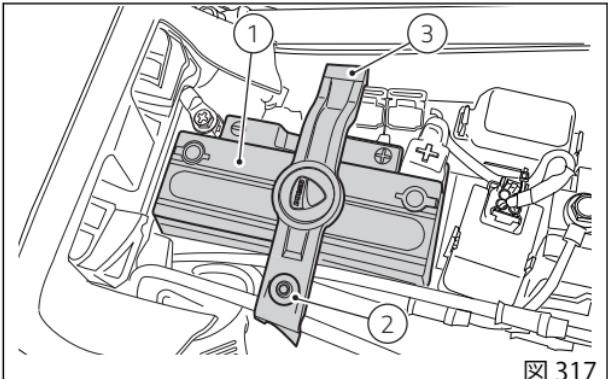


図 317

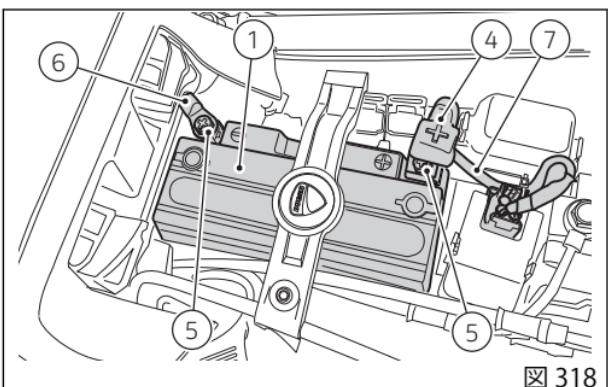


図 318

## バッテリーの取り付け

取り外した場合は、バッテリーマウント(8)をハウジング内に平らに置きます。

バッテリー(1)をマウント(8)に配置します。

バッテリーケーブルを必ずプラスケーブル(+)から初めて、以下のように接続します。

- プラスケーブル(+) (7) をプラス端子に接続する。
- マイナスケーブル(-) (6) をマイナス端子に接続する。

電極のスクリュー(5)を締め付け、保護シース(4)を配置します。

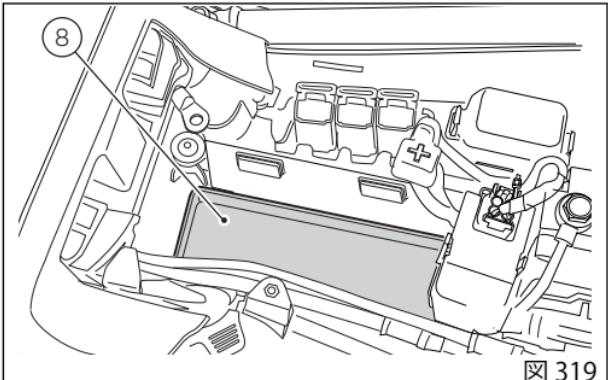


図 319

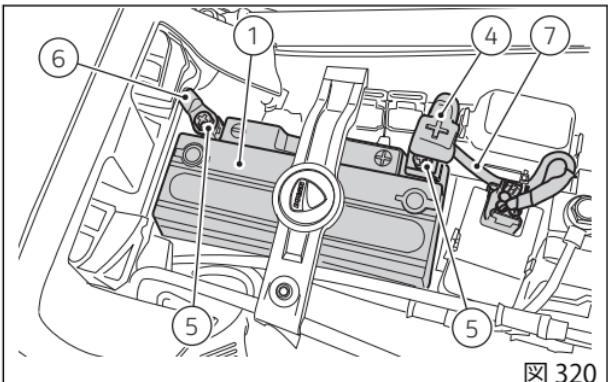


図 320

バッテリー(1)の固定ブラケット(3)を取り付け、スクリュー(2)を締め付けます。

## !**警告**

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。

端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。

Ducatiは、Ducati純正品以外のバッテリー充電器やメンテナーを使用したことに起因するいかなる責任も負いません。

Ducati専用バッテリーメンテナー(バッテリーメンテナーキット、部品番号:69928471A(ヨーロッパ)、部品番号:69928471AW(日本)、69928471AX(オーストラリア)、69928471AY(イギリス)、69928471AZ(USA)、当社販売店にてお求めいただけます)を使用してください。使い方は「バッテリー充電の維持」の記載に従ってください。

## !**警告**

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

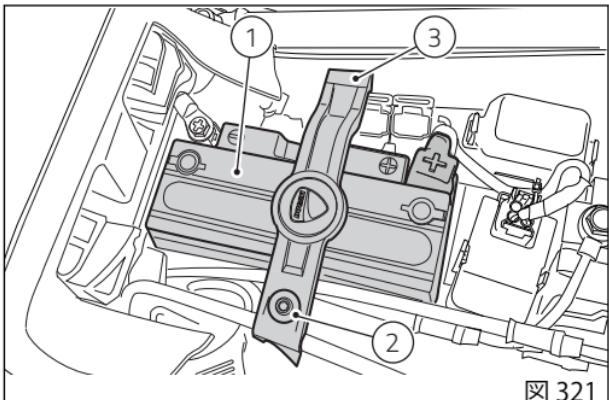


図 321

## !**重要**

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

## **警告**

車両のバッテリーが完全に放電しているために始動が不可能な場合、外部エンジンスターターや外部バッテリーを並列に接続してバイクを始動することは許可されていません。

実際、充電システムは、完全に放電したバッテリーでエンジン電子機器(点火/噴射システムを含む)への正しい供給電圧を保証するようには設計されていません。これは、機能的に重大な問題を引き起こす可能性があります。

バイクを使用する前に、バッテリーの交換または充電を行い、点検してください。

## **警告**

バイクの押しがけはしないでください。

## トランスマッisionチェーン張力の点検



### 重要

チェーンの張りが不適切だとトランスマッision部品の磨耗を早めます。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。

車両をサイドスタンドで支えて駐車します。

チェーン張力ゲージ(1)をチェーンスライダー(2)とスイングアーム(3)の間の後ろ側スクリュー(4)に奥まで取り付け、チェーンピンの中心がゲージのマーク(B)とマーク(C)間にあることを確認します。

チェーンの測定位置を指で下向きと上向きに押して放し、記載に従って測定し、距離(A)を確認します。

チェーンピンの中心とチェーンテンション用スライダー間の距離(A)は、

A = 33~35 mm (1.30~1.38 in) でなければなりません。

A = 28~30 mm (1.10 ~ 1.18 in) (中国バージョンのみ)。

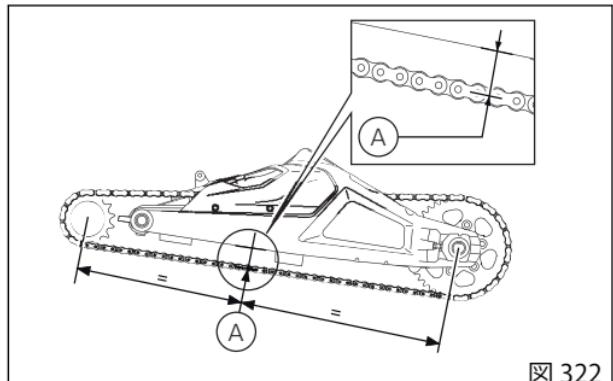


図 322

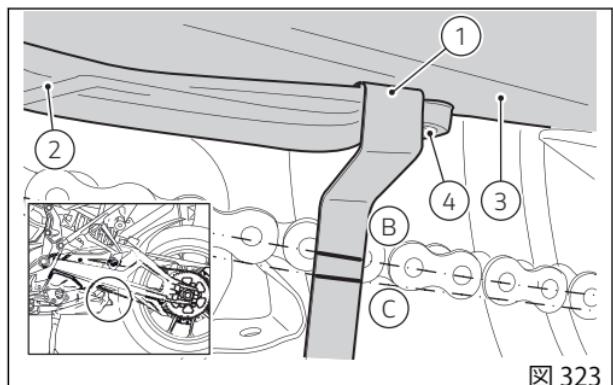


図 323

## ⚠ 重要

この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

チェーンのゲージ(1)付近を指で下に押して、チェーン張力を確認します。

チェーンピンの軸(D)がゲージ(1)のマーク(C)より下にある場合は、チェーン張力を調整する必要があります(参照図324)。

チェーンピンの軸(D)がゲージ(1)のマーク(C)と同じか、もしくはマーク(B)とマーク(C)の間にある場合は、チェーン張力は正しく調整されています(参照図325)。

## ⚠ 重要

チェーン上の等間隔の3つの点で測定を繰り返します。

## ⚠ 警告

この作業は、車両のスイッチを切り、乾いた平坦な場所にスタンドで駐車した状態で実施してください。

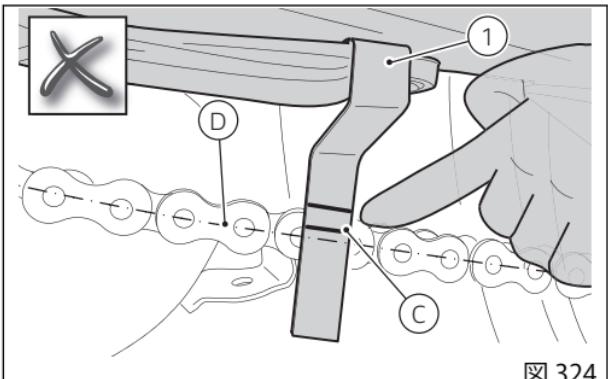


図 324

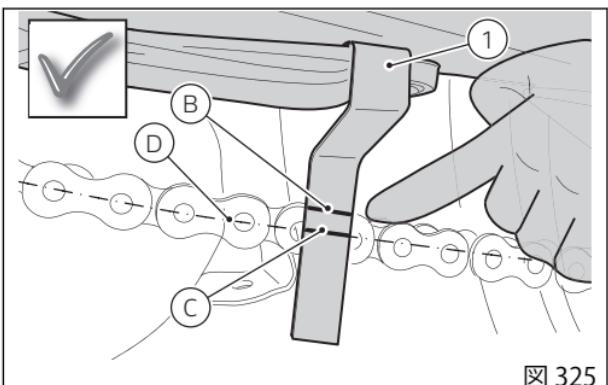


図 325

## **!** 警告

ナット(5)を使用して、フォークの締め付けが正しいかを確認します。

ナット(6)の締め付けが正しいことを確認し、マーク(7)を使用してホイールアライメントとフォークの配置が正しいことを確認します。

## **!** 重要

チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするために、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

### チェーン張力の調整

## **!** 重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

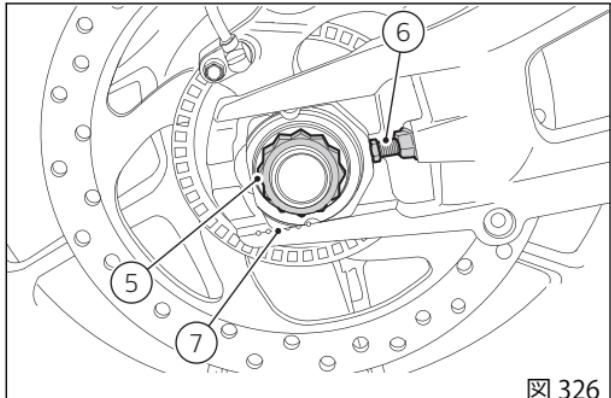


図 326

## チェーンの潤滑

### 重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

### 警告

この作業は、車両のスイッチを切り、乾いた平坦な場所にスタンドで駐車した状態で実施してください。

### 清掃

チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、頑固な汚れをまず湿らせた柔らかい布(1)でやわらかくしてからウォータージェットで取り除き、その後すぐに30cm(11.81インチ)以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

### チェーンの点検

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つOリングガスケット付きチェーンが装着されています。

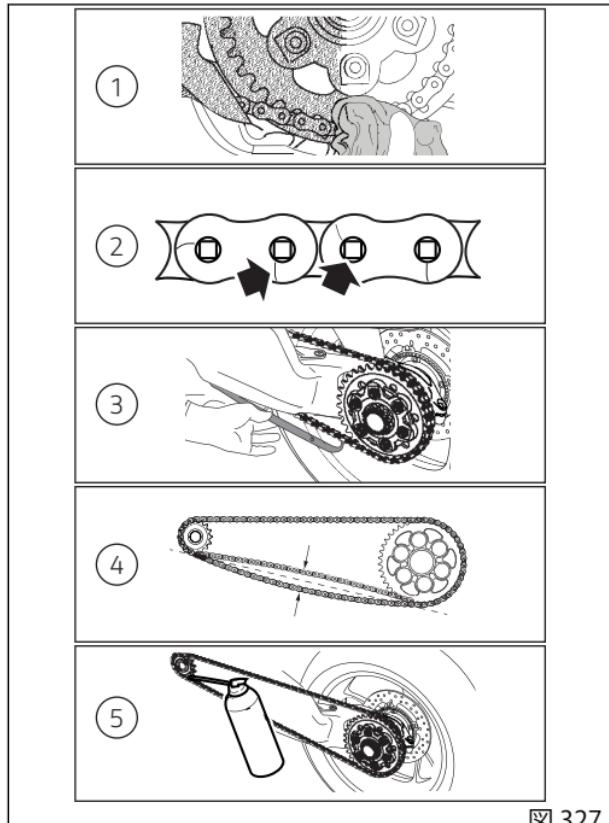


図 327

指定箇所(2)のリンクを点検して、チェーンの摩耗状態を確認します。

## **警告**

蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、0度のリンクを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

## **警告**

特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

### **チェーンスライダーの点検**

チェーンスライダー(3)の摩耗状態を確認し、必要な場合には、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

### **チェーン張力の点検**

「ドライブチェーン張力の点検」の記載に従って、チェーン張力(4)を確認してください。

チェーン張力の調整は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

## 潤滑システム

### 重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

### 警告

潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランスマッisionシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑(5)は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行なってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

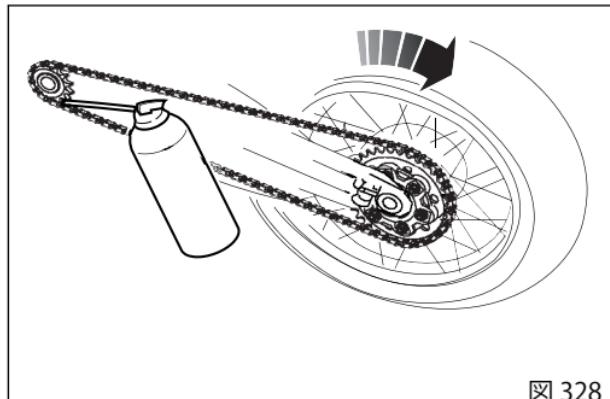


図 328

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所(2)で、潤滑剤(1)のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部(5)に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング(4)および外側のプレート(6)を潤滑します。

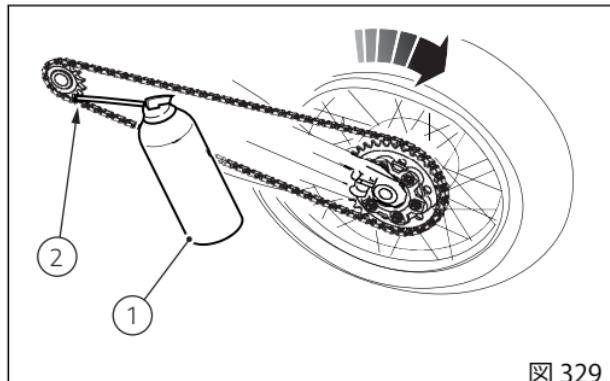


図 329

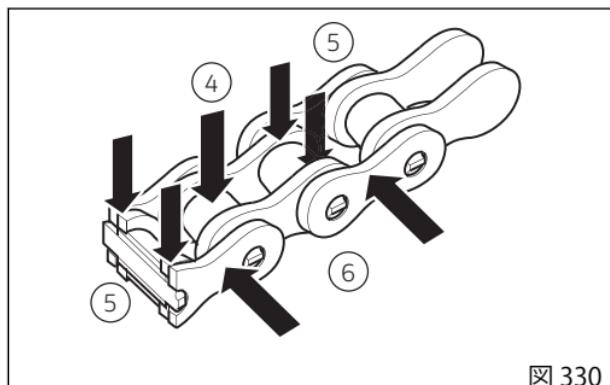


図 330

潤滑の終了後 10～15 分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

### !**重要**

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

### !**重要**

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも 1000 km (621 マイル) 毎に行ってください。外気温度が高い (40° C) 土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁 (約 400 km (248 マイル) 毎) に潤滑を行ってください。

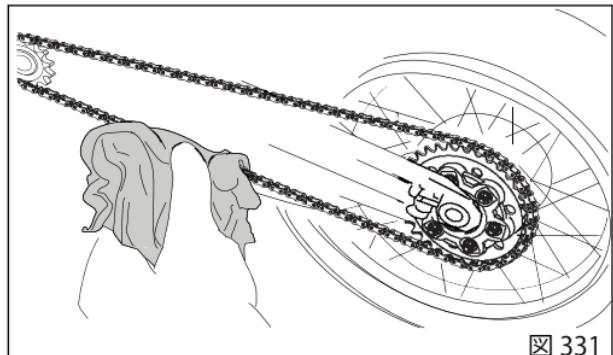


図 331

## ヘッドライトの光軸調整



ヘッドライトには左右の光軸調整用に2つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、壁面またはスクリーンの前10メートル(32.8 フィート)の位置に車両を直角に配置し、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。

左右の光軸調整を行うには、照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの9/10以下でなければなりません。

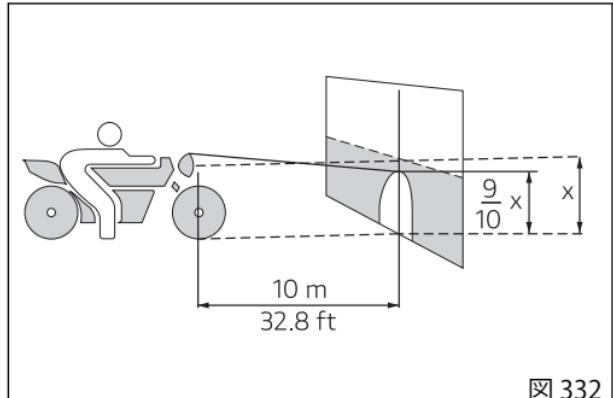


図 332

ロービームライトの光軸を点灯し、右側ロービームライトを覆います。

調整スクリュー(1)を操作し、覆われていない左側のロービームランプ光軸の垂直方向を調整します。スクリュー(1)を操作しやすいように、ステアリングホイールを完全に右に切ってください。スクリュー1を指で回すか、回しにくい場合は必要に応じてスクリュー(1)の切り欠きにコインを入れて調整してください。

ヘッドライトのスクリュー(1)を時計回りに回すと、光軸は下に移動します。反対方向に回すと上に移動します。

左側ロービームライトの調整が完了したら、今度は左側を覆い、スクリュー(2)を操作して右側ロービームライトを調整します。

ヘッドライトのスクリュー(2)を時計回りに回すと、光軸は下に移動します。反対方向に回すと上に移動します。

ハイビームライトの光軸を点灯します。

光軸の水平方向の調整は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

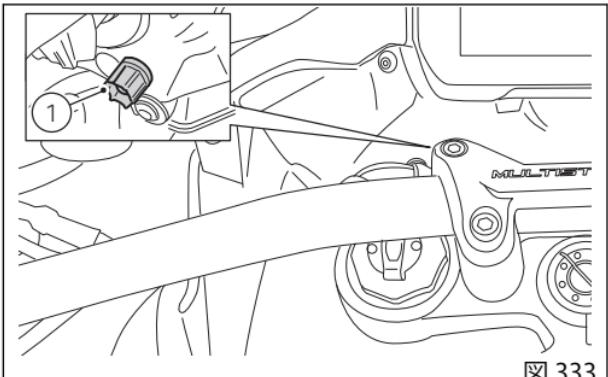


図 333

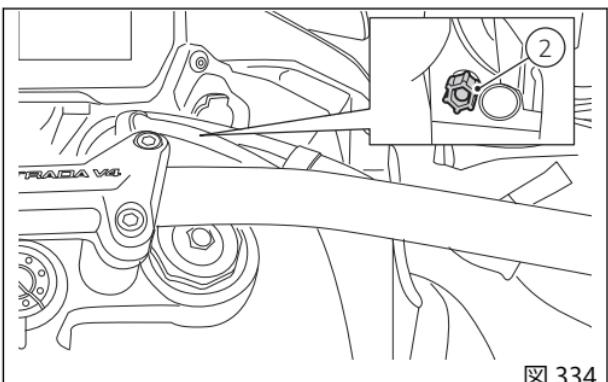


図 334



## 参考

この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

## リアビューミラーの調整

ミラーのハウジング(1)を慎重に手で回し、必要な位置に調整します。

スクリュー(2)を操作してさらに調整を行うこともできますが、その場合はDucati正規ディーラーまたはサービスセンターにご依頼ください。

この追加の調整作業の後には、ハウジング(1)を動かしてミラーを調整する必要があります。

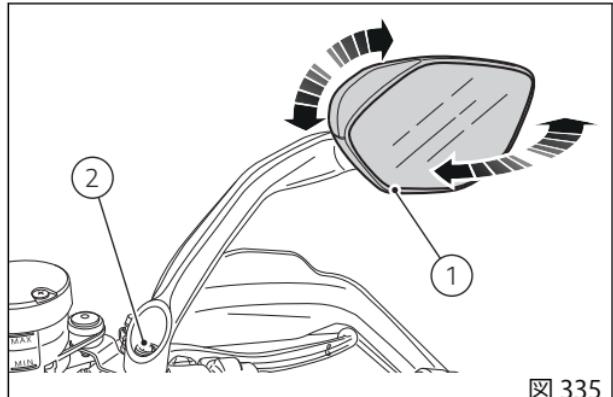


図 335

## タイヤ

タイヤの種類とタイヤ空気圧については、「テクニカル仕様」セクションの「タイヤ」を参照してください。

タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

### 警告

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~0.3 bar (2.9 ~4.35 PSI) 上げてください。

### タイヤの修理、交換

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。



### 警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。



### 警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



### 参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどのABSシステム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

## タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S)の溝の深さを測定します。溝の深さは2 mm (0.08 in)以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。



### 重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドの溝に入り込んだ石や異物は取り除いてください。

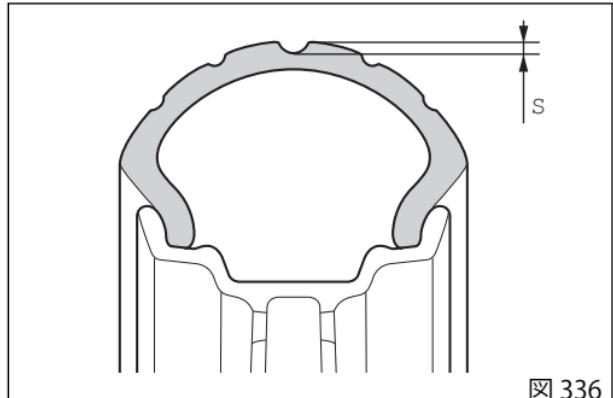


図 336

## エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。

オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社規定オイルは SAE 15W-50/JASO MA2 のみで、推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。

フィラーキャップ(2)を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

### 重要

本冊子の「メンテナンスプログラム」の章に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルレベルの正確な点検を実施するには、以下に記載する作業をよく読んで指示に従ってください。

- 1) オイルレベルの点検はエンジンを切ってから約 15 分後、エンジンが熱い状態で実施してください。
- 2) エンジンを停止し、オイルが完全にオイルパンに戻るまで 10~15 分待ちます。
- 3) 平坦な場所に両方の車輪を地面に着け、直立に駐車します。

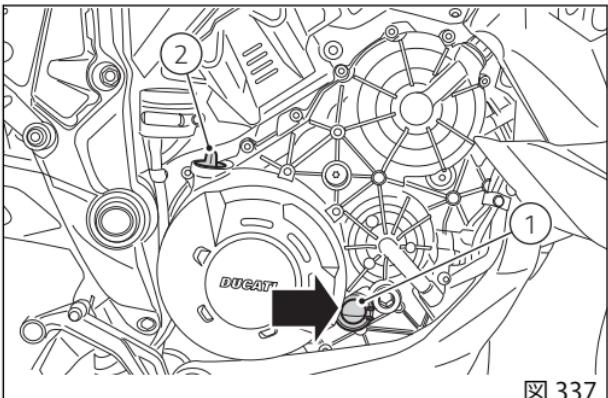


図 337

4) この時点で、エンジンオイル点検窓からオイルレベルを点検します。

5) オイルレベルが MIN と MAX 目盛りの中央より下であれば、MAX 目盛りまでオイルを補充してください。

### 警告

MAX 目盛りは絶対に超えないようにしてください。

### オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SN

- JASO 規格：MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API(米国での分類) および JASO(日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

## 車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

### 参考

 研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。

### 重要

 走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高压洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

### 警告

 洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

## **警告**

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じことがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンターを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けしてください。

## **警告**

インストルメントパネルのクリアカバーにオイルや燃料が直接付着しないようにしてください。シミや損傷の原因となり情報を読み取りにくくなるおそれがあります。この部分の清掃にはアルコール系洗剤、溶剤や研磨剤入りの洗剤を使用しないでください。表面の硬いザラついたスポンジや布はキズが付くおそれがありますので使用しないでください。

## **参考**

インストルメントパネルのクリアカバーは、やわらかい布を使用して水と中性洗剤、もしくはクリアプラスチック部品専用の洗剤で清掃してください。

## **参考**

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

ホイールリムにはアルミニウム加工が施されていますので、清掃には十分に注意してください。車両を使用するたびに、ホイールリムを清掃して乾燥させてください。

## **重要**

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

## 長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。

結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。

車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

## 重要注意事項

一部の国では騒音規制の基準が設けられている場合があります。

法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

車載されている様々な電子コンポーネントには、車両の状態、イベント、故障に関する技術情報を一時的または永続的に保存するデータメモリがあります。

通常、これらの情報は、ひとつのコンポーネント、モジュール、システム、または環境の状態を記録しています。

- システムコンポーネントの動作状態(例：排出ガス制御システム)
- 車両と個別コンポーネントの状態のメッセージ(例：車輪回転速度、エンジン回転数、挿入ギアなど)
- システムの重要なコンポーネントの不具合と故障(例：ライト、ブレーキなど)
- 特定の運転状況での車両レスポンス(例：トラクションコントロールシステムなど)
- 環境条件(例：気温など)

これらのデータは技術的な性質のものであり、故障を特定・修正して、車両の機能を最適化するために使用されます。

修理、メンテナンス作業、保証対象作業、品質保証などのサービスを実施する際、アシスタンスネットワーク(製造メーカーを含む)のスタッフは、特別な診断ツールを使用して、イベントや故障データメモリからこれらの技術情報を読み取ることができます。故障が解消されれば、故障メモリの情報を徐々に消去または上書きすることができます。

車両データは、お客様から要請されたサービスや契約に基づいて車両に実施されるサービスの際に収集されます。

これらのサービス環境において、お客様の個人情報は、サポートの効率を高めるという Ducati の正当な

利益に基づき、また最終的な法的義務(例:修理・メンテナンスに関する情報義務)を果たすために、現行の個人データ保護規則に従って取り扱われます。必要に応じて、個人データの読み取りが行われ、車両識別番号と併せて使用されます。

当社のコントロールユニットが位置情報データを収集することはありません。

## ドゥカティデータモニタリング(DDM)

この車両には、データモニタリングシステムのドゥカティデータモニタリング(DDM)を搭載することができます。

DDMの目的は、次の条件のいずれかが検出された場合にのみ、特定のタイプのデータを収集することです。

- 後輪のリフトアップや衝突。
- 高度なパイロット支援システム(ARAS)診断トラブルコードの検出(搭載されて起動されている場合)。



**重要**  
アルゴリズムと DDM は、衝突に近い状況を正確に検出することを常に保証できるわけではありません。

DDMが起動されると、限られた期間、データの一部のみが収集されることに注意してください。

DDMに保存されているデータは、上記の動作条件での車両の動的パラメーターと設定に関するものです。

通常のノーマルライディングでは、データは記録されず、個人データ(名前、性別、年齢、地理的位置データなど)も収集または記録されません。

ドゥカティデータモニタリングシステムは、ドゥカティ診断システム(DDS3.0)を使用して、公式のドゥカテ

ィサービスネットワークから車両で直接ダウンロードできます。読み取り値は、Ducati Motor Holdingのみが取り扱います。システムの最適な機能を保証するために、DDMに含まれるデータは、ドゥカティ正規サービスセンターで実行される各診断チェック中に車両からダウンロードおよび削除されます。

Ducati Motor Holdingは、所有者またはテナントの同意がある場合にのみ、または施行されている法律に従って、あるいは以下に示すように、DDMデータにアクセスするか、それらを第三者に転送します。法執行機関などの他の関係者が、DDMデータを、事故調査の実施で一般的に取得されるタイプの個人情報と組み合わせる可能性があります。

このようなデータは、以下の状況で第三者にアクセス/開示される場合があります。

- 車両の所有者(または車両がレンタルされている場合は借主)が同意した場合。あるいは、
- 警察の公式要請に応じて。あるいは、
- 裁判所または政府機関の命令による。あるいは、
- 法廷での弁護、法的手続き、またはドゥカティまたはその関連会社に対する補償の要求に直面した場合。
- ドゥカティはまた、車両の動作と安全性能を調査する目的や、あるいはそのような調査目的でデータをサードパーティのサプライヤーに提供すること

とを目的として、許容される状況において車両から回収されたDDMデータを匿名で使用することもできます。

## 車両の運搬

別の車でモーターサイクルを運搬する前に、安全に関する以下の指示に従ってください。

- 1) 確実に固定されていない物やアクセサリーを車両から取り外してください。
- 2) 運搬に使用する車に対して真っすぐになるように前輪を進行方向に向けて配置し、前輪が動かないように適切に固定してください。
- 3) ギアを1速に入れてください。
- 4) 固定用ベルトを使用してください。固定用ベルトは硬い部品(フレームなど)の位置で固定するようにし、ハンドルバー(またはハーフハンドルバー、装備に応じる)や破損する危険のある部品(グリップ、リアビューミラーなど)には取り付けないでください。
- 5) ベルトやロープが車両の塗装部品をこすらないように取り付けてください。
- 6) 運搬中に路面からの振動に対する車両の動きが少なくなるように、可能であれば、サスペンションを部分的に圧縮された位置に設定してください。

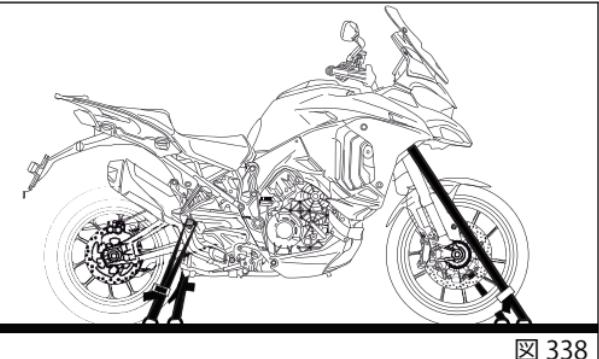


図 338

ロープをハンドルバーに固定しないでください。

# メンテナンスプログラム

## メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス



### 重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスマッシュョン、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

	Annual Service * 曲				
	Valve Check * ≈				
	Oil Service *				
	Oil Service 1000 *				
DDS 3.0による不具合メモリーの読み取り、DSCから技術アップデートとリコールキャンペーンの有無の確認	.	.	.	.	.
エンジンオイルおよびフィルターの交換	.	.			24
エアフィルターの点検と清掃		.			
エアフィルターの交換			30,000 km / 18,000 mi ごと		

			<b>Annual Service *</b> 曲
			<b>Valve Check *</b> ⇢
			<b>Oil Service *</b> 🚗
			<b>Oil Service 1000 *</b>
バルブクリアランスの点検と調整			・
スパークプラグの交換			・
クーラントの交換		・	48
フロントフォークオイルの交換			45,000 km / 27,000 mi ごと
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検	・	・	・
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	・	・	・
ブレーキ/クラッチフルードの交換			24
フロント / リアブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		・	・
フロント / リアのブレーキキャリパーのスクリュー、ブレーキディスクのスクリューの締め付け点検		・	・
フロント、リアホイールナットの締め付け、リアスプロケットナットの締め付け点検	・		・
エンジン、スイングアーム、リアショックアブソーバーへのフレーム固定の締め付け点検	・		
フロント / ロアホイールハブベアリングと、ステアリングチューブベアリングの遊びの点検	・		・
リアスプロケットのクッシュドライブダンパー点検、リアホイールシャフトの潤滑	・		

Annual Service \* 曲

Valve Check \* ⇠⇨

Oil Service \* ↗↖

Oil Service 1000 \*

チェーン、リアスプロケット、フロントスプロケットの摩耗点検、チェーン張力点検、ファイナルドライブチェーンの潤滑と伸び点検

伸び測定値：\_\_\_\_\_ (cm) (in)



ファイナルドライブチェーンキットは、走行距離 20,000km/12,000mi を超える前に交換してください。

サイドスタンドの作動、締め付け点検

目視できるすべてのカバーやフレキシブルホース(燃料供給、ブレーキ、クラッチ、冷却システムのフレキシブルホース、ブリーザーホース、ドレンホースなど)に亀裂や漏れなどがない、正しく取り回されていることを点検する

リアブレーキペダルの遊び点検

ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑

サイドバッグとトップケースの傾斜システムの動きの点検

タイヤ空気圧、磨耗点検

電気安全装置の作動点検(サンドスタンドとクラッチセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)

			Annual Service * 曲	
			Valve Check * ⇠	
			Oil Service * ↗	
			Oil Service 1000 *	
ランプ類、ターンインジケーター、警告ホーン、コマンド類の動作点検	.	.	.	.
安全装置(ABS、DTC、VHCなど)、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた 路上での走行テスト	.	.	.	.
クーラントレベルの目視点検、回路の密閉状態の点検	.	.	.	.
車両のソフトクリーニング、DDS 3.0による定期点検の登録とインストルメントパネルの サービス警告灯のリセット、定期点検実施の車載書類(サービスブック)への記入	.	.	.	.

\* Oil Service 1000 の点検は、納車後 1,000 km/600 mi 走行時点、または 6 カ月後に実施してください。

\* Oil Service ↗ 点検は、15,000 km/9,000 mi 走行ごと、または 24 カ月ごとに実施します。

\* Valve Check ⇠ の点検は、60,000 km/37,280 mi ごとに実施します。

\* Annual Service 曲 は 12 カ月ごとに実施します。

## メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス



### 重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
月	月	6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

\* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

# テクニカル仕様

## 重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠) : 243 kg (535.72 lb)  
乾燥重量 (バッテリー、潤滑油、クーラントを除く) 218 kg (480.61 lb)

車両総重量 (最大負荷重量) : 470 kg (1036.1 lb)

## 警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

## 警告

最大許容速度は、車両に搭載されている荷重によって異なります。

- トップケースとタンクバッグ、またはサイドバッグとタンクバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 180 km/h (112 mph) です。

- トップケース、タンクバッグ、サイドバッグが搭載されている場合の最大許容速度は 160 km/h (100 mph) です。

いずれの場合も、法定速度を遵守してください。

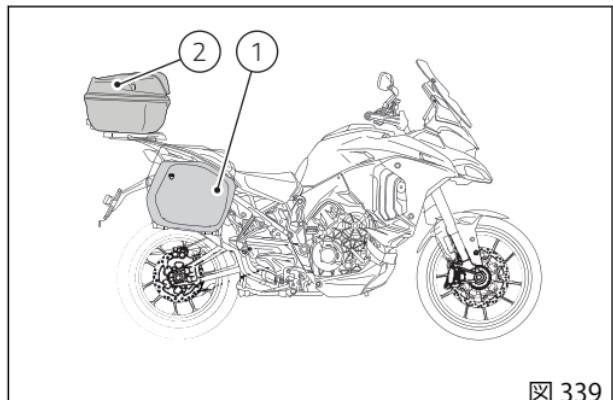


図 339

## 警告

サイドバッグ、トップケース、タンクバッグの総重量が 30 kg (66.13 lb) を超えないようにしてください。重量配分は以下のとおりです。

各サイドバッグ (1) につき最大 10 kg (22 lb)

トップケース (2) は最大 5 kg (11 lb)

タンクバッグは最大 5 kg (11 lb)

## サイズ

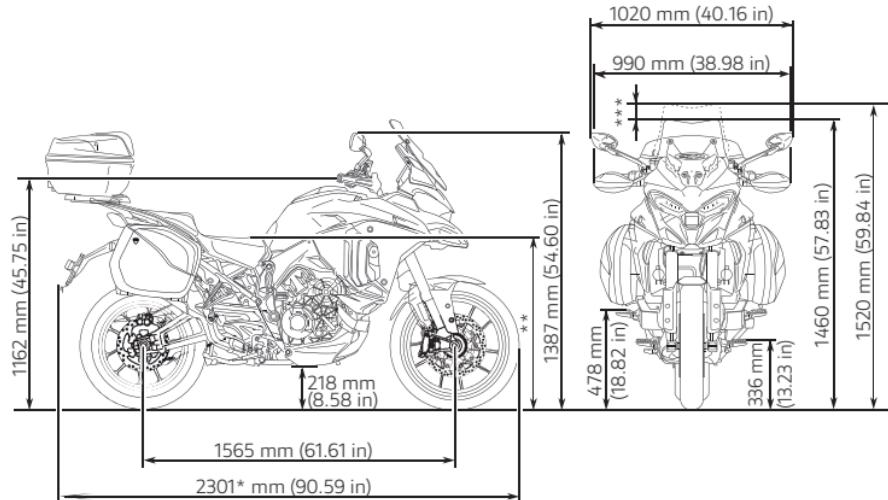


図 340

\*全長：2301 mm (90.59 in) (トップケース／アルミニウム製トップケースを含まない)、2375 mm (93.50 in) (プラスチック製トップケース)

\*\*シート高：(860～840) mm (33.86～33.07 in) - ローシート (オプション)

\*\*\* 全高：1460 mm (57.83 in) (ヘッドライトフェアリング最下段)、1478 mm (58.19 in)、1487 mm (58.54 in)、  
1497 mm (58.94 in)、1504 mm (59.21 in)、1514 mm (59.60 in)、1520 mm (59.84 in) (ヘッドライトフェアリング最上段)

中国、日本、韓国、タイ、台湾バージョンのみ

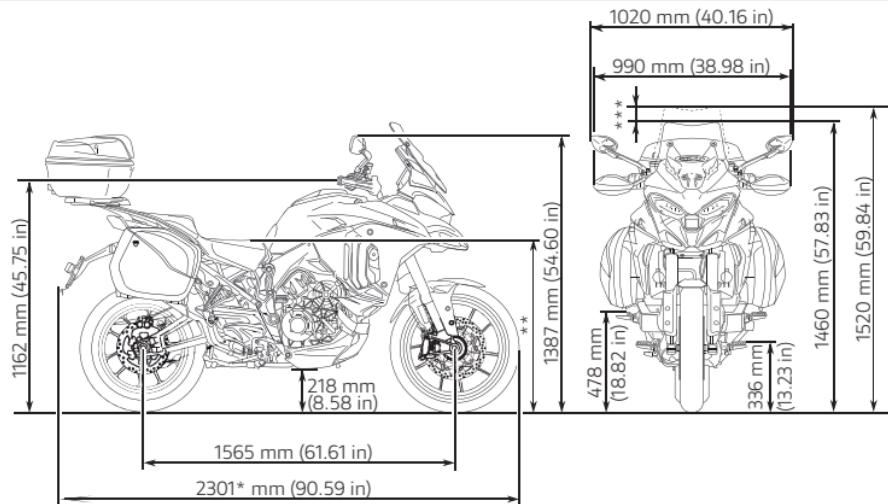


図 341

\*全長：2301 mm (90.59 in) (トップケース/アルミニウム製トップケースを含まない)、2375 mm (93.50 in) (プラスチック製トップケース)

\*\*シート高：840～820 mm (33.07～32.28 in)

\*\*\* 全高：1460 mm (57.83 in) (ヘッドライトフェアリング最下段)、1478 mm (58.19 in)、1487 mm (58.54 in)、  
1497 mm (58.94 in)、1504 mm (59.21 in)、1514 mm (59.60 in)、1520 mm (59.84 in) (ヘッドライトフェアリング最上段)

## 補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットル (0.88 UK ガロン) を含む	V-Power を使用してください。	4.8 UK ガロン (1.08 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルタ	ドゥカティ社は SAE 15W-50/JASO MA2 のオイルの使用のみを推奨しており、推奨式オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO: MA2、API : SN) です。	4.9 リットル (1.08 UK ガロン) (ドライサンプ方式) 4.4 リットル (0.97 UK ガロン) (フィルター交換を伴う定期点検時)
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	-	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	815 cc (49.73 cuin) (左レッグ) 830 cc (50.65 cuin) (右レッグ) オイルレベル： $125 \pm 2 \text{mm}$ ( $4.92 \pm 0.08 \text{in}$ ) (チューブのプリロードおよびスプリングがなく、レッグのストロークエンド位置)

補給	タイプ
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄めず 2.74 リットル (0.60 UK ガロン) に使用)

## **!** 重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

## **!** 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。  
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

## エンジン

Ducati V4 Granturismo : 90° V型4気筒、逆回転クラシックシャフト、シリンダーごとに4バルブ、水冷式バルブスプリング方式バルブリターンシステムによるタイミングシステム

ボア : 83 mm (3.27 in)。

ストローク : 53.5 mm (2.09 in)。

総排気量 : 1,158 cm<sup>3</sup> (70.66 cuin)

圧縮比 : (14±0.5):1

クラシックシャフト最高出力、規制(EU)No.134/2014添付X、kW/HP :  
125 kW/170.0 HP / 10,500 rpm

クラシックシャフト最高出力、規制(EU)No.134/2014、添付X、kW/HP、フランス/ベルギーバージョンのみ :

84 kW/114.2 HP / 7,000 rpm

クラシックシャフト最大トルク、規制(EU)No.134/2014添付X :

125.0 Nm/12.7 Kgm / 8,750 rpm

クラシックシャフト最大トルク、規制(EU)No.134/2014、添付X、フランス/ベルギーバージョンのみ :

114 Nm / 11.6 Kgm / 7,000 rpm

最高回転数、rpm : 11,500 rpm



### 参考

エンジンがアイドリング中でスロットルグリップが完全に戻っている時に、ECUはリアバンクの2本のシリンダーを停止します。この停止は、特にエンジン温度、ギア位置、クラッチレバー(ギアがニュートラル以外に入っている場合はクラッチを切っている必要がある)の状態に応じ、一定の条件を満たした場合にのみ実行されます。このストラテジーはライダーのサーマルコンフォートと燃費の点で有利に働きます。



### 重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。



### 参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

## 潤滑システム

バイパスバルブ内蔵トロコイド式オイルリバリーポンプと2つのトロコイド式回収オイルポンプ。  
オイルクーラー。

## 性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

## 重要

**!** これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

## スパークプラグ

メーカー : NGK

タイプ : T00132U

## 燃料供給

誘導放電型間接噴射タイプ電子制御式インジェクションシステム

スロットルボディタイプ：フルライドバイワイヤシステムを備えた橈円タイプ

スロットルボディ直径：46 mm (1.81 in)。

シリンダーごとのインジェクター数：1

ガソリン燃料：95-98 RON



## 警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁止されています。このような燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用すると保証の対象外になります。

## ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

## フロント

### フロントブレーキディスク

穴付きセミフローティングダブルディスク

ブレーキシュー材質：ステンレススチール

ハウジング材質：黒塗装アルミニウム

ディスク径：330 mm (12.99 in)。

ディスクブレーキ面積： $263 \text{ cm}^2$  ( $40.77 \text{ in}^2$ )

フロントブレーキディスク厚：5 mm (0.19 in)。

ディスクの摩耗限界：4.5 mm (0.17 in)。

### フロントブレーキコントロール

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール

ハンドルバーのグリップとレバーとの距離を調節する  
アジャスター  
ブレーキレバーポンプシリンダー径：16 mm (0.63 in)  
ブレーキレバーポンプ PR 18/19  
**フロントブレーキキャリパー**  
メーカー：Brembo、モノブロックラジアルマウント  
Evo M50 Stylema、4 ピストン、2 パッド、ラジアル  
マスターシリンダー（コーナリング ABS Evo）  
キャリパーピストン：ピストン Ø32 mm (1.18 in) 4 個  
ブレーキパッド材質：BRM10A HH  
**フロントブレーキマスターシリンダー**  
ブレーキポンプ：PR18/19  
リア  
**リアブレーキディスク**  
穴あき固定ディスク、スチール製  
ディスク径：265 mm (10.43 in)  
ディスクブレーキ面積：265 mm<sup>2</sup> (32.55 in<sup>2</sup>)  
フロントブレーキディスク厚：6 mm (0.24 in)  
ディスクの摩耗限界：5.4 mm (0.21 in)  
**リアブレーキコントロール**  
車体右側ペダルによる油圧コントロール  
**リアブレーキキャリパー**

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO 2 ピストン、  
フローティングキャリパー、Bosch 製コーナリング  
ABS 装備  
リアブレーキタイプ：PF 2x28 D  
ピストン数：2  
ピストン径：28 mm (1.1 in)  
ブレーキパッド材質：TOSHIBA TT 2182 FF  
**リアブレーキポンプ**  
ブレーキポンプ：PS 13  
ポンプシリンダー径：13 mm (0.51 in)  
直径 28 mm (1.10 in) 2 ピストン固定キャリパー

## !**警告**

ブレーキフルードは腐食性があります。  
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水で  
しっかりと洗い流してください。

## **トランスマッision**

湿式多板クラッチ、油圧式制御、スリッパークラッチ  
機構付  
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝  
達、減速比 1.80:1  
エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：  
30/54  
6 速コンスタンタンギア、車体左側ペダルによる操作、  
ドゥカティクイックシフト (DQS) UP/DOWN EVO 搭載

ギアスプロケット/リアスプロケット比 : 16/42  
ギアスプロケット/リアスプロケット比(中国バージョンのみ) : 16/40  
変速比：  
1速 13/40  
2速 16/36  
3速 19/34  
4速 21/31  
5速 23/29  
6速 25/27

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達

メーカー : DID  
タイプ : 525 HV3-KAI  
リンク数 : 124.  
リンク数(中国バージョンのみ) : 122

## ⚠ 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

本車両の競技用仕様への変更をご希望のお客様には、Ducati モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報をご提供することが可能です。Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

## ⚠ 警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

## フレーム

アルミニウム製モノコックフレーム  
キャスター角 : 24.5° ±0.5°  
トレール : 103 mm (4.05 in).  
ステアリングアングル : 左側 39° / 右側 39°

## ホイール

### フロント

合金ホイール  
タイプ : Y型 5本スポーク軽合金鋳造  
寸法 : 3.0" x 19"

ワイヤースポークホイール  
軽合金ワイヤースポークホイール  
寸法 : 3.0" x 19"

### リア

合金ホイール

タイプ：Y型軽合金鋳造

寸法：MT4.50x17"

ワイヤースポークホイール

軽合金ワイヤースポークホイール

寸法：MT4.50x17"

## タイヤ



Pirelliの協力により、本車専用のタイヤが開発されました。この専用タイヤは車両の特性を高め、最高のパフォーマンスを実現する独自の構造を備えています。

タイヤタイプ(チューブレス)：

1) Pirelli Scorpion Trail II

2) Pirelli Scorpion Rally

3) Pirelli Scorpion Rally Street

## フロント

チューブレスラジアルタイヤ

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

寸法：120/70 ZR19 M/C 60W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Rally

寸法：120/70 ZR19 M/C 60W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Rally Street

寸法：120/70 ZR19 M/C 60W

## リア

チューブレスラジアルタイヤ

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Trail II

寸法：170/60 ZR17 M/C 72W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Rally

寸法：170/60 ZR17 M/C 72W

メーカーおよびタイプ：Pirelli Scorpion Rally Street

寸法：170/60 ZR17 M/C 72W

## タイヤ空気圧

### Scorpion Trail II タイヤ(チューブレス)

フロントタイヤ空気圧：

2.4 bar (34.8 PSI) (ライダーのみ)

2.4 bar (34.8 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

リアタイヤ空気圧：

2.5 bar (36.2 PSI) (ライダーのみ)

2.9 bar (42.0 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

### Scorpion Rally タイヤ(チューブレス)

フロントタイヤ空気圧：

1.6 bar (23.2 PSI) (ライダーのみ)

1.8 bar (26.1 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

リアタイヤ空気圧：

1.6 bar (23.2 PSI) (ライダーのみ)

2.2 bar (31.9 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

### Scorpion Rally Street タイヤ(チューブレス)

フロントタイヤ空気圧：

2.1 bar (30.4 PSI) (ライダーのみ)

2.1 bar (30.4 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

リアタイヤ空気圧：

2.2 bar (31.9 PSI) (ライダーのみ)

2.7 bar (39.1 PSI) (ライダーおよびパッセンジャー、または荷物 + トップケース)

## サスペンション



フロントフォークとリアショックアブソーバーの調整は、インストルメントパネルから調整装置に送信される電気パルスによって行われます。

### フロントフォーク

タイプ：Marzocchi製倒立フォーク、リバウンド/コンプレッションダンピングおよびスプリングプリロードの調整が可能なフルアジャスタブル、ドゥカティスカイフックサスペンションEvo (DSS)による電子制御。

電子式ダンピング調整、プリロード手動調整。

設定のタイプ：4タイプ(ライダーのみ、ライダー+荷物、ライダー+パッセンジャー、ライダー+パッセンジャー+荷物)。

ライディングモード：SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO。

ライディングモードのパーソナライズ(電子制御により選択可能)：「Hardest」、「Hard」、「Medium」、「Soft」、「Softest」。

フロントフォーク調整は、インストルメントパネルから調整装置に送信される電気パルスによって行なわれます。スプリングプリロードを調整する外部アジャスターは右レッグにのみ装備されています。

スプリングプリロード：+5回転(すべて緩めた最小位置から)

インナーチューブ径：50 mm (1.97 in)。

ホイールトラベル：170 mm (6.69 in)。

### リアショックアブソーバー

タイプ：Marzocchi製フルアジャスタブルモノショックアブソーバー付きプログレッシブサスペンション、ドゥカティスカイフックサスペンションEvo (DSS)の電子制御によるコンプレッションダンピング、リバウンドダンピング、スプリングプリロードの調整が可能。

調整：完全電子制御

設定のタイプ：4タイプ(ライダーのみ、ライダー+荷物、ライダー+パッセンジャー、ライダー+パッセンジャー+荷物)。

ライディングモード：SPORT、TOURING、URBAN、ENDURO。

ライディングモードのパーソナライズ(電子制御により選択可能)：「Hardest」、「Hard」、「Medium」、「Soft」、「Softest」。

リアホイールトラベル：180 mm (7.09 in)。

ストローク：64 mm (2.52 in)。

#### リアスイングアーム

タイプ：アルミニウム製両持ち式スイングアーム

#### エキゾーストシステム

エキゾーストシステム：4-2 レイアウト、膨張室式ブリサイレンサー。

ストレート構造。

ラムダセンサー：4

触媒コンバーター：2

#### カラーバリエーション

ドゥカティレッド

1)ベース(プライマー)デュアルプライマーレッドVM、供給元 Lechler、コード：LDS20067

2)エナメル(バニッシュ)アクリプラストレッドストーナーSF、供給元 Lechler、コード：LMC06017

#### アヴィエーターグレー

1)ベース(プライマー)2Kブラック、コード：873A002

2)ベース(ベースコート)アヴィエーターグレー、供給元 Palinal、コード：928.554

3)クリア(クリアコート)2Kマット 10 グロス、供給元 Palinal、コード：923I2210

4)グレーモノコックフレーム、供給元 Inver、コード：86176

5)グロッシープラックリム

ベースパワープライマー、供給元 Peter Lacke、コード：P09809-C

エナメル Pehadur Einbrennlack、供給元 Peter Lacke、コード：VPCH03250

#### アイスバーグホワイト

1)ベース：デュアルプライマー ホワイト Lechler、部品番号：DS20052

2)ベース：ホワイト ダークスノー、Lechler、部品番号：L2909042

3)クリア：Tixo Klarlack 09、Lechler、部品番号：96230

## **エレクトリカルシステム**

主要構成部品は以下の通りです。

### **インストルメントパネル**

6.5カラーTFTディスプレイを備えるBOSCHインストルメントパネル

### **ヘッドライト**

ロービームライト：LED 8個

ハイビームライト：LED 4個

コーナリングライト：LED 2個

パーキングランプ：LED 6個

DRL(中国およびカナダバージョンには装備されません)：LED 6個

### **ターンインジケーター**

フロント：LED 3個

リア：LED 3個

### **テールランプ**

パーキングランプ：LED 12個

ストップランプ：LED 6個

ナンバープレートランプ：LED 3個

### **フォグランプ**

フォグランプ(装備している場合)：LED 1個

### **警告ホーン**

ストップランプスイッチ

バッテリー 12V-10 Ah

ジェネレーター、DENSO 14V - 560W

スターターモーター、DENSO 12 V-0.6 kW

## ヒューズ

ヒューズボックス(A)、(B)、(C)は車両右側、ライダーシート下に配置されています。

電装品は17個のヒューズで以下のように保護されています。

- 3個のメインヒューズは、ヒューズボックス(A)内に設置されています。
- 14個の二次、三次ヒューズは、フロントヒューズボックス(B)とリアヒューズボックス(C)内に設置されています。

メインヒューズボックス(A)は、ライダーシート下に設置されています。メインヒューズボックスで作業を行うには、「シートロック」の記載に従ってライダーシートを取り外す必要があります。

ヒューズボックス(A) 凡例		
配置	保護装置	容量
1	(マスターヒューズ) システム	50A
2	(マスターヒューズ) スペア	50A
3	+ABS 1	30A
4	+ABS 2	15A

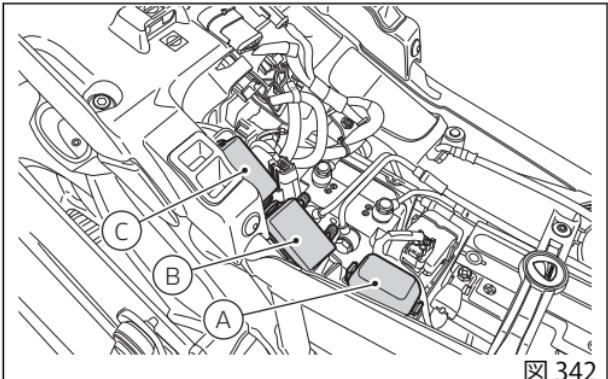


図 342

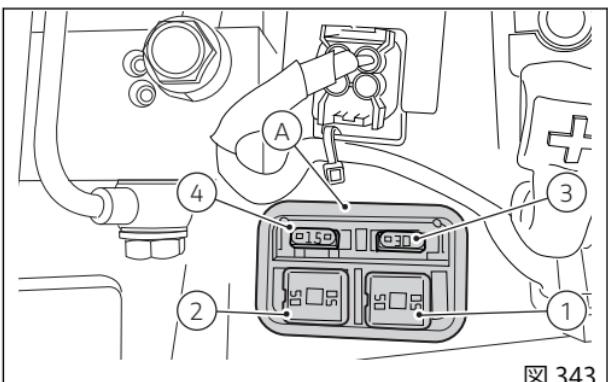


図 343

フロント二次ヒューズボックス (B) とリア三次ヒューズボックス (C) は、ライダーシート下のさらに下に設置されています。メインヒューズボックスで作業を行うには、「シートロック」の記載に従ってライダーシートを取り外す必要があります。

フロントヒューズボックスとリアヒューズボックスのスペアヒューズ：

- ヒューズボックス (B) : 15A, 10A, 25A
- ヒューズボックス (C) : 5A, 15A, 20A

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

フロントヒューズボックス (B) とリアヒューズボックス (C) のヒューズで作業するには、それぞれの検査カバーを取り外します。カバーには配置とアンペア数が記載されています。

フロントヒューズボックス凡例 (B)		
配置	保護装置	容量
5	+30 EMS Load リレー	25A
6	+30 フューエルポンプ リレー	10A
7	+30 BBS2	25A
8	+30 ダッシュボード	15A

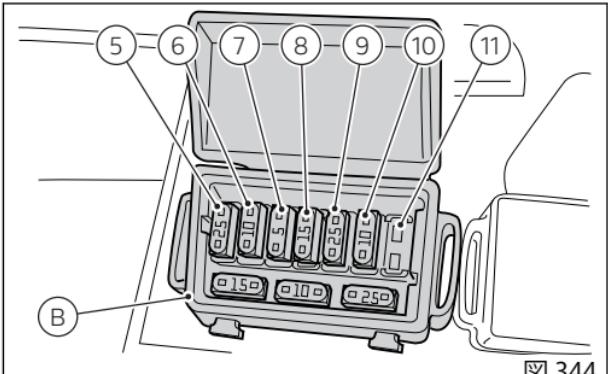


図 344

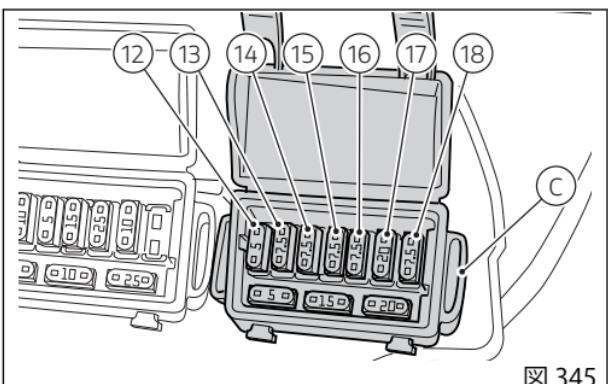


図 345

フロントヒューズボックス凡例 (B)		
9	+30 BBS1	25A
10	アクセサリー	10A
11	+30 E-コール	25A

リアヒューズボックス凡例 (C)		
配置	保護装置	容量
12	Key1 EMS / ABS / IMU	5A
13	Key2 ダッシュボード / BBS	7.5A
14	+15 パーキングライト	7.5A
15	Key4 レーダー	7.5A
16	ソケット	7.5A
17	+30 インジェクションリレー	20A
18	+30 診断 / 充電	7.5A

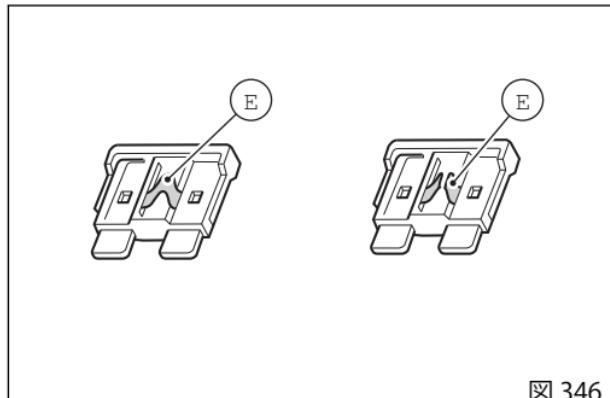


図 346

切れたヒューズは、インナーフィラメント (E) が溶断しているかどうかで確認することができます。

**重要** 回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFFにしてください。

**警告** 表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

# オープンソースソフトウェア

## オープンソースソフトウェアに関する情報

車両のいくつかのコンポーネントは、オープンソースソフトウェアを使用しています。使用されているソースコードとオープンソースに関する情報は、次のリンクからオンラインで入手できます。

<https://www.ducati.com/ww/en/home/open-source-software>

# EU 適合宣言書

EU 指令 2014/53/EU



## 無線部品製造業者の住所

すべての無線部品には、欧州指令 2014/53/EU の規定に基づき、製造業者の住所が記載されていなければなりません。その性質または寸法の問題上シールを貼付できない部品については、法律に規定される通り製造業者の住所を表示 2 に記載します。



## 参考

本機器の取扱い、設置は経験のある人のみが行ってください。

# EU 適合宣言書

表 1

車両に装備されている無線機器	周波数帯域	最大送信電力
インストルメントパネル6.5インチ	2402 MHz ÷ 2482 MHz	25mW
フロントレーダー	76 ÷ 77 GHz	32 dBm (peak) 27 dBm (RMS)
リアレーダー	76 ÷ 77 GHz	24.7 dBm (peak) 13 dBm (RMS)
Hands Free	133.8 ÷ 134.6KHz	73 dB $\mu$ V/m @ 10m
Hands Free キー	433.91-433.93 MHz	-20 dB $\mu$ V/m @ 3m
TPMS	433.05 ÷ 434.79 MHz	100 $\mu$ V/m @3m (Radiated)
盗難防止装置	433.92MHz ( $\pm 75$ KHz)	<0.6mA

表2

車両に装備されている無線機器	製造業者の住所
インストルメントパネル 6.5 インチ	<b>ROBERT BOSCH GmbH</b> Robert-Bosch-Platz 1 70839 Gerlingen, Germany
Radar anteriore	<b>ROBERT BOSCH GmbH</b> Robert-Bosch-Platz 1 70839 Gerlingen, Germany
Radar posteriore	<b>ROBERT BOSCH GmbH</b> Robert-Bosch-Platz 1 70839 Gerlingen, Germany
Hands free	<b>ASAHI DENSO.,LTD.</b> 6-2-1 Somejidai, Hamakita-ku, Hamamatsu, Shizuoka 434-0046, Japan
Hands free chiave	<b>ASAHI DENSO.,LTD.</b> 6-2-1 Somejidai, Hamakita-ku, Hamamatsu, Shizuoka 434-0046, Japan
TPMS	<b>PACIFIC Industrial Co.,Ltd.</b> 1300-1 Yokoi, Godo-cho, Anpachi-gun, Gifu 503-2397, Japan

---

**Antitheft**

**PATROLLINE**

Via Cesare Cantù, 15/C  
22031 Albavilla (CO), Italy

---

## Dichiarazione di conformità EU semplificata

[Austria]

Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Belgium]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Bulgaria]

Твоят мотоцикл е оборудван с различна по вид радиоапаратура. Производителите на тази радиоапаратура декларират, че тя съответства на Директива 2014/53/ЕС, съгласно изискванията по закон. Пълният текст на декларацията за съответствие ЕС, ще намерите на следния адрес: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Cyprus]

Το όχημά σας εξοπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσυσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι

συσκευές συμμορφώνοντας με την οδηγία 2014/53/EΕ, όπου απαιτείται από τονόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Czech Republic]

Váše vozidlo je vybaveno řadou rádiových zařízení. Výrobci těchto radio zařízení, prohlašují, že zařízení jsou v souladu se směrnicí 2014/53/EU, pokud to vyžaduje zákon. Úplné znění prohlášení o shodě EU je k dispozici na internetových stránkách: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Germany]

Ihr Fahrzeug ist mit einer Reihe von Funkgeräten ausgestattet. Die Hersteller dieser Funkgeräte erklären, dass diese, wo gesetzlich vorgeschrieben, mit der Richtlinie 2014/53/EU übereinstimmen. Der vollständige Text der EU-Konformitätserklärung ist unter folgender Adresse verfügbar: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Denmark]

Dit køretøj er udstyret med et udvalg af radioudstyr. Producenterne af dette radioudstyr erklærer, at dette udstyr overholder direktiv 2014/53/EU, hvis det kræves i henhold til loven. Den komplette tekst af EU-overensstemmelseserklæringen findes på følgende webadresse: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Estonia]

Teie sõiduk on varustatud raadioseadmete seeriaga. Selle raadioseadme tootjad kinnitavad, et see seade vastab direktiivile 2014/53/EÜ, kui seadus seda nõuab. EÜ vastavusdeklaratsiooni terviktekst on saadaval järgmisel veebisaidil: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Spain]

Su vehículo está equipado con una serie de equipos de radio. Los fabricantes de dichos equipos de radio declaran su conformidad con la directiva 2014/53/UE, como requiere la ley. El texto completo de la declaración de conformidad UE está disponible en el siguiente sitio: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Finland]

Ajoneuvossasi on radiolaitteita. Näiden radiolaitteiden valmistajat vakuuttavat, että laitteet vastaavat direktiiviä 2014/53/EU lain edellyttämällä tavalla. EU-vaatimustenmukaisuusvakuutuksen täydellinen teksti on saatavilla seuraavasta osoitteesta: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[France]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[United Kingdom]

Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Greece]

Το όχημά σας εξουπλίζεται με μια σειρά από ραδιοσυσκευές. Οι κατασκευαστές των συσκευών αυτών δηλώνουν ότι οι συσκευές συμμορφώνονται με την οδηγία 2014/53/EU, όπου απαιτείται από το νόμο. Το πλήρες κείμενο της δήλωσης συμμόρφωσης ΕΕ είναι διαθέσιμο στη διεύθυνση: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Croatia]

Vaše vozilo je opremljeno nizom radio uređaja. Proizvođači ovih radio uređaja tvrde da su uređaji u skladu s Direktivom 2014/53/UE ako je propisano zakonom. Cjelokupan tekst deklaracije o sukladnosti dostupan je na: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Hungary]

Járművek egy sor rádió készülékkel van felszerelve. Ezeknek a rádióberendezéseknek a gyártói kijelentik, hogy a készülékek megfelelnek a 2014/53/EU irányelvnek, ahol ezt a törvény megköveteli. Az EU megfelelőségi nyilatkozat teljes szövege az alábbi címen érhető el: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Ireland]

Your vehicle is equipped with a range of radio equipment. The manufacturers of this radio equipment declare that these equipment complies with Directive 2014/53/EU where required by law. The complete text of the EU declaration of conformity is available at the following web address: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Italy]

Il tuo veicolo è dotato di una serie di apparecchiature radio. I costruttori di queste apparecchiature radio dichiarano che esse sono conformi alla direttiva 2014/53/UE laddove richiesto per legge. Il testo completo della dichiarazione di conformità UE è disponibile al seguente indirizzo: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Lithuania]

Jūsų transporto priemonėje įdiegta daug įvairios radijo įrangos. Šios radijo įrangos gamintojai patvirtina, kad ji atitinka 2014/53/ES direktyvos reikalavimus, kaip tai numato galiojantys įstatymai. Visas ES atitinkties deklaracijos tekstas pateikiamas svetainėje adresu [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Luxembourg]

Votre véhicule est équipé d'une série d'appareillages radio. Les constructeurs de ces appareillages radio déclarent que ces derniers sont conformes à la directive 2014/53/UE lorsque la loi le requiert. Le texte complet de la déclaration de conformité UE est disponible à l'adresse suivante : [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Latvia]

Jūsu transportlīdzeklis ir aprīkots ar dažādām radioierīcēm. Šo radioierīču ražotājs apliecina, ka ierīces atbilst Direktīvas 2014/53/ES prasībām, ja to paredz attiecīgie tiesību akti. Pilnīgo ES atbilstības deklarāciju skatiet šajā tīmekļa vietnē: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Malta]

Il-vettura tiegħek hija mgħammra b'firxa ta' tagħmir tar-radju. Il-manufatturi ta' dan it-tagħmir tar-radju jiddikjaraw li dan it-tagħmir jikkonforma mad-Direttiva 2014/53/UE fejn meħtieġ mil-liġi. It-test kollu tad-dikjarazzjoni ta' konformità tal-UE huwa disponibbli fuq l-indirizz tal-web: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

#### [Netherlands]

Uw voertuig is voorzien van diverse draadloze apparatuur. De fabrikanten van deze draadloze apparatuur verklaren dat deze, daar waar dit door de wet voorschreven wordt, overeenstemmen met de richtlijn 2014/53/EU. De volledige tekst van de EU-verklaring van overeenstemming is beschikbaar op het volgende webadres: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

#### [Poland]

Państwa pojazd został wyposażony w szereg urządzeń radiowych. Producenci tych urządzeń radiowych oświadczają, że są one zgodne z dyrektywą 2014/53/UE, tam, gdzie wymaga tego prawo. Pełny tekst deklaracji zgodności UE jest dostępny pod następującym adresem internetowym: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

#### [Portugal]

O seu veículo é dotado de uma série de equipamentos de rádio. Os construtores desses equipamentos de rádio declaram que os mesmos estão em conformidade com a diretiva 2014/53/UE sempre que a lei o determinar. O texto completo da declaração de conformidade UE está disponível no seguinte endereço: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

#### [Romania]

Vehiculul dvs. este dotat cu o serie de aparate radio. Producătorii acestor aparate radio declară că acestea sunt conforme cu directiva 2014/53/UE, dacă legea impune acest lucru. Textul complet al declarației de conformitate UE este disponibil la următoarea adresă: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

#### [Sweden]

Ditt fordon är utrustat med radioutrustning. Radioutrustningens tillverkare förklarar att denna utrustning uppfyller direktiv 2014/53/EU där så lagen kräver det. Fullständig text om EU-försäkran om överensstämmelse finns på följande adress: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Slovenia]

Vaše vozilo ima tudi vrsto radijske opreme. Proizvajalci eteh radijskih naprav izjavljajo, da so ti v skladu z uredbo 2014/53/UE, kjer zakon to predvideva. Celotno besedilo izjave o skladnosti EU je na voljo na spodnjem naslovu: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Slovakia]

Vaše vozidlo je vybavené rádiofónnymi zariadeniami. Výrobcovia týchto rádiofónnych zariadení prehlasujú, že tieto zariadenia sú v zhode so smernicou 2014/53/EÚ v rozsahu predpísanom zákonom. Úplný text ES prehlášenia o zhode je k dispozícii na nasledujúcej adrese: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

[Turkey]

Aracınızda bir dizi radyo teçhizatı bulunmaktadır. Bahse konu radyo teçhizatının üreticileri bunların, yasaların öngördüğü hallerde 2014/53/UE direktifine uygun olduklarını beyan eder. UE uygunluk beyanının tam metni, aşağıda yer alan adressten görüntülenebilir: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com)

## HANDS FREE KEY

### 電池に関する注意事項



**警告**

取扱説明書をよくお読みください。



本品に含まれるボタン電池には、誤飲の危険性があります。

電池はお子様の手の届かないところに保管してください。

電池を飲み込むと、化学物質による火傷や食道に穴が開くおそれがあり、わずか2時間で重体に陥ったり、死亡したりする危険があります。

電池を飲み込んだ場合や電池が体内に入った場合は、直ちに医療機関を受診してください。

製品には同一タイプの電池のみを使用してください。

電池は火気や湿気のない場所に保管してください。

低圧・高圧になる環境や、低温・高温の環境は避けて保管してください。

電池は圧縮、落とす、壊す、穴を開けるなどしないでください。

使用済みの電池は、国や地方自治体の規則に従い、安全かつ速やかに廃棄してください。

使用済みの電池でも同じく危険です。

## United States (USA)

"This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation."

"Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment." "NOTE: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help."

RF exposure Information according 2.1091/2.1093 / OET bulletin 65:

Radiofrequency radiation exposure Information: This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

The manufacturers of these radio equipment declare that devices comply with the FCC

DASHBOARD 6,5 inch	FCC ID: 2AUXS-6P5CLUSTER
FRONT RADAR	FCC ID: NF3-MRREVO14F
REAR RADAR	FCC ID: NF3-MRR1REAR
HANDS FREE	FCC ID: T8VCL6
HANDS FREE KEY	FCC ID: T8VCL6-904

## TPMS

This device complies with Part 15 of the FCC Rules.

Operation is subject to the following two conditions:

(1) this device may not cause harmful interference, and

(2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

FCC ID: PAXPMVCE71

## Canada

This device contains licence-exempt transmitter(s)/ receiver(s) that comply with Innovation, Science and Economic Development Canada's licence-exempt RSS(s). Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause interference.

(2) This device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

L'émetteur/récepteur exempt de licence contenu dans le présent appareil est conforme aux CNR d'Innovation, Sciences et Développement économique Canada applicables aux appareils radio exempts de licence. L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

(1) L'appareil ne doit pas produire de brouillage;

(2) L'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

## RF Exposure Information:

This equipment complies with Canada radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance of 20 cm between the radiator and your body.

Déclaration d'exposition aux radiations: Cet équipement est conforme aux limites d'exposition aux rayonnements IC établies pour un environnement non contrôlé. Cet équipement doit être installé et utilisé avec un minimum de 20 cm de distance entre la source de rayonnement et votre corps.

DASHBOARD 6,5 inch	IC: 25847-6P5CLUSTER
FRONT RADAR	IC: 3887A-MRREVO14F
REAR RADAR	IC: 3887A-MRR1REAR
HANDS FREE	IC: 6505A-CL6
HANDS FREE KEY	IC: 6505A-CL6904
TPMS	IC: 3729A-PMVCE71

DASHBOARD 6,5 inch

Argentina

**R! RAMATEL C-25709**

Brasil

Este produto está homologado pela Anatel, de acordo com os procedimentos regulamentados pela Resolução nº 242/2000 e atende aos requisitos técnicos aplicados. Para maiores informações, consulte o site da ANATEL [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br)

Este equipamento deve ser instalado e operado com distância mínima de 20 cm entre o radiador e seu corpo. Este equipamento não tem direito à proteção contra interferência prejudicial e não pode causar interferência em sistemas devidamente autorizados.



XXXXX-YY-ZZZZ

## Japan

本製品は、電波法と電気通信事業法に基づく適合証明を受けております。

This device is granted pursuant to the Japanese Radio Law (電波法) and the Japanese Telecommunications Business Law (電気通信事業法)

本製品の改造は禁止されています。(適合証明番号などが無効となります。)

This device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

## Mexico

IFETEL : RCPBO6520-2310

Marca: Bosch

Modelo: 6.5inchCluster

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones: (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

## Russia



## South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



## Taiwan

取得審驗證明之低功率射頻器材，非經核准，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。低功率射頻器材之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前述合法通信，指依電信管理法規定作業之無線電通信。低功率射頻器材須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

## Thailand

เครื่องโทรศัพท์มือถือและอุปกรณ์นี้ มีความสอดคล้องตามข้อกำหนดของ กทช.

Type 2: Radiocommunication equipment that is license exempted (e.g. WWAN, WLAN, NFC, WLAN, Bluetooth):



English Translation of content:

*This radiocommunication equipment is exempted from a possess license, user license, or radiocommunication station license as per NBTC notification regarding radiocommunication equipment and radiocommunication station exempted from licensing in accordance with radio communication act B.E.2498*

## Ukraine

Справжнім Robert Bosch GmbH заявляє, що тип радіообладнання 6.5inchCluster відповідає Технічному регламенту радіообладнання; повний текст декларації про відповідність доступний на веб-сайті за такою адресою: [certifications.ducati.com](http://certifications.ducati.com).

FRONT RADAR

Argentina

**R RAMATEL C-21797**

Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br).



02220-14-03745

Hong Kong

HKCA 1035: automotive radar: radio equipment exempted from licensing!

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

Jordan

TRC No. TRC/LPD/2014/125

Malaysia



CIDF15000490

## Mexico

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones:

- (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y
- (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

IFETEL: RCPBOMR14-0766

## Moldova



Morocco

**AGREE PAR L'ANRT MAROC**

Numéro d'agrément : MR 9126 ANRT 2014

Date d'agrément : 26/03/2014

Paraguay



Russia



Serbia



South Africa



TA-2013/2465

APPROVED

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



R-CMM-BO2-  
MRRevo14F

Taiwan

注意!

依據低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信規定作業之無線電信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。



Ukraine

справжнім (Robert Bosch GmbH) заявляє, що тип радіообладнання (MRRevo14F) відповідає Технічному регламенту радіообладнання;  
повний текст декларації про відповідність доступний на веб-сайті за такою адресою:  
(<http://ita.bosch.com/radar>)



UA RF: 1BOSC0007

United Arab Emirates

TRA  
REGISTERED No:  
ER39135/15

DEALER No:  
DA36758/14

REAR RADAR

Argentina

**R** RAMATEL C-21798

Australia



Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br).



02230-14-03745

Hong Kong

HKCA 1035: automotive radar: radio equipment exempted from licensing!

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

Jordan

TRC No. TRC/LPD/2014/73

Malaysia



CIDF15000490

Mexico

La operación de este equipo está sujeta a las siguientes dos condiciones:

- (1) es posible que este equipo o dispositivo no cause interferencia perjudicial y
- (2) este equipo o dispositivo debe aceptar cualquier interferencia, incluyendo la que pueda causar su operación no deseada.

IFETEL: RCPBOMR14-0922

Moldova



Morocco

**AGREE PAR L'ANRT MAROC**

**Numéro d'agrément: MR 9186 ANRT 2014**

**Date d'agrément: 22/04/2014**

Paraguay



2019-05-I-000236

Russia



Serbia



South Africa



TA-2014/212

APPROVED

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



MSIP-CMM-BO2-  
MRR1Rear

Taiwan

注意!

依據低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應立即停用，並改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信規定作業之無線電信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。



Ukraine

справжнім (Robert Bosch GmbH) заявляє, що тип радіообладнання (MRRevo14F) відповідає Технічному регламенту радіообладнання; повний текст декларації про відповідність доступний на веб-сайті за такою адресою:  
(<http://ita.bosch.com/radar>)



UA RF: 1BOSC0005

United Arab Emirates

TRA  
REGISTERED No:  
ER39136/15

DEALER No:  
DA36758/14

## HANDS FREE

### Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br).



**05428-17-05543**

### Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid).

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



R-R-AD1-CL8

## HANDS FREE KEY

### Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br) .



**05429-17-05543**

### Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)

South Korea

해당 무선설비는 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다



R-C-AD1-CL6-904

TPMS

Brasil

Este equipamento opera em caráter secundário, isto é, não tem direito a proteção contra interferência prejudicial, mesmo de estações do mesmo tipo, e não pode causar interferência a sistemas operando em caráter primário. Para consultas, visite: [www.anatel.gov.br](http://www.anatel.gov.br).



01919-17-02107

China

中华人民共和国工业和信息化部公告 2019 年第 52 号要求说明（一）符合“微功率短距离无线电发射设备目录和技术要求”的具体条款和使用场景，采用的天线类型和性能，控制、调整及开关等使用方法；

型号：PMV-CE71

该变送器安装在摩托车轮胎中。这是一种无线设备，可测量轮胎中的气压和温度并进行传输。内置环形天线，天线增益-20.5 dBi

（二）不得擅自改变使用场景或使用条件、扩大发射频率范围、加大发射功率（包括额外加装射频功率放大器），不得擅自更改发射天线；

（三）不得对其他合法的无线电台（站）产生有害干扰，也不得提出免受有害干扰保护；

（四）应当承受辐射射频能量的工业、科学及医疗（ISM）应用设备的干扰或其他合法的无线电台（站）干扰；

（五）如对其他合法的无线电台（站）产生有害干扰时，应立即停止使用，并采取措施消除干扰后方可继续使用；

（六）在航空器内和依据法律法规、国家有关规定、标准划设的射电天文台、气象雷达站、卫星地球站（含测控、测距、接收、导航站）等军民用无线电台（站）、机场等的电磁环境保护区域内使用微功率设备，应当遵守电磁环境保护及相关行业主管部门的规定；

(七) 禁止在以机场跑道中心点为圆心、半径 5000 米的区域内使用各类模型遥控器；

(八) 微功率设备使用时温度和电压的环境条件。

-20°C～105°C、内置 DC3V 纽扣电池

Japan

当該機器には電波法に基づく、技術基準適合証明等を受けた特定無線設備を装着している。

This equipment contains specified radio equipment that has been certified to the technical regulation conformity certification under the Radio Law.

本無線機器の改造を禁ずる（これに反した場合は当該認証登録番号は無効となる）

This radio device should not be modified (otherwise the granted designation number will become invalid)



91376531JA

08/2022 ED.02 に更新されました。



**Ducati Motor Holding spa**  
ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3  
40132 Bologna, Italy  
Ph. +39 051 6413111  
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company  
A Company subject to the Management  
and Coordination activities of AUDI AG